鳥取県教育文化財団調査報告書　94

一般国道９号（名和淀江道路）の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ

鳥取県西伯郡名和町

茶畑六反田遺跡

（０・５区）

財団法人　鳥取県教育文化財団
国土交通省　鳥取工事事務所

鳥取県教育文化財団調査報告書　94
一般国道9号(名和淀江道路)の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　Ⅶ
鳥取県西伯郡名和町『茶畑六反田遺跡（0・5区)』

正　誤　表

頁　行	誤	正
P17　4行	調査地北東部	調査区北東部
P23　表7	遺物番号　27　　器種　杯	遺物番号　27　　器種　坏
P23　表7	遺物番号　34　　器種　杯蓋	遺物番号　34　　器種　坏蓋
P51　2行	調査地西壁	調査区西壁
P55　2行	調査地外	調査区外
P119　9行	Ⅱ・茶畑六反田遺跡	Ⅱ．茶畑六反田遺跡
P121　19行	周囲いおいて	周囲において
カラー図版2-2	P4断面	P4土層断面
カラー図版2-3	P5断面	P5土層断面
図版39-3	土坑66断面	土坑66土層断面

序

近年、鳥取県では妻木晩田遺跡、青谷上寺地遺跡をはじめとする古代の重要な遺跡の発見が相次いでおり、当時の集落の姿や暮らしの様子が具体的に語られるようになりつつあります。

先人が残した素晴らしい遺産を後世に伝承することは、現在に生きる私たちの重要な責務です。

ところで、県内においては、現在、山陰自動車道の整備が着々と進められているところでありますが、当財団は、国土交通省からの委託を受け、この事業に係わる一般国道９号（名和淀江道路）の改築に先立つ埋蔵文化財の発掘調査を実施してきました。

そのうち、名和町にある茶畑六反田遺跡では、縄文時代から江戸時代にかけての様々な遺構と遺物が見つかりました。なかでも弥生時代と鎌倉時代の集落跡、平安時代の水田跡と条里制跡、室町時代の畑跡、江戸時代の建物群など、この地域の歴史を解明するための重要な資料を確認することができ、このたび、調査結果を報告書としてまとめることができました。

この報告書が、今後、郷土の歴史を解き明かしていく一助となり、埋蔵文化財に対する理解がより深まることを期待しております。

本書をまとめるにあたり、国土交通省倉吉河川国道事務所、地元関係者の方々には、一方ならぬ御指導、御協力を頂きました。心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成16年３月

財団法人　鳥取県教育文化財団
理事長　有田博充

序　　文

一般国道９号は、起点の京都府京都市から山口県下関市にいたる、総延長約691kmの幹線道路であり、西日本日本海沿岸地域の産業・経済活動の大動脈として、地域住民の生活と密着し大きな役割を果たしています。

このうち、国土交通省倉吉河川国道事務所は、東伯郡泊村から米子市（鳥取―島根県境）までの76.6kmを管轄しており、時代の要請に沿った各種の道路整備事業を実施しているところです。

名和淀江道路は、西伯郡名和町から西伯郡淀江町にかけての、国道９号の渋滞緩和、荒天時の交通障害の解消、また、災害時の緊急輸送の代替道路確保、などを目的として計画された高規格幹線道路（自動車専用道路）であり、鋭意事業に着手しているところです。

このルートには、多数の埋蔵文化財包蔵地がありますが、鳥取県教育委員会と協議を行い、文化財保護法第57条の３の規定に基づき、鳥取県教育委員会教育長に通知した結果、事前に発掘調査を実施し、記録保存を行うこととなりました。

平成15年度は、「古御堂笹尾山遺跡」「古御堂新林遺跡」「押平尾無遺跡」「茶畑六反田遺跡」「名和飛田遺跡」「名和乙ヶ谷遺跡」「名和小谷遺跡」の７遺跡について財団法人鳥取県教育文化財団と発掘調査の委託契約を締結し、同埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われました。

本書は、上記の「茶畑六反田遺跡」の調査成果をまとめたものです。この貴重な記録が、文化財に対する認識と理解を深めるため、ならびに、教育及び学術研究のために広く活用されることを願うと同時に、国土交通省の道路事業が、文化財保護に深い関心を持ち、記録保存に努力していることをご理解いただければ幸いと存じます。

事前の協議をはじめ、現地での調査から報告書の編集にいたるまで御尽力いただいた財団法人鳥取県文化財団の関係者に対して、心から感謝申し上げます。

平成16年３月

国土交通省　倉吉河川国道事務所
所　　長　矢田光夫

例　　言

1．本報告書は、「一般国道９号（名和淀江道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査」として実施した茶畑六反田遺跡調査報告書である。

2．本報告書に収載した遺跡の所在地は、以下のとおりである。

　　名和町大字茶畑字片吹369ほか

3．本報告書における方位、座標値は、公共座標第Ｖ系の座標値である。また、レベルは海抜標高を表す。

4．本報告書に掲載した地図は、国土地理院発行の1/25,000地形図「淀江」「御来屋」「船上山」を使用した。

5．本発掘調査にあたり現地指導および出土した鉄関連遺物の分類をたたら研究会委員穴澤義功氏に、土器の胎土分析を岡山理科大学白石純氏に、石材鑑定を遠藤勝壽氏にそれぞれお願いした。また白石氏には玉稿を賜った。記して深謝いたします。

6．本報告にあたり、遺跡の航空写真撮影を専門業者に、現地における基準点測量および地形測量を測量コンサルタントに委託した。

7．遺物の実測・浄書は文化財主事および整理作業員が行った。

8．掲載図面は文化財主事が作成したものを文化財主事および整理作業員が浄書を行った。

9．現場および遺物の写真撮影は文化財主事が行った。

10．発掘調査によって作成された図面、写真などの記録類、および出土遺物などは鳥取県埋蔵文化財センターに保管されている。

11．本報告書の作成は文化財主事の協議に基づき執筆し、中森が編集した。文責は目次および文末に記した。

12．現地調査および報告書の作成にあたっては上記の方々のほかに、多くの方々からご指導、ご助言およびご支援いただいた。明記して深謝いたします。（敬称略、順不同）

小野正敏（国立歴史民俗博物館）　尾野善祐（京都国立博物館）　角田徳幸、西尾克己、宮本正保、守岡正司（以上島根県埋蔵文化財調査センター）　佐伯純也（米子市教育文化事業団）　佐藤浩司（北九州市芸術文化振興財団）　下高瑞哉（米子市教育委員会）　田中義昭（元島根大学教授）　日紫喜勝重（島本町教育委員会）　平尾政幸、百瀬正恒（京都市埋蔵文化財研究所）　村上勇（広島県立美術館）　八重樫忠郎（平泉町教育委員会）　山本信夫（山本考古研究所）　吉岡康暢（国立歴史民俗博物館）

凡　　例

1．発掘調査時における遺構名、番号は報告書作成時に大幅に変更している。新旧の対照は本文中第４・５章の第１節に示した。なお、遺構の呼称は、例えば土坑状遺構については土坑とし、他の遺構についても「状遺構」を省略した。

2．遺跡の略称はＣＲＴとした。

3．本報告書における遺物番号は次のように記す。
　番号のみ：土器、陶磁器、土製品、被熱粘土塊　Ｓ：石器　Ｆ：鉄製品、鉄滓、Ｃ：銭貨
　また基本的に土器・陶磁器は１／４、土製品、石器、鉄製品・鉄滓は１／３の大きさで掲載した。

4．挿図、遺構・遺物にはそれぞれ通し番号をつけた。

5．本文中、挿図中および写真図版の遺物番号は一致する。

6．遺物実測図のうち須恵器は断面を黒塗り、緑・灰釉陶器には網掛けし、それ以外は白抜きであらわした。

7．遺物には遺跡名略称、グリッド名、遺構名、取上げ番号、取上げ年月日を基本的に注記した。

8．遺構、遺物に用いたスクリーントーンはそれぞれ以下のものを表す。
　地山　硬化面　焼土　赤彩

9．製鉄関連遺物に関しては、強力磁石（ＴＵＪＩＭＡ　ＰＵＰ－Ｍ）と特殊金属探知機による鉄塊の抽出と、肉眼観察による考古学的な遺物の分類を行った。資料の分類、抽出、ならびに資料観察表の作成には穴澤義功氏に依頼し、ご指導賜った。

10．遺物観察表は時期ごとに各章、節に掲載した。表については以下のとおりとする。
　（１）土器についての法量は基本的に口径、器高を記載した。すべての遺物に対して、復元したものは＊印、残存値は△印を数値の前に付している。単位はcmである。
　（２）製鉄関連遺物についての法量は最大長、最大幅、最大厚、重量を計測した。
　　磁着度は鉄滓分類用の「標準磁石」を用いて資料との反応を１～８までの数字で表現したもので、数値が大きいほど磁着度が強い。メタル度は小型金属探知機によって判定された金属鉄の残留度を示すもので、基準感度は次のとおりである。
　　Ｈ（○）：Ｈは最高感度でごく小さな金属鉄が残留することを示す。
　　Ｍ（◎）：Ｍは標準感度で一般的な大きさや金属鉄が残留することを示す。
　　Ｌ（●）：Ｌは低感度でやや大きな金属鉄が残留することを示す。
　　特Ｌ（☆）：特Ｌは低感度でＬ以上の大きな金属鉄が残留することを示す。
　　これらについては０・５区それぞれで時期（層位）ごとに分け、各地区の構成図までを作成したが、今回紙幅の都合で掲載できなかった。観察表にある○数字は構成図番号を示す。

11．遺構・遺物の時期決定には下記の文献を参照した。

辻　信広　1999「弥生中期中～後葉の土器について」辻編『茶畑山道遺跡』名和町教育委員会
八峠　興　1998「山陰における中世土器の変遷について」『中近世土器の基礎研究』ＸⅢ
八峠　興　2000「山陰における平安時代の土器・陶磁器について」『中近世土器の基礎研究』ＸＶ
森田　勉　1982「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No.2
上田秀夫　1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No.2
小野正敏　1982「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No.2
九州近世陶磁学会編　2000『九州陶磁の編年』

目　　次

序
序文
例言・凡例
第１章　調査の経緯と経過 ……（中森）　1
第２章　位置と環境
　第１節　地理的環境 ……（浜田）　4
　第２節　歴史的環境 ……（中森）　4
第３章　調査の概要
　第１節　平成13年度調査の概要 ……（中森）　7
　第２節　今年度調査の概要 ……（中森）　7
第４章　０区の調査
　第１節　調査区内の堆積 ……（中森）　10
　第２節　縄文時代の調査
　　１）概要 ……（中森）　14
　　２）検出した遺構と遺物 ……（中森）　14
　第３節　弥生～古墳時代の調査
　　１）概要 ……（中森）　17
　　２）検出した遺構と遺物 ……（中森）　20
　第４節　平安時代の調査
　　１）概要 ……（中森）　22
　　２）検出した遺構と遺物 ……（中森）　23
　第５節　中世前期の調査
　　１）概要 ……（中森）　28
　　２）検出した遺構と遺物 ……（中森・木山）　28
　第６節　中世後期の調査
　　１）概要 ……（中森）　40
　　２）検出した遺構と遺物 ……（中森）　44
　第７節　中世末～近世の調査
　　１）概要 ……（中森）　46
　　２）検出した遺構と遺物 ……（中森）　46
　　３）０区遺構外の石器 ……（北）　59
第５章　５区の調査
　第１節　調査区内の堆積 ……（中森）　62
　第２節　縄文時代の調査
　　１）概要 ……（中森）　63
　　２）検出した遺構と遺物 ……（中森）　63
　第３節　弥生～古墳時代の調査
　　１）概要 ……（中森）　65
　　２）弥生時代中期の遺構と遺物 ……（中森・木山・北）　65
　　３）弥生時代後期の遺構と遺物 ……（木山・北）　85
　　４）時期不明の遺構 ……（中森・木山）　88
　　５）遺構外出土の石器 ……（北）　93
　　６）古墳時代の遺構と遺物 ……（中森・木山）　97

第４節　平安時代の調査
１）概要 ……（中森）　98
２）Ⅳ層下面の遺構と遺物 ……（中森）　98
３）Ⅲ層下面の遺構と遺物 ……（中森）　99
第５節　中世後期～近世の調査
１）概要 ……（中森）　103
２）検出した遺構と遺物 ……（中森・木山）　103
第６章　特論
１）胎土分析 …… 白石　純　113
２－１）プラント・オパール花粉分析 …… 古環境研究所　117
２－２）花粉分析 …… 古環境研究所　120
３）炭化材同定 …… パリノ・サーヴェイ　124
第７章　まとめ ……（中森、木山）　126

挿　図　目　次

図１　調査地位置 …… 1
図２　遺跡分布 …… 6
図３　平成13年度調査遺構分布 …… 8
図４　０区調査前地形測量 …… 10
図５　０区土層断面 …… 11～12
図６　土坑１・２ …… 14
図７　縄文時代遺構分布 …… 15
図８　Ⅸ層ほか出土遺物 …… 16
図９　弥生時代遺構分布 …… 20
図10　溝１・２および出土遺物 …… 21
図11　溝３・４および遺構外出土遺物 …… 22
図12　溝５、足跡完掘 …… 24
図13　水田跡検出状況 …… 25～26
図14　Ⅳ層ほか出土遺物 …… 27
図15　中世前期遺構分布 …… 28
図16　掘立柱建物１ …… 29
図17　掘立柱建物２ …… 30
図18　土坑３・４、P16および出土遺物 …… 31
図19　掘立柱建物３、土坑６・７、溝６
および出土遺物 …… 32
図20　遺構外出土遺物（１） …… 32
図21　遺構外出土遺物（２） …… 33
図22　遺構外出土遺物（３） …… 35
図23　溝７～９および出土遺物 …… 37
図24　畑跡検出状況 …… 38
図25　畑跡全体（０・1区） …… 39
図26　遺構外出土遺物（１） …… 40
図27　遺構外出土遺物（２） …… 42
図28　遺構外出土遺物（３） …… 43
図29　近世遺構分布 …… 46
図30　土坑８・９、溝10、遺構群内土層断面、
および出土遺物 …… 47
図31　土坑10～13 …… 48
図32　土坑14～20 …… 49
図33　掘立柱建物４、溝11、柵列１および出土遺物 …… 50
図34　掘立柱建物５および出土遺物 …… 52
図35　溝12、土坑21および出土遺物 …… 54
図36　Ⅰ層ほか出土遺物 …… 56
図37　遺構内外出土遺物 …… 58
図38　遺構外出土遺物 …… 60
図39　５区調査前地形測量 …… 62
図40　５区土層断面（１） …… 64
図41　５区土層断面（２） …… 65
図42　遺構外出土遺物 …… 66
図43　弥生時代遺構分布 …… 67
図44　竪穴住居１遺物出土状況 …… 68
図45　竪穴住居１および出土遺物（１） …… 69
図46　竪穴住居１出土遺物（２） …… 70
図47　竪穴住居２ …… 72
図48　竪穴住居２出土遺物 …… 73
図49　土坑22 …… 74
図50　土坑22出土遺物 …… 75
図51　掘立柱建物６、土坑23～25 …… 76
図52　土坑26～28、溝13および遺構内出土遺物 …… 77
図53　土坑29および出土遺物 …… 78
図54　土坑30～36および出土遺物 …… 80
図55　土坑37～39および出土遺物 …… 81
図56　溝14および出土遺物（１） …… 82
図57　溝14出土遺物（２） …… 83
図58　遺構外出土遺物 …… 85
図59　竪穴住居３および出土遺物（１） …… 86
図60　土坑40・41および出土遺物、
竪穴住居３出土遺物（２） …… 87
図61　掘立柱建物７・８ …… 88
図62　時期不明土坑（１） …… 90
図63　時期不明土杭（２） …… 91
図64　遺構外出土遺物 …… 92
図65　溝15および出土遺物 …… 98
図66　土坑66、溝19～23、Ⅲ層下面遺構模式図 …… 100
図67　Ⅲ層下面遺構群全体 …… 101～102
図68　Ⅳ層出土遺物 …… 103
図69　Ⅲ層出土遺物 …… 104

図70　Ⅲ・Ⅳ層出土遺物 …… 106
図71　中世後期～近世遺構分布 …… 107
図72　土坑67・68、溝63および出土遺物 …… 109
図73　遺構外出土遺物（１） …… 110
図74　遺構外出土遺物（２） …… 112
図75　茶畑六反田と押平弘法堂遺跡内出土弥生中期～後期の胎土比較(K－Ca散布図) …… 115
図76　茶畑六反田と押平弘法堂遺跡内出土の弥生中期～後期の胎土比較(Sr－Rb散布図) …… 115
図77　茶畑六反田遺跡出土平安時代(土師器、須恵器)の胎土比較(K－Ca散布図) …… 116
図78　茶畑六反田遺跡の平安時代(土師器、須恵器)の胎土比較(Sr－Rb散布図) …… 116
図79　茶畑六反田と古市宮ノ谷遺跡出土平安時代(土師器)の胎土比較(K－Ca散布図) …… 116
図80　茶畑六反田と古市宮ノ谷遺跡の平安時代(土師器)の胎土比較(Sr－Rb散布図) …… 116
図81　茶畑六反田と霞遺跡出土平安時代(須恵器)の胎土比較(K－Ca散布図) …… 116
図82　茶畑六反田と霞遺跡の平安時代(須恵器)の胎土比較(Sr－Rb散布図) …… 116
図83　茶畑六反田遺跡における花粉ダイアグラム …… 122
図84　茶畑六反田遺跡における植物珪酸体分析結果 …… 123

図　版　目　次

(カラー図版)

1　水田跡検出状況　(東から)
2－1　溝12土層断面　(北から)
－2　掘立柱建物４、Ｐ４断面　(南から)
－3　掘立柱建物５、Ｐ５断面　(北西から)
－4　近世遺構群検出状況　(南から)
3－1　０区中世前期貿易陶磁器
－2　０区遺構内およびⅢ層出土遺物
－3　０区近世遺構群出土貿易陶磁器
－4　０区中世後期貿易陶磁器
4－1　竪穴住居１炭化材など出土状況　(東から)
－2　竪穴住居１炭化材出土状況　(北東から)
－3　竪穴住居１、Ｐ１土層断面　(西から)
－4　竪穴住居１炭化材出土状況　(南東から)
5－1　５区緑・灰釉陶器
－2　５区近世国産陶磁器
－3　５区中世後期貿易陶磁器
6　５区完掘状況　(北西から)

(図版)

1－1　調査前調査地遠景　(北から)
－2　０区調査前全景　(南から)
2－1　０区完掘状況　(東から)
－2　遺構外出土遺物
3－1　Ⅸ層出土遺物
－2　Ⅳ層出土遺物
－3　溝１・２および遺構外出土遺物
－4　溝１・２土層断面　(南から)
－5　溝３・４完掘状況　(南から)
－6　溝２完掘状況　(南から)
4－1　水田跡検出状況　(南西から)
－2　水田跡検出状況　(南から)
5－1　水田跡土層断面　(北から)
－2　足跡検出状況　(南東から)
－3　足跡完掘状況　(南西から)
6－1　水田跡土層断面　(北から)
－2　Ⅳ層ほか出土遺物
－3　遺構外出土遺物
－4　Ⅳ層出土遺物
7　Ⅳ層上面完掘状況　(北西から)
8－1　土坑３、Ｐ16遺物出土状況　(西から)
－2　掘立柱建物２、Ｐ16遺物出土状況　(北から)
－3　掘立柱建物３周辺遺構群完掘状況　(南から)
－4　掘立柱建物２完掘状況　(北西から)
－5　掘立柱建物１完掘状況　(西から)
9　Ⅲ層ほか出土遺物
10－1　溝９完掘状況　(南から)
－2　Ⅲ層出土遺物
－3　溝９土層断面　(北から)
－4　Ⅱ層上面畑跡検出状況　(南東から)
11－1　溝10完掘状況　(東から)
－2　土坑10礫出土状況　(北から)
－3　土坑10完掘状況　(北から)
－4　土坑９完掘状況　(西から)
－5　土坑８遺物出土状況　(西から)
12　近世遺構群完掘状況　(北から)
13－1　土坑11礫出土状況　(北西から)
－2　土坑11完掘状況　(北西から)
－3　土坑13土層断面　(南から)
－4　土坑13完掘状況　(西から)
－5　土坑14土層断面　(東から)
－6　土坑14礫出土状況　(北から)
14－1　掘立柱建物４完掘状況　(北から)
－2　土坑10～12完掘状況　(西から)
－3　近世遺構群完掘状況　(北東から)
15－1　近世遺構群土層断面　(北から)
－2　土坑12完掘状況　(南東から)
－3　土坑17完掘状況　(東から)
－4　掘立柱建物５、Ｐ６完掘状況　(東から)
－5　土坑18完掘状況　(西から)
16－1　土坑21礫出土状況　(北から)
－2　土坑16完掘状況　(北から)
－3　土坑21完掘状況　(南から)
－4　近世遺構群南群完掘状況　(北から)
17　近世遺構群ほか出土遺物
18－1　近世遺構群内出土遺物

－2　近世遺構群内出土遺物
－3　土坑11出土遺物
－4　調査区内出土土錘
－5　調査区内出土石器・石製品
19－1　調査区内出土遺物
－2　調査区内出土遺物
－3　調査区内出土遺物
－4　近世遺構群内出土遺物
－5　0区完掘状況　（南から）
20－1　5区調査前全景　（南から）
－2　調査区内出土遺物
21－1　竪穴住居1完掘状況　（北東から）
－2　竪穴住居1出土遺物
－3　竪穴住居1遺物出土状況　（北西から）
22－1　竪穴住居1出土遺物
－2　竪穴住居1出土遺物
－3　竪穴住居1出土遺物
－4　竪穴住居1出土遺物
23－1　竪穴住居2炭化材出土状況　（南東から）
－2　竪穴住居2出土遺物
－3　竪穴住居1・3出土鉄製品X線
－4　竪穴住居1・3出土遺物
－5　竪穴住居2出土遺物
－6　竪穴住居2完掘状況　（北西から）
24－1　調査区南東遺構群完掘状況　（北西から）
－2　調査区南西遺構群完掘状況　（北東から）
25－1　土坑24遺物出土状況　（南西から）
－2　土坑25遺物出土状況　（北東から）
－3　土坑23出土遺物
－4　掘立柱建物6完掘状況　（南から）
－5　土坑23～25完掘状況　（北から）
26　土坑22出土遺物
27－1　土坑22遺物出土状況　（南東から）
－2　土坑22遺物出土状況　（西から）
－3　掘立柱建物7、土坑22ほか完掘状況　（東から）
28－1　土坑29遺物出土状況　（東から）
－2　土坑29出土遺物
－3　土坑37遺物出土状況　（西から）
－4　土坑37出土遺物
－5　土坑29・34・36・59完掘状況　（北から）
29－1　土坑26礫出土状況　（東から）
－2　土坑26遺物出土状況　（東から）
－3　土坑26完掘状況　（東から）
－4　土坑26出土遺物
30－1　土坑32・33土層断面　（北東から）
－2　土坑32・33完掘状況　（南から）
－3　土坑30・31土層断面　（北東から）
－4　土坑30・31完掘状況　（北東から）
－5　土坑30遺物出土状況　（東から）
－6　遺構外出土遺物
31－1　遺構内出土遺物
－2　遺構外出土遺物
－3　底部穿孔土器
－4　調査区内出土弥生土器壺
32－1　溝14遺物出土状況　（南から）
－2　溝14遺物出土状況　（南から）
－3　溝14出土遺物
－4　溝14遺物出土状況　（北西から）
－5　溝14完掘状況　（南から）
33　溝14出土遺物
34－1　竪穴住居3遺物出土状況　（東から）
－2　竪穴住居3遺物出土状況　（東から）
－3　竪穴住居3土器出土状況　（北から）
－4　竪穴住居3遺物出土状況　（東から）
－5　竪穴住居3完掘状況　（南から）
35－1　竪穴住居3出土遺物
－2　竪穴住居3ほか出土遺物
－3　竪穴住居3出土遺物
36－1　土坑43遺物出土状況　（東から）
－2　土坑43完掘状況　（北東から）
－3　土坑42土層断面　（南から）
－4　土坑42完掘状況　（北西から）
－5　調査区南東部ピット群　（南西から）
37－1　調査区内出土石器
－2　調査区内出土石器
－3　溝18ほか出土遺物
－4　溝18完掘状況　（北西から）
38　Ⅲ層下面遺構完掘状況　（北から）
39－1　溝21完掘状況　（西から）
－2　土坑66検出状況　（南から）
－3　土坑66断面　（西から）
－4　溝18～23完掘状況　（北西から）
40－1　Ⅲ層下面遺構群完掘状況　（北西から）
－2　Ⅲ層下面遺構群完掘状況　（南東から）
－3　Ⅲ・Ⅳ層出土遺物
41－1　Ⅲ層出土遺物
－2　T．1土層断面
－3　Ⅲ層下面溝群完掘状況　（北西から）
－4　溝50完掘状況　（西から）
－5　溝41・42完掘状況　（西から）
－6　Ⅲ・Ⅳ層出土遺物
42　Ⅲ・Ⅳ層出土遺物
43－1　土坑67遺物出土状況　（東から）
－2　土坑68遺物出土状況　（西から）
－3　遺構外出土遺物
－4　遺構外出土遺物
－5　土坑67・68完掘状況　（北西から）
44－1　遺構外出土遺物
－2　溝63完掘状況　（西から）
－3　Ⅲ層上面遺構群完掘状況　（西から）
45－1　Ⅱ層出土遺物
－2　Ⅱ層出土遺物
－3　調査区完掘状況　（北西から）
46　実体顕微鏡による砂粒観察写真
47　顕微鏡写真
48　炭化材顕微鏡写真

第１章　調査の経緯と経過

第１節　調査の経緯

国道９号は京都市から兵庫県、鳥取県、島根県を通り山口県下関市まで続く総延長約691kmの幹線道路である。このうち国土交通省倉吉工事事務所では東伯郡泊村から米子市までの76.6kmを管轄し、米子－淀江間・羽合－青谷間はすでに高規格幹線道路（自動車専用道路）が開通・運用されている。またその一環として、名和淀江道路が計画されており、これは名和町から淀江町にかけての国道９号の渋滞混雑の緩和や災害時の緊急輸送の代替道路確保などを目的としている。

道路の建設予定地となる名和町は数多くの「埋蔵文化財包蔵地」があり、名和町内ではすでに一昨年度より調査が行われ、報告書が刊行されている。今回の調査地である茶畑六反田遺跡は、平成13年度に１～３区において鳥取県教育文化財団が発掘調査を行ない、多数の遺構・遺物を検出した（註１）。その結果を受け、国土交通省倉吉工事事務所は、鳥取県教育委員会文化課と協議を行い、文化財保護法第57条の３の規定に基づき文化庁に通知した。その上で記録保存のための事前発掘調査の指示を得た国土交通省倉吉河川国道事務所は、発掘調査を財団法人鳥取県教育文化財団に委託した。これにより、名和調査事務所が調査を担当することになり、財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター所長から鳥取県教育委員会教育長に文化財保護法第57条第１項に基づく発掘届けを提出し、調査に着手した。　（中森）

（註１）八峠　興ほか編　2002『茶畑六反田遺跡・押平弘法堂遺跡・富岡播磨洞遺跡・安原溝尻遺跡』（財）鳥取県教育文化財団

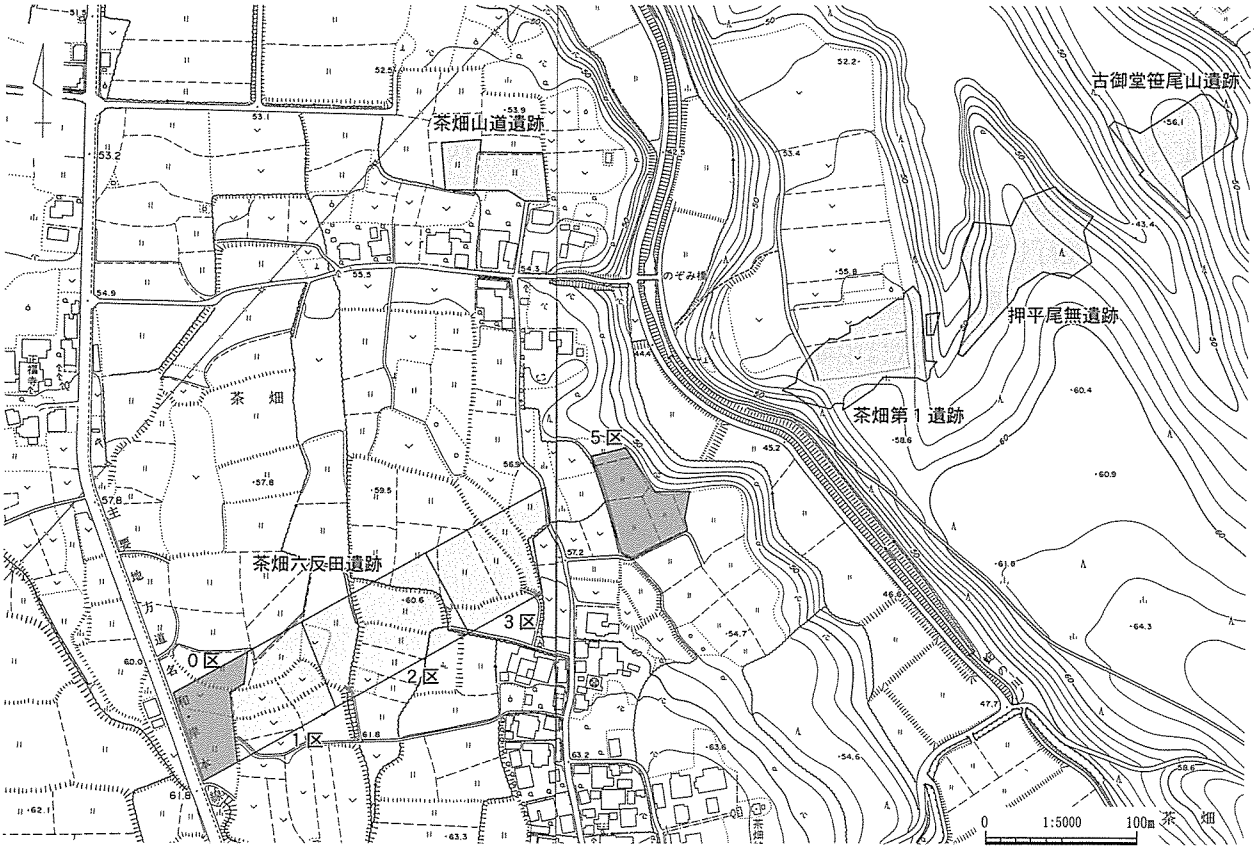


図１　調査地位置

第２節　調査の経過

調査地は平成13年度調査地（１～３区）を挟んだ東西にあり、その関係から西側を０区、東側を５区とした（註１）。調査はまず０区より開始し、４月22日に重機による表土剥ぎを行なった。調査地東に隣接する１区の調査成果を参考にしながら、併せてトレンチを入れ調査地内の堆積状況の確認を行なっていった。結果、１区よりも多い遺構面数を確認し、また遺構・遺物の時期も多岐にわたることが判明した。

１区において確認され、それより連続するものは縄文時代前期（最終遺構面）、弥生時代後期、中世前期、中世後期の各遺構面であり、今回新たに平安時代、近世初頭の遺構面、遺構を検出した。とくに平安時代においては、人の足跡と思われる痕跡を多数伴う水田跡があった。県内においても非常に稀な検出例である。また近世初頭の建物跡は規模も大きく、さらに貿易陶磁器や国産陶磁器など多くの遺物が出土した。

これら遺構群のすぐ下には無遺物層が厚く堆積し、その下に縄文～弥生時代の遺構面および遺物包含層（黒色土層）を確認したため、無遺物層を重機により取り除き、弥生時代の遺構面を検出した。さらに最終遺構面までは厚く黒色土層があった。遺物が包含されているが人力による掘り下げには多くの時間を要するため、埋蔵文化財センター企画調整班と協議の上、遺構面より10cmを残して重機によって除去することとし、残りを遺構面検出とあわせ人力により行なった。当初遺構面２面という積算であったが、それを大きく上回る遺構面を確認したため調査工程が延びたものの、調査後の空撮などを行ない９月８日に調査を終了した。

５区は国土交通省による、調査地への重機の進入路、および廃土置き場設置が終了した９月３日より開始した。設置以前には人力によりトレンチを入れ堆積、および弥生、平安、近世の各遺構面の存在を確認した。

近世の面では耕作地に伴う段や溝と考えられるものがあり、近世の陶磁器に混じり多くの中世後期に比定される貿易・国産陶磁器が出土した。この下層で平安時代の条里制の跡と想定される溝を多数検出。調査地西際にあったものは２・３区において検出された溝とほぼ等間隔に位置し、さらに現在の土地区画と並行していた。

この面の下に厚く黒色土が堆積していたが、遺物も多く包含していたため作業員人数を増員して掘り下げにあたった。弥生時代は中期のものを主体とし、竪穴住居跡３、掘立柱建物跡３、土坑は45基ほどを検出した。またこれに伴って多くの完形土器が出土し、茶畑山道遺跡との関係など注目される成果があった。そのため、11月15日天候が悪い中現地説明会を行ない多くの参加者があった。すべての現地における作業を11月25日に終了した。

（註１）４区は未調査。

第３節　調査体制

○調査主体　財団法人鳥取県教育文化財団

理　事　長	有田　博充
常 務 理 事	川口　一彦（兼・鳥取県教育委員会事務局次長）
事 務 局 長	下田　弘人

埋蔵文化財センター

所　　長	田中　弘道（兼・鳥取県埋蔵文化財センター所長）
次　　長	竹内　　茂
次　　長	加藤　隆昭
調査課長（兼）	加藤　隆昭
企画調整班長	山枡　雅美
文化財主事	下江　健太
庶 務 課 長（兼）	竹内　　茂
主任事務職員	矢部　美恵
事 務 職 員	田中　陽子　大川　秋子　植田　恵子（９月退職） 谷垣　真寿美　小谷　有里
事務補助員	山根　美代（11月採用）

○調査担当　埋蔵文化財センター名和調査事務所

所　　長	国田　俊雄
班　　長	西川　徹
文化財主事	中森　祥、木山　清貴、浜田　真人
調査補助員	中橋　智明
事務補助員	金田　かおる

○調査指導　鳥取県教育委員会事務局文化課、鳥取県埋蔵文化財センター

○調査協力　名和町教育委員会

第２章　位置と環境

第１節　地理的環境

名和町茶畑六反田遺跡は大山北麓に位置する台地上にあり、西を阿弥陀川、東は蛇ノ川によって画されている。台地は北西方向に緩く傾斜するほぼ平坦な地形となっている。台地の基盤には名和火砕流（８～９万年前）が地山として存在し、本遺跡以東では地山上に堆積する大山火山灰や姶良丹沢（ＡＴ）火山灰が各遺跡を包蔵している。本遺跡ではAT火山灰を欠き、台地の傾斜は周辺の台地よりごくわずかに緩い。それは耕作などの人為的改変に起因するのであろう。台地を開削する小渓谷はヴュルム氷期（最終氷期）に形成されたと考えられる。また、縄文海進時の海岸線は、御来屋付近において山陰本線沿いに、あるいは名和神社付近にみられる10～20ｍの高低差を持つ急崖であろう。　（浜田）

第２節　歴史的環境

１　旧石器時代～縄文時代

旧石器時代の遺構は確認されていないが、淀江町、関金町、倉吉市など大山山麓で遺物が発見されている。また町内では今年度の名和小谷遺跡、押平尾無遺跡において黒曜石製石器が出土した。

〈縄文時代草創期～早期〉草創期頃のものとされる有舌尖頭器が、町内では東坪字陣構、門前字上大山で確認されている。早期では押型文土器が古御堂金蔵ヶ平遺跡、上大山第１遺跡、角塚遺跡、高田原第１遺跡などで確認されている。また茶畑山道遺跡からは、繊維土器が出土している。

〈縄文時代前期～後期、晩期〉前期については大山町の中高遺跡、中期は名和衣装谷遺跡のほか、中山町の細工塚遺跡で土坑や遺物が確認されている。後期では名和町の古御堂遺跡や南川遺跡がある。南川遺跡からは、西日本でも珍しい五角形の石組炉をもつ住居跡と磨消縄文の深鉢が出土している。また晩期については大塚遺跡、高田第10遺跡、文殊領屋敷遺跡などがある。

２　弥生時代

〈弥生時代前期〉前期の遺跡は名和町の大塚岩田遺跡があり、ここから環濠の可能性のある溝状遺構が検出されている。また、大塚塚根試掘調査や茶畑山道遺跡で前期の土器片が確認されている。

〈弥生時代中期〉この時期の集落はやや丘陵側でみられるようになる。名和町では茶畑地域を中心にみつかっている。茶畑山道遺跡は中期中葉～後葉が主で、掘立柱建物を中心とし、この地域の拠点集落とみられる。また東側、蛇ノ川を隔てた茶畑第１遺跡においても竪穴住居跡や大型の掘立柱建物跡などが検出されている。阿弥陀川右岸の押平弘法堂遺跡では中期の土壙墓９基が調査されている。

〈弥生時代後期〉この時期の集落はさらに丘陵の上側に位置するようになる。名和町の茶畑第１遺跡、押平尾無遺跡、東高田遺跡、茶畑第２遺跡がある。茶畑第１遺跡では竪穴住居や棟持柱をもつ掘立柱建物など大型の建物跡が確認されている。また大山町から淀江町にかけて山陰地方最大規模の妻木晩田遺跡があり、400棟にのぼる竪穴住居のほか、四隅突出型墳丘墓や環壕などが検出されている。

３　古墳時代

中期後半には名和町のハンボ塚古墳がある。径33ｍの円墳で、円筒埴輪や人物型や水鳥型の形象埴輪が出土している。後期の古墳群としては、名和町では茶畑古墳群、高田古墳群、門前古墳群、富長山村古墳群、坪田古墳群、豊成古墳群などがある。

４　奈良～平安時代

この時代には寺院の建立が各地で行われている。名和町内では、高田原遺跡がある。ここからは乱石積基壇や溝状遺構が検出されており、上淀廃寺と同じ形式の単弁十二葉蓮華文の軒丸瓦が出土している。淀江町の上淀廃寺跡では彩色壁画片が出土し、伽藍配置は３つの塔心礎が南北に並ぶ。

また一方では各地で律令制が施行され、伯耆国の国庁や山陰道の駅などが整備された。平安時代に編纂された『延喜式』の記載によると、伯耆国は六郡に分かれ、郡内には東から笏賀駅、松原駅、清水駅、和奈駅、相見駅の５駅が置かれていたとある。そのうち汗入郡には和奈駅（奈和の誤記か）が置かれていたとされるが、その正確な位置は明らかではない。名和町の長者原遺跡は郡衙推定地で、礎石抜き取り跡が調査され、付近から「財」の銅印が採集されている。この辺りには「馬郡」「東馬郡」「西馬郡」の地名があり、その小字名からこの周辺に奈和駅の存在が推測される。阿弥陀川の河口近くの大塚屋敷遺跡では、掘立柱建物跡が15棟検出されており、倉庫群と推測されている。生産遺跡では、栃原須恵器窯で須恵器の窯跡が推測されている。上寺谷遺跡では製鉄炉が確認されている。周辺では鉄滓が表採されており、鉄生産の拠点的な存在であることが推測される。

平安時代には名和町の茶畑六反田遺跡（１～３区）で緑釉陶器や墨書土器を含む条里区画とみられる溝状遺構が検出されている。主軸はほぼ北を指す。この時期は各地で条里制が整備されており、淀江平野に踏襲される条里区画は著名である。名和町では地名に「中坪」「岩坪」「大坪」などがみられることや、地籍図や航空写真を見ると方格地割が検出できることから、条里制の施行が推測される。名和乙ヶ谷遺跡からは道路跡が見つかり、鉄滓が出土していることから鉄生産に関係する道路であると推測している。谷を隔てた名和衣装谷遺跡では工房もしくは雑舎とみられる２間×５間の大型の掘立柱建物跡が２棟調査され、緑釉陶器や灰釉陶器などが出土している。

５　鎌倉～室町時代

名和町では扇状地に集落が見られるようになる。茶畑・押平地域では茶畑六反田遺跡や文殊領屋敷遺跡、西側の押平弘法堂遺跡がある。ここでは建物のほか屋敷墓が調査されている。ただしこれらの集落はいずれも鎌倉時代の後半には姿を消し、集落廃絶後、茶畑六反田遺跡や文殊領屋敷遺跡からは耕作痕跡が確認されている。集落から畑作地へと土地利用の変換があったことが窺われる。

元弘３(1333)年、隠岐島を脱出した後醍醐天皇を迎えたのは名和長年である。名和長年の居城跡とされている名和公館跡伝承地をはじめ、的石、腰掛け岩、名和氏一族郎党の墓と言われる多量の五輪塔群など、後醍醐天皇や名和長年にまつわる旧跡が多数存在する。海岸段丘上には名和氏に協力した荒松氏によって築かれたと言われる富長城跡や長野城跡などの城跡が展開している。富長城跡は土塁が残存し、その保存状態は非常に良い。この時代の土豪の居館跡をよく残すものとして貴重である。この他にも、「門前」「陣構」といった地名もあり、山城の存在が推測される場所もある。門前礎石群では礎石建物が検出されている。白磁・青磁・染付などが出土しており、中世以降の寺院跡の可能性が指摘されている。浜ノ坂遺跡では、周溝を伴う土壙墓に室町期とみられる和鏡が副葬されている。

６　近世以降

寛永９(1632)年に岡山藩主の池田光仲が鳥取藩主となり、明治維新まで池田氏の藩政が続く。御来屋は、伯耆街道の宿駅で藩の運上米の積出港としても重要な位置を占め、汗入郡の中心地であった。

明治35年、山陰線が境～御来屋間を結んだ。大正天皇が名和神社に参拝された際に、名和仮駅がで

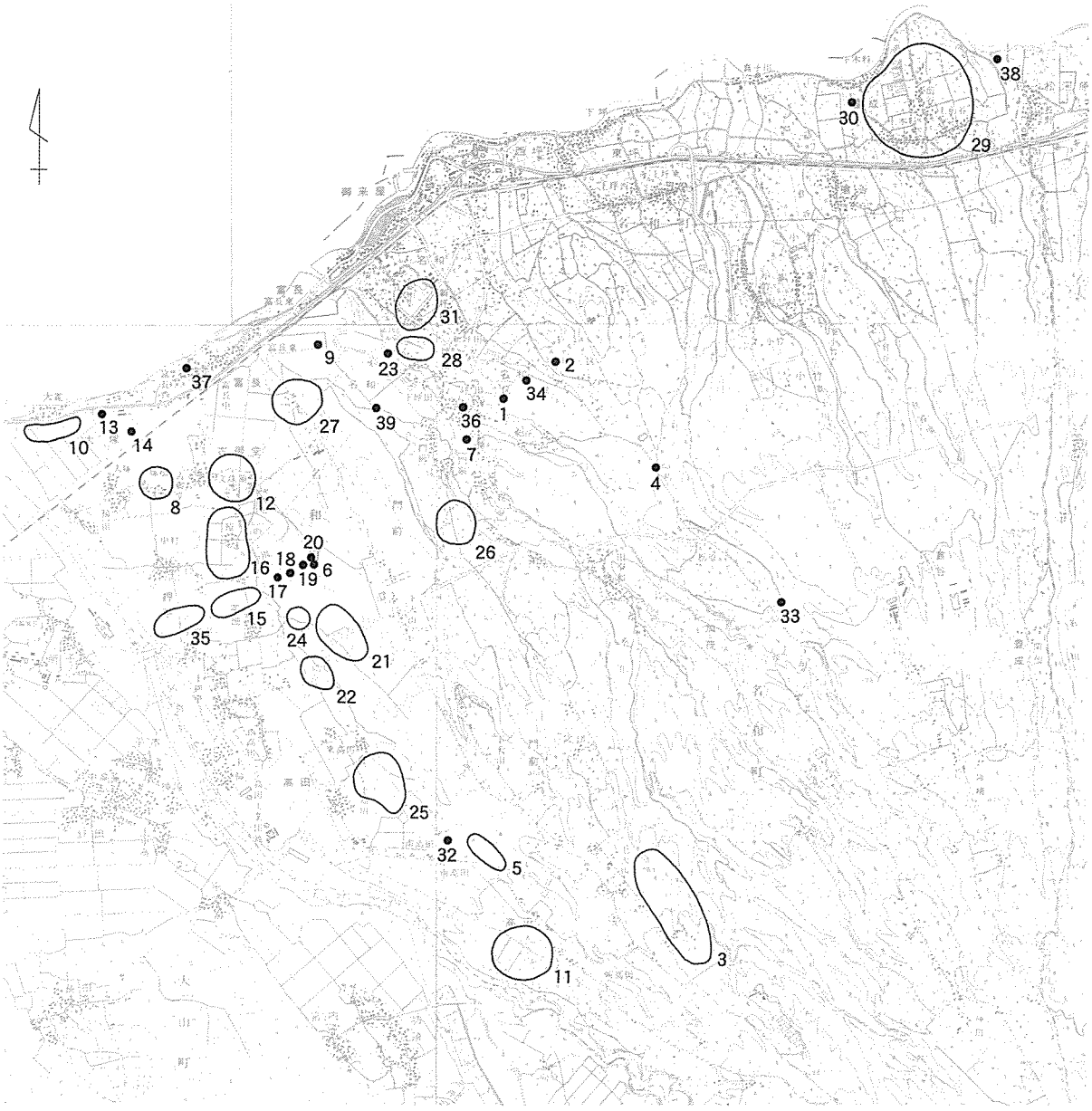


図２　遺構分布（Ｓ＝１／50,000）

No.	遺　跡　名	No.	遺　跡　名	No.	遺　跡　名	No.	遺　跡　名
1	名和乙ヶ谷遺跡	11	高田第10遺跡	21	茶畑第２遺跡	31	長者原遺跡
2	名和小谷遺跡	12	文珠領屋敷遺跡	22	東高田遺跡	32	高田原遺跡
3	上大山第１遺跡	13	大塚岩田遺跡	23	ハンボ塚古墳	33	上寺谷遺跡
4	角塚遺跡	14	大塚塚根遺跡	24	茶畑古墳群	34	名和衣装谷遺跡
5	高田第４遺跡	15	茶畑六反田遺跡	25	高田古墳群	35	押平弘法堂遺跡
6	古御堂金蔵ヶ平遺跡	16	茶畑山道遺跡	26	門前古墳群	36	名和公館跡伝承地
7	名和飛田遺跡	17	茶畑第１遺跡	27	富長山村古墳群	37	富長城跡
8	古御堂遺跡	18	押平尾無遺跡	28	坪田古墳群	38	長野城跡
9	南川遺跡	19	古御堂笹尾山遺跡	29	豊成古墳群	39	門前礎石群
10	大塚遺跡	20	古御堂新林遺跡	30	豊成横穴墓群		

き名和駅になった。昭和29年には御来屋村・光徳村・名和村・庄内村が合併し、今日の名和町となった。現在では米子市の衛星町として、また中山町・大山町との合併が決まり、新しい町に向かって新たな歴史を歩みだしている。　（中森）

【参考文献】

名和町誌編纂委員会編　1978年『名和町誌』名和町誌編纂委員会

鳥取県埋蔵文化財センター編　1986年『鳥取県の古墳』鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター

鳥取県埋蔵文化財センター編　1988年『旧石器・縄文時代の鳥取県』鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター

鳥取県埋蔵文化財センター編　1989年『歴史時代の鳥取県』鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター

第３章　調査の概要

第１節　平成13年度調査の概要（図３）

茶畑六反田遺跡は第１章で述べたとおり、すでに平成13年度に調査が行なわれている（註１）。調査範囲は、今年度調査区に挟まれる１～３区である。１～３面の遺構検出面が確認され、また第１遺構検出面（以下「遺構検出」を略）の上層から「耕作痕」が検出された。

第３面は調査区最下面であろうと思われる（註２）。この面ではピットが多く検出され、３区においては弥生時代中期後葉の竪穴住居跡が検出されている。しかし、１・２区における時期的なものは不明である。この面を覆う黒色土上面が第２面で、１区においては０区へ続く自然流路が検出されている。第２面（黒色土上面）から第１面までは概ね0.2～0.3mと堆積は薄く、０区と様相が異なる。

第１面においては平安時代の条里に関すると想定される溝が４条検出され、これらは南北方向を向き、54～55m間隔に位置している。また同面では鎌倉時代の掘立柱建物跡を38棟検出するなど、同期の遺構が２区に集中する。一方押平弘法堂遺跡では屋敷墓を伴い、大型や柵列をもつ掘立柱建物が密にあるなど、茶畑六反田遺跡とは在り方が違う。当該期の集落構造を知る、貴重な成果といえよう。この面上には１区において耕作痕があり、さらにこの上には近世の包含層が堆積する。近世の遺構は検出されていない。（中森）

（註１）八峠　興ほか編　2002『茶畑六反田遺跡他』鳥取県教育文化財団

（註２）註１報告書Ｐ８・９の土層断面では、調査地全体に厚く堆積する黒色土下面において第３面と第２面とされるところがある。また第２面は黒色土上層にもみられ、明らかに矛盾している。遺構全体図では第２面が調査地全体（Ｐ10・11）で、第３面はＰ13の１区しか表されていない。そのためここでは０・５区の調査成果を踏まえ、この矛盾を修正しつつ概略する。

第２節　今年度調査の概要

１）調査の方法

調査は茶畑六反田遺跡の東西両端であり、西側を０区、東を５区と定めた。

０区は先述のように１区に隣接するため、その調査成果と合わせ、重機による表土剥ぎを行なった。表土剥ぎ後、10m画のグリッドを設定した。本来ならば１区から連続する番号を振るべきであるが、１区調査時には０区を前提とした番号付けがなされていないため、南北軸を東から数字、東西軸を北からアルファベットで新規に設定した。そして１区画（グリッド）の番号は北東隅の杭番号で表した。

５区については、０区調査終了間際に人力でトレンチを入れ堆積を確認し、その後重機により表土剥ぎを行なった。グリッド設定については０区、および１～３区との関連性が保てないため、０区同様新規に設定した。

どちらの区も検出した遺構・遺物の記録にあたっては、平板、トータル・ステーションを用いた。また現場の写真撮影については、６×７版を基本とし、35㎜、デジタルカメラを補助的に使用した。さらに部分的に４×５版を用いた。

２）調査の概要

調査は５区への調査地進入路敷設の関係から、０区より着手した。

０区では、隣接する１区から連続する遺構が多くみられることが想定されていたため、その成果を

検討し、確認しながら調査を進めていった。その結果、１区において確認された４面の遺構面（耕作痕、第１～３面）を上回る遺構面があった。また面としては確認できなかったが、中世末～近世初頭の遺構群があり、本調査区で検出された遺構は縄文時代前期～近世初頭にわたるものと判明した。

調査区は後述するように互層状に土が堆積しており、後世の削平などがあるものの、比較的面を確

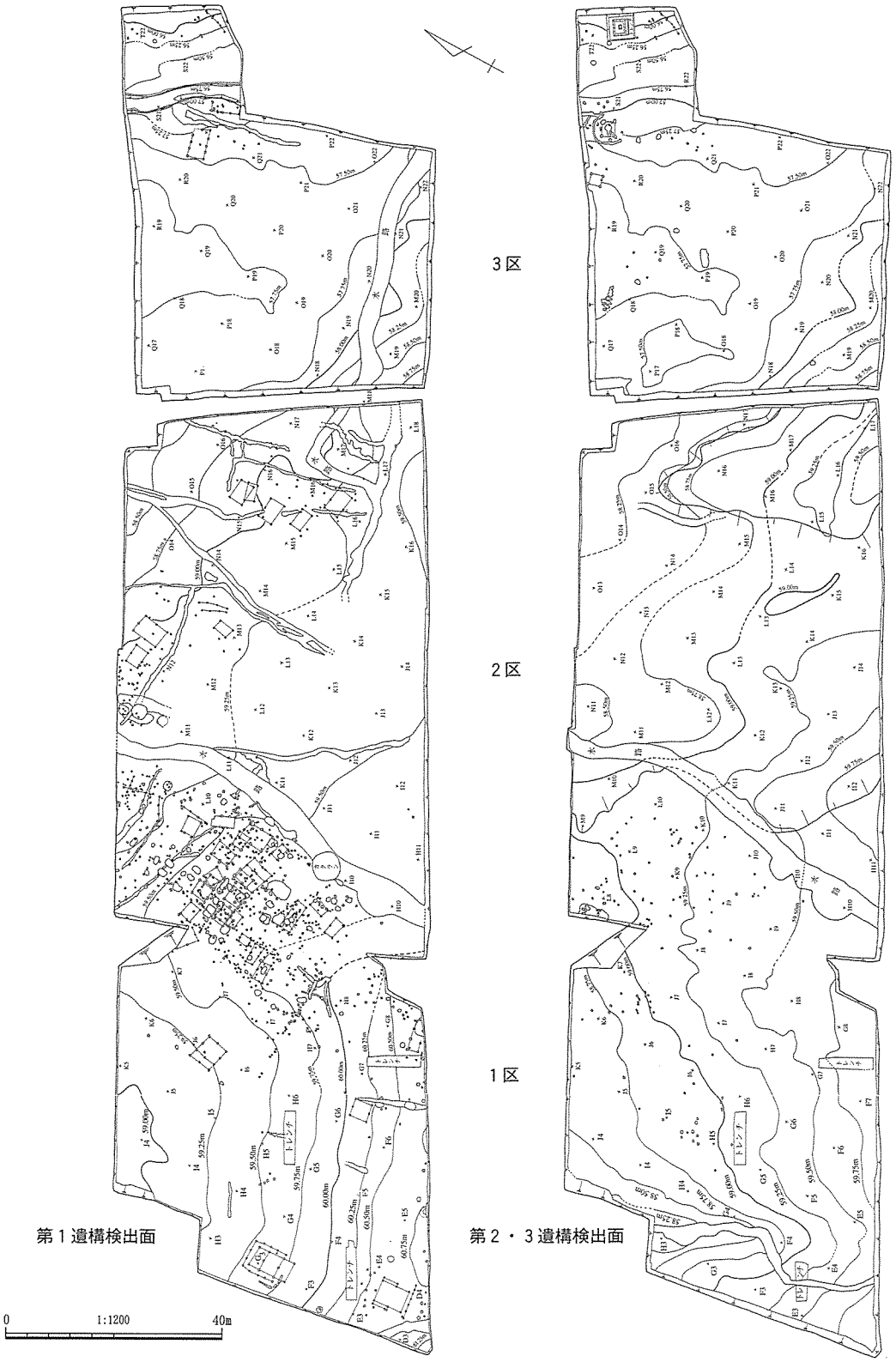


図３　平成13年度調査遺構分布

認し易かった。しかし調査積算段階では２面の予定であったため、工程的には苦しいものであった。

結果的には最終遺構面（１区第３面）において多数のピットを検出し、それらに伴って出土したものは縄文時代前期および後期のものだった。この面は黒色土（Ⅸ層）で覆われていたが、その上位はやや褐色みを帯び、その面で溝状遺構を検出した。遺物はほとんどなかったが、縄文時代晩期～弥生時代前期のものと推定している。この面から下は堆積も厚く、かつ遺物が希薄であったため、工程から考え重機による掘り下げを行なわざるを得なかった。このⅨ層上面においても溝を検出し、これらは１区から連続するものであった。時期も弥生時代後期後葉で、１区の成果と矛盾はない。

無遺物層を挟んでⅥ層上面では水田跡を検出した。これに伴い人の足跡を無数に検出したが、検出状況は実測したものの、完掘まではすべて採る時間的余裕がなかった。そのため完掘図は足跡が密にある部分のみ実測した。この面は１区では確認されておらず、東側へ延びるかどうかは不明であるが、少なくとも北西方向（県道側）に広がることは明らかである。上層には薄く白色細砂層（Ⅴ層）、それを覆って厚く灰色砂層（Ⅳ層）が堆積する。Ⅳ層上面において中世前期の遺構が検出され、これらは１～２区検出のものと一連と考えられる。この面を覆うⅢ層は堆積が薄く、上面には耕作痕があった。これも１区から連続するもので、上層の遺物から15世紀代のものであることが判明した。

調査区南西隅には中世末～近世初頭の遺構群があった。後世の耕作による削平により面としてとらえることはできなかったが、大きく二時期ある。大型の掘立柱建物跡２棟や大型土坑などがあった。

５区は蛇ノ川を隔てた東対岸に弥生時代中期、終末～古墳時代初頭にかけての大型掘立柱建物跡や竪穴住居跡、古墳などが検出されている茶畑第１遺跡、また北側200ｍほどのところには弥生時代中期の大型掘立柱建物跡などが検出され、拠点的な集落とされる茶畑山道遺跡がある。そのため本区においてもまとまって弥生時代のものが出てくる可能性は考えられたが、一方で３区において当期のものが希薄であったため、まさに掘るまではわからない状態であった。

調査区は北側が一段低い耕地であった。重機による表土剥ぎ後、人力で掘り下げ、その段に関連すると考えられる溝状遺構を検出。出土遺物から近世後期のものであることがわかった。また同層中には中世の貿易陶磁器を多く含み、０区とも関連し、周辺に当該期の遺構があることが想定される。なお現在集落が密集する部分が調査区北側にあり、その字が「屋敷」であることは示唆的であろう。

この下面には平安時代の遺構面があり、細く浅い溝が規則的に縦横にあった。これらはその規格性から条里に関連するものであろうと思われ、また出土した遺物から１～３区で検出されたものよりも同時期、ないしは一時期古い９世紀後半～10世紀初頭に比定される。この地域の条里制施行がこの段階までさかのぼれることは、貴重な成果であろう。

この下面には黒色土が厚く堆積していた。しかし遺物を多く包含していたため、０区のように重機で掘削せず、作業員を一時的に増員して人力による掘り下げを行なった。この黒色土は大きく３層に分けられた。最上層（Ⅳ層）は平安時代の包含層で、この下面で上面の条里とは関わらない溝を検出。Ⅴ・Ⅵ層が弥生の包含層であるが、Ⅴ・Ⅵ層の境界を平面的に押さえることはできず、また遺構の検出も行えなかったため、明確に遺構検出の行える地山面まで掘り下げた。部分的には地山漸移層をも掘り込み検出しているものもあるため、本来の遺構掘り込み面から下がっているものが多い。

遺構は中期中葉が主体で、竪穴住居跡などは後葉であった。遺構の在り方は茶畑山道遺跡と違い、当期の集落構造を考える上で良好な資料である。また後期後葉のものもあり、茶畑山道、茶畑第１遺跡で検出されていない点は注目されよう。このほか古墳時代後期の溝が１条だけあった。　（中森）

第４章　０区の調査

第１節　調査区内の堆積（図４・５）

調査区は南から北へ向け緩やかに傾斜する。最終遺構面の南北両端の比高差は約1.5mである。調査前の現況は水田であったため、圃場整備などによって上層は削平されていた。とくに南半分においてそれは顕著にみられ、そのためⅥ層から上についてはほぼ遺存していなかった。

調査は重機による表土剥ぎを行なった後、堆積状況を確認するトレンチを設定し（図４）、掘り下げを行なった。そこで相互の関係をみつつ、以下に示す層位毎に平面的に掘り下げていった。また、隣接する１区から連続して層位の確認を行なうべきところではあるが、調査区壁の崩落などにより困難であったため、主要層のみにとどめた。

本調査区における主要な層位は以下のとおりである。なお、土層名横の（　）内は調査段階における層位名を示す。また本節末に遺構名の新旧対照表を付している。

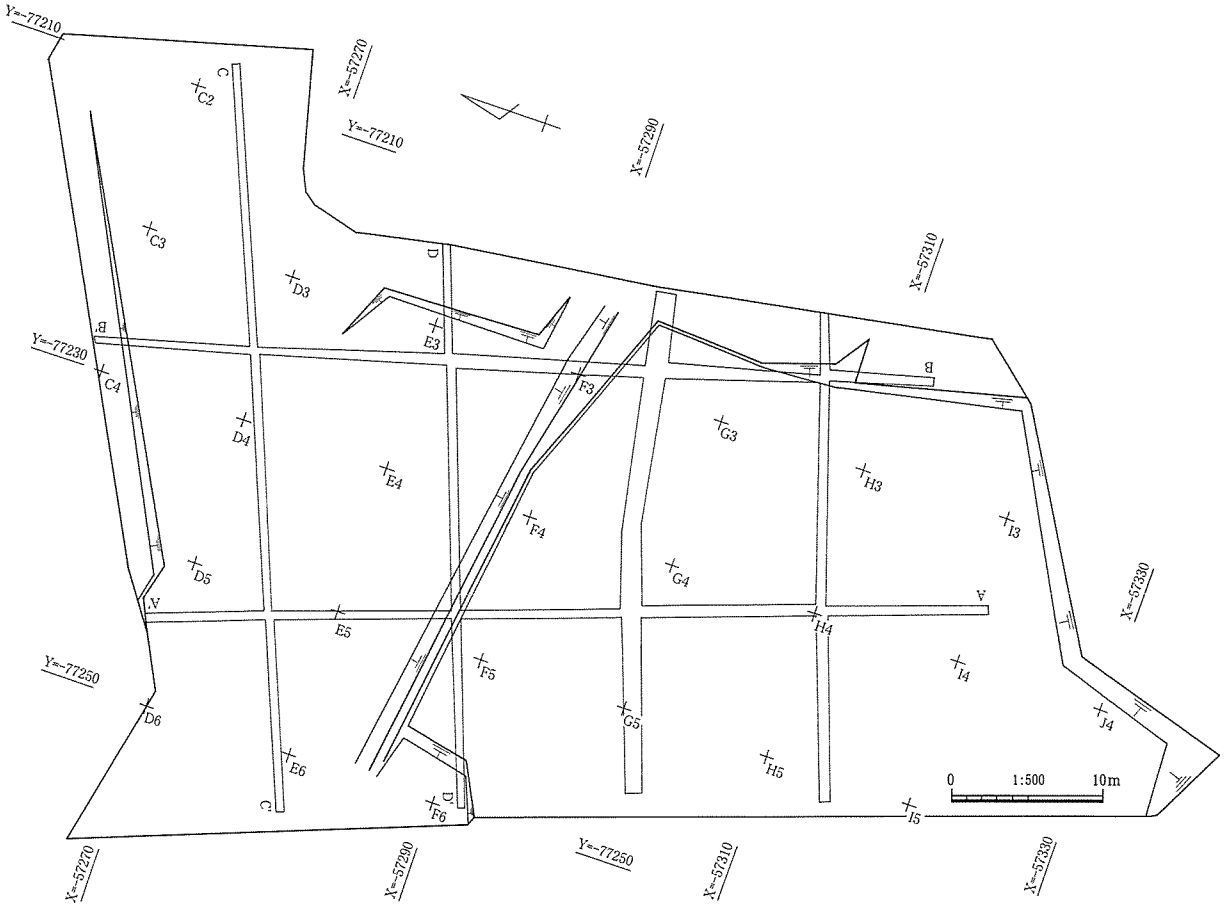


図４　０区調査前地形測量

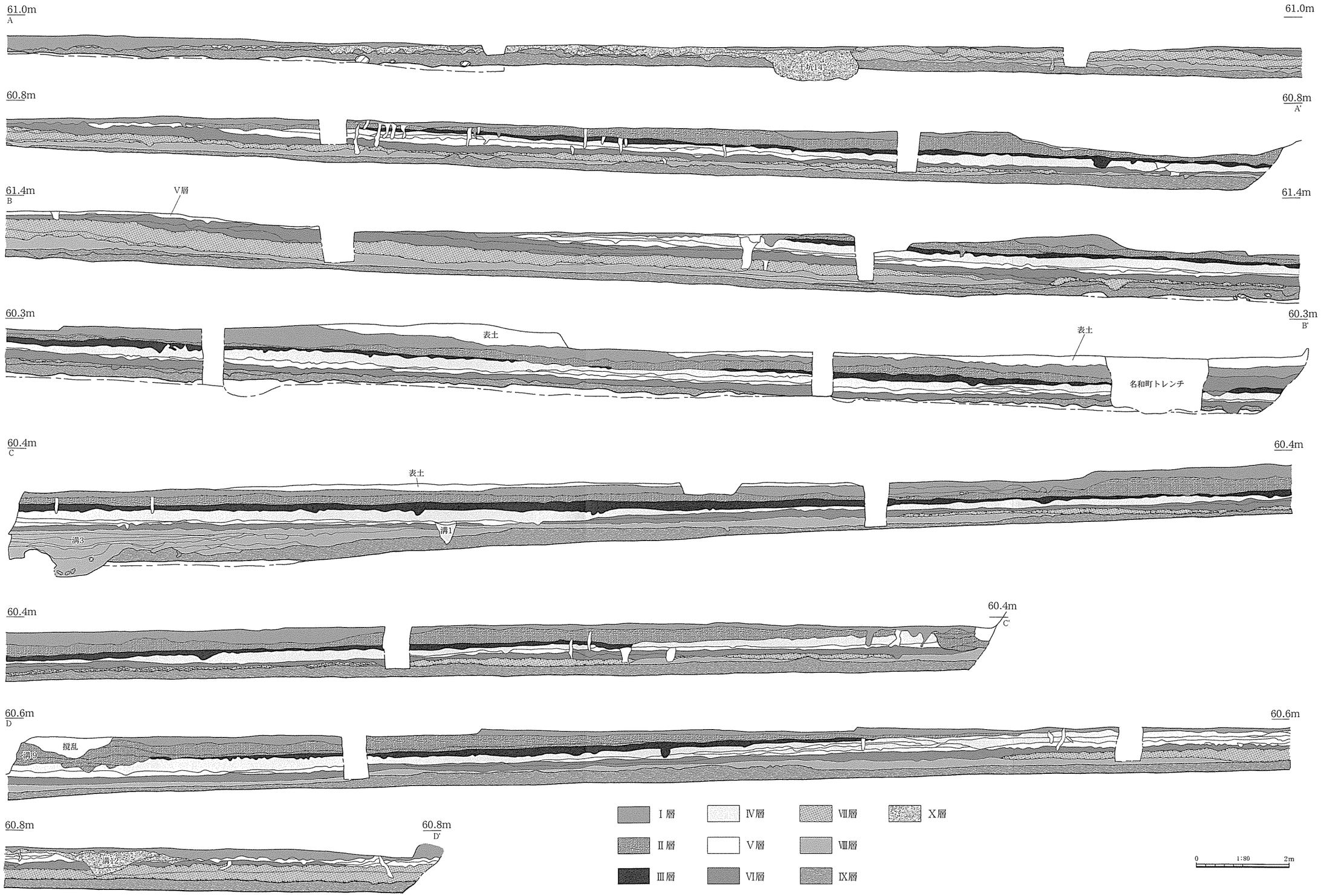

61.0m
A
61.0m
土坑14
60.8m
60.8m
A'
61.4m
B
V層
61.4m
60.3m
60.3m
B'
表土
表土
名和町トレンチ
60.4m
C
60.4m
表土
溝1
溝3
60.4m
60.4m
C'
60.6m
D
60.6m
撹乱
溝9
60.8m
60.8m
D'
溝12
Ⅰ層
Ⅱ層
Ⅲ層
Ⅳ層
Ⅴ層
Ⅵ層
Ⅶ層
Ⅷ層
Ⅸ層
Ⅹ層
0
1:80
2m

図５　０区土層断面

Ⅰ層（１層）：暗灰色砂質土。きめは粗く、0.5cm以下の小礫を多く含む。調査地の広範囲に広がる。平均的に0.2～0.3mほどの厚さがあるが、調査区北東部では0.6mほどと厚い部分もある。とくに北東部は表土剥ぎ段階で掘削してしまったところもあり、堆積が厚かった可能性は考えられる。遺物は近世後期の国産陶磁器が主体的に出土する。

Ⅱ層（２層）：灰色砂質土。きめやや粗い。0.5cm以下の小礫を多く含む。場所によってはⅠ層と見分けがつきにくいところもある。削平によりＴ１より南、およびＴ３より南西へは広がっていない。調査区西側では0.4～0.6mと厚く、東側では0.2mほどと薄くなっている。この層は、溝７から溢れ出た洪水砂層と考えられる。遺物は貿易陶磁器が多く、15世紀代を主体とする。この下面で１区から続く耕作痕を検出している。

Ⅲ層（３層）：暗灰褐色粘質土。範囲はⅡ層より狭く、南はＴ１の東端からＴ３－４の交点をとおる線から北側に広がる。堆積は一様に0.1mほどと非常に薄く、部分的に0.25mと厚いところもある。中世前期包含層。下面に遺構面がある。

Ⅳ層（４層）：黄灰色砂。粒子細かい。Ｔ２東端からＴ６－１の交点付近をとおり、Ｔ４の西端あたりへ伸びる線から南に堆積する。0.3～0.4mと比較的厚い堆積であるが、調査区北側のＣ・Ｄ－３・４グリッドあたりは0.1mほどと薄い。平安時代前期の遺物を若干含む。

Ⅴ層（５層）：灰白色砂質土。白色粘土多く含む。Ｔ６南端からＴ３－４交点のやや北側をとおる線から南と、0.1m前後と非常に薄い堆積ながら広範囲に堆積している。しかし東側はⅣ層の影響か、白色土の割合が減る。この下面で平安時代の水田跡を検出した。

Ⅵ層（６層）：暗灰褐色砂質土。粘性強く、粒子細かい。調査区南西隅を除き全域に堆積する。全体的に0.2～0.3mの厚さで、部分的にⅤ層的な灰白色土を含む。古墳時代後期以前の遺物をわずかに含む。

Ⅶ層（７層）：灰白色砂質土。鉄分多い。部分的に粘性の強いところあり。調査区ほぼ全域に広がり、南側では0.5mほどと堆積が厚い。無遺物層。

Ⅷ層（８層）：淡黄灰色砂。シルト質。やはりほぼ全域に広がり、調査区南、および西側においては0.25mと厚く堆積する。溝３・４の洪水砂層。

Ⅸ層（９層）：黒褐色砂質土。0.2～0.3mの厚さで堆積する。上層はやや褐色みを帯び、その下面で縄文時代晩期～弥生時代前期に比定される遺構面を確認した。最終遺構面で多くのピットを検出。遺物は縄文時代前期と後期のものであった。

Ⅹ層（１ａ～１ｆ層）：近世初頭遺構群覆土、および遺構内埋土。非常に混じりけの多い土で、上層（１ａ～ｃ層）は暗褐色砂質土をベースに黄・白色土粒を多く含む。ここからは近世後期のものが出土。下層の１ｄ～ｆ層が遺構埋土であり、灰色・灰褐色系をベースに黄・白色土などの粒土が多く含まれる。中世末～近世初頭の陶磁器類が出土。（中森）

表１　０区遺構名新旧対照

新遺構名	旧遺構名	新遺構名	旧遺構名	新遺構名	旧遺構名	新遺構名	旧遺構名
掘立柱建物１	ＳＢ４	土坑４	ＳＫ４	土坑15	ＳＫ20	溝５	ＳＤ13
掘立柱建物２	ＳＢ２	土坑５	ＳＫ５	土坑16	ＳＫ８	溝６	ＳＤ２
掘立柱建物３	ＳＢ１	土坑６	ＳＫ１	土坑17	ＳＫ14	溝７	ＳＤ３・11
掘立柱建物４	ＳＢ３	土坑７	ＳＫ２	土坑18	ＳＫ10	溝８	ＳＤ10
掘立柱建物５	ＳＫ11・13	土坑８	ＳＫ９	土坑19	ＳＫ12	溝９	ＳＤ１・４
	Ｐ67・68	土坑９	ＳＫ16	土坑20	ＳＫ24	溝10	ＳＤ５
	・105・153	土坑10	ＳＫ７・15	土坑21	ＳＫ６	溝11	ＳＤ12・14
	・155	土坑11	ＳＫ18・19	溝１	ＳＤ16	溝12	ＳＤ６
土坑１	Ｐ430	土坑12	ＳＫ21	溝２	ＳＤ15	柵列１	Ｐ93・98
土坑２	Ｐ431	土坑13	ＳＫ23	溝３	ＳＤ19		・99・142
土坑３	ＳＫ３	土坑14	ＳＫ25	溝４	ＳＤ18		・167

第２節　縄文時代の調査

１）概要（図７、図版２－１）

最終遺構面において当該期の遺構を検出し、これを覆うⅨ層が遺物包含層であった。ただし前節でも先述したとおり、この層は厚いところで0.5mほどの堆積があったため、作業工程上すべてを人力により掘り下げることは不可能と判断した。そこで堆積の厚い部分に関しては、遺構面上0.1mほどを残し重機により掘削し、残りを人力で行なった。

遺構は土坑２基、およびピット200基ほどを検出した。調査区は東側へ向け浅い谷状に低くなっており、これら遺構は調査区の西側に偏る傾向がある。ピットは多数あるが、これらが明確な関連性をもつかどうかは判断できず、従って建物などの復元は行なわなかった。

遺物は遺構面直上から前期のものが主体的に出る地点と、後～晩期とに分けられそうで、前者はＤ４杭、Ｉ３杭周辺、後者はＦ５グリッドのピット集中部である。とくに後者の部分は住居などの可能性があるかもしれないが、判然としない。遺物の出土状況から、遺構についても前期と後～晩期の２時期があると考えられるが、層位的、および埋土からも明確には出来なかった。（中森）

２）検出した遺構と遺物

土坑１・２（図６）

土坑２基は５ｍほど離れ近接してある。いずれも調査区東側、土坑２は１区との調査区境近くに位置する。土坑１はＥ２・３グリッドにまたがり、長径1.7m、短径1.45mほどのやや楕円形を呈し、深さは約0.3mであった。土坑２はＥ・Ｆ２グリッドにまたがり、長径２ｍ、短径0.95mほどを測る楕円形で、深さは約0.3mである。両土坑とも埋土はⅨ層相当の単層であった。遺物は出土していない。（中森）

遺構外出土遺物（図７、図版２－２、３－１）

遺物は調査区の全体から出土するが、先述のようにある程度のまとまりがみられる。１～11は前期に比定できよう。１（図版３－１）はＥ４杭近くから出土したが、周辺にピットは少ない。これ以外は破片である。12～20は後～晩期のものと思われ、前期のものよりも個体が大きい。粗製深鉢が主体を占め、14のように20m以上離れ接合するものもあった。また17～20はＦ５グリッドのピット集中部から出土している。石器は全体的に少量であった。Ｓ１～Ｓ３は石鏃。（中森）

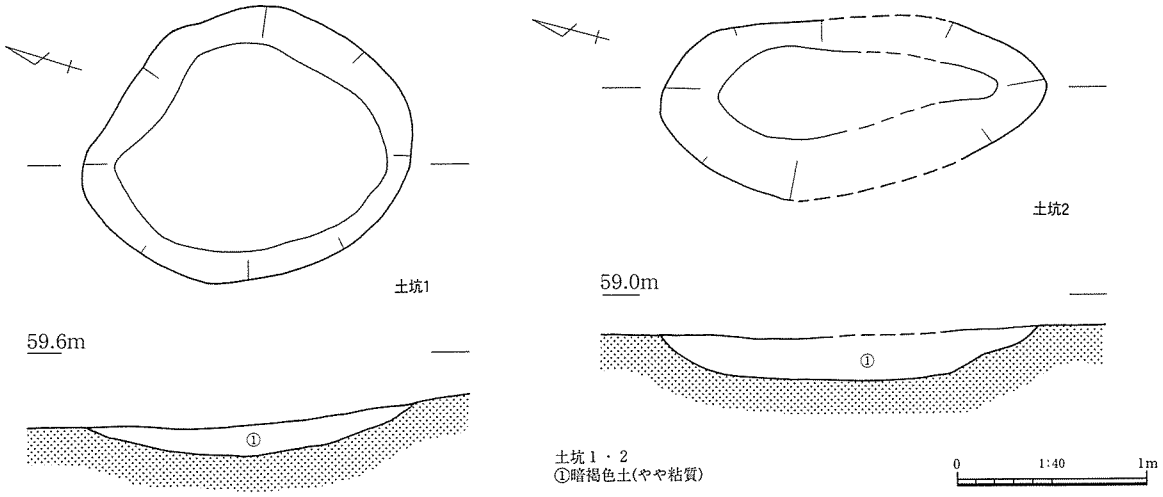


図６　土坑１・２

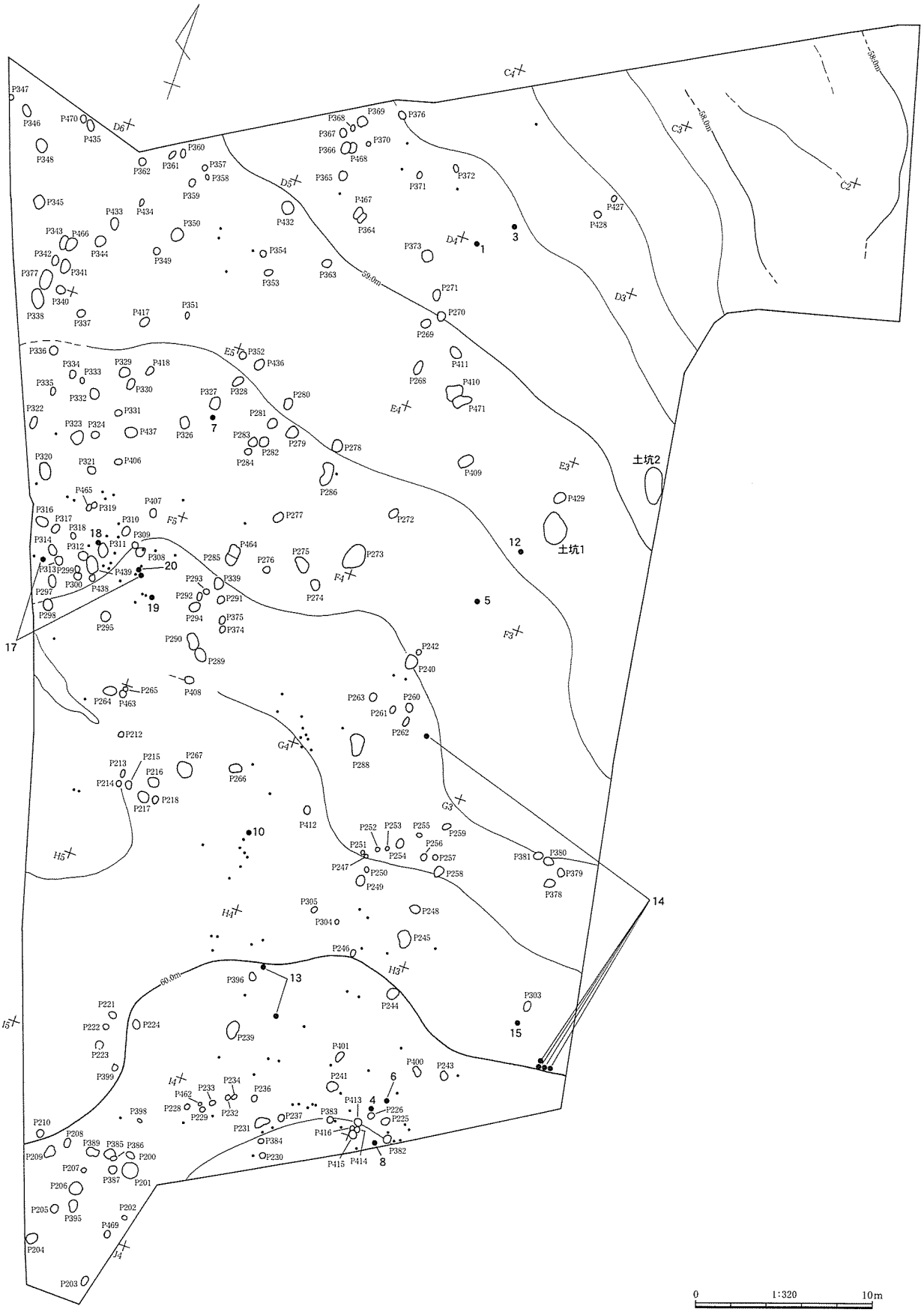


図７　縄文時代遺構分布

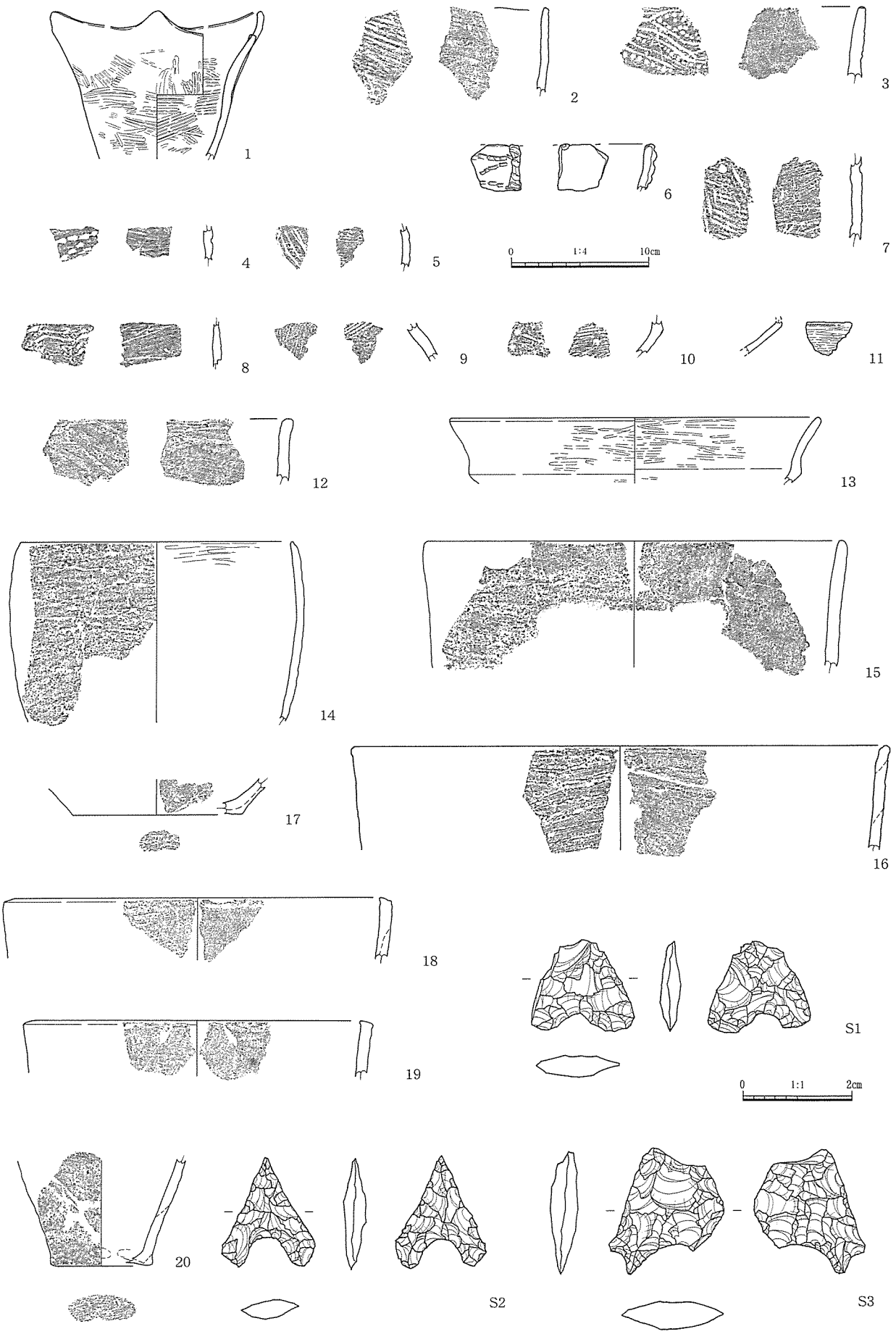

1
2
3
4
5
6
7
0
1:4
10cm
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
S1
0
1:1
2cm
20
S2
S3

図８　Ⅸ層ほか出土遺物

表２　図８土器観察表

遺物番号	挿図番号	地区 層位遺構	種別	器種	口径（底）	器高	特徴	胎土 焼成	色調	備考
1	8	D３・C３ Ⅸ層下層	縄文	深鉢	＊15.3	△10.75	４単位の波状口縁をもつ。上部は内湾。口縁部は内外面ともナデ。胴部は内外とも条痕で、内面は横方向、外面は縦・横など多方向。目久美遺跡Ｚ３群Ａ２類に相当。北白川下層Ｉ式併行。	やや粗 良好	外：明赤褐色 内：鈍い赤褐色	
2	8	E５ P327	縄文	深鉢	－	△6.1	口縁波状になるもの。外面は斜方向の条痕、内面はケズリ。外面には煤付着。１とほぼ同時期か。	やや粗 良	鈍い黄褐色	
3	8	C３ Ⅸ層下層	縄文	深鉢	－	△5.2	胴部上位で若干屈曲し、口縁はわずかに外反。外面には２ないし３条の沈線が並行し、そのまとまりの間に棒状工具による刺突が連続する。口縁端部刻み。内面は丁寧なナデ。西川津Ａ式か。	やや粗 良	外：褐灰色 内：鈍い褐色	
4	8	H２ Ⅸ層下層	縄文	深鉢	－	△2.5	内外面ナデ。外面は押引文。外面に煤付着。西川津Ａ式。	密 良好	褐色	
5	8	E３ Ⅸ層下層	縄文	深鉢？	－	△3.2	やや丸みをもつ胴部片。内外面ナデ。外面に斜光沈線が３条並行する。曽畑式？	やや粗 良好	外：鈍い赤褐色 内：鈍い褐色	
6	8	H２ Ⅸ層下層	縄文	深鉢	－	△3.4	内外面とも条痕後ナデか。外面は、口縁端部から垂直に長さ3.5cmの隆帯が付く。隆帯上刻み。口縁下には「Ｚ」字状に押引文がある。西川津Ｂ式。	密 良好	外：黒褐色 内：鈍い黄褐色	
7	8	E５ Ⅸ層下層	縄文	深鉢	－	△6.2	外面は斜方向の条痕、内面はケズリ。上部に刺突が施される。２と同一個体と考えられる。	やや粗 良	外：鈍い黄褐色 内：黒褐色	
8	8	I２ Ⅸ層下層	縄文	深鉢	－	△2.9	内外面条痕。内面はナデか。外面に押引文が連続する。西川津Ａ式。	やや粗 良好	鈍い黄褐色	
9	8	D４ Ⅲ層	縄文	深鉢	－	△2.8	胴部上位で外反する口縁下の屈曲部破片。胴部は丸みをもつものと考えられる。外面縦、内面横方向の条痕。西川津式であろう。	密 良	外：黒褐色 内：褐色	
10	8	G４ Ⅸ層下層	縄文	深鉢	－	△2.2	胴部上位の屈曲部破片。内外面横方向の条痕。外面屈曲部に縦方向の刻みが連続する。西川津Ａ式か。	やや粗 良	外：鈍い黄褐色 内：褐色	
11	8	G２ Ⅸ層下層	縄文	浅鉢	－	△2.4	浅鉢の胴屈曲部破片。内面ナデ、外面はミガキ。外面屈曲部には非常に細かい刺突状のものが連続している。後～晩期にかけてのものであろう。	密 良	暗褐色	
12	8	E３ Ⅸ層下層	縄文	深鉢	－	△4.5	口縁端部がわずかに外反する粗製の深鉢。外面横～斜方向、内面横方向のケズリ。	やや粗 良好	鈍い黄橙色	
13	8	H３ Ⅸ層	縄文	浅鉢	＊27.3	△4.85	胴部で短く屈曲し、口縁部が緩やかに外反する浅鉢。口縁端部は丸くおさめる。内外面丁寧なミガキ。晩期。	密 良好	鈍い黄橙色	
14	8	F３・H２ Ⅸ層下層	縄文	深鉢	＊20.1	△13.2	口縁が内湾する粗製深鉢。内外面ケズリ。口縁外面に煤付着。	やや粗 良	外：鈍い黄橙色 内：灰黄褐色	
15	8	H２ Ⅸ層	縄文	深鉢	＊30.9	△9.3	口縁部がわずかに外反気味の粗製深鉢である。外面ケズリ。内面はナデ。口縁端部外面もわずかにナデ。	やや粗 良	鈍い黄橙色	
16	8	E３	縄文	鉢	＊38.9	△7.6	直線的に外傾気味の粗製深鉢。外面ケズリ、内面はやや丁寧なナデ。	粗 良	鈍い黄橙褐色	
17	8	F５ Ⅸ層下層	縄文	深鉢	（＊12.6）	△2.65	胴・底部外面ケズリ。内面はナデ。	やや粗 良	外：鈍い赤褐色 内：鈍い褐色	
18	8	F５ Ⅸ層下層	縄文	深鉢	＊24.4	△4.1	直線的に外傾する粗製深鉢。口縁端部は面取りする。外面ケズリ、内面はやや丁寧なナデ。	やや粗 良	鈍い黄橙色	
19	8	F５ Ⅸ層下層	縄文	深鉢	＊27.3	△4.6	直線的に外傾する粗製深鉢。口縁端部は面取りする。外面ケズリ、内面はやや丁寧なナデ。	やや粗 良	灰黄褐色	
20	8	F５ Ⅸ層下層	縄文	深鉢	（＊7.85）	△7.0	底部から胴部への立ち上がり部分はやや肥厚する。外面ケズリ、内面はナデ。	密 良好	外：明褐色 内：鈍い黄褐色	

表３　図８石器観察表

遺物番号	挿図番号	地区 層位・遺構	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
S１	8	溝３	石鏃	黒曜石	2.0	1.8	0.4	0.8	
S２	8	C３ Ⅸ層下面	石鏃	黒曜石	△1.6	△1.9	0.4	△1.1	古欠およびガジリ欠損
S３	8	C４ Ⅸ層下層	石鏃	黒曜石	△2.4	△2.2	0.5	△1.9	右の脚は折れの後リタッチ

第３節　弥生～古墳時代の調査

１）概要

弥生時代の遺構面はⅨ層上面を中心とする。平成13年度調査の１区では第２・３遺構面で自然流路（SD31～33）が検出されており、これら流路が調査地北東部の飛び出した部分に続いていた。そしてＳＤ33のみは最終遺構面（Ⅸ層下面）検出とされていたが、今回これについてもⅨ層上面であることが確認できた。溝内からは弥生時代後期後葉の土器があり、１区と同様であった。また調査区南東部では直線的に伸びる溝などがあったが、これらは土層断面でⅨ層中程から掘り込まれたことを確認した。遺物は非常に少ないが、縄文時代晩期～弥生時代前期のものが主体であったことから、概ねこの頃と考えられよう。一方弥生時代終末～古墳時代には遺構はなく、Ⅵ層およびⅣ層から遺物（29～34）が若干出土したのみであった。

表4　　Ⅸ層下面ピット一覧（１）

No.	地区	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	埋土	備考	No.	地区	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
200	Ｉ４	55	37	17	Ⅸ		266	Ｃ４	73	38	18	Ⅸ	
201	Ｉ４	95	92	95	Ⅸ		267	Ｇ４	85	82	46	Ⅸ	
202	Ｉ４	30	28	84	Ⅸ	弥生前期甕底部	268	D3･4	82	49	13	Ⅸ	
203	Ｊ４	51	32	42	Ⅸ		269	Ｄ４	62	52	13	Ⅸ	
204	Ｊ４	67	50	66	Ⅸ		270	D3･4	56	44	29	Ⅸ	
205	Ｉ４	40	31	47	Ⅸ		271	Ｄ４	51	41	24	Ⅸ	
206	Ｉ４	78	68	52	Ⅸ		272	Ｅ３	52	46	30	Ⅸ	
207	Ｉ４	32	－	38	Ⅸ		273	E3･4	140	105	16	Ⅸ	
208	Ｉ４	46	45	68	Ⅸ		274	Ｆ４	55	40	16	Ⅸ	
209	Ｉ４	75	－	63	Ⅸ		275	Ｆ４	93	55	17	Ⅸ	
210	Ｉ４	57	50	64	Ⅸ		276	Ｆ４	38	30	14	Ⅸ	
211						欠番	277	Ｅ４	46	36	19	Ⅸ	
212	Ｇ４	30	27	24	Ⅸ		278	Ｅ４	60	55	20	Ⅸ	
213	Ｇ４	39	35	11	Ⅸ		279	Ｅ４	59	55	12	Ⅸ	
214	Ｇ４	38	35	17	Ⅸ		280	Ｅ４	58	53	34	Ⅸ	
215	Ｇ４	42	40	19	Ⅸ		281	Ｅ４	61	53	13	Ⅸ	
216	Ｇ４	65	50	14	Ⅸ		282	Ｅ４	59	54	14	Ⅸ	
217	Ｇ４	65	－	16	Ⅸ		283	Ｅ４	55	52	25	Ⅸ	
218	Ｇ４	43	40	23	Ⅸ		284	Ｅ４	35	35	6	Ⅸ	
219						欠番	285	Ｆ４	60	43	10	Ⅸ	
221	Ｈ４	45	44	16	Ⅸ		286	Ｅ４	133	65	18	Ⅸ	
222	Ｈ４	35	34	15	Ⅸ		287						欠番
223	Ｈ４	47	46	25	Ⅸ		288	Ｆ３	124	71	8	Ⅸ	
224	Ｈ４	58	42	26	Ⅸ		289	Ｆ４	77	44	11	Ⅸ	
225	Ｈ２	48	47	16	Ⅸ		290	Ｆ４	93	56	18	Ⅸ	
226	Ｈ２	35	32	20	Ⅸ		291	Ｆ４	45	37	11	Ⅸ	
227						欠番	292	Ｆ４	35	27	10	Ⅸ	縄文
228	Ｉ３	37	36	10	Ⅸ		293	Ｆ４	33	33	15	Ⅸ	
229	Ｉ３	38	25	23	Ⅸ		294	Ｆ４	69	46	12	Ⅸ	
230	Ｉ３	37	35	17	Ⅸ		295	Ｆ５	56	54	14	Ⅸ	
231	Ｉ３	80	50	27	Ⅸ	石	296						欠番
232	Ｉ３	31	30	12	Ⅸ		297	Ｆ５	52	51	35	Ⅸ	縄文
233	Ｉ３	28	24	13	Ⅸ		298	Ｆ５	58	－	30	Ⅸ	
234	H･I3	35	32	14	Ⅸ		299	Ｆ５	37	35	14	Ⅸ	
235						欠番	300	Ｆ５	43	42	15	Ⅸ	
236	H･I3	35	34	15	Ⅸ		301						欠番
237	Ｉ３	37	25	19	Ⅸ		302						欠番
238						欠番	303	G･H2	43	43	15	Ⅸ	
239	Ｈ３	95	60	6	Ⅸ		304	Ｇ３	32	23	11	Ⅸ	
240	Ｆ３	86	69	9	Ⅸ		305	Ｇ３	39	30	14	Ⅸ	
241	Ｈ３	53	50	10	Ⅸ		306						欠番
242	Ｆ３	31	27	13	Ⅸ		307						欠番
243	Ｈ２	47	37	24	Ⅸ		308	Ｆ５	56	47	17	Ⅸ	
244	H2･3	65	55	24	Ⅸ		309	Ｆ５	38	37	12	Ⅸ	石
245	Ｇ３	90	61	25	Ⅸ		310	Ｆ５	42	41	11	Ⅸ	
246	G･H3	35	27	17	Ⅸ		311	Ｆ５	71	71	10	Ⅸ	
247	Ｇ３	32	22	14	Ⅸ		312	Ｆ５	55	44	21	Ⅸ	
248	Ｇ３	61	48	29	Ⅸ		313	Ｆ５	48	44	13	Ⅸ	
249	Ｇ３	60	43	15	Ⅸ		314	Ｆ５	55	44	13	Ⅸ	
250	Ｇ３	30	30	13	Ⅸ		315						欠番
251	Ｇ３	28	25	11	Ⅸ		316	Ｆ５	75	44	27	Ⅸ	
252	Ｇ３	22	22	10	Ⅸ		317	Ｆ５	50	42	19	Ⅸ	
253	Ｇ３	20	20	10	Ⅸ		318	Ｆ５	34	25	16	Ⅸ	
254	Ｇ３	43	33	12	Ⅸ		319	Ｆ５	39	38	10	Ⅸ	石
255	Ｇ３	28	28	13	Ⅸ		320	E･F5	84	54	30	Ⅸ	
256	Ｇ３	42	38	16	Ⅸ		321	Ｅ５	40	36	10	Ⅸ	
257	Ｇ３	28	24	14	Ⅸ		322	Ｅ５･6	60	49	21	Ⅸ	
258	G2･3	50	49	9	Ⅸ		323	Ｅ５	68	57	13	Ⅸ	
259	G2･3	40	34	17	Ⅸ		324	Ｅ５	42	35	12	Ⅸ	
260	Ｆ３	44	36	10	Ⅸ		325						欠番
261	Ｆ３	32	30	9	Ⅸ		326	Ｅ５	66	56	13	Ⅸ	石
262	Ｆ３	45	28	14	Ⅸ		327	Ｅ５	67	64	13	Ⅸ	縄文深鉢（２）
263	Ｆ３	34	32	11	Ⅸ		328	Ｅ４	58	44	28	Ⅸ	
264	Ｇ５	70	44	22	Ⅸ		329	Ｅ５	61	47	16	Ⅸ	
265	Ｇ５	38	－	32	Ⅸ		330	Ｅ５	63	52	10	Ⅸ	

表５　　Ⅸ層下面ピット一覧（２）

No.	地区	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	埋土	備考	No.	地区	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
331	E 5	36	31	9	Ⅸ		383	H 3	32	28	22	Ⅸ	
332	E 5	70	60	14	Ⅸ		384	I 3	30	29	23	Ⅸ	
333	E 5	35	35	10	Ⅸ		385	I 4	65	61	35	Ⅸ	
334	E 5	52	47	10	Ⅸ		386	I 4	42	38	50	Ⅸ	
335	E 5	45	33	17	Ⅸ		387	I 4	49	42	77	Ⅸ	
336	E5・6	52	45	17	Ⅸ		388						欠番
337	E 5	45	39	16	Ⅸ		389	I 4	82	60	63	Ⅸ	
338	E 6	109	63	19	Ⅸ		394						欠番
339	F 4	55	45	13	Ⅸ		395	I 4	65	50	33	Ⅸ	
340	D・E6	55	43	15	Ⅸ		396	H 3	49	44	28	Ⅸ	
341	D 6	65	56	13	Ⅸ		398	F 4	22	21	11	Ⅸ	
342	D 6	53	50	7	Ⅸ		399	I 4	36	30	19	Ⅸ	
343	D 6	68	43	25	Ⅸ		400	H 2	50	37	30	Ⅸ	
344	D 5	64	49	48	Ⅸ		401	H 3	45	30	22	Ⅸ	
345	D 6	67	67	11	Ⅸ		406	E 5	50	35	17	Ⅸ	
346	D 6	68	41	23	Ⅸ		407	F 5	50	40	20	Ⅸ	
347	D 6	26	24	11	Ⅸ		408	F 4	57	38	13	Ⅸ	
348	D 6	70	70	10	Ⅸ		409	E 3	75	56	8	Ⅸ	
349	D 5	40	35	13	Ⅸ		410	D 3	110	－	32	Ⅸ	
350	D 5	77	65	24	Ⅸ		411	D 3	86	51	30	Ⅸ	
351	D 5	42	37	21	Ⅸ		412	G 3	44	35	20	Ⅸ	
352	E 4	50	42	15	Ⅸ		413	H 2	50	40	35	Ⅸ	
353	D4・5	50	40	21	Ⅸ		414	H 2	39	30	20	Ⅸ	
354	D 5	29	28	21	Ⅸ		415	H2・3	46	35	18	Ⅸ	
355						欠番	416	H 2	27	21	14	Ⅸ	
356						欠番	417	E 5	53	47	19	Ⅸ	
357	D 5	42	30	17	Ⅸ		418	E 5	40	39	20	Ⅸ	
358	D 5	38	27	18	Ⅸ		427	C 3	31	28	22	Ⅸ	
359	D 5	44	40	22	Ⅸ		428	C 3	33	33	15	Ⅸ	
360	D 5	38	28	9	Ⅸ		429	E2・3	61	46	12	Ⅸ	
361	D 5	50	32	12	Ⅸ		430	E2・3	179	142	29	Ⅸ	土坑１
362	D 5	44	43	16	Ⅸ		431	D・E2	202	95	29	Ⅸ	土坑２
363	D 4	44	44	15	Ⅸ		432	D4・5	75	66	27	Ⅸ	
364	D 4	42	30	12	Ⅸ		433	D 5	64	45	23	Ⅸ	
365	C 4	57	45	16	Ⅸ		434	D 5	40	34	13	Ⅸ	
366	C 4	59	42	13	Ⅸ		435	D 6	57	55	17	Ⅸ	
367	C 4	60	42	16	Ⅸ		436	E 4	56	47	26	Ⅸ	
368	C 4	38	34	12	Ⅸ		437	E 5	71	62	11	Ⅸ	
369	C 4	61	60	16	Ⅸ		438	F 5	41	40	20	Ⅸ	
370	C 4	41	30	21	Ⅸ		439	F 5	98	74	18	Ⅸ	
371	C 4	33	31	12	Ⅸ		462	I 3	30	－	18	Ⅸ	
372	C 4	37	28	11	Ⅸ		463	G4・5	40	－	17	Ⅸ	
373	D 4	66	55	22	Ⅸ		464	F 4	75	60	22	Ⅸ	
374	C 4	29	28	11	Ⅸ		465	F 5	32	30	13	Ⅸ	
375	F 4	40	30	11	Ⅸ		466	D 6	70	55	15	Ⅸ	
376	C 4	61	32	16	Ⅸ		467	D 4	62	45	17	Ⅸ	
377	D・E6	90	67	11	Ⅸ		468	C 4	59	47	16	Ⅸ	
378	G 2	47	41	12	Ⅸ		469	I 4	42	26	40	Ⅸ	
379	G 2	52	37	18	Ⅸ		470	D 6	50	－	16	Ⅸ	
380	G 2	66	45	10	Ⅸ		471	D 3	125	－	32	Ⅸ	
381	G 2	48	47	12	Ⅸ		欠番	477～499					
382	H 2	40	31	17	Ⅸ	弥生？							

またⅥおよびⅨ層についてプラント・オパール分析を行なった結果、Ⅵ層においては高密度で検出されており、稲作の可能性が指摘されている（第６章特論２）。この時期、調査地東側では茶畑第１遺跡など遺構が密集する。その一方本調査地において遺構が希薄であること、およびこの結果は、当時の景観を復元する上で貴重な成果といえよう。　　（中森）

２）検出した遺構と遺物

溝１（図10、図版３－３・４）

調査区東側から入り込む１区ＳＤ32に続き、溝２を切る。幅は1.2～2.0m、深さは0.6mほどを測る。１区内では直線的に北流しており、０区に入り蛇行している。遺物はわずかで、図化できたものは24だけであった。溝２を切るが、検出面からもそれほど大きな時期差はないものと考えられる。（中森）

溝２（図10、図版３－３・４・６）

調査区北から続く１区ＳＤ31と一連のものである。調査区内で大きく逆C字状に蛇行する。幅は1.6～2.4m、深さ0.7～0.9mほどを測る。底から側面にかけては巨大な礫がみられ、最下層には拳から人頭大礫が堆積する。埋土中の土器は弥生時代中～後期で、中期のほうが後期のものよりも磨滅している。（中森）

溝３・４（図11、図版３－３・５）

調査区南東部で、南東から北西へ流れ並行する直線的な２条の溝を検出した。西側の溝３は検出長約29m、それより東へ3.5m離れた溝４は約9.2mであった。どちらも幅は概ね0.4mであるが、深さは溝３が0.2mに対し、溝４は0.1mほどと浅い。またこの溝４の東には、0.1mほどの浅い窪地があった。人為的な掘削によるものかは判断できなかったが、いずれもやや砂質な暗褐色土を埋土にもつ。それ故ほぼ同時期のものと考えられよう。図示し得た遺物は28のみであるが、検出状況などと合わせ、縄文時代晩期～弥生時代前期である可能性があろう。（中森）

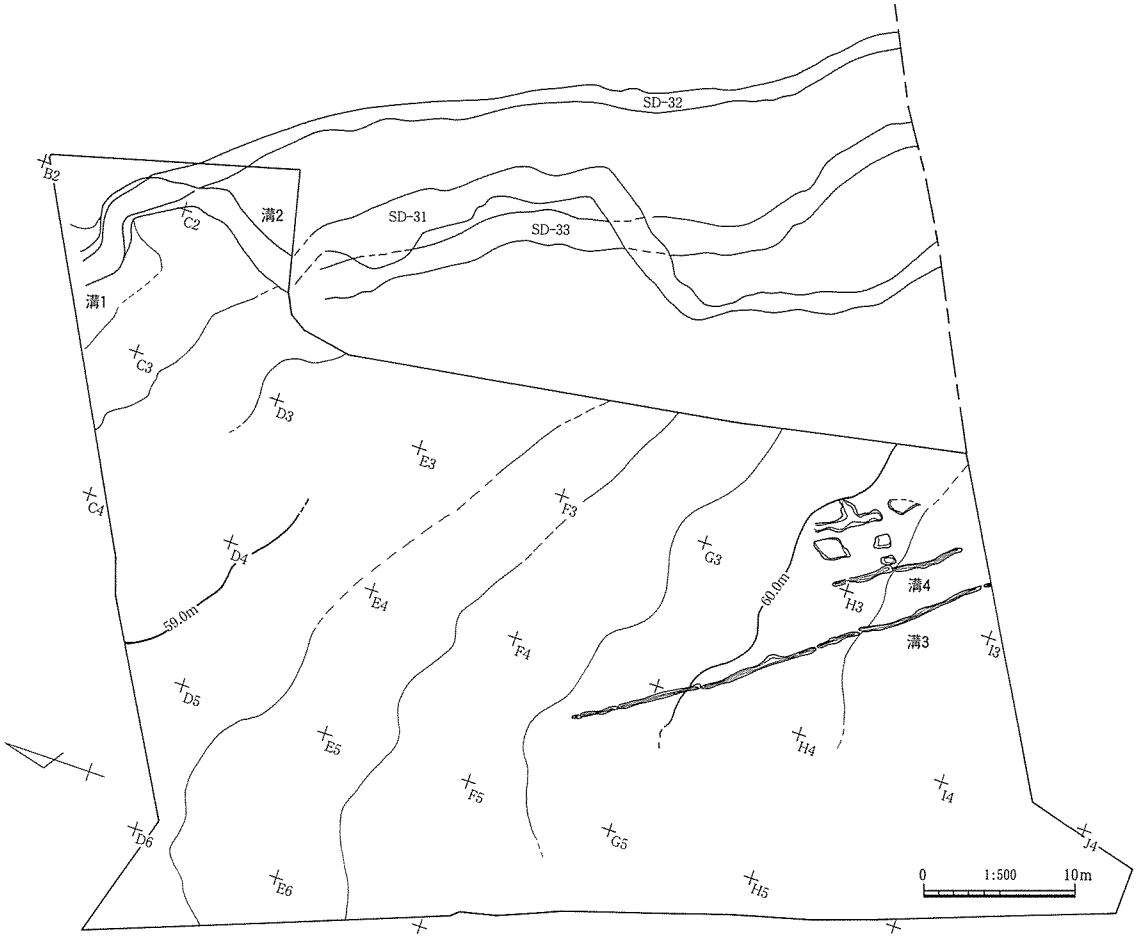


図９　弥生時代遺構分布

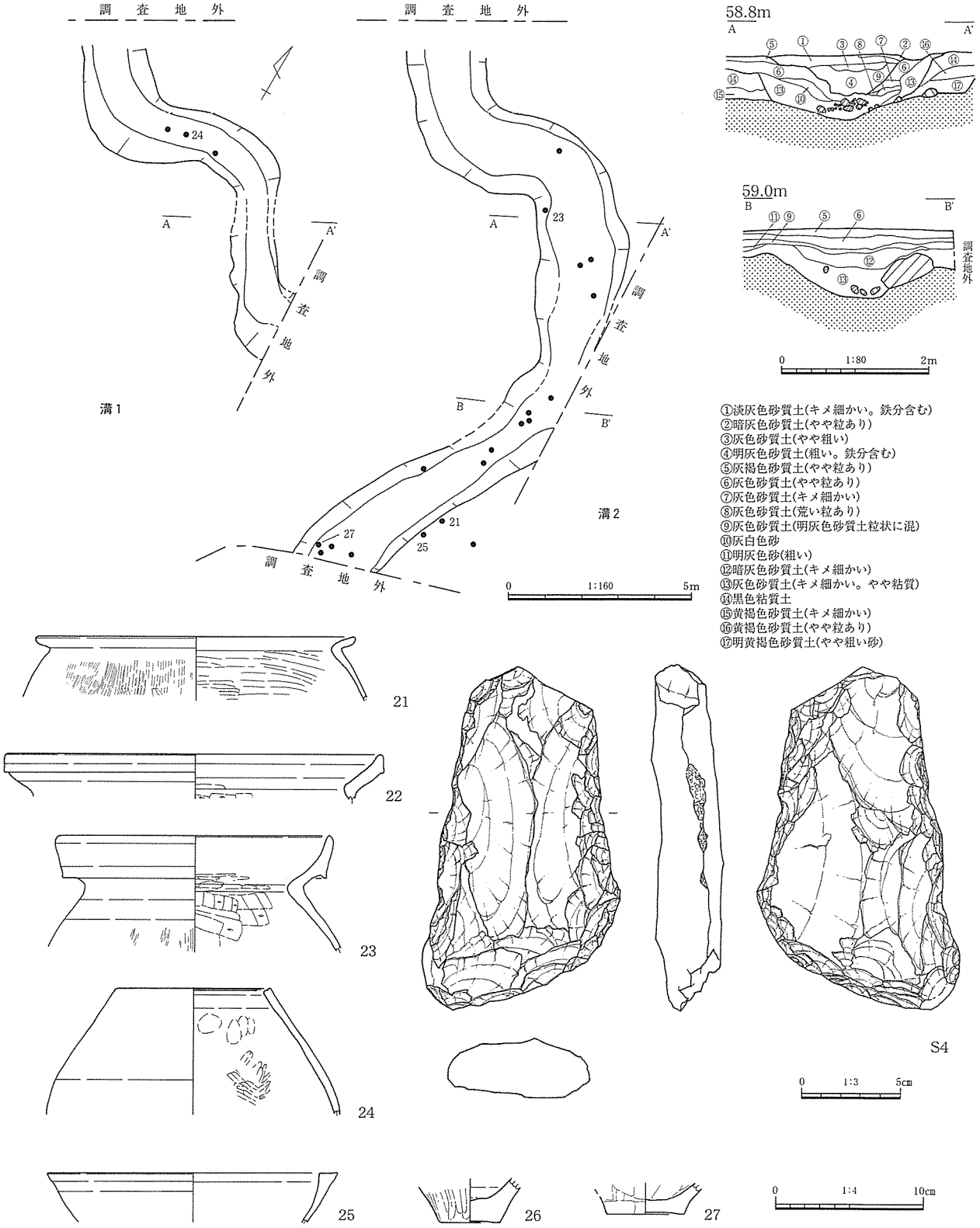


図10　溝１・２および出土遺物

表６　図10・11石器観察表

遺物番号	挿図番号	地区 層位・遺構	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
S４	10	溝２	打製石斧	安山岩	17.6	10.2	2.9	745.0	側縁敲打調整。磨耗・ポリッシュ・線条痕あり
S５	11	H３ Ⅸ層	打製石斧	安山岩	△11.2	△6.9	2.9	△344.0	表節理面、裏原礫面残。基部・側縁敲打調整

第４節　平安時代の調査

１）概要

平成13年度調査では２・３区を中心に当期の溝が検出されており、それらがほぼ南北方向に並行し54～55m間隔に位置することから、条里に関連するものと推測されている。そのもっとも西側に位置する１区ＳＤ30から同間隔を測ると、本調査区の５ライン付近に相当するが、同様の溝は検出されなかった。

本区においては後述する中世前期遺構面同様、調査区南側は後世の削平によりなくなっており、遺構面を覆うⅣ・Ⅴ層はＧラインあたりまでで途切れる。遺構は調査区北西部のⅥ層上面で水田跡を検出した。この面を白色のシルト質な土（Ⅴ層）が覆っていたため、検出は比較的容易であった。ただ

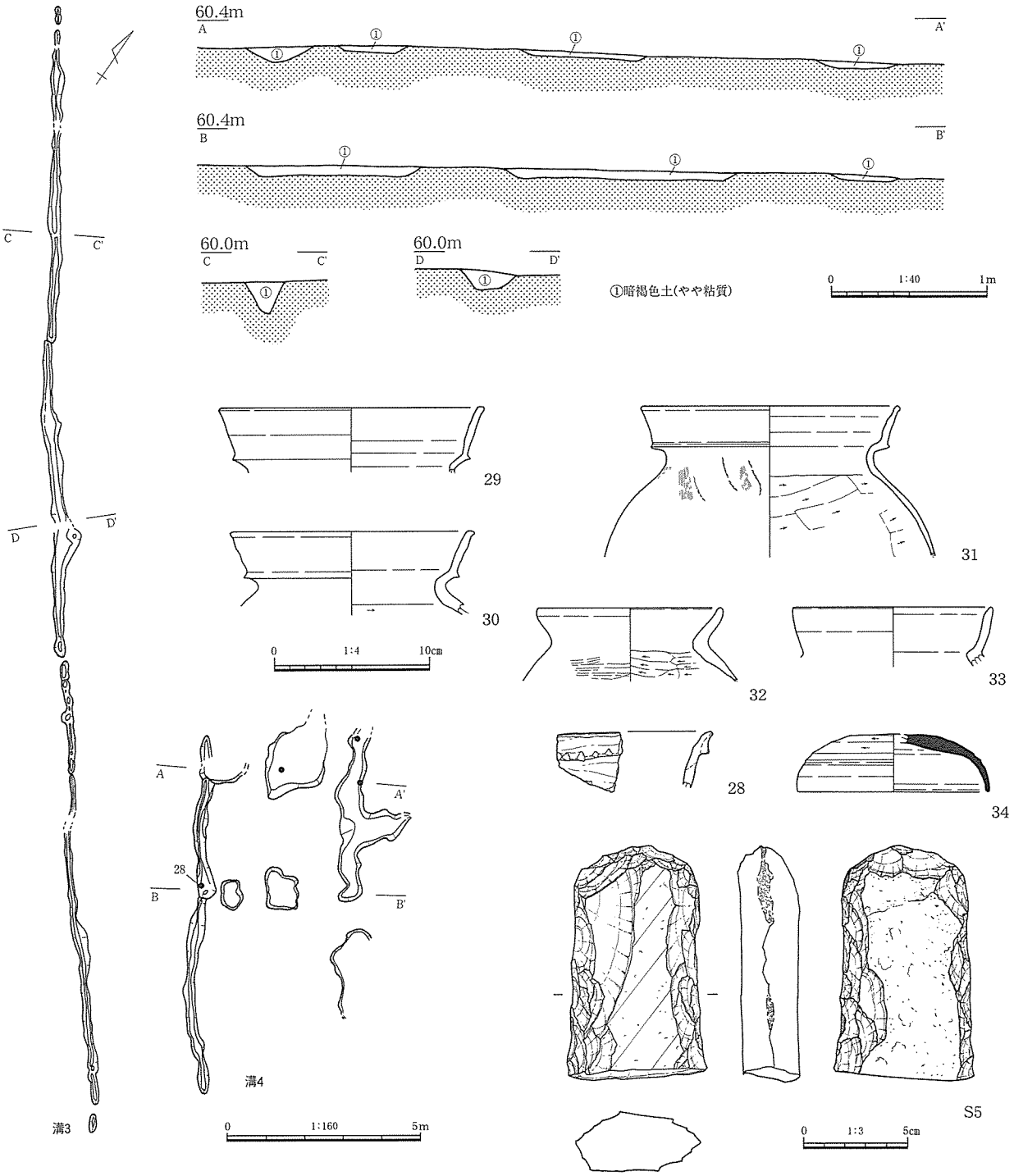


図11　溝３・４および遺構外出土遺物

表７　図10・11土器観察表

遺物番号	挿図番号	地区 層位遺構	種別	器種	口径（底）	器高	特徴	胎土 焼成	色調	備考
21	10	Ｃ１ 溝２	弥生	甕	△22.0	△4.35	胴部から内湾気味に立ち上がり、頸部で「く」字状に屈曲。口縁端部は丸みをもつ。頸部から口縁にかけナデ、胴部外面は縦ハケ、内面横方向ミガキ。全体的にやや磨滅している。辻編年Ⅲ－１期に相当。	密 良	淡黄色	
22	10	Ｃ２ 溝２	弥生	甕	＊20.6	△3.7	「く」字状に屈曲する頸部で、口縁部は湾曲気味に立ち上がる。端部は若干上下に拡張され、面をもつ。口縁内外ナデ、内面頸部下ケズリ。胎土は褐色を呈し砂粒多く、在地のものと異なる。Ｖ－１期？	やや粗 良好	暗褐色	
23	10	Ｂ１ 溝２	弥生	甕	＊19.0	△7.8	外傾する複合口縁。口縁上端は丸く収める。下端はやや突出。口縁部は横ナデで無文。内面頸部はミガキ、以下ケズリ。外面体部はハケメ。口縁外面に煤が付着する。終末期。	やや粗 良好	外：鈍い橙色 内：橙色	
24	10	Ｂ２ 溝１	弥生	無頸壺	＊10.6	△8.6	口縁端部に一条の凹線が巡る。全体的に磨滅し、調整不明瞭。内面口縁下に指頭圧痕、体部にミガキがみられる。中期中葉。	やや粗 良好	外：浅黄橙色 内：鈍い黄褐色	
25	10	Ｃ２ 溝２	弥生	高坏 坏部	＊20.0	△3.4	口縁端部が平坦になり、外側に拡張されるもの。全体的に磨滅し調整不明。内外ともナデか。中期中葉。	やや粗 良好	外：鈍い橙色 内：浅黄橙色	
26	10	Ｃ２ 溝２	弥生	甕	（＊4.2）	△3.0	外面ヘラミガキ。内面はケズリ。全体的に磨滅している。	やや粗 良好	外：浅黄橙色 内：黒褐色	
27	10	Ｃ２ 溝２	縄文	杯	（＊5.4）	△2.1	内外面ともナデ。底部外面に黒斑あり。胎土に砂粒多い。縄文時代晩期～弥生時代前期のものか。	やや粗 良好	外：黒褐色 内：黒褐色	
28	11	Ｈ２ 溝４	縄文	深鉢	－	△3.7	口縁外面、端部より下がった位置に突帯が巡る。突帯は下がり気味で、逆「Ｄ」字状のキザミが連続する。口縁端部はやや外反。内外面ともナデ。	やや粗 良	外：鈍い黄褐色 内：黄褐色	
29	11	Ｈ２ Ⅴ層	弥生	甕	＊17.2	△4.2	口縁上端部は若干外反、下端部は鋭く突出する。内外面ともナデ。	やや粗 良	橙色	
30	11	Ⅴ層	弥生	甕	＊15.4	△5.45	口縁部は直線的に外傾し、上端部は肥厚気味。下端部は下垂気味に突出する。口縁内外面ナデ、頸部以下内面ケズリ。内外面に煤付着。	密 良好	鈍い黄橙色	
31	11	Ｄ５ Ⅳ層	弥生	甕	＊16.7	△9.75	口縁は直線的に外傾し、上端部は肥厚気味。下端部は下垂気味に突出。口縁内外面ナデ、頸部下内面ケズリ。外面頸部ナデ、以下ハケメ。外面煤付着。	密 良好	淡黄色	
32	11	Ｂ２ Ⅳ層	土師	甕	＊11.9	△4.8	短く外傾する口縁部で、端部は上につまみ上げられるようにある。口縁部ナデ、体部は外面ハケメ、内面ケズリ。	密良 好	褐色	
33	11	Ｆ２ Ⅳ層	土師	甕	＊12.75	△3.8	口縁部は中位で若干屈曲する。口縁端部はやや三角形状を呈す。内外面ともナデ。	密 良	明黄褐色	
34	11	Ｄ６ Ⅳ層	須恵	杯蓋	＊12.6	3.7	外面頂部ケズリ、以下ナデ。このナデの部分は非常に滑らか。内面ナデ。	緻密 良好	青灰色	

この層は東から南にかけて堆積が薄い、あるいは上層に削平されており、１区へは続いていない可能性が考えられる。そのため、水田面についても１区では確認されていない。ただし西側（県道下）へは明らかに続く。なお同層には火山ガラスなどは含まれていなかったため、テフラではなく河川性堆積であろうと考えられる。遺物はⅤ層、およびこの上層のⅣ層からわずかではあるが、平安時代前半期の土器が出土し、これらは１～３区溝中出土のものとほぼ同時期である。遺構は水田跡のほかには、溝を１条検出しただけであった。

また分析によって、Ⅳ層から高密度のプラント・オパールが検出されたことにより、本遺構面が水田跡であることが裏付けられた。（中森）

２）検出した遺構と遺物

溝５（図12）

調査区北東部、Ⅵ層上面において検出した直線的な溝である。検出した長さは13.6ｍで、北側は調査区外へと続く。幅は0.4ｍ前後、深さは0.25ｍほどである。遺物は出土していないが、検出面から当期と判断した。直線的ではあるが、溝の方向性や位置関係から先の条里溝とは関係ないものと思われる。（中森）

水田跡（図12・13、カラー図版１、図版４・５・６－１）

調査区北西部の300㎡ほどの範囲に広がっている。畦畔は明瞭なところで0.1ｍほどと低く、かつ削

表８　図14鉄製品観察表

遺物番号	構成No	挿図番号	遺物名	地区	層位遺構	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量（g）	磁着度	メタル度	備考
1	①	14	鉄製品（鍛造品）刀子	D6	Ⅳ層	6.75	2.25	1.45	25.0	1	錆化（△）	
2	②	14	鉄製品（鍛造品）釘	F3	Ⅳ層	1.35	3.35	0.25	6.5	2	錆化（△）	
3	③	14	鉄製品（鍛造品）板状不明	F2	Ⅳ層	3.75	2.45	1.75	14.2	1	錆化（△）	
4	⑤	14	鉄製品（鋳造品）板状	F5	Ⅳ層	2.6	2.05	1.0	7.1	1	錆化（△）	
5	⑥	14	羽口（先端）鍛冶	F2	Ⅳ層	3.2	3.45	1.55	10.4	1	なし	
6	④	14	鉄製品（鍛造品）紋金具	D5	Ⅳ層	3.4	3.65	3.55	32.0	1	錆化（△）	

平を受けていた。しかし鉄分の堆積によって、明瞭な区画が検出できた。そのためこの鉄分の範囲を水田の区画、そしてその間が畦畔と判断し実測した。ただ全体のわかるものがないため水田の数は正確には不明だが、検出したのは約20面である。

遺構はＥ・Ｆ－４・５グリッドにおいて、比較的遺存状態が良好であった。大きいもので東西６ｍ、南北４ｍ、小さなものでは東西4.5ｍ、南北2.5ｍほどで、面積も11～25㎡と大きさに差がある。形状は概ね東西に長い長方形を呈し、その方向はほぼ等高線に沿っている。また比高差は10㎝程度ではあるが、南から北へ向け棚田状になっている（断面Ｃ－Ｃ'、Ｄ－Ｄ'）。

この水田面上には無数の小さな窪みを検出した。それらの長径をみると、大きく15㎝、20㎝、25㎝前後の３類型がある。また、縦長で中央の左右どちらか側が窪むという形状から、人の足跡であろうと考えられる。図12のように一方向を向くものもみられるが、列をなすなどの規則性は看取できない。　（中森）

遺構外出土の遺物（図14、図版６－２～４）

当期の遺物は少ない。遺構面直上で出土したものは44土師器甕、および50須恵器高台付杯だけで、Ⅳ層中でも若干土師・須恵器があった程度である。これは調査区内が耕作地であったことを反映しているのであろう。35・48・49のように９世紀末～10世紀初頭のものもあるが、主体は10世紀前半と考えられる。またわずかに鉄製品、および羽口先端部が出土している。　（中森）

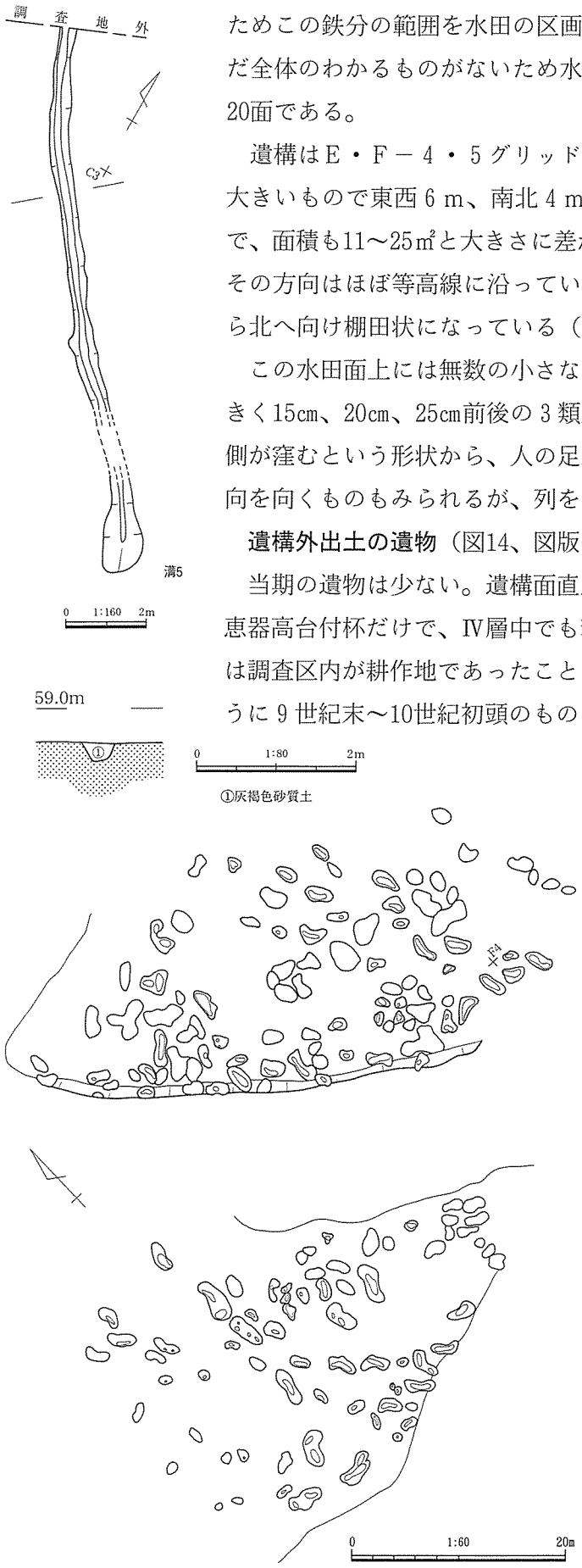


図12　溝５、足跡完掘

60.2m
B
B'
①
②
③
0
1:40
1m
①淡灰白色砂質土(シルト質、Ⅴ層)
②灰褐色砂質土(粘性強い、Ⅵ層)
③灰白色シルト(足跡状理土)
調査地外
59.5m
60.0m
60.6m
A
A'
60.6m
C
C'
60.4m
D
D'
溝5
0
1:80
2m
0
1:800
20m

図13　水田跡検出状況

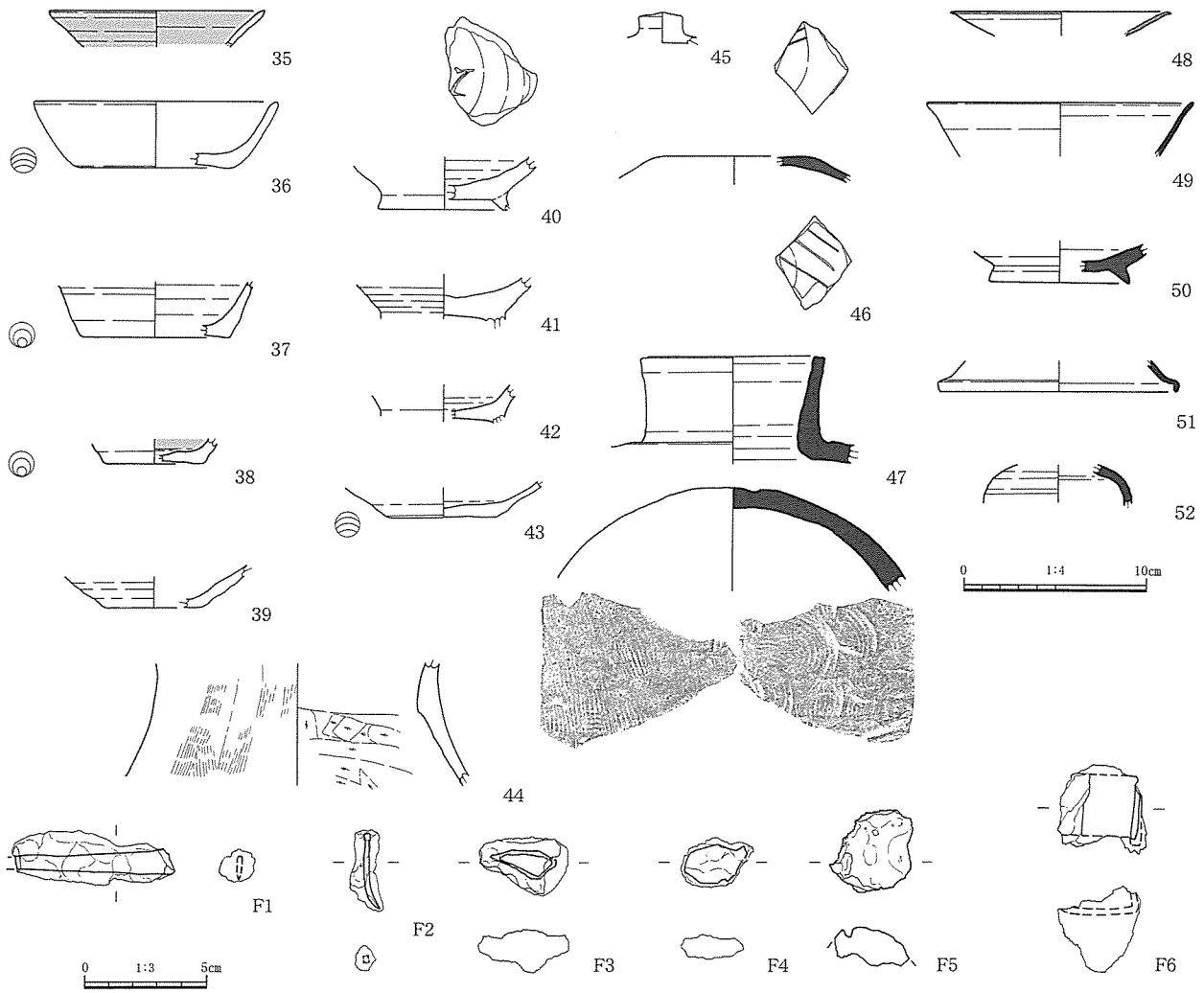


図14　Ⅳ層ほか出土遺物

表９　図14土器・陶器観察表

遺物番号	挿図番号	地区 層位遺構	種別	器種	口径（底）	器高	特徴	胎土 焼成	色調	備考
35	14	C２ Ⅳ層	土師	杯	＊11.8	△2.0	直線的に外傾する口縁部。中位からさらにわずかに外反する。内外ナデ。内外ともに赤彩される。	やや粗 良	明赤褐色	
36	14	E２ Ⅱ層	土師	杯	＊13.4	3.7	底部から緩やかに立ち上がり、やや丸みをもちながら直線的に外傾する。内外面ナデ。底部は静止糸切り。内外面赤彩か。	やや粗 良	赤褐色	胎土分析 №22
37	14	F２ Ⅳ層	土師	杯	(＊8.2)	＊3.1	底部から明瞭に屈曲して立ち上がる。直線的に外傾する体部をもつ。内外面ともナデ、底部は回転糸切り。	やや粗 良好	橙色	
38	14	B１ Ⅳ層	土師	杯	(＊1.4)	△5.3	内外面ナデ、底部は回転糸切り。内面赤彩。	やや粗 良	外：橙色 内：赤褐色	
39	14	E３ Ⅳ層	土師	杯	(＊5.0)	△2.3	内外面ナデ、底部はヘラ切り。	密 良	赤褐色	
40	14	D４ Ⅲ層	土師	高台付杯	(＊2.9)	△7.0	内外面ナデ、底部外面ナデ。高台は短く三角形を呈す。全体的に黒褐色。見込みに「Z」字状の刻文がある。	やや粗 良好	黒褐色	
41	14	C３ Ⅲ層	土師	高台付杯	－	△2.4	内外面ナデ。底部は器壁が厚い。高台部欠損。	粗 良	外：鈍い橙色 内：鈍い赤褐色	
42	14	D５ Ⅳ層	土師	高台付杯	－	△2.6	内外面ナデ。外面はほぼ全体的に磨滅する。クレーター状になるところもあり、二次焼成によるものか。高台部欠損。	密 良	鈍い橙色	
43	14	B３ Ⅱ層	土師	杯	(＊5.8)	△1.9	体部は直線的に外傾する。内外面ナデ、底部回転糸切り。	密 良	外：鈍い黄橙色 内：橙色	胎土分析 №21
44	14	C４ Ⅵ層上面	土師	甕	－	△6.7	寸胴な体部をもつ甕。外面はハケ、内面頸部から上はナデ、下はケズリ。外面に煤が付着。	やや粗 良	褐色	
45	14	C５ Ⅱ層	土師	蓋つまみ	－	△1.7	頂部がやや尖る円柱状のつまみ。全体的にナデ調整。	密 良	赤褐色	
46	14	Ⅰ層	須恵	杯蓋	－	△1.5	外面頂部はケズリ、ほかは回転ナデ。内面には３、内面には２本の刻線が並行する。	密 良好	灰色	
47	14	D６ Ⅲ層	須恵	横瓶	＊9.2	△10.6	口縁は直線的に外傾する。端部は一条の凹線が巡る。口縁部ナデ、体部は外面平行、内面同心円タタキ。	やや粗 良好	外：灰色 内：灰白色	
48	14	D５ Ⅱ層	灰釉	皿	＊11.8	△1.4	直線的に外傾し、口縁端部が外反する。釉は部分的に剥離している。K90窯式。	緻密 良好	緑灰色	
49	14	E２ Ⅳ層	須恵	杯	＊14.8	△3.0	焼成はやや軟質。端部が若干外反する。口縁内面から外面にかけ暗灰色。古曽志廻田３号窯併行。	緻密 良好	外：灰色 内：灰白色	
50	14	D４ Ⅵ層上面	須恵	高台付杯	(＊7.7)	＊2.3	短く器壁がやや厚めの高台が付く。内外ナデ。	密 良好	灰色	
51	14	E２ Ⅳ層	須恵	高杯脚部	(＊13.2)	＊1.7	「へ」字状に屈曲する高杯の高台脚部。内外面ナデ。	密 良好	灰色	
51	14	H４ Ⅰ層	須恵	壺	－	△2.35	体部最大径が上半部にくるもので、やや肩が張る。内外面ナデ。内面には漆と思われるものが付着する。	密 良	外：暗赤灰色 内：灰白色	

第５節　中世前期の調査

１）概要

平成13年度調査において主体をなす時期である。掘立柱建物跡は38棟検出され、その大半が２区西側に集中しており（Ａ群、註１）、１×１、ないし２間のものでほぼ占められている。主軸の方向にまとまりがみられ、出土遺物から同時期性がいわれている。１区においてはＡ群から離れ西へ行くほど遺構密度が希薄になり、２棟の掘立柱建物跡があるだけである。ただこれらはＡ群のものより規模が大きく、かつ建物周囲に柵列をもつ。

０区ではⅣ層上面において、当該期の遺構を検出した。調査区北側に集中するが、これは調査区中央から南側において遺構面、および包含層であるⅢ層が削平されているためである。南へ遺構が展開していた可能性は十分あったと考えられる。検出した遺構は掘立柱建物３棟、土坑６基、溝１条ほかである。また、上層のⅢ層上面で検出した耕作痕と同様な、かつほぼ同方向の畦状遺構もあった。

掘立柱建物跡は後述するように、いずれも東西方向を主軸にとる。掘立柱建物１・２においては建物周囲に柵列をもつ点で、１区西側検出のＳＢ30・31と類似する。また掘立柱建物３も１×３間と、やや大型のものである。２区のように建物が集中することもなく、本調査区から１区西側にかけてと２区では、集落構造に差異が見出せる。（中森）

２）検出した遺構と遺物

掘立柱建物１（図16、図版８－５）

Ｆ３グリッドを中心に、東西方向に主軸を採る。２×３間のもので、南北方向の柱間は1.7mほどである。東西方向はＰ３－４－５、Ｐ１－10－９間が2.5mに対し、その西側に続くＰ９－８、Ｐ５－６間は1.95mほどと短い。西列中央のＰ７は飛び出るように配されており、この部分はテラス状になっ

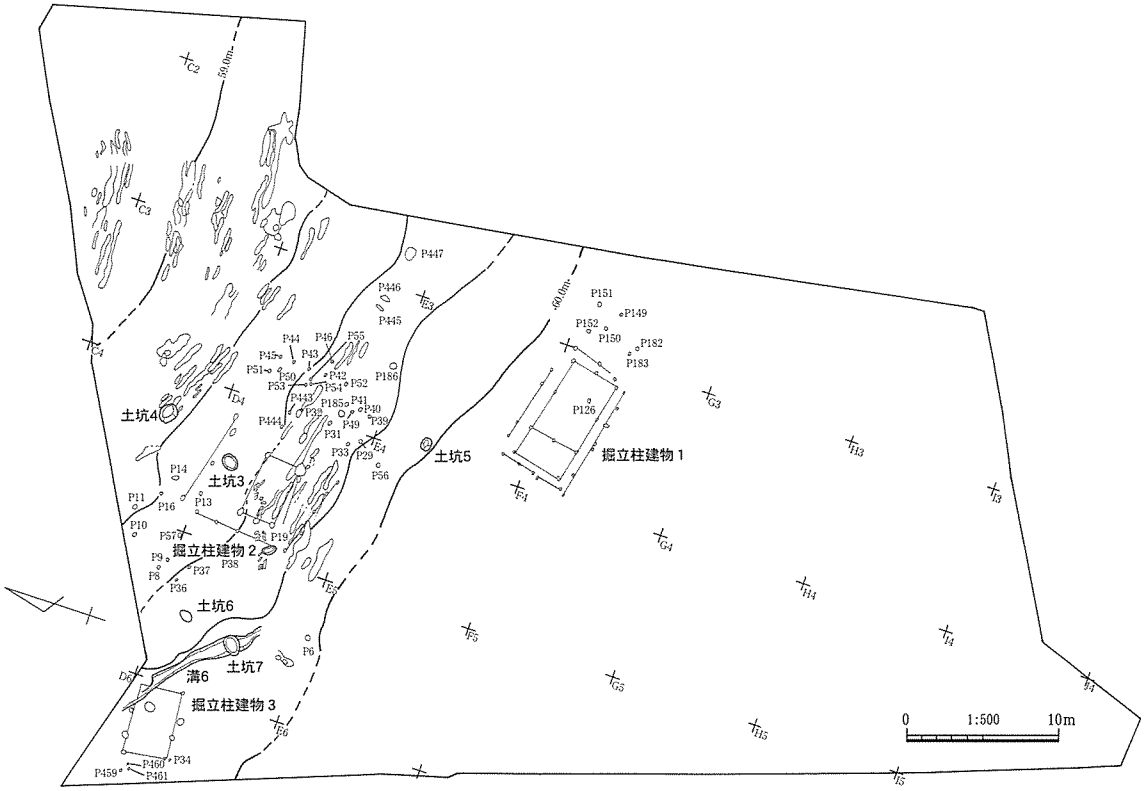


図15　中世前期遺構分布

ていたと考えられる。またこの建物を囲むように４方向に柵列が伴う。これら柵列は建物の柱穴より、深さ、平面径などが一回り小さい。（中森）

掘立柱建物２、土坑３（図17・18、カラー図版３－２、図版８－１・２・４）

Ｄ４グリッドに位置する。東西方向を主軸とする１×１間の建物である。柱間は南北1.1m、東西は2.15mであり、東西方向は倍近い。そのため間に柱がある可能性も考えられたが、検出されなかった。柱穴の深さはＰ２をのぞき0.3～0.4mと深く、径は0.2～0.25mの楕円形を呈す。この建物の北・西・南は柵で囲まれ、北列Ｐ16からは白磁碗（54）が出土した。柱を抜き取った後人頭大の礫を２個入れ、一番上に碗の破片が入れられている。なお同一片がこの周辺遺構面上からも出土した。

この北列と建物との間、Ｐ16の西1.2mに土坑３がある。これは長径1.1m、短径0.9mほどを測るやや楕円形を呈するもので、深さは0.1mに満たない。土坑北西隅に切先を西へ向けた状態で小刀（Ｆ７）が出土した。床面よりやや浮くが、検出状況からみて流れ込んだものではないであろう。また南西隅では鉄鏃状のもの（Ｆ８）、このさらに南、床面より浮いて土師器皿（53）が出土した。この土

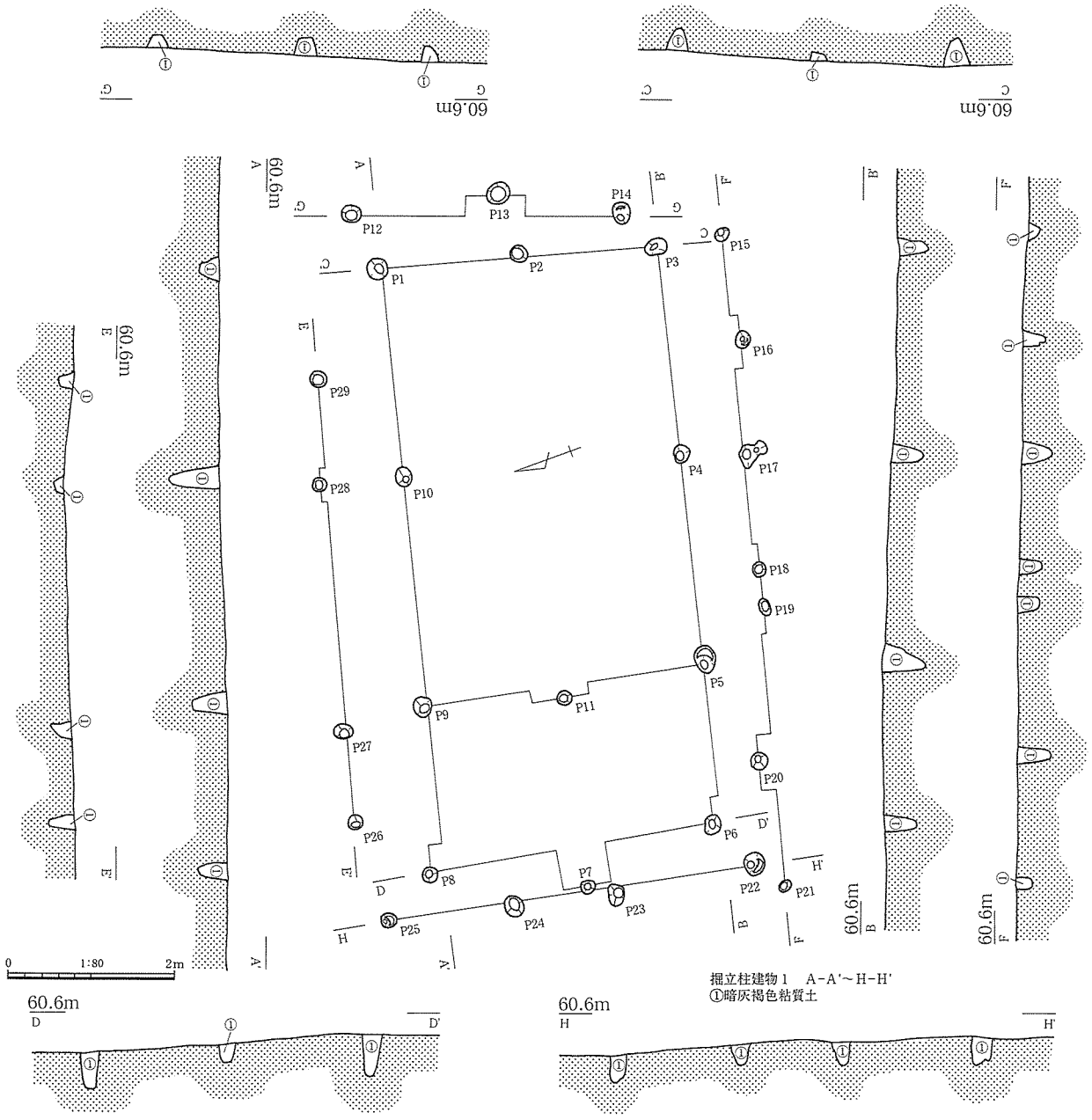
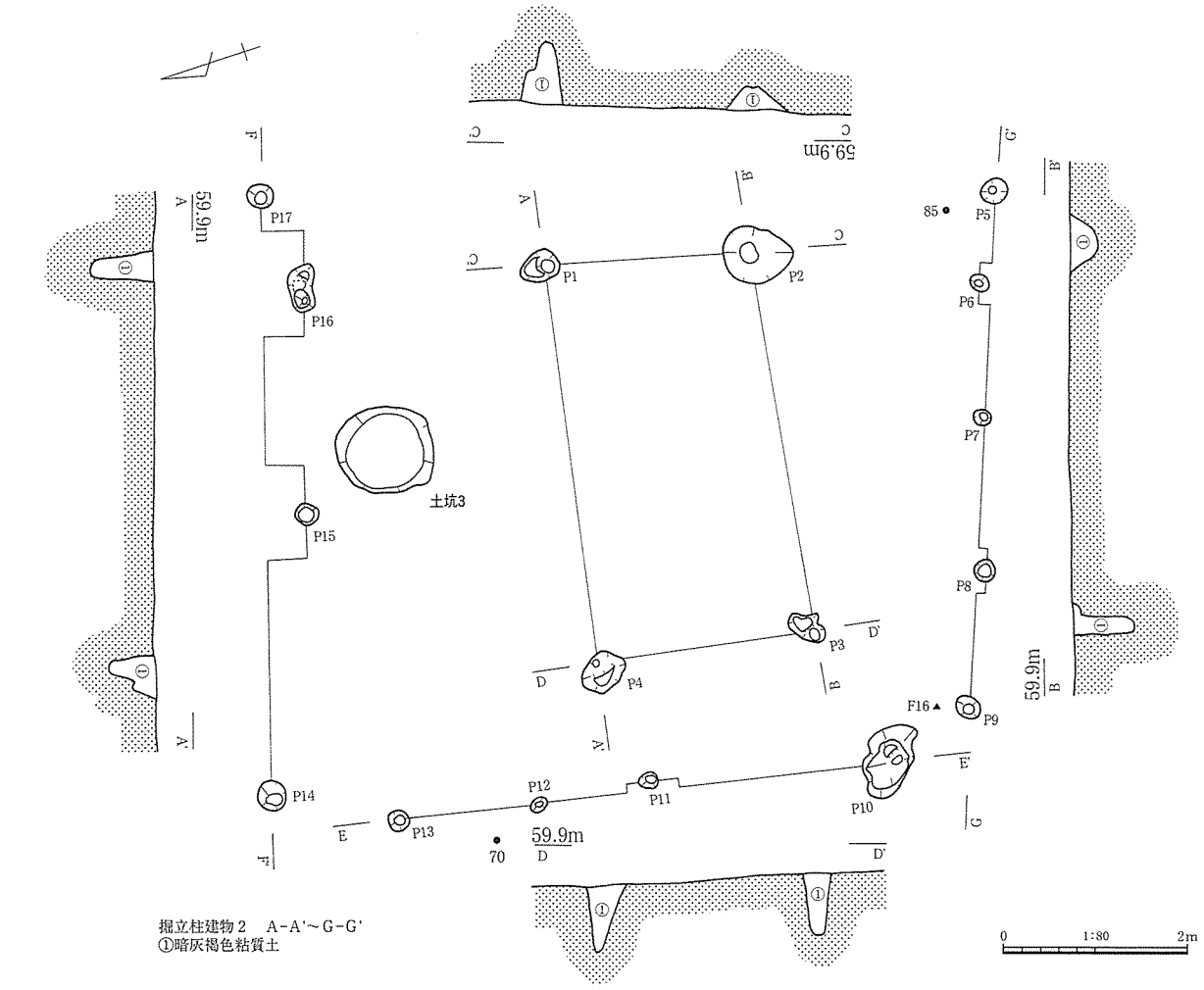


図16　掘立柱建物１



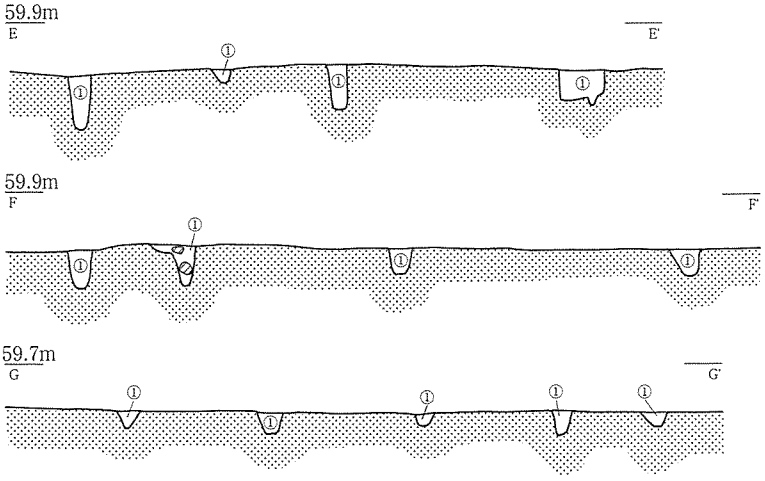


図17　掘立柱建物２

坑の性格については小刀などの出土から墓である可能性もあろうが、位置的に掘立柱建物２と一連のものであり、この建物に伴う地鎮遺構とも考えられよう。

また建物の東側には畦状遺構が広がる。これらは等高線と同じ方向であり、後述する中世後期の耕作痕同様地形に沿っている。建物と耕作痕の位置関係からこれらは同時期ではない。しかしその前後関係は明らかにできなかった。　（中森）

土坑４（図18）

Ｃ４グリッドの東部、掘立柱建物２の北側４ｍ付近に位置する。長径1.3ｍ、短径1.1ｍの楕円形を呈する。深さ0.2ｍを測る。　（木山）

土坑５（図18）

Ｅ３グリッドの西部、掘立柱建物１の北西側４ｍ付近に位置する。長径0.8ｍ、短径0.6ｍの楕円形を呈する。深さ0.2ｍを測る。　（木山）

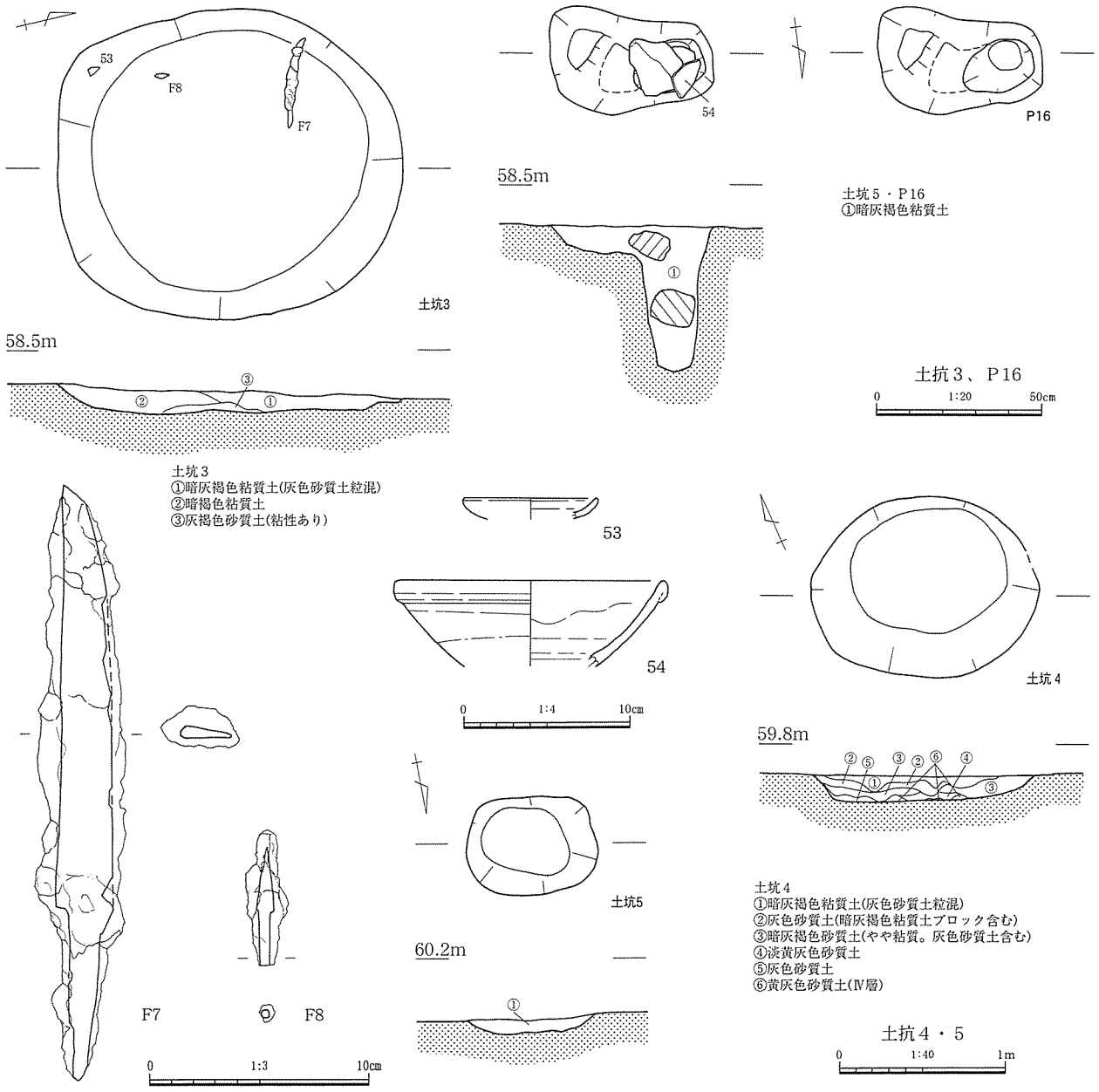


図18　土坑３・４、Ｐ16および出土遺物

掘立柱建物３（図19、図版８－３）

調査区北西隅、Ｄ６グリッドにおいて検出した。北東隅は調査区外にあるが、東西方向を主軸とする１×３間の建物と考えられる。柱間は南北1.45m、東西0.6～0.8mとややばらつきがある。西側の柱間が狭い状況は掘立柱建物１に類似する。Ｐ４を除き、深さは0.15～0.25mと浅い。　（中森）

溝６、土坑７（図19、図版８－３）

溝６はＤ５－６グリッドに位置し、南東から北西へ直線状に流れる。幅0.8～2.4m、深さ0.1m、検出長約10mを測り、北西は調査区外に続く。また、土坑７北西側の底面両端から側溝状のものを検出した。検出長は0.8mと1.6m、幅0.1m、深さ0.04mを測る。埋土中から鉄製品（Ｆ９）が出土している。

土坑７は溝６の南東部に位置する。長径1.3m、短径1.1mの楕円形を呈し、深さ0.2mを測る。いずれも埋土に暗灰褐色粘質土をもつこと、検出状況から同時期に形成された遺構と考えられる。（木山）

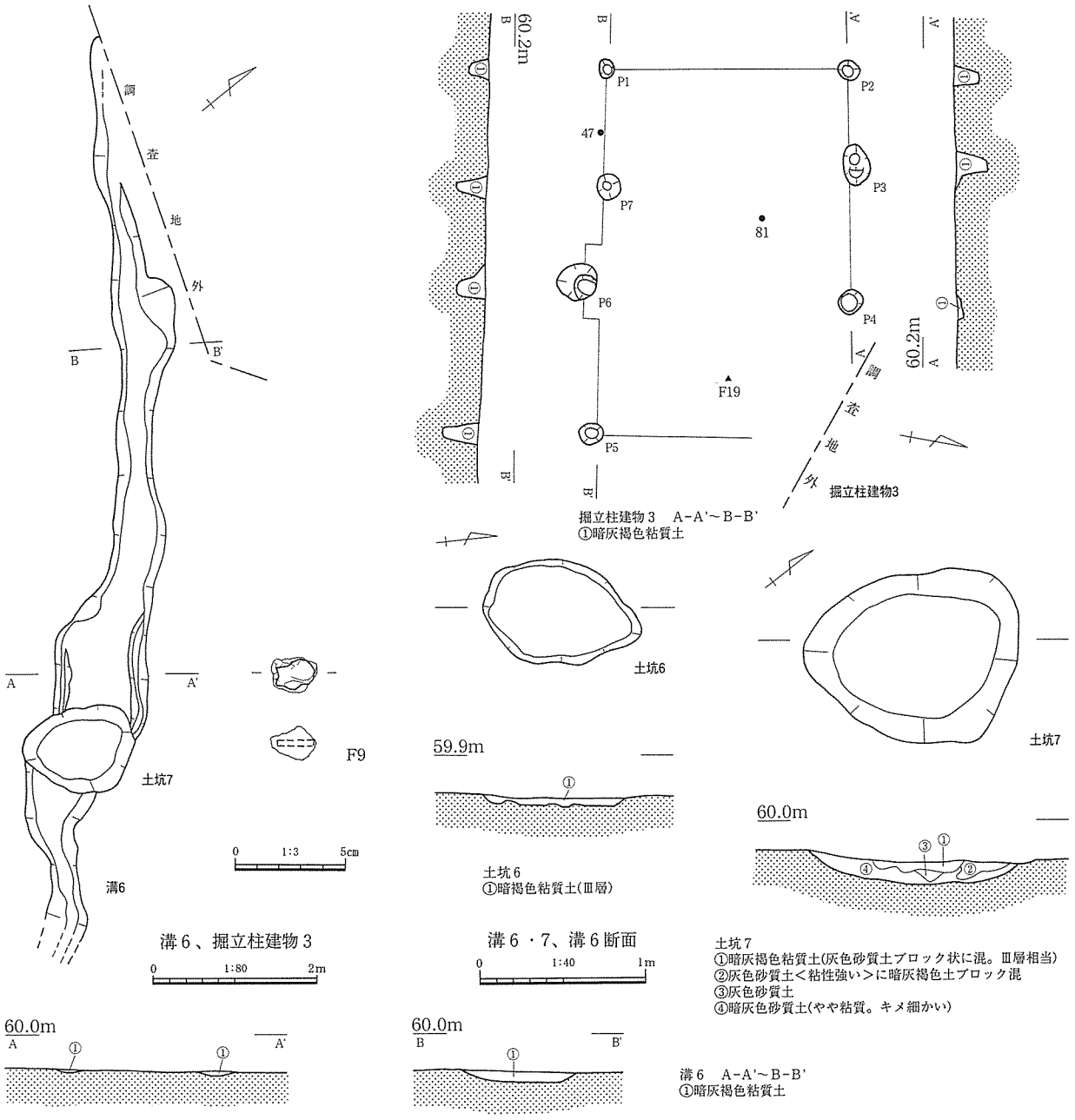


図19　掘立柱建物３、土坑６・７、溝６および出土遺物

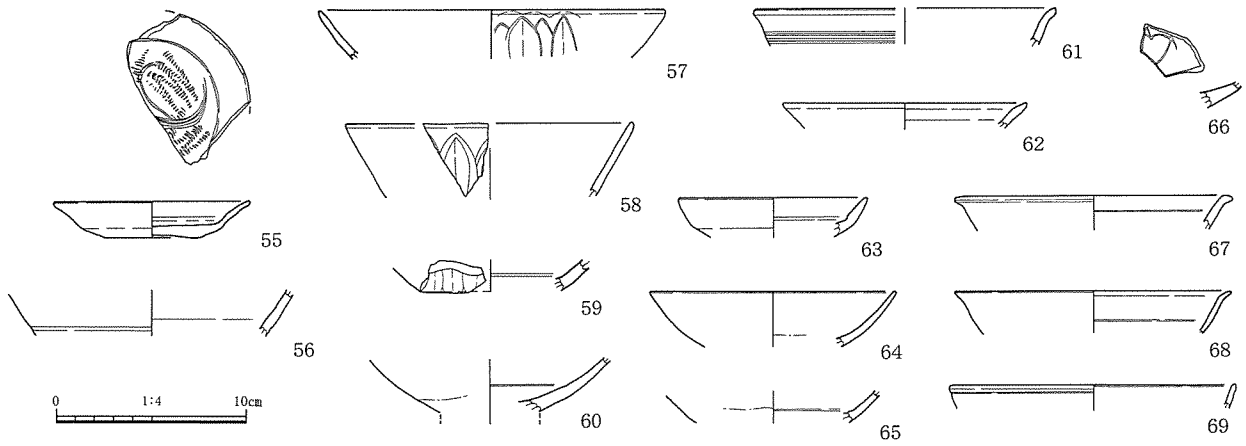


図20　遺構外出土遺物（１）

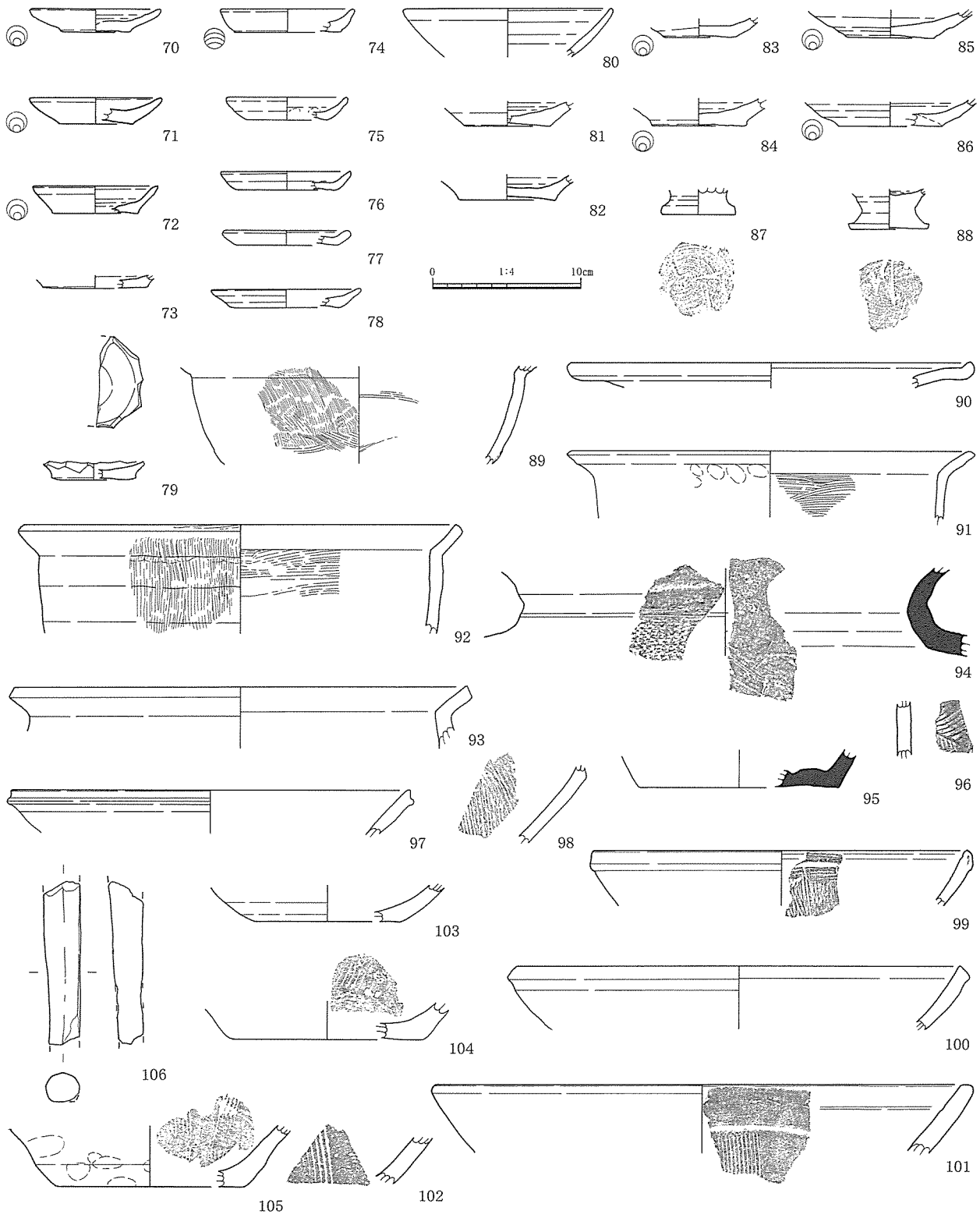


図21　遺構外出土遺物（２）

表10　図18・20・21土器・陶磁器観察表

遺物番号	挿図番号	地区 層位遺構	種別	器種	口径（底）	器高	特徴	胎土 焼成	色調	備考
53	18	D４ 土坑３	土師	皿	＊8.0	△ 1.3	丸みをもち、低く立ち上がる口縁部。内外面ナデ。	密 良好	外：鈍い黄橙色 内：鈍い黄褐色	
54	18	D４ 掘立柱建物２	白磁	碗	＊16.2	△ 5.2	やや丸みをもちながら湾曲する。口縁部は玉縁状。外面は体部下半露胎。内面は釉が厚く、口縁から体部中位付近まで垂下。横田・森田分類Ⅳ。	緻密 良好	外：灰白色 内：灰白色	
55	20	D２ Ⅱ層	青磁	皿	＊10.4	1.95	体部中位で屈曲し、体部と見込みとの間に段を有する。底部外面無釉。見込みにヘラと櫛による文様。横田・森田分類同安窯系皿Ⅰ－２類。	密 良好	釉：灰緑色 胎土：灰白色	
56	20	C４ Ⅱ層	青磁	碗	－	△2.45	外面に一条の沈線が巡る。釉調が55に似るため、同系統のものと考えた。ただ同安窯系碗にこのタイプはなく、出土層位から新しいものの可能性もあろう。	緻密 良好	釉：灰緑色 胎土：灰白色	
57	20	E３ Ⅱ層	青磁	碗	＊18.4	△ 2.6	外面に鎬蓮弁文が連続する。釉はややくすんだ緑灰色を呈す。横田・森田分類龍泉窯系碗Ⅰ－５類。	緻密 良好	釉：灰緑色 胎土：灰白色	

表10　図18・20・21土器・陶磁器観察表

遺物番号	挿図番号	地区 層位遺構	種別	器種	口径（底）	器高	特徴	胎土 焼成	色調	備考
58	20	C３ Ⅱ層	青磁	杯	＊15.4	△ 3.9	外面に鎬蓮弁文が連続する。57より蓮弁の単位大きい。釉は57同様緑灰色。横田・森田分類龍泉窯系碗Ⅰ－５類。	密 良好	釉：灰緑色 胎土：灰白色	
59	20	C３ Ⅱ層	青磁	碗	－	△1.65	外面に鎬蓮弁文が連続する。釉は青みを帯びた淡緑灰色。横田・森田分類龍泉窯系碗Ⅰ－５類。	緻密 良好	釉：灰緑色 胎土：灰白色	
60	20	表土	白磁	碗	－	△2.85	体部内面下位に一条の沈線。外面は体部下位から露胎。	緻密 良	釉：灰緑色 胎土：灰白色	
61	20	C２ Ⅱ層	青磁	碗	＊16.0	△ 2.0	口縁部が外反し、端部が面取りされるもの。体部外面に横位のハケメがみられる。山本龍泉窯系Ⅳ類に相当か。	密 良好	釉：灰緑色 胎土：灰白色	
62	20	C２ Ⅱ層	青磁	皿	＊13.0	△ 1.4	内面中位に一条の沈線。横田・森田分類同安窯系皿Ⅰ類。	緻密 良好	釉：灰緑色 胎土：灰白色	
63	20	D５ Ⅱ層	白磁	皿	＊10.2	△ 2.1	体部中位で屈曲し、内面に一条の沈線が巡る。外面に釉が厚くかかり、体部中位まで垂下している。横田・森田分類Ⅷ類か。	緻密 良好	外：灰白色 内：灰白色	
64	20	B２ Ⅱ層	白磁	碗	＊13.2	△ 3.0	体部が丸みをもって湾曲するもの。底部内面見込みは輪状に釉剥ぎされる。横田・森田分類Ⅷ類か。	緻密 良	釉：乳白色 胎土：灰白色	
65	20	D２ Ⅱ層	白磁	碗	－	△1.75	体部内面下位に一条の沈線。外面は体部下位から露胎。	緻密 良好	釉：乳白色 胎土：灰白色	
66	20	E２ Ⅱ層	青磁？	碗	－	△ 1.4	体部内面見込みに沈線文。外面は体部下位から露胎。	緻密 良好	釉：灰緑色 胎土：灰白色	
67	20	E４ Ⅱ層	白磁	碗	＊13.9	△ 1.8	口縁部は外反し、端部が水平気味なもの。体部上位に一条の沈線がある。横田・森田分類Ⅴ－４類。	緻密 良好	外：灰白色 内：灰白色	
68	20	D４ Ⅱ層	白磁	碗	＊14.8	△ 2.3	口縁部は外反し、端部は上を向く。体部上位に一条の沈線がある。横田・森田分類Ⅴ－２類。	緻密 良	外：灰白色 内：灰白色	
69	20	D４ Ⅲ層	白磁	碗	＊15.3	△ 1.3	口縁部は小さな玉縁を有する。横田・森田分類Ⅱ類。	緻密 良好	釉：乳白色 胎土：灰白色	
70	21	D４ Ⅲ層	土師	皿	＊ 8.8	1.6	底部が厚く、やや湾曲気味に口縁へ続くもの。端部は丸く収める。内外ナデ。底部回転糸切り。	密 良	橙色	
71	21	D３ Ⅲ層	土師	皿	＊ 8.8	1.85	底部厚く、丸みをもって立ち上がる。器壁も厚い。内外面ナデ。底部回転糸切り。	密 良	橙褐色	
72	21	D４ Ⅲ層	土師	皿	＊ 8.6	1.9	底部から直線的に外傾する。口縁端部は尖り気味。内外面ナデ。底部回転糸切り。	密 良好	外：鈍い褐色 内：鈍い橙色	
73	21	E５ P82	土師	皿	（＊7.2）	△ 0.9	全体的に磨滅する。内外面ナデ、底部はヘラ切りか？	やや粗 良	鈍い橙色	
74	21	C２ Ⅲ層	土師	皿	＊ 7.8	1.5	底部が厚く、口縁はやや湾曲しながら短く立ち上がる。口縁下外面はナデにより、若干段状に窪む。内外面ナデ、底部静止糸切り。	密 良好	外：橙色 内：浅黄橙色	
75	21	D５ Ⅲ層	土師	皿	＊ 8.2	1.6	底部から緩やかに湾曲するもの。体部中位は、内外からのナデにより若干段状を呈す。そのため口縁端部はわずかに外反。底部は回転糸切りか。	密 良好	鈍い橙色	
76	21	C２ Ⅳ層上面	土師	皿	＊ 8.7	1.3	底部からほぼ直線的に外傾。外面体部中位は、ナデにより若干窪む。口縁端部は丸く収める。底部回転糸切りか。	密 良好	外：橙色 内：鈍い黄橙色	
77	21	E３ Ⅲ層	土師	皿	＊ 8.4	1.1	非常に器高の低い皿。口縁部はやや肥厚気味に丸い。底部静止糸切り。	密 良好	明褐色	
78	21	D４ Ⅲ層	土師	皿	＊10.2	1.3	底部から直線的に外傾。外面体部中位はナデにより若干窪む。そこから口縁はやや立ち上がり気味になる。底部ヘラ切り？	密 良好	橙色	
79	21	C２ Ⅱ層	土師	皿	6.8	△1.3	皿の口縁部を、波状に打ち欠いたと考えられるもの。内外面ナデ。底部はヘラ切り後ナデか。灯明皿であろう。	密 良好	外：黄灰色 内：鈍い黄橙色	
80	21	C４ Ⅲ層	土師	杯	＊14.2	△ 3.3	緩やかに湾曲する体部をもつ。内外面ナデ。内外面に煤ないしは油分が付着する。灯明皿であろうか？	密 良好	外：鈍い赤褐色 内：鈍い黄橙色	
81	21	D６ Ⅲ層	土師	杯	（＊5.8）	△ 1.7	内外面ナデ、底部回転糸切り。	密 良	鈍い赤褐色	
82	21	C３ Ⅲ層	土師	杯	(6.6)	△ 1.8	内外面ナデ、底部回転糸切り。外面に煤が付着する。内面にも若干痕跡がみえる。	密 良好	鈍い黄橙色	
83	21	D５ Ⅲ層	土師	杯	(4.9)	△ 1.3	底部から緩やかに立ち上がるもの。内外面ナデ。底部は回転糸切り。やや窪み底になる。	密 良	橙色	
84	21	C４ Ⅲ層	土師	杯	（＊6.4）	△ 1.9	底部から段状に立ち上がる。内外面ナデ、底部回転糸切り。外面に煤が付着する。	やや粗 良	明褐灰色	
85	21	D４ Ⅲ層	土師	杯	（＊6.0）	△ 1.8	底部から大きく外へ開き、体部は緩やかに湾曲。内外面ナデ。底部は回転糸切り。内面は油分付着か？	密 良	外：灰黄褐色 内：黒褐色	
86	21	C４ Ⅲ層	土師	杯	（＊7.2）	△ 1.8	底部から大きく外へ開き、体部は緩やかに湾曲。85より一回り大型のもの。内外面ナデ。底部は回転糸切り。	密 良好	外：鈍い黄橙色 内：浅黄色	
87	21	C４ Ⅱ層	土師	柱状高台	(5.0)	△ 2.7	柱状高台碗。高台端部は面取りされる。内外面ナデ。底部回転糸切り。	密 良好	浅黄橙色	
88	21	B３ Ⅲ層	土師	柱状高台	（＊5.4）	△ 2.7	柱状高台碗。高台端部は面取りされる。内外面ナデ。底部回転糸切り。	密 良好	橙色	
89	21	D４ Ⅲ層	土師	鍋	－	△ 6.6	体部は丸みをもち、頸部で「く」字状に屈曲する。外面縦ハケ、内面は横ナデ。外面に煤付着。	粗 良	外：黒褐色 内：鈍い黄褐色	
90	21	C４ Ⅳ層	土師	鍋	＊27.4	△ 1.7	頸部から大きく開き、受け口状を呈する口縁。口縁端部はさらに上方につまみ上げ、丸く収められる。内外ナデ。内面に煤が付着する。	やや粗 良好	外：鈍い橙色 内：鈍い橙色	
91	21	E４ Ⅲ層	土師	鍋	＊27.4	△ 4.7	比較的直線的に外傾する体部から「く」字状に屈曲し、口縁へ続く。口縁も直線的に外反。端部はやや面取り風に収める。口縁部内外面ナデ。体部は内面横ハケ、外面は縦ハケ。外面に煤付着。	粗 良	外：黒色 内：褐色	
92	21	D４ Ⅲ層	土師	鍋	＊29.4	△ 7.4	直線的に外傾する体部から「く」字状に屈曲し、口縁へ続く。口縁は若干内湾気味に外反。端部は面取り。内面口縁部ナデ、体部は横ハケ。外面は体部からの縦ハケが口縁端部近くまで達する。	粗 良好	鈍い褐色	
93	21	B３ Ⅲ層	土師	鍋	＊31.0	△ 4.2	体部から内湾気味になる頸部で短く「く」字状に屈曲。口縁端部面取り。口縁内面丁寧なナデ。体部は内面ナデ、外面はハケか。外面に煤付着。	密 良好	外：黒褐色 内：灰褐色	
94	21	C３ Ⅱ層下層	須恵	甕	－	△6.05	頸部から緩やかに外反する口縁をもつ。口縁部内外面ナデ。体部外面には格子目タタキが施される。胎土は灰白色でやや軟質。勝間田産か。	密 良	外：灰色 内：灰白色	
95	21	G３ 表土	須恵	甕	（＊13.8）	△ 2.7	内外面ナデ。底部はやや窪み底になる。胎土に角閃石を多く含む。	密 良	外：灰色 内：灰白色	
96	21	B２ Ⅱ層	陶器	甕	－	△3.65	外面に木の葉状のタタキ。常滑系。	密 良	外：濃灰色 内：灰色	
97	21	D３ Ⅰ層	瓦質	鉢	＊27.2	△ 3.0	体部は直線的に外傾する。口縁は若干肥厚し、端面に凹線が巡る。口縁は重ね焼きのため灰色に変色。	密 良好	灰白色	
98	21	D５ Ⅰ層	瓦質	鉢	－	△5.15	内面に細かく斜方向のハケメ（掻り目）。外面はやや雑にナデ。口縁部外面は面取り状になる。	密 やや軟	灰色	
99	21	E４ Ⅱ層	瓦質	鉢	＊25.7	△ 3.8	体部はやや丸みをもつ。口縁は折り曲げて玉縁状を呈す。内面に一条の沈線が巡り、以下ハケメ。体部外面は雑なナデ。	密 良	灰色	
100	21	D５ Ⅰ層	瓦質	鉢	＊30.4	△ 4.8	体部は丸みをもって立ち上がる。口縁は外面が面取り。その下は凹線状に窪む。内面は丁寧にナデ。外面は雑なナデで、ケズリが残る。やや軟質。	やや粗 やや軟	淡灰色	

表10　図18・20・21土器・陶磁器観察表

遺物番号	挿図番号	地区 層位遺構	種別	器種	口径（底）	器高	特徴	胎土 焼成	色調	備考
101	21	Ⅰ４ Ⅰ層	瓦質？	擂鉢	＊35.9	△4.65	大型で厚手、軟質なもの。口縁は丸みをもって、頂部のみやや面取りされる。内外面ナデ。内面は一条の沈線があり、その下から擂り目。出土層位からあるいは新しいものである可能性をもつ。	密 良	灰白色	
102	21	Ｃ３ Ⅱ層下層	瓦質	擂鉢	－	△3.25	内外面ナデ。内面に５条一単位の擂り目が施される。	密 良好	外：灰黄色 内：淡黄色	
103	21	Ｄ５ Ⅱ層	瓦質	鉢	（＊10.0）	△ 2.3	内外ナデ。東播系。	密 良好	灰色	
104	21	Ｃ５ Ⅱ層	瓦質	擂鉢	（＊12.4）	△ 2.6	内外面ナデ。内面に５条一単位の擂り目が施される。	密 やや軟	外：淡黄色 内：灰白色 底部：黒色	
105	21	Ｄ２ Ⅰ層	瓦質	擂鉢	（＊11.0）	△ 4.2	内面ナデ。外面指頭圧痕が目立つ。内面幅の狭い５条の擂り目。	密 良好	外：緑黒色 内：灰白色	
106	21	Ｃ５ Ⅲ層	土師	鍋脚部	2.5	△11.1	鍋の脚部。10cmを越えるもので長い。裏面は面取りされる。	やや粗 良好	褐灰色、鈍い橙色	

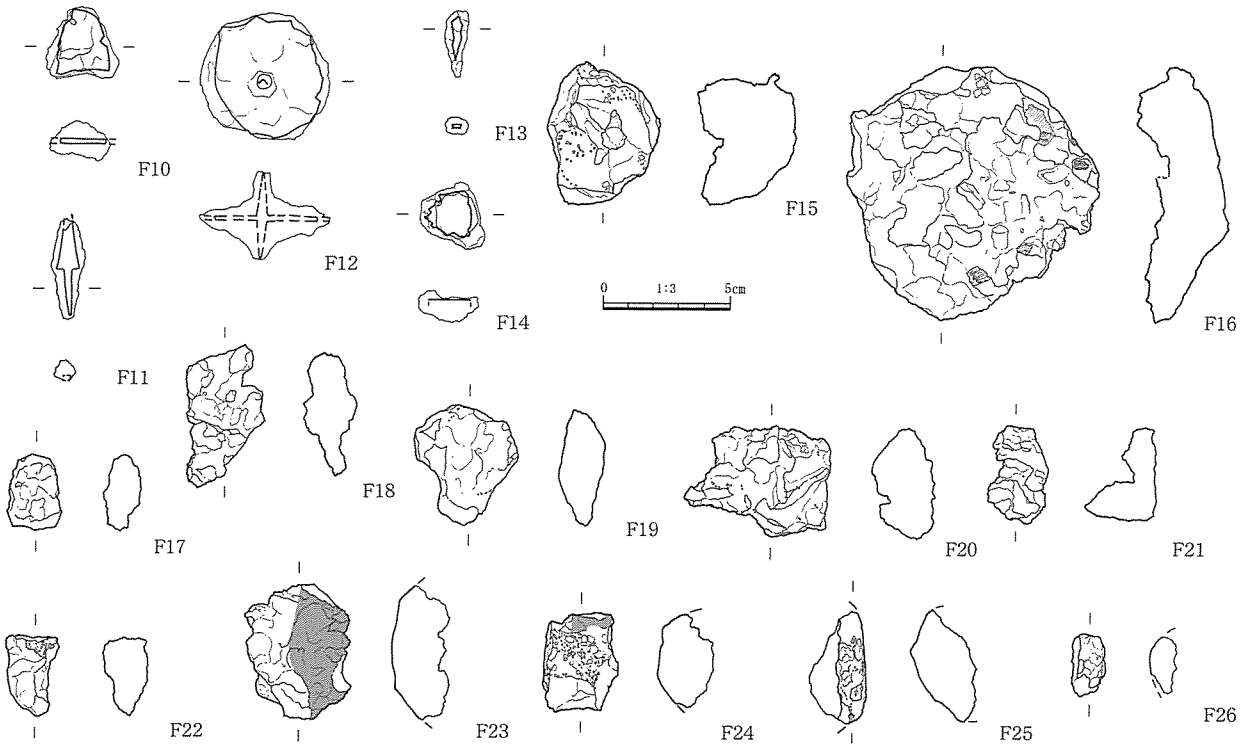


図22　遺構外出土遺物（３）

表11　図18・19・22鉄製品観察表

遺物番号	構成No	挿図番号	遺物名	地区	層位遺構	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量（g）	磁着度	メタル度	備考
7	⑦	18	鉄製品（鍛造品）短刀	D4	土坑３	4.1	27.15	1.95	216.0	2	錆化(△)	
8	⑧	18	鉄製品（鍛造品）鏃?	D4	土坑３	1.95	6.15	0.85	18.8	1	錆化(△)	
9	⑧a	19	鉄製品（不明）	D5	溝６	2.1	1.6	1.5	5.0	1	錆化(△)	
10	⑨	22	鉄製品（鍛造品）鏃?	E2	Ⅲ層	2.45	2.9	1.55	9.1	1	錆化(△)	
11	⑩	22	鉄製品（鍛造品）鏃	D4	Ⅲ層	1.4	3.95	0.85	7.2	1	錆化(△)	
12	⑪	22	鉄製品（鍛造品）紡錘車、軸付	B2	Ⅲ層	5.6	4.9	3.4	48.2	1	錆化(△)	
13	⑫	22	鉄製品（鍛造品）刀子又は釘	E2	Ⅲ層	0.9	2.7	0.7	1.8	1	錆化(△)	
14	⑬	22	鉄製品（鍛造品）板状不明	E3	Ⅲ層	2.4	2.65	1.25	9.0	1	錆化(△)	
15	⑭	22	椀形鍛冶滓（大）	C4	Ⅲ層	4.65	5.65	3.95	166.0	1	なし	
16	⑮	22	椀形鍛冶滓（含鉄中）	D4	Ⅲ層	10.15	9.95	3.75	350.0	1	錆化(△)	
17	⑯	22	椀形鍛冶滓（小）	B3	Ⅲ層	2.2	3.0	1.55	14.0	2	なし	
18	⑰	22	椀形鍛冶滓（小）	B3	Ⅲ層	3.1	5.65	2.15	26.6	1	なし	
19	⑱	22	椀形鍛冶滓（小）	D6	Ⅲ層下	4.15	4.75	1.9	35.0	1	なし	
20	⑲	22	椀形鍛冶滓（小）		Ⅲ～Ⅳ層	5.9	4.4	2.6	62.0	2	なし	
21	⑳	22	椀形鍛冶滓（含鉄、小）	C4	Ⅲ層	2.45	3.9	2.9	19.0	2	錆化(△)	
22	㉑	22	鍛冶滓	C4	Ⅲ層	2.05	3.2	1.85	14.6	2	なし	
23	㉒	22	羽口（先端）鍛冶	D4	Ⅲ層	4.3	5.35	2.35	38.0	1	なし	
24	㉓	22	羽口（先端）鍛冶	B2	Ⅲ層	3.05	3.9	2.3	12.6	1	なし	
25	㉔	22	羽口（先端）鍛冶	B2	Ⅲ層	2.25	4.45	2.7	14.8	1	なし	
26	㉕	22	羽口（先端）鍛冶	C2	Ⅲ層	1.45	2.55	1.15	2.6	1	なし	

表12　中世前期ピット一覧

No.	地区	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	埋土	備考	No.	地区	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	埋土	備考
1	D６	50	30	39	①	掘立柱建物３Ｐ３、土師器片１	52	D３	25	19	29	①	
							53	D３	18	15	27	①	
2	D６	26	24	31	①	掘立柱建物３Ｐ２、弥生甕底部１	54	D３	21	20	17	①	
							55	D３	17	15	17	①	
3	D６	32	28	36	①	掘立柱建物３Ｐ７	56	E４	29	25	30	①	
4	D６	49	43	97	①	掘立柱建物３Ｐ６、やや暗	57	C５	38	－	29	①	
							58	D４	27	27	41	①	掘立柱建物２Ｐ17
5	D６	30	27	45	①	掘立柱建物３Ｐ５	110	F３	26	24	34	①	掘立柱建物１Ｐ22
6	D･E5	37	34	13	①	鉄分多い	111	F３	27	21	28	①	掘立柱建物１Ｐ23
7	D４	44	42	69	①	掘立柱建物２Ｐ４、土師器皿片	112	E３	27	22	24	①	掘立柱建物１Ｐ24
							113	E３	20	20	37	①	掘立柱建物１Ｐ25
8	C５	21	21	23	①		114	E３	19	18	31	①	掘立柱建物１Ｐ26
9	C５	26	24	18	①		115	E３	22	19	27	①	掘立柱建物１Ｐ27
10	C５	25	24	33	①		116	E３	26	22	42	①	掘立柱建物１Ｐ９
11	C４	20	20	26	①		117	F３	20	18	23	①	掘立柱建物１Ｐ11
12	C４	33	33	30	①	掘立柱建物２Ｐ14	118	F３	34	26	53	①	掘立柱建物１Ｐ５
13	D４	31	22	24	①	縄文？	119	F３	21	20	40	①	掘立柱建物１Ｐ20
14	C４	43	30	47	①		120	F３	24	20	38	①	掘立柱建物１Ｐ６
15	D４	98	60	45	①	掘立柱建物２Ｐ16、礫２つ、白磁Ⅳ類(54)	121	F３	17	17	23	①	掘立柱建物１Ｐ７
							122	E３	20	19	44	①	掘立柱建物１Ｐ８
16	C４	23	21	43	①		123	F３	17	16	31	①	掘立柱建物１Ｐ18
17	D４	45	35	68	①	掘立柱建物２Ｐ１、弥生甕片	124	F３	38	23	37	①	掘立柱建物１Ｐ17
							125	F３	22	21	38	①	掘立柱建物１Ｐ４
18	D４	76	60	36	①	掘立柱建物２Ｐ２	126	F３	27	23	10	①	
19	D４	47	30	11	①		127	F３	20	19	28	①	掘立柱建物１Ｐ16
20	D４	25	22	32	①	底面に礫、掘立柱建物２Ｐ15	128	F３	25	22	22	①	掘立柱建物１Ｐ14
							129	F３	20	20	9	①	掘立柱建物１Ｐ２
21	D４	23	23	66	①	掘立柱建物２Ｐ13	130	F３	23	20	63	①	掘立柱建物１Ｐ10
22	D４	20	16	17	①	掘立柱建物２Ｐ12	131	F３	25	25	26	①	掘立柱建物１Ｐ１
23	D４	21	21	49	①	掘立柱建物２Ｐ11	132	F３	27	25	22	①	掘立柱建物１Ｐ13
24	D４	26	20	16	①	掘立柱建物２Ｐ９	133	F３	28	20	35	①	掘立柱建物１Ｐ３
25	D４	25	22	24	①	掘立柱建物２Ｐ８	134	E３	19	19	17	①	掘立柱建物１Ｐ29
26	D４	19	17	16	①	掘立柱建物２Ｐ７	135	E３	18	17	12	①	掘立柱建物１Ｐ28
27	D４	20	18	29	①	掘立柱建物２Ｐ６	149	F２	21	19	20	①	
28	D４	27	26	49	①	掘立柱建物２Ｐ５	150	F２	20	18	6	①	
29	D４	20	20	13	①		151	F２	23	22	23	①	
30	D４	44	22	64	①	掘立柱建物２Ｐ３	152	F２	22	20	20	①	
31	D3･4	25	21	15	①		182	F２	22	21	5	①	
32	D３	27	23	33	①		183	F２	20	20	22	①	
33	D４	20	20	27	①		184	F2･3	24	22	18	①	掘立柱建物１Ｐ12
34	D６	25	15	28	①	掘立柱建物３Ｐ１	185	D３	50	45	57	①	
35	D６	30	29	4	①	掘立柱建物３Ｐ４	186	D３	41	34	17	①	
36	D５	21	21	13	②		440	D４	86	52	72	①	掘立柱建物２Ｐ10
37	D５	20	15	28	②		441	D４	25	22	32	①	
38	D５	26	25	18	②		442	D４	20	16	5	①	
39	D３	20	18	32	②		443	D４	22	20	5	①	
40	D３	38	24	32	②		444	D４	24	23	4	①	
41	D３	27	25	32	②		445	D３	60	22	7	①	
42	D３	25	23	22	②		446	D３	60	31	9	①	
43	D３	19	16	13	②		447	D２	85	72	18	①	
44	D３	19	16	12	②		448	F３	22	13	27	①	掘立柱建物１Ｐ19
46	D３	17	14	19	②		449	F３	16	13	20	①	掘立柱建物１Ｐ21
47	D６	66	66	16	①	土師器皿、縄文深鉢	450	F３	19	18	15	①	掘立柱建物１Ｐ15
48						欠番	459	D６	14	14	4	①	
49	D３	23	21	19	①		460	D６	12	11	2	①	
50	D３	16	16	23	①		461	D６	15	13	3	①	
51	D３	21	20	20	①								

埋土：①暗灰褐色粘質土（Ⅲ層）、②Ⅲ層に灰色砂質土ブロック含む

土坑６（図19）

土坑６はＤ５グリッドの北部、溝６の北東側２ｍ、土坑７の北側に位置する。長径1.0ｍ、短径0.6ｍの楕円形を呈する。深さ0.1ｍを測る。　（木山）

遺構外出土遺物（図20～22、カラー図版３－１、図版９、10－２）

遺物は土師器が主体を占め、Ｃ・Ｄ－４グリッドを中心として出土している。皿は口縁が直線的に長く外傾するものと、短いものの２種類がある。杯では形状がわかるものはなかった。当該期の土器編年はまだ確立したとは言い難く不明瞭ではあるが、白磁Ⅱ・Ⅳ類碗などからみて概ね12世紀代に比定できよう。また貿易陶磁や瓦質土器はほとんどが中世後期に相当するⅡ層から出土した。このほか鉄関連遺物があり、椀形鍛冶滓や羽口などから小規模な鍛冶が行なわれていたことが窺える。　（中森）

（註１）八峠　興ほか編　2002『茶畑六反田遺跡ほか』鳥取県教育文化財団　pp. 292～295

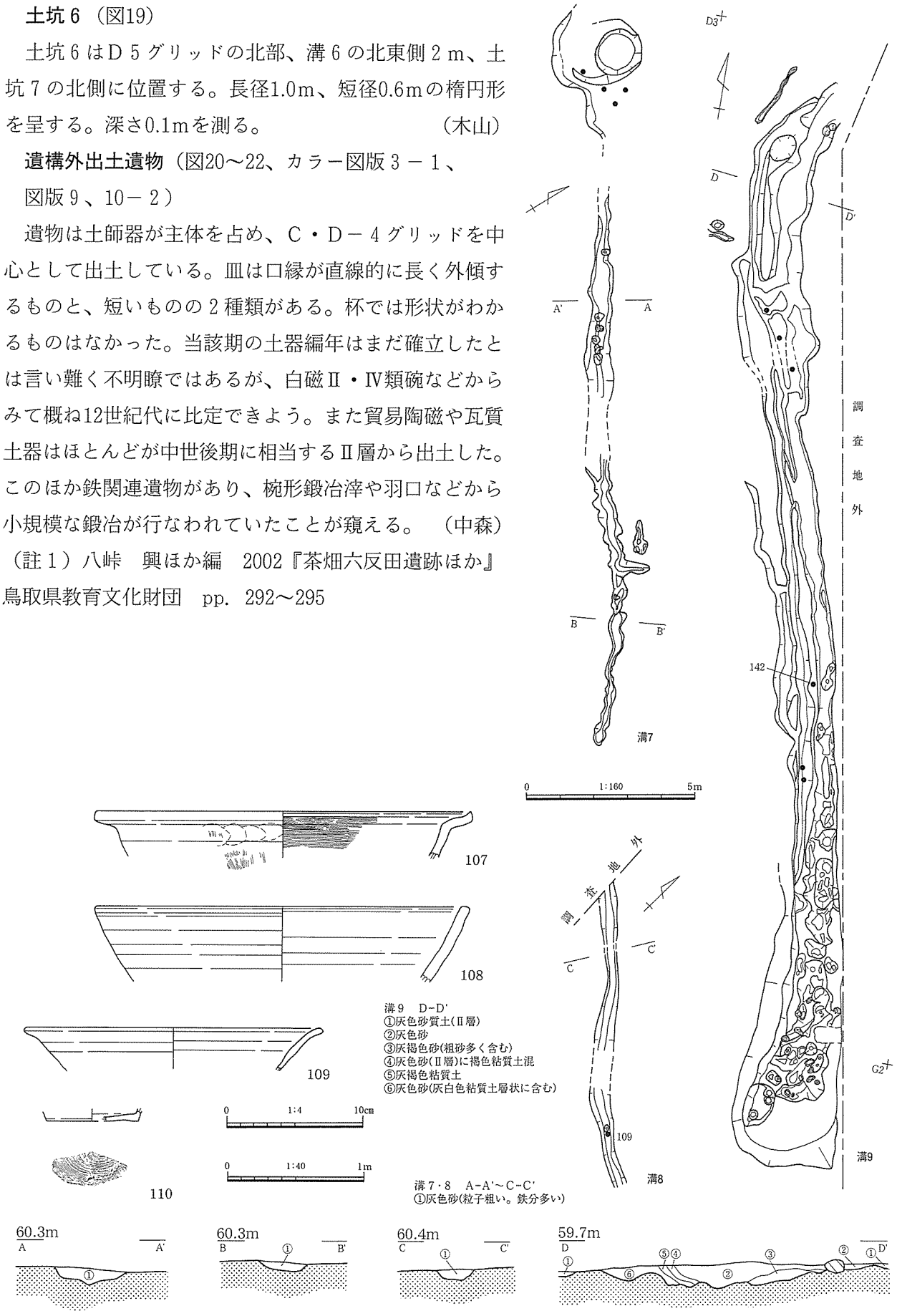


図23　溝７～９および出土遺物

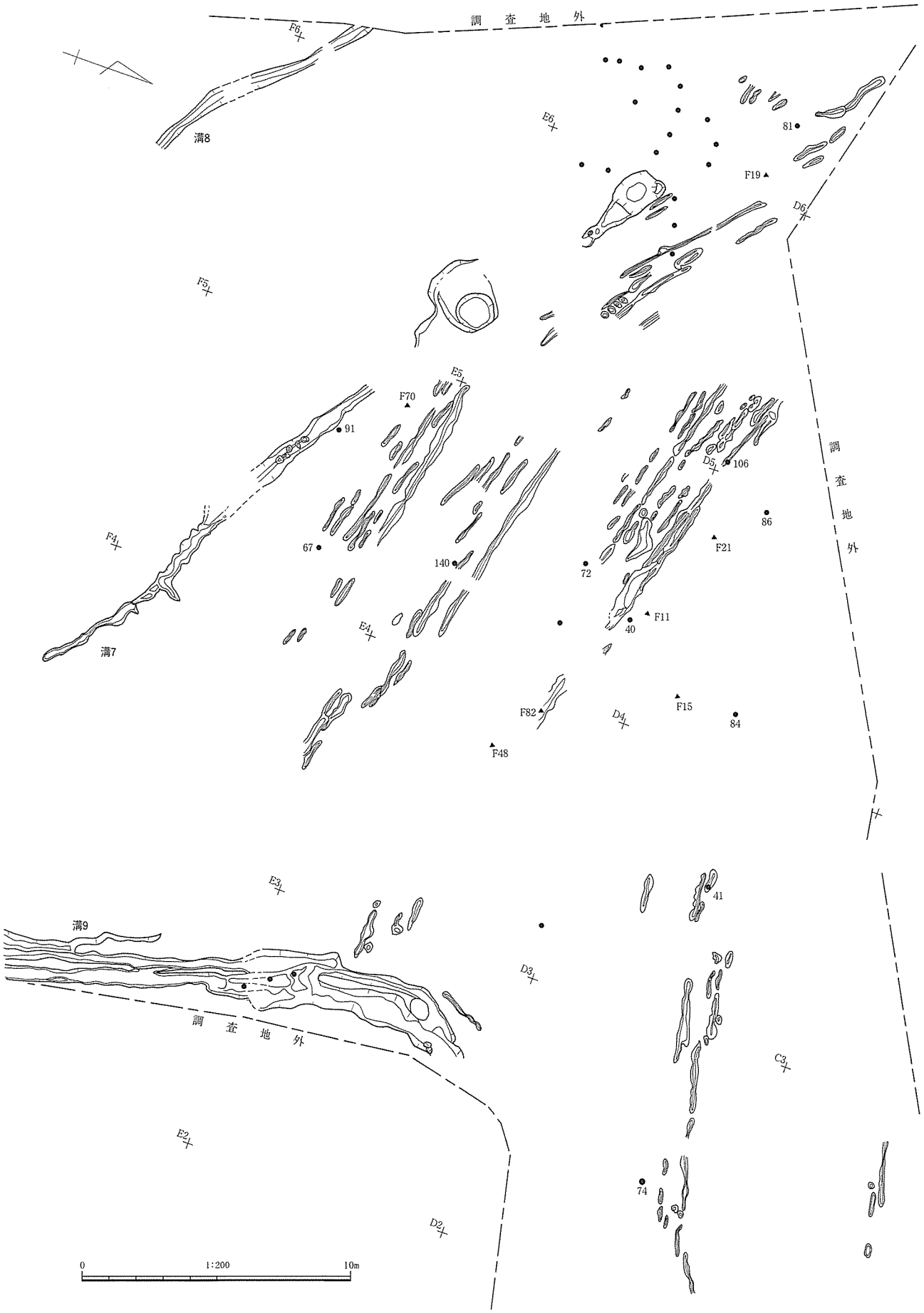

調　査　地　外
F6
溝8
E6
81
F19
D6
F5
E5
F70
91
D5
106
調
査
地
外
86
F4
67
140
F21
72
F11
40
E4
溝7
F82
D4
F15
84
F48
E3
41
溝9
D3
調　査　地　外
C3
E2
74
D2
0
1:200
10m

図24　畑跡検出状況

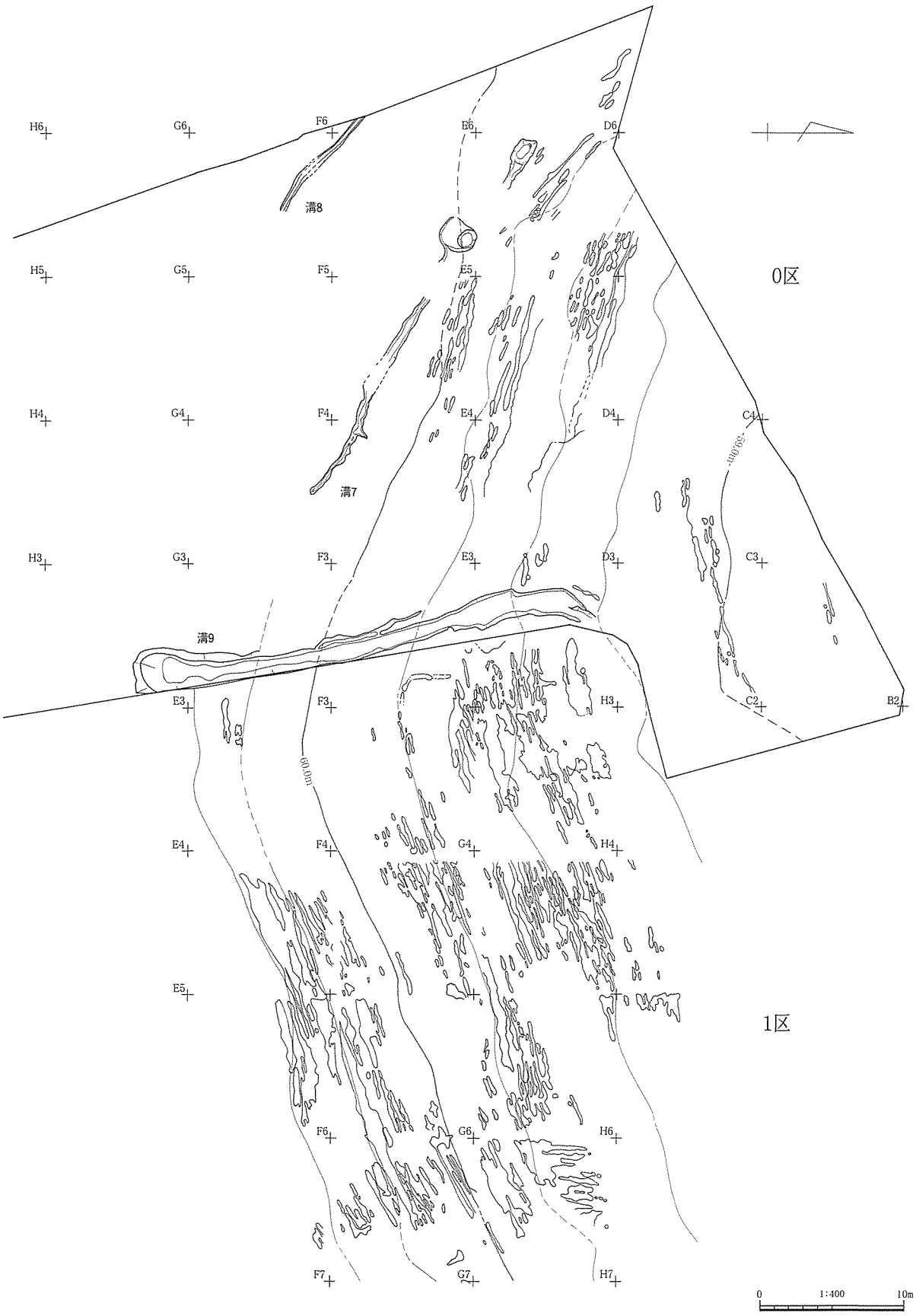

H6
G6
F6
E6
D6
溝8
H5
G5
F5
E5
0区
H4
G4
F4
E4
D4
C4
550.0m
溝7
H3
G3
F3
E3
D3
C3
溝9
E3
F3
H3
C2
B2
60.0m
E4
F4
G4
H4
E5
1区
F6
G6
H6
F7
G7
H7
0
1:400
10m

図25　畑跡全体（０・1区）

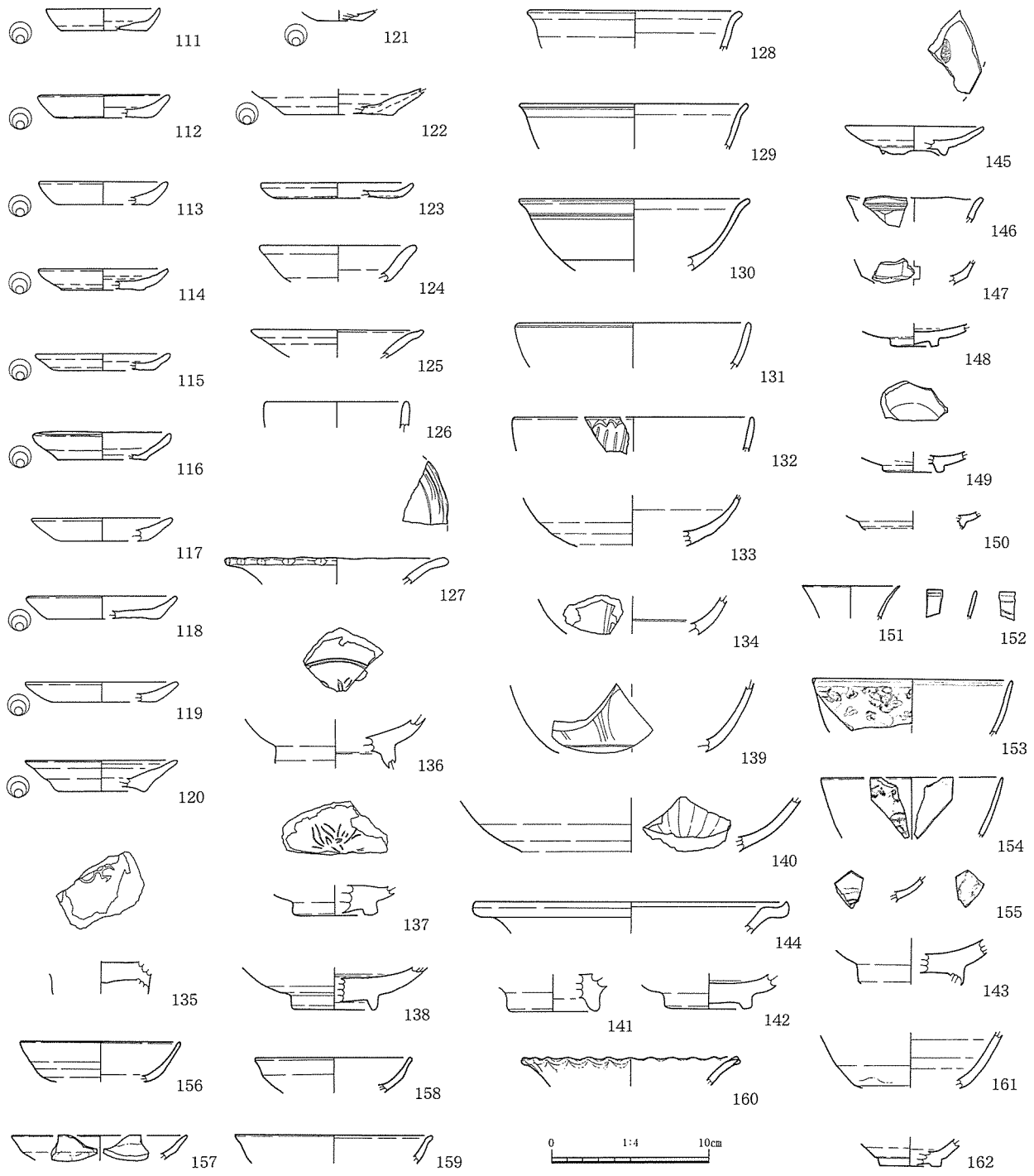


図26　遺構外出土遺物（１）

第６節　中世後期の調査

１）概要

平成13年度調査では１区において東西方向の畦状遺構が検出され、畑跡と推定されている。花粉分析の結果からイネ、およびソバの栽培の可能性があり、かつイネであれば乾田であった可能性が指摘されている（註１）。遺構の時期については、中世前期以降近世以前としかわかっていなかった。この耕作痕以外の遺構は検出されていない。

０区においてはⅢ層上面で１区から続く耕作痕を検出した。今回プラント・オパール分析を行ない、稲作の可能性が高まった。また調査区境に自然流路と考えられる溝、また畑に並行して細い溝２条を検出している。この遺構面は厚く灰色砂質土（Ⅱ層）に覆われており、同層から出土した陶磁器類か

遺物番号	挿図番号	地区 層位遺構	種別	器種	口径（底）	器高	特　　徴	胎土 焼成	色　　調	備考
107	23	Ｆ２ 溝９・Ⅱ層	土師	鍋	＊28.0	△3.45	口縁受け口状の鍋。端部は上方につまみ上げ、三角形状に尖る。口縁外面ナデ。体部外面縦ハケ、内面横ハケは口縁下半部にも施される。ハケメは細かい。外面煤付着。同一個体と思われる破片が溝内から出土した。	粗 良好	外：鈍い赤褐色 内：橙色	
108	23	Ｇ２ 溝９	須恵	鉢	＊27.0	△5.6	体部丸みをもつ、須恵質の鉢。端部やや丸みをもちながら、頂部は面取り。内外面ナデ。	密 良好	灰色	
109	23	Ｆ５ 溝７	土師	杯	＊22.4	△3.25	口縁が外反する、やや大型の杯。内外面ナデ。時期的には古いものの可能性あり。	やや粗 良	鈍い黄橙色、黄褐色	
110	23	Ｆ２ 溝９	瓦質	皿	（＊6.8）	△0.9	薄手のもの。底部回転糸切り。内面は黒色化する。	密 良好	外：灰白色 内：黒色	
111	26	Ｄ６ Ⅰ層	土師	皿	＊7.2	1.4	底部から低く緩やかに立ち上がる。体部から口縁の器壁は薄く、口縁端部はやや尖り気味に収める。底部は外側が厚く、中央部は内側から窪み薄い。内外面ナデ。底部回転糸切り。	密 良好	鈍い黄橙色、外：一部スス付着	
112	26	Ｃ４ Ⅱ層	土師	皿	＊8.2	1.5	直線的に外傾する体部をもつ。口縁端部は丸く収める。内外面ナデ。底部回転糸切り。	密 良	赤褐色	
113	26	Ｄ４ Ⅱ層	土師	皿	＊8.2	1.5	底部から低く緩やかに立ち上がる。器壁は112同様やや厚め。口縁端部は丸く収める。内外面ナデ。底部回転糸切り。	密 良好	橙色	
114	26	Ｃ４ Ⅱ層	土師	皿	＊8.2	1.4	底部から低く緩やかに立ち上がる。器壁は口縁へ向け薄くなる。口縁端部はやや三角形状。内外面ナデ。底部回転糸切り。	密 良好	橙色	
115	26	Ｃ４ Ⅱ層	土師	皿	＊8.6	1.4	外面体部中位はナデにより、やや段状に窪む。口縁端部は丸く収める。底部回転糸切り。	密 良好	浅黄橙色、底部：スス付着	
116	26	Ｄ２ Ⅱ層	土師	皿	＊8.8	1.7	底部非常に薄い。体部はやや湾曲し、口縁端部は内湾気味に立ち上がる。内外面ナデ。底部回転糸切り。胎土に石英など微砂粒多く含み、褐色を呈すなど、他と異なる。	やや粗 良好	鈍い褐色	
117	26	Ｃ３ Ⅱ層	土師	皿	＊9.0	1.5	直線的に外傾する体部をもつ。口縁端部は丸く収める。内外面ナデ。底部回転糸切りか。	密 良好	鈍い橙色	
118	26	Ｃ４ Ⅱ層	土師	皿	＊9.4	1.4	外面体部中位はナデにより、やや窪む。口縁端部は若干面取り状。底部回転糸切り。	密 良好	橙色	
119	26	Ｄ４ Ⅱ層	土師	皿	＊9.8	1.3	底部から低く緩やかに立ち上がる。器壁は112などと同様やや厚め。口縁端部は丸く収める。内外面ナデ。底部回転糸切り。	密 良好	鈍い橙色	
120	26	Ｅ３ Ⅱ層	土師	皿	＊10.0	2.0	外反する口縁部をもつ。端部はやや尖り気味。外面にはナデによる段が明瞭に残る。底部回転糸切り。他と比べやや大型のものである。	密 良好	浅黄橙色	
121	26	Ｄ５ Ⅱ層	土師	皿	（＊3.0）	△0.7	全体的に非常に器壁薄い。体部は丸みをもつ。内外面ナデ。底部回転糸切り。	密 良好	淡黄色	
122	26	Ｄ４ Ⅱ層	土師	杯	（＊7.0）	△1.8	底部器壁薄く、体部は厚い。内外面ナデ。底部回転糸切り。中世前期のものか？	密 良好	淡黄色	
123	26	Ｃ４ Ⅱ層	土師	皿	＊9.8	△1.0	口径と底径に差がほとんどない低い皿。手づくね成形される。	密 良好	鈍い橙色	
124	26	Ｄ４ Ⅱ層	土師	皿	＊10.0	△2.4	器壁が厚い手づくねの皿。口縁端部は外反する。	密 良好	外：灰褐色 内：鈍い黄橙色	
125	26	Ｅ３ Ⅱ層	土師	皿	＊11.0	△1.8	外反し口縁端部はわずかに上方を向く。外面口縁下には強いナデによる段ができ、その下は調整粗い。内面の調整も丁寧で、胎土は非常によい。	密 良好	鈍い黄橙色	
126	26	Ⅰ層	青磁	香炉	＊9.0	△1.7	直立する口縁部。内外とも釉には貫入がみられる。	密 良好	釉：緑灰色 胎土：淡灰白色	
127	26	Ｅ４ Ⅱ層	青磁	稜花皿	＊11.8	△1.7	口縁内面に、口縁形状に沿って波状に刻線文。釉は内外貫入あり。	緻密 良好	釉：緑灰色 胎土：淡灰色	
128	26	Ｄ５ Ⅲ層	青磁	碗	＊13.2	△2.3	口縁が外反する無文碗。上田Ｄ類。	緻密 良好	釉：緑灰色 胎土：淡灰色	
129	26	Ｂ２ Ⅱ層	青磁	碗	＊14.8	△2.9	口縁が外反する無文碗。端部外面はやや面取り状。釉は貫入多い。上田Ｄ類。	緻密 良	釉：淡青緑色 胎土：淡灰色	
130	26	Ｄ４ Ⅰ層	青磁	碗	＊14.8	△4.6	口縁が外反する無文碗。上田Ｄ類。	緻密 良好	釉：緑灰色 胎土：灰色	
131	26	Ｄ６ Ⅱ層	青磁	碗	＊15.0	△2.9	口縁が内湾するもの。口縁外面に一条の沈線が巡る。上田Ｅ類。	密 良好	釉：緑灰色 胎土：淡灰色	
132	26	Ｄ４ Ⅱ層	青磁	碗	＊15.6	△2.2	口縁が直立的に立ち上がる。外面には線描き蓮弁文碗。上田Ｂ－Ⅳ類。	緻密 良好	釉：濃緑色 胎土：淡灰色	
133	26	Ｃ３ Ⅱ層	青磁	碗	－	△3.2	無文の碗。内面には釉の貫入やや多い。	緻密 良好	釉：緑灰色 胎土：淡灰色	
134	26	Ｄ３ Ⅱ層	青磁	碗	－	△2.6	内面見込みに圏線、外面は片切り彫りの蓮弁文。上田Ｂ－Ⅱ類。	緻密 良好	釉：淡青緑色 胎土：淡灰白色	
135	26	Ｃ２ Ⅱ層	磁器	碗	－	△2.05	高台内面から裏は無釉。見込みには蓮弁が線刻される。	緻密 良好	釉：緑灰色 胎土：淡灰白色	
136	26	Ｃ４ Ⅰ層	青磁	碗	－	△3.2	畳付けを越え高台内面まで施釉する。高台裏は露胎。見込みに蓮弁文か。	緻密 良好	釉：淡緑灰色 胎土：淡灰白色	
137	26	Ｅ３ Ⅰ層	青磁	碗	（＊4.2）	△1.95	低く方形な高台が付くもの。畳付けは施釉後剥ぎ取り。高台内面から裏は無釉。見込みには蓮弁文か。	緻密 良好	釉：淡青緑色 胎土：淡灰白色	
138	26	Ｆ２ Ⅱ層	青磁	碗	（＊5.2）	△2.7	高台畳付けまで施釉。高台裏から内面は無釉。釉は貫入多い。	緻密 良好	釉：緑灰色 胎土：淡灰色	
139	26	Ｅ２ Ⅱ層	青磁	碗	－	△4.4	外面に片切り彫りの蓮弁文をもつ。上田Ｂ－Ⅱ類。	緻密 良好	釉：淡緑灰色 胎土：淡灰白色	
140	26	Ｄ４ Ⅱ層	磁器	碗	－	△3.5	外面無文、内面に蓮弁状の文様をもつ。	緻密 良好	釉：濃緑色 胎土：淡灰色	
141	26	Ｄ５ Ⅱ層	青磁	碗	（＊5.5）	△2.4	丸みをもつ高台端部である。高台内面まで厚く施釉され、高台裏のみ無釉。境界が赤褐色になっている。	緻密 良好	釉：緑灰色 胎土：淡灰色	
142	26	Ｅ２ Ⅱ層	青磁	碗	（＊4.5）	△2.3	低く方形な高台が付くもの。畳付けは施釉後剥ぎ取りか。薄く釉が残る。高台内面から裏は無釉。137と形態、施釉方法などは同じだが、釉は異なる。	密 良	釉：緑灰色 胎土：灰色	
143	26	Ｇ５ Ⅰ層	青磁	碗	－	△2.95	高台内面まで施釉され、高台裏のみ無釉のもの。内外とも釉は厚い。	緻密 良好	釉：濃緑色 胎土：淡灰色	
144	26	Ｄ３ Ⅱ層	青磁	盤	＊20.3	△2.05	頸部で「く」字状に折れ、口縁端部を上方につまみ上げている。端部は尖り気味。釉は貫入多い。	緻密 良	釉：緑灰色 胎土：淡灰色	
145	26	Ｄ５ Ⅱ層	白磁	皿	＊8.8	1.95	抉り高台をもつ皿。見込みには重ね焼きの際の目痕が残る。釉は光沢をもつ。森田Ｄ群。	緻密 良好	釉：灰白色 胎土：灰白色	
146	26	Ｄ５ Ⅱ層	白磁	多角杯	＊8.4	△1.6	口縁波状になり、体部にも六角形の面取りが連続する。森田Ｄ群。	緻密 良好	釉：灰白色 胎土：灰白色	
147	26	Ｅ４ Ⅱ層	白磁	多角杯	－	△1.55	体部の腰折れ部やや下からは露胎。貫入多い。森田Ｄ群。	緻密 良好	釉：乳白色 胎土：灰白色	
148	26	Ｄ３ Ⅰ層	白磁	皿	（2.2）	△1.45	断面が方形を呈する輪高台をもつ。体部下半から下露胎。釉には貫入多い。破断面に煤状のものが付着しており、二次焼成を受けた可能性がある。森田Ｄ群。	緻密 良好	釉：乳白色 胎土：灰白色	

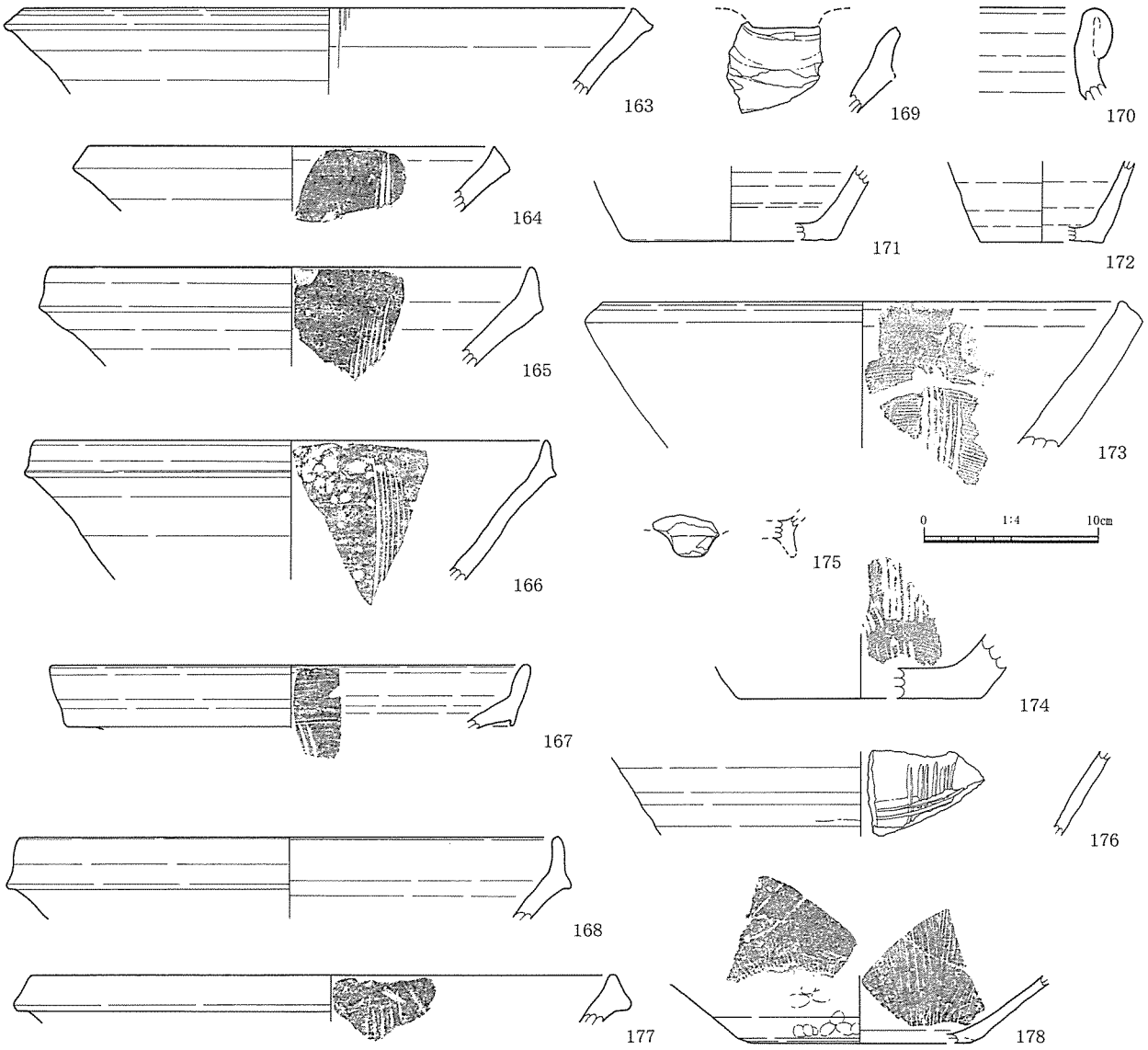


図27　遺構外出土遺物（２）

表13　図23・26土器・陶磁器観察表

遺物番号	挿図番号	地区 層位遺構	種別	器種	口径（底）	器高	特　　徴	胎土 焼成	色　　調	備考
149	26	Ｈ４ Ⅰ層	磁器	高台	（＊3.4）	△1.25	輪高台はやや端部が丸みをもつ。体部下半から下露胎。釉には貫入多い。見込みは輪状に釉剥ぎ。森田Ｄ群。	緻密 良好	釉：乳白色 胎土：灰白色	
150	26	Ｄ４ Ⅱ層	白磁	皿	－	△1.2	高台端部が尖り気味のもの。鉄分の影響か全体的に黄ばんだ感じ。森田Ｅ－１群。	緻密 良好	釉：乳白色 胎土：灰白色	
151	26	Ｄ４ Ⅱ層	白磁	杯	＊6.4	△2.1	器壁非常に薄い。口縁端部はシャープながら、外面に若干釉が溜まる。森田Ｅ－２群。	密 良好	釉：灰白色 胎土：灰白色	
152	26	Ｃ２ Ⅱ層	青花	碗	－	△1.8	ほぼ直立する口縁をもつ。器壁薄い。	緻密 良好	釉：灰白色 胎土：灰白色	
153	26	Ｃ２ Ⅰ層	青花	碗	＊13.0	△3.5	丸みをもち直立気味の口縁。外面に唐草文。小野Ｃ類碗。	密 良好	釉：灰白色 胎土：灰白色	
154	26	Ｂ３ Ⅱ層	青花	碗	＊11.8	△3.85	あまり体部に丸みをもたない。胎土やや軟質で、呉子の色も濃い。漳州窯系。	やや粗 良	釉：灰白色 胎土：灰白色	
155	26	表土	青花	碗	－	△1.0	丸みをもつ体部。外面唐草文か。小野Ｃ類碗であろう。	密 良好	灰白色	
156	26	Ｅ４ Ⅱ層	陶器	皿	＊10.2	△2.6	体部やや丸みをもつ皿。内外面とも赤褐色の釉がかけられる。備前産と考えられ、県内では日南町霞の要害跡でも出土している。	緻密 良好	暗赤褐色	
157	26	Ｅ２ Ⅱ層	陶器	皿	＊11.2	△1.6	体部でやや屈曲するもの。外面は体部下位、内面は口縁部のみ施釉する。瀬戸美濃産。	緻密 良	釉：淡緑灰 胎土：灰白色	
158	26	Ｄ４ Ⅱ層	陶器	皿	＊10.05	△2.3	体部でやや屈曲するもの。157と異なり残存部においては全面に施釉する。瀬戸美濃産。	緻密 良好	釉：淡緑灰 胎土：淡褐色	
159	26	Ｃ２ Ⅱ層	陶器	天目茶碗	＊12.9	△1.85	口縁端部が緩く外反。全体的に磨滅気味。瀬戸美濃産。	緻密 良好	釉：暗褐色 胎土：淡灰褐色	
160	26	Ｄ６ Ⅱ層	陶器	輪花皿	＊13.8	△1.8	口縁は小さな波状が連続する。釉は貫入多い。瀬戸美濃産。	緻密 良好	釉：淡緑灰 胎土：灰白色	
161	26	Ｃ２ Ⅱ層	陶器	天目茶碗	－	△3.6	外面体部下位以下露胎。内外とも釉は薄い。瀬戸美濃産。	緻密 良好	釉：暗褐色 胎土：淡灰褐色	
162	26	Ｅ３ Ⅱ層	陶器	天目茶碗	（＊2.8）	△1.8	低い高台が付く。残存部分の外面は露胎。瀬戸美濃産。	緻密 良好	釉：暗褐色 胎土：淡灰褐色	

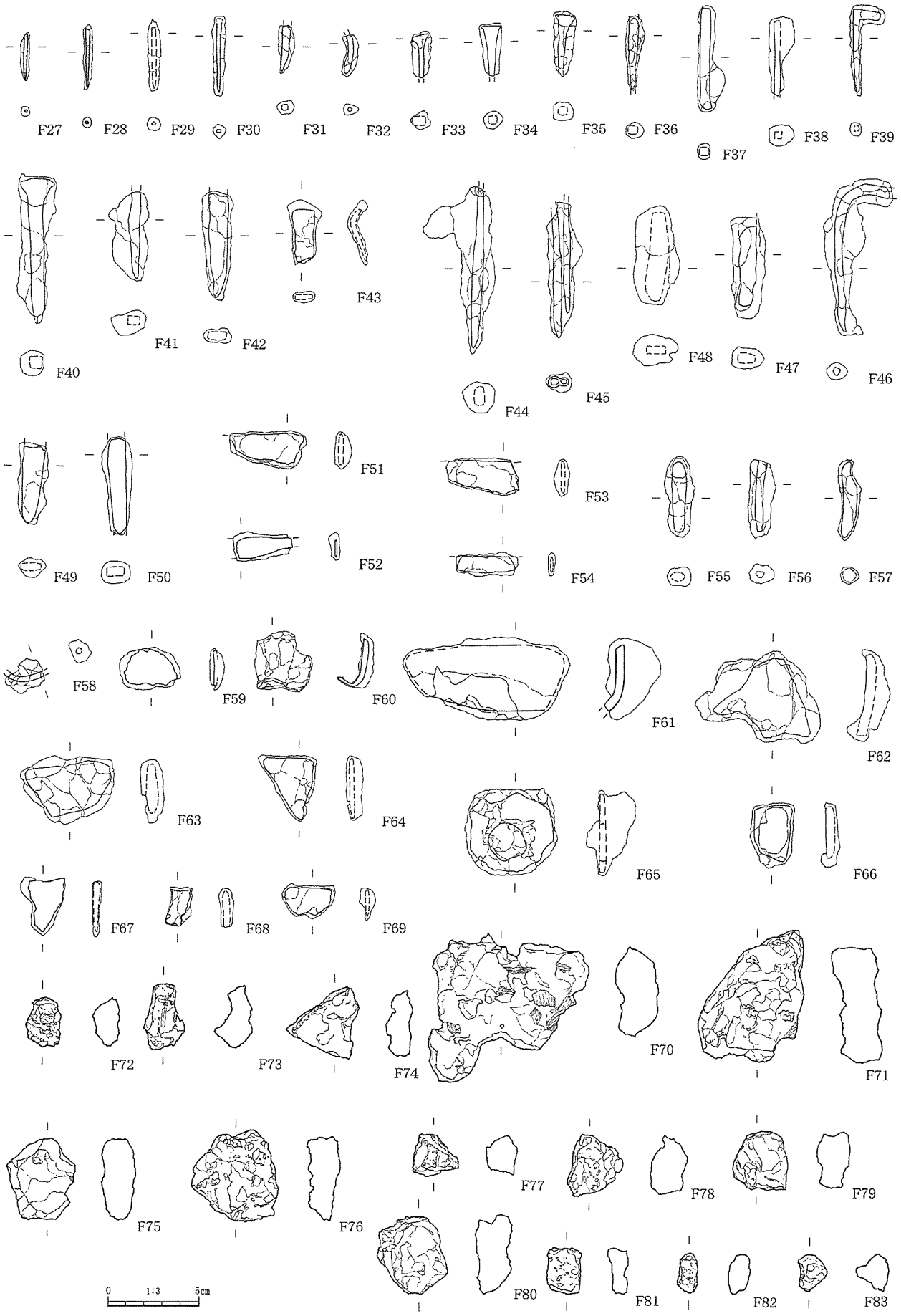


図28　遺構外出土遺物（３）

表14　図27土器・陶磁器観察表

遺物番号	挿図番号	地区 層位遺構	種別	器種	口径（底）	器高	特徴	胎土 焼成	色調	備考
163	27	Ⅰ層	陶器	擂鉢	＊35.5	△5.05	口縁端部は平坦でやや上下に拡張気味。擂り目は疎らである。乗岡中世４ａ期。	緻密 良好	灰褐色	
164	27	Ｂ２ Ⅰ層	陶器	擂鉢	＊23.8	△ 3.8	口縁端部は平坦で163よりも上方に拡張される。擂り目は疎らである。乗岡中世４ｂ期。	緻密 良好	暗赤褐色	
165	27	Ｄ４ Ⅱ層	陶器	擂鉢	＊28.2	△5.75	口縁部が上方に拡張され、端部は丸く収められる。乗岡中世５ａ期。	緻密 良	暗赤褐色	
166	27	Ｄ５ ２層	陶器	擂鉢	＊30.0	△8.15	口縁部が上方に拡張され、端部はやや尖り気味。口縁下端部はやや垂下し、鋭角な突出部をもつ。擂り目は７＋αを一単位とする。乗岡中世５ａ期。	緻密 良好	暗褐色	
167	27	Ｇ４ 溝12	陶器	擂鉢	＊28.0	△ 3.7	口縁部が上方に拡張され、外傾する。端部は丸く収める。口縁下端部はやや垂下し、突出部をもつ。乗岡中世５ａ期。	緻密 良好	暗赤褐色	
168	27	Ｃ２ Ⅰ層	陶器	擂鉢	＊31.4	△ 4.8	口縁部が上方に拡張され、端部は丸く収める。口縁下端部はやや垂下する。乗岡中世５ａ期。	緻密 良好	暗赤褐色	
169	27	Ｅ５ Ⅰ層	陶器	擂鉢	－	△ 5.0	擂鉢の受け口部。口縁部が上方に拡張され、端部は丸く収める。乗岡中世５ａ期。	緻密 良好	外：赤褐色 内：暗灰色	
170	27	表土	陶器	甕	－	△ 5.3	口縁部は折り返して玉縁状を呈する。乗岡中世４ｂ期。	緻密 良	黒褐色	
171	27	Ⅰ層	陶器	甕	（＊12.2）	△ 4.4	備前産甕の底部。	緻密 良好	外：黒褐色 内：灰色	備前
172	27	Ｂ２	陶器	甕	（＊7.2）	△ 4.7	備前産小型甕の底部。	緻密 良好	灰白色	
173 174	27	Ⅰ４ Ⅰ層	瓦質？	擂鉢	＊30.2	△ 8.5	口縁部は断面矩形で、端面はやや窪む。内面横方向のハケ後擂り目を施す。	やや粗 やや軟	灰褐色	
175	27	Ｅ５ Ⅱ層	土師	火鉢	－	△ 2.4	丸みをもった逆さ台形状の高台。	やや粗 やや軟	淡橙褐色	
176	27	Ｆ５ Ⅰ層	陶器	卸皿	－	△ 4.9	縦・横方向に擂り目がはいる。瀬戸美濃産。	緻密 良好	灰白色	
177	27	Ⅰ層	土師	擂鉢	＊33.9	△2.75	口縁端部がやや上方に拡張され、口縁外面はやや窪む。口縁端部近くから擂り目が施される。	やや粗 やや軟	鈍い黄橙色	
178	27	Ｃ２ Ⅱ層	瓦質？	擂鉢	（＊13.4）	△3.95	細かいハケメ状のものが縦位に施される。105などに胎土など似るが、器壁薄い。外面に指頭圧痕が目立つ。	やや粗 良	灰白色	

らみて、これらの遺構は15世紀代のものといえよう。　（中森）

２）検出した遺構と遺物

溝７・８（図23）

どちらも幅0.5～0.8m、深さ0.3m前後の溝である。溝７は溝９と畑跡を囲むように位置し、おそらく溝９につながっていたと考えられる。また、北西部には土坑状の大きな窪みが２基連続し、砂が互層状に堆積していた。あるいは井戸状に掘られたものであろうか。溝８は溝７より11mほど南西に位置し、並行する。畑との関係、およびどちらも規模が一定であることからみて、人為的に掘削されたものであろう。またこの溝間に遺構は検出していないが、耕作地であった可能性は考えられよう。

（中森）

溝９（図23、図版10－１・３）

１区との調査区境に位置し、溝の東肩は１区にあたるが、前回の調査で確認されていないためその幅についてはわからない。もっとも南で最大の検出幅が2.7mほどを測ることから、３m以上の幅をもつものであったと推定される。検出した長さは32mを越え、北側は東（１区側）へ曲がっていく。南側底面は小さなピット状の窪みが連続し、比較的流れの急な流路であったことが窺える。また断面をみても、この溝は少なくとも２段階あったことが確認できた。この溝を境に等高線が変わり、それに沿って畑が作られており（図25）、畑へ水を取り込む役割を担っていたものと考えられる。（中森）

畑跡（図24・25、図版10－４）

調査地北側で検出した。畦状遺構はやや北向きだがほぼ東西方向を向き、等高線に沿ってつくられている。畦の幅は0.3～0.5m、高さは0.1m前後と低い。畦間は0.4～1.0mと幅にばらつきがあり、１区においては密にあることと様相が異なる。　（中森）

遺構外出土遺物（図26～28、カラー図版３－４）

Ⅱ層からはまとまって当該期の遺物が出土している。土師器は底部回転糸切りの皿、貿易陶磁では青磁が主体を占める。また白磁はＤ群であり、青花はわずかであった。国産陶器では備前産擂鉢（註

表15　図28鉄製品観察表

遺物番号	構成No	挿図番号	遺物名	地区	層位遺構	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	磁着度	メタル度	備考
27	㉖	28	鉄製品（鍛造品）釘	Ｄ３	Ⅱ層	0.5	2.65	0.55	0.9	1	錆化（△）	
28	㉗	28	鉄製品（鍛造品）釘	Ｄ３	Ⅱ層	0.5	3.6	0.5	1.2	1	錆化（△）	
29	㉘	28	鉄製品（鍛造品）棒状不明	Ｂ２	Ⅱ層下層	0.75	3.9	0.8	2.4	1	錆化（△）	
30	㉙	28	鉄製品（鍛造品）釘	Ｄ３	Ⅱ層	0.8	4.4	0.8	3.5	1	錆化（△）	
31	㉚	28	鉄製品（鍛造品）釘	Ｂ２	Ⅱ層下層	0.9	2.65	0.75	2.0	1	錆化（△）	
32	㉛	28	鉄製品（鍛造品）釘	Ｃ３	Ⅱ層	0.8	2.25	0.6	1.5	1	錆化（△）	
33	㉜	28	鉄製品（鍛造品）釘	Ｄ５	Ⅱ層	1.15	2.6	1.0	3.8	1	錆化（△）	
34	㉝	28	鉄製品（鍛造品）釘	Ｃ４	Ⅱ層	1.3	2.85	1.0	3.3	1	錆化（△）	
35	㉞	28	鉄製品（鍛造品）釘	Ｆ３	Ⅱ層	1.3	3.55	1.05	8.2	1	錆化（△）	
36	㉟	28	鉄製品（鍛造品）釘	Ｆ３	Ⅱ層	1.1	4.1	0.9	3.8	1	錆化（△）	
37	㊱	28	鉄製品（鍛造品）釘	Ｃ３	Ⅱ層	1.6	5.85	0.9	11.2	1	錆化（△）	
38	㊲	28	鉄製品（鍛造品）釘	Ｂ２	Ⅱ層下層	1.4	4.3	1.2	6.9	1	錆化（△）	
39	㊳	28	鉄製品（鍛造品）釘？	Ｆ３	Ⅱ層	1.8	5.0	0.75	4.6	1	錆化（△）	
40	㊴	28	鉄製品（鍛造品）釘	Ｃ４	Ⅱ層～下	2.05	8.15	1.45	35.8	2	錆化（△）	
41	㊵	28	鉄製品（鍛造品）釘？	Ｄ４	Ⅱ層	2.3	4.8	1.4	16.8	2	錆化（△）	
42	㊶	28	鉄製品(鍛造品)平頭釘、船釘？	Ｃ３	Ⅱ層	1.85	6.0	8.5	13.4	2	錆化（△）	
43	㊷	28	鉄製品(鍛造品)平頭釘、船釘？	Ｄ４	Ⅱ層	1.9	3.6	0.7	9.5	2	錆化（△）	
44	㊸	28	鉄製品（鍛造品）鉈？	Ｅ４	Ⅱ層	4.0	9.15	1.75	56.5	1	Ｌ（●）	
45	㊹	28	鉄製品（鍛造品）鉈？	Ｂ２	Ⅱ層下層	2.0	7.5	1.15	17.4	2	錆化（△）	
46	㊺	28	鉄製品（鍛造品）鈎状不明	Ｄ３	Ⅱ層	2.5	8.65	1.0	26.6	1	錆化（△）	
47	㊻	28	鉄製品（鍛造品）鏨	Ｄ３	Ⅱ層	1.85	5.6	1.3	27.6	3	Ｌ（●）	
48	㊼	28	鉄製品（鍛造品）鏨？	Ｄ３	Ⅱ層	2.5	5.45	1.75	28.0	1	錆化（△）	
49	㊽	28	鉄製品（鍛造品）鏨	Ｄ５	Ⅱ層	1.7	4.5	1.15	11.0	2	錆化（△）	
50	㊾	28	鉄製品（鍛造品）鏨	Ｆ３	Ⅱ層	1.7	5.4	1.25	14.8	1	錆化（△）	
51	㊿	28	鉄製品（鍛造品）刀子	Ｅ３	Ⅱ層	4.25	2.1	0.95	8.5	1	錆化（△）	
52	51	28	鉄製品（鍛造品）刀子	Ｄ４	Ⅱ層	3.2	1.65	0.65	5.5	2	錆化（△）	
53	52	28	鉄製品（鍛造品）刀子	Ｃ３	Ⅱ層	4.05	2.1	0.9	10.8	1	錆化（△）	
54	53	28	鉄製品（鍛造品）刀子？	Ｃ２	Ⅱ層	3.4	1.35	0.45	3.4	2	錆化（△）	
55	54	28	鉄製品（鍛造品）棒状不明	Ｅ２	Ⅱ層下層	1.7	4.5	1.1	10.0	1	錆化（△）	
56	55	28	鉄製品（鍛造品）棒状不明	Ｇ２	溝７	1.5	4.35	1.1	7.9	1	錆化（△）	
57	56	28	鉄製品（鍛造品）棒状不明	Ｅ２	Ⅱ層下層	1.2	4.45	1.0	5.8	2	錆化（△）	
58	57	28	鉄製品（鍛造品）棒状不明	Ｅ２	Ⅱ層下層	2.2	2.0	1.25	4.9	1	錆化（△）	
59	58	28	鉄製品（鍛造品）紋金具	Ｆ２	Ⅱ層	3.35	2.35	8.5	9.6	1	錆化（△）	
60	59	28	鉄製品（鍛造品）紋金具	Ｄ３	Ⅱ層下層	3.2	3.3	0.8	12.0	1	錆化（△）	
61	60	28	鉄製品（鋳造品）鍋、口縁部	Ｄ３	Ⅱ層下層	9.3	4.5	3.0	122.0	2	錆化（△）	
62	61	28	鉄製品（鋳造品）鍋？	Ｄ４	Ⅱ層	7.0	5.0	2.45	67.0	2	錆化（△）	
63	62	28	鉄製品（鋳造品）鍋？	Ｄ４	Ⅱ層	5.2	3.75	1.3	27.0	1	錆化（△）	
64	63	28	鉄製品（鋳造品）鍋？	Ｃ４	Ⅱ層	3.2	3.65	0.9	9.3	1	錆化（△）	
65	64	28	鉄製品（鋳造品）	Ｄ５	Ⅱ層	5.2	4.75	2.75	66.5	2	錆化（△）	
66	65	28	鉄製品（鋳造品）鍋？	Ｅ４	Ⅱ層	2.5	3.6	1.05	12.6	2	錆化（△）	
67	66	28	鉄製品（鋳造品）鍋？	Ｃ２	Ⅱ層	2.45	3.25	0.6	9.2	3	錆化（△）	
68	67	28	鉄製品（鋳造品）鍋？	Ｅ４	Ⅱ層	1.4	2.15	0.9	3.5	2	錆化（△）	
69	68	28	鉄製品（鋳造品）板状不明	Ｅ２	Ⅱ層	2.95	1.95	0.9	5.5	1	錆化（△）	
70	69	28	椀形鍛冶滓（含鉄、中）	Ｅ４	Ⅱ層下層	9.0	8.25	2.45	204.0	2	錆化（△）	
71	70	28	椀形鍛冶滓（中）	Ｄ４	Ⅱ層	5.95	7.35	2.9	158.0	4	なし	
72	71	28	椀形鍛冶滓（小）	Ｅ２	Ⅱ層	2.0	2.8	1.6	7.8	1	なし	
73	72	28	椀形鍛冶滓（小）	Ｄ５	Ⅱ層	2.3	3.65	2.2	18.2	2	なし	
74	73	28	椀形鍛冶滓（小）	Ｄ６	Ⅱ層下層	4.05	4.0	1.55	21.6	2	なし	
75	74	28	椀形鍛冶滓（小）	Ｃ４	Ⅱ層	3.85	4.5	1.95	43.4	2	なし	
76	75	28	椀形鍛冶滓（小）	Ｂ２	Ⅱ層	4.85	5.05	1.95	60.5	1	なし	
77	76	28	椀形鍛冶滓（小）（含鉄）	Ｃ３	Ⅱ層下層	2.6	2.35	1.75	11.6	1	なし	
78	77	28	椀形鍛冶滓（小）（含鉄）	Ｃ２	Ⅱ層上層	3.05	3.45	2.15	28.0	2	錆化（△）	
79	78	28	椀形鍛冶滓（小）（含鉄）	Ｄ５	Ⅱ層	3.1	3.3	1.8	22.4	4	錆化（△）	
80	79	28	椀形鍛冶滓（含鉄）	Ｄ４	Ⅱ層	3.95	4.35	2.1	49.4	4	錆化（△）	
81	80	28	椀形鍛冶滓（極小）	Ｃ２	Ⅱ層下層	1.95	2.6	1.2	7.6	1	なし	
82	81	28	鍛冶滓	Ｄ３	Ⅱ層下層	1.2	1.25	1.25	4.6	1	なし	
83	82	28	鍛冶滓（含鉄）	Ｃ２	Ⅱ層	1.65	2.1	1.9	6.4	1	錆化（△）	

２）が多く、これらから本層の主要な年代は15世紀前半にあるが、後半に下がるものが若干みられる。また鉄に関しては鉄製品が多く、鍛冶滓は少ない。このことは、工具など製品の補修程度の小規模な鍛冶が行なわれていたことを示すのであろう。（中森）

（註１）渡辺正己　2001「茶畑六反田遺跡における花粉分析」八峠ほか編『茶畑六反田遺跡他』所収

（註２）乗岡　実　2000「備前焼擂鉢の編年について」『第3回中近世備前焼研究会資料』

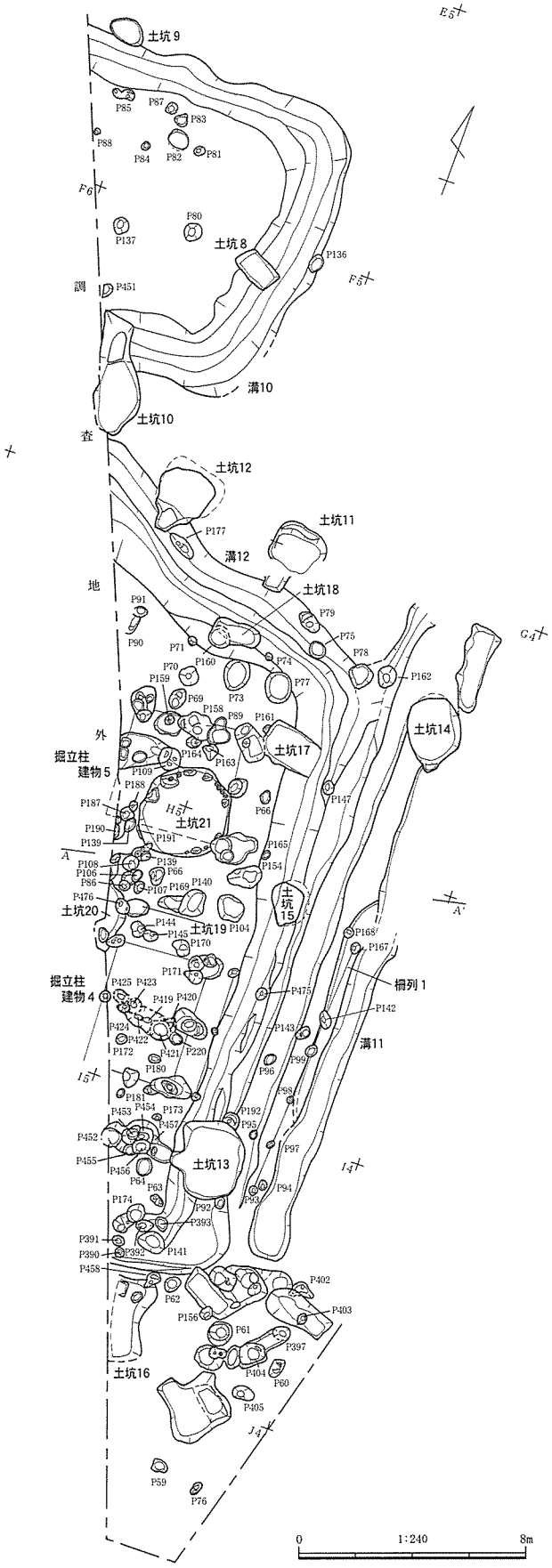


図29　近世遺構分布

第７節　中世末～近世の調査

１）概要

平成13年度調査では遺構は確認されておらず、今回の調査でも調査区南西隅からまとまって検出したのみで、遺構面は後世の耕作に際し削平されている。そして遺構群は県道下へと続いている。

遺構群には大きく２群ある。「コ」字状の溝が南北に連続し、これらに囲まれるような範囲であり、北側をＡ群、南側をＢ群としておく。またＢ群は非常に遺構密度が濃い。後述するように、遺構の切り合いから少なくとも２時期がある。しかし遺構埋土が灰褐色あるいは黄灰色系で、これらに黄・白・褐・黒褐など様々な色の粒土が混じるため、各遺構の同時性を確認することは難しかった。これら遺構には16世紀～17世紀初頭の貿易陶磁器や国産陶器がまとまって伴って出土しており、県内の当該期資料として数少ない良好なものといえよう。（中森）

２）検出した遺構と遺物

Ａ群は溝10に囲まれた範囲である。土坑は２基あるが、どちらも溝に切られるため、溝10より古い。また溝に囲まれた範囲内にはピットがあるが、それらが建物を構成するような配列は見出せなかった。

溝10（図30、図版11－１）

ほぼ南北方向を向く軸は径約5.5ｍを測り、北側で西へ屈曲し５ｍのところで調査区境にあたる。南北軸と同じ長さであれば、調査区境あたりから南へ屈曲し「ロ」字状になるのであるが、確認できなかった。溝内から出土した遺物で図化し得たのはＦ85のみである。時期を判断する土器類も少なかったが、埋土などと合わせ、幅はあるがＢ群と同時期と考えられる。（中森）

土坑８（図30、図版11－５）

溝10東軸に切られる土坑。長径1.0ｍ、短径0.6ｍの長方形で、深さ0.5ｍほどを測る。底面中央やや西よりから板状鉄製品（Ｆ84）が出土した。土坑の形態から墓である可能性が考えられ、溝との切り合いから中世末以前に比定できよう。（中森）

土坑９（図30、図版11－４）

溝10北側に位置し、わずかに切られる。長径0.8m、短径0.6mほどの楕円形で、検出した深さは５cmほどであった。埋土は土坑８最下層（⑤層）に類似するため、同時期のものと考えられる。（中森）

Ｂ群（カラー図版２－４、図版12）はほぼ溝12の範囲である。この溝の内側は掘り窪められ、その中に互層状に堆積する（図30Ａ－Ａ'、図版15－１）。①、②、④層は近世後期までの遺物を含み、それ以下が近世初頭までの包含層となる。③層は溝12に切られ、その東側の一段高いところに広がる。この層は西の低い部分には堆積しない。また溝12に切られる遺構で、最下層の⑥（１ｅ）層に相当する土を埋土にもつものがほとんどないことなどから、この窪地は溝12掘削に伴ってできた可能性が考えられよう。切り合い関係から溝12と土坑21が後続するもので、他の遺構の大半が前半期に属すると思われる。とくに大型の土坑群は溝12に沿ってあり、さらにこれに切られることから、ほぼ同時期にあった可能性が考えられる。また土坑11～15は凸形を呈し、いずれも凸部が溝12の内側、すなわち掘立柱建物など遺構の集中部を向いており、それぞれ有機的な関係が想定されよう。

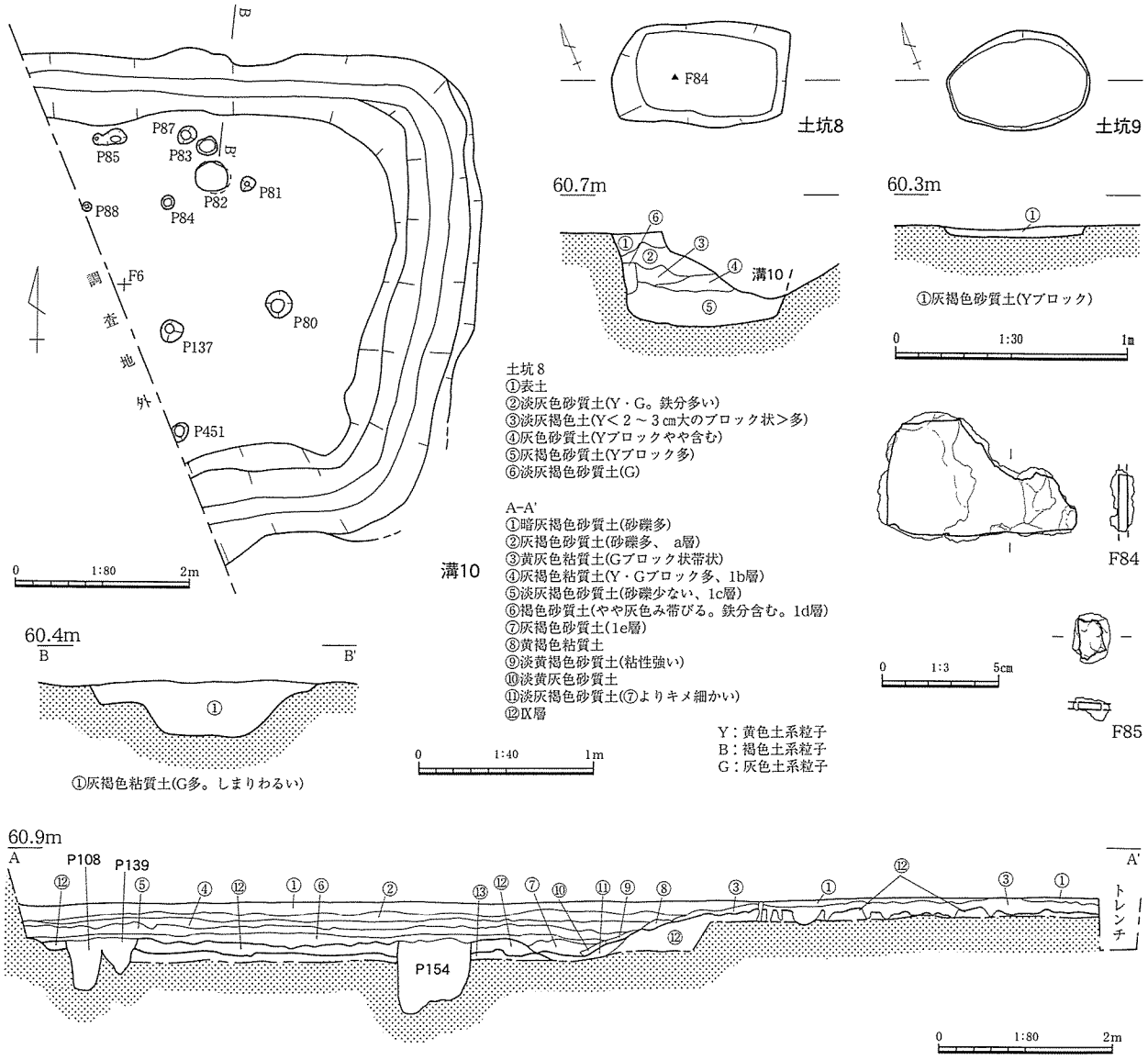
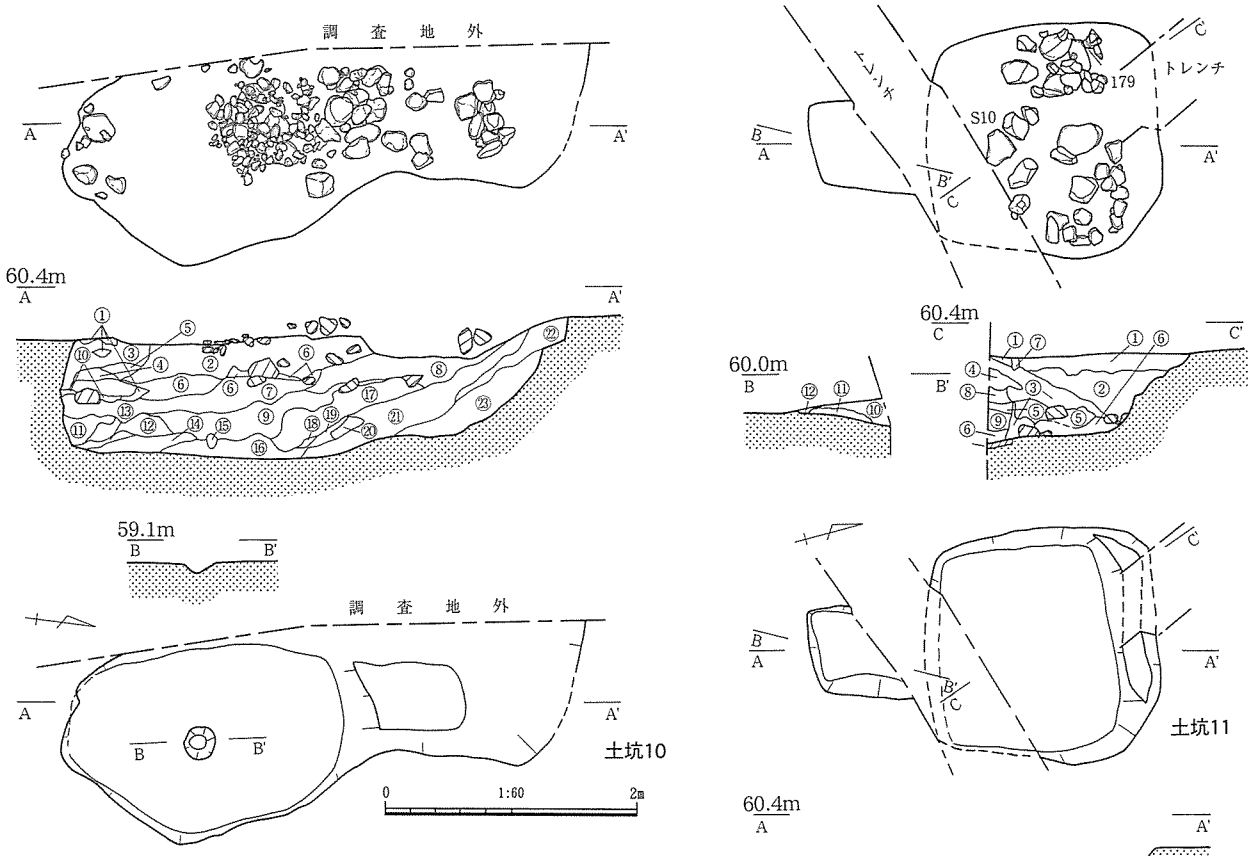


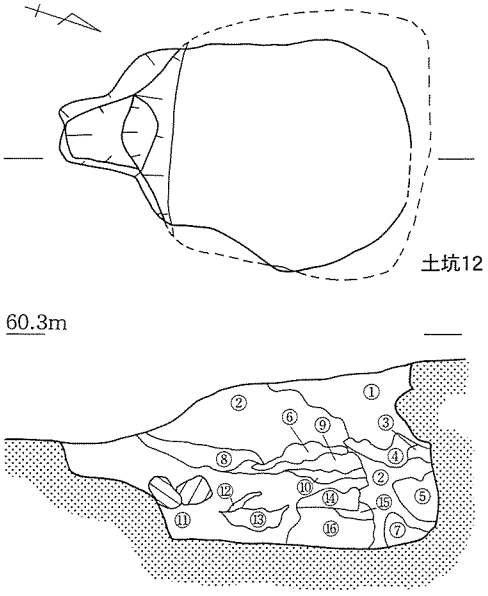
図30　土坑８・９、溝10、遺構群内土層断面、および出土遺物



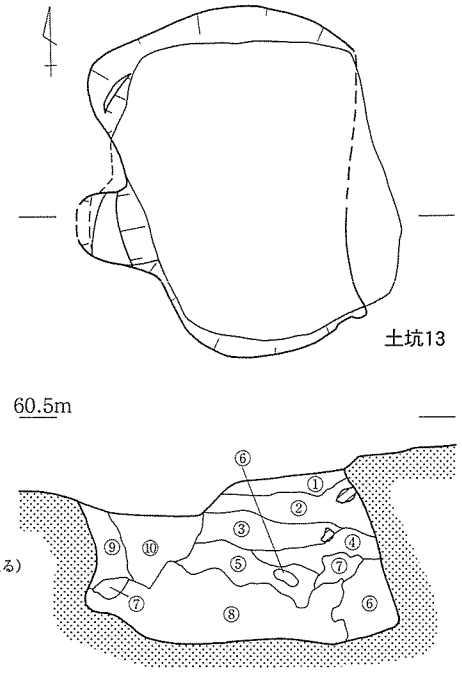
①灰白色シルト　ブロック
②灰褐色砂質土(礫多く含む)
③褐色砂質土(①層多く含む)
④褐色砂質土(③層より明るい)
⑤灰色砂質土
⑥暗灰色砂質土
⑦灰色砂質土(Y多)
⑧灰褐色砂質土(Y多)
⑨黒灰色砂質土(Y少)
⑩淡黄褐色土(Y・B多。ブロック状)
⑪暗灰褐色砂質土(Y・G・B)
⑫暗褐色砂質土(非常に均質。シルト質)
⑬淡黄灰色砂質土(シルト質)
⑭褐色砂質土(G、Yブロック多)
⑮⑭層ブロック
⑯暗灰褐色砂質土(⑪層に類似。Y・G・B多)
⑰黄灰色砂質土(シルト質。B)
⑱暗灰褐色土(Y・B)
⑲淡灰褐色砂質土(G)
⑳灰褐色砂質土(シルト質)
㉑⑯層に類似
㉒灰色砂質土(Y・B多)
㉓暗黄灰褐色砂質土(Y・B多)

①黄褐色砂質土
　(褐色み強い。Y・G・Bブロック多)
②暗灰色砂質土
　(Y・G・Bブロック、粒多)
③灰色砂質土(Y少)
④灰褐色砂質土(ブロック状)
⑤灰褐色砂質土(キメ細かい)
⑥淡黄灰褐色砂質土(Y・B少)
⑦灰色砂質土
⑧灰色砂質土
　(③層に類似。Yを含まない)
⑨淡黄色砂(シルト質)
⑩淡灰褐色砂質土(Y・B少)
⑪暗褐色砂質土(Y・G・B多)
⑫溝12埋土

Y：黄色土系粒子
B：褐色土系粒子
G：灰色土系粒子

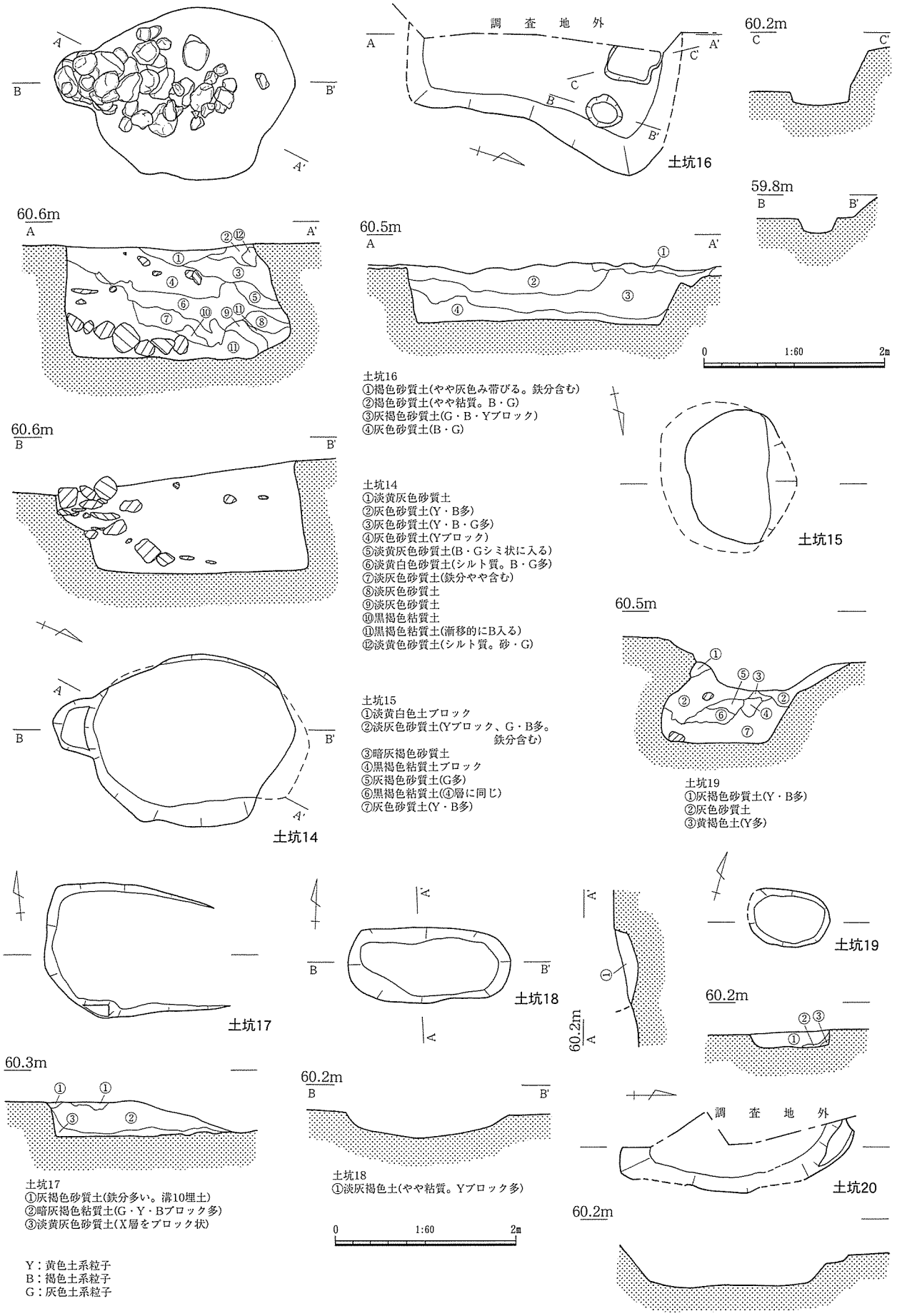


土坑13
①灰褐色砂質土(Y・B)
②灰褐色砂質土(⑪層と同じか？)
③灰色砂質土
　(鉄分含む。④層よりやや暗い)
④淡黄灰色砂質土(シルト質)
⑤灰褐色砂質土(G・B多)
⑥褐色砂質土ブロック
　(やや粘質。⑧層と同じ)
⑦暗褐色粘質土ブロック
⑧褐色砂質土
　(やや粘性。B・Gブロック)
⑨灰色砂質土(鉄分やや含む)
⑩灰色砂質土(Y・B多)



①淡黄灰色砂質土(Yブロック)
②灰色砂質土(Yブロック多)
③灰色砂質土ブロック(やや粘質)
④黄灰色砂質土ブロック
⑤④に同じ(Yブロック)
⑥灰色砂質土
⑦黒褐色粘質土ブロック
⑧灰色砂質土(Y、B)
⑨灰褐色砂質土
⑩淡黄灰色砂質土
⑪黄灰色砂質土(④多)
⑫暗灰褐色砂質土
⑬⑦層に同じ
⑭灰黄色砂質土(シルト質。④層より灰色み強い)
⑮灰色砂質土(シルト質)
⑯黒褐色砂質土(⑨層に似る)

図31　土坑10～13



土坑16
①褐色砂質土(やや灰色み帯びる。鉄分含む)
②褐色砂質土(やや粘質。B・G)
③灰褐色砂質土(G・B・Yブロック)
④灰色砂質土(B・G)

土坑14
①淡黄灰色砂質土
②灰色砂質土(Y・B多)
③灰色砂質土(Y・B・G多)
④灰色砂質土(Yブロック)
⑤淡黄灰色砂質土(B・Gシミ状に入る)
⑥淡黄白色砂質土(シルト質。B・G多)
⑦淡灰色砂質土(鉄分やや含む)
⑧淡灰色砂質土
⑨淡灰色砂質土
⑩黒褐色粘質土
⑪黒褐色粘質土(漸移的にB入る)
⑫淡黄色砂質土(シルト質。砂・G)

土坑15
①淡黄白色土ブロック
②淡灰色砂質土(Yブロック、G・B多。鉄分含む)
③暗灰褐色砂質土
④黒褐色粘質土ブロック
⑤灰褐色砂質土(G多)
⑥黒褐色粘質土(④層に同じ)
⑦灰色砂質土(Y・B多)

土坑19
①灰褐色砂質土(Y・B多)
②灰色砂質土
③黄褐色土(Y多)

土坑17
①灰褐色砂質土(鉄分多い。溝10埋土)
②暗灰褐色粘質土(G・Y・Bブロック多)
③淡黄灰色砂質土(X層をブロック状)

土坑18
①淡灰褐色土(やや粘質。Yブロック多)

Y：黄色土系粒子
B：褐色土系粒子
G：灰色土系粒子

図32　土坑14～20

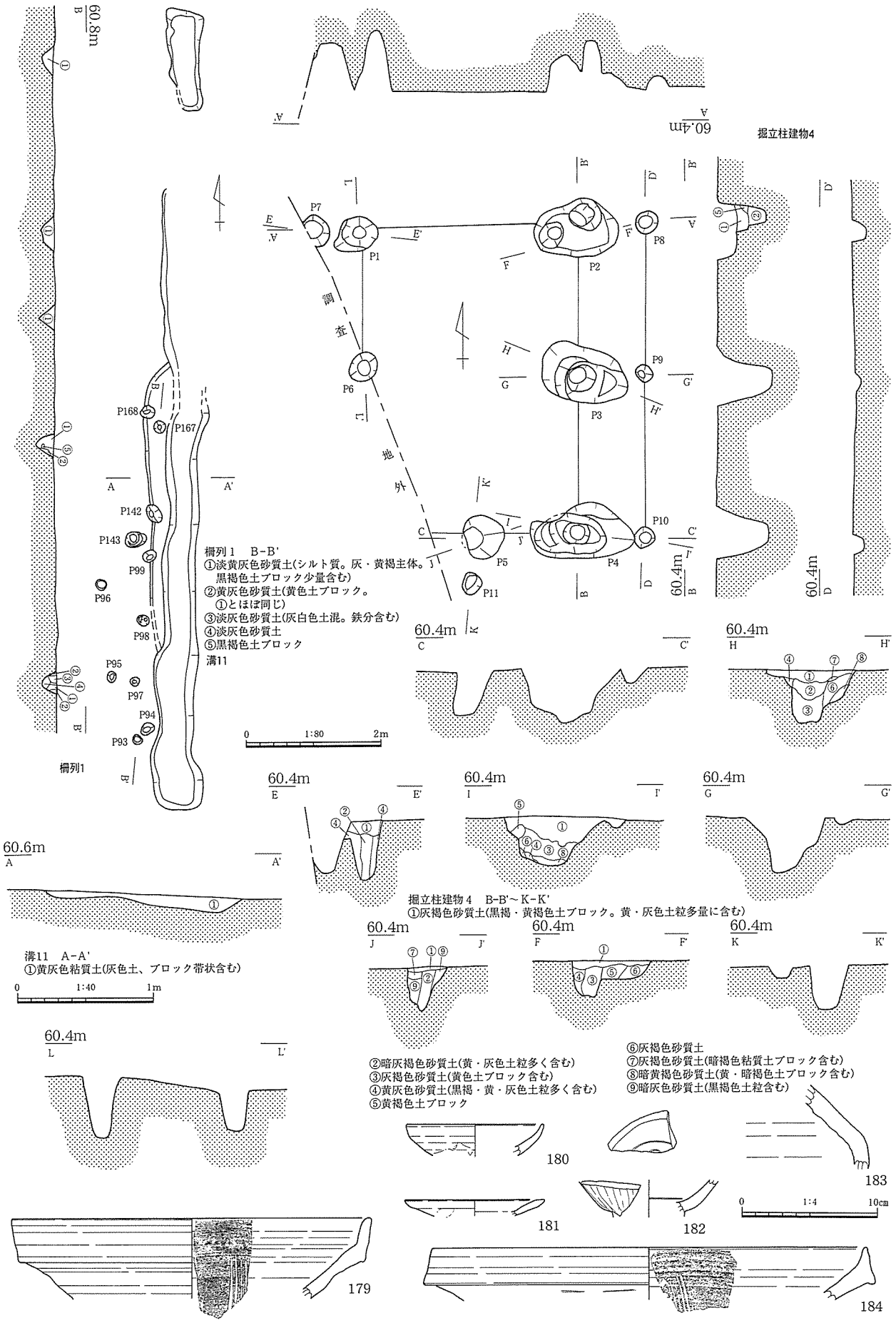


図33　掘立柱建物４、溝11、柵列１および出土遺物

土坑10（図31、図版11－２・３）

Ｆ５グリッド、調査地西壁にかかるため形状は不明である。南北を長軸に採るもので、長さは4.1ｍ、深さは1.0ｍほどである。遺構北側上面は溝10に切られる。底面は北側が広くテラス状になり、北側壁の傾斜も緩いのに対し、南側はほぼ直立する。遺構上面には拳～人頭大の礫があり、土層の堆積は北側から流れ込むようにある。遺物は中世の陶磁器（182～184）がわずかにみられた。　（中森）

土坑11（図31、図版13－１・２）

中央部をトレンチにより切られる。長径2.8ｍ、短径1.85ｍを測る南側に張り出す凸状を呈すもの。深さは0.65ｍ。凸部壁は緩やかに傾斜し、埋土は南から堆積する。底面からＳ10が出土。　（中森）

土坑12（図31、図版15－２）

土坑10・11の中間に位置する。土坑11同様南側に凸状に張り出し、上面長径2.8ｍ、短径1.8ｍ、深さは1.5ｍほどを測る。凸部は小さなテラス状で、底面から立ち上がる壁は約0.4ｍである。上面は溝12に切られるためテラスからの高さは不明だが、階段状を呈す。東・西・北壁は袋状に張る。（中森）

土坑13（図31、図版13－３・４）

Ｉ４グリッド、溝12に上面を切られる。西側が凸状に張るが、土坑11・12と異なり方形部は南北に長い長方形となる。長径2.8ｍ、短径2.5ｍ、深さは1.45ｍほどを測る。東壁が袋状を呈す。凸部のテラスは底面から0.2ｍほど高い位置にあり、そこから上場への壁は中位で内側に張り出す。　（中森）

土坑14（図32、図版13－５・６）

溝12の北東隅外側に位置する。南北に長軸を採り、長さ約2.7ｍ、短径1.95ｍ。深さは1.2ｍで北側は底部が袋状に張る。また南側には一段小さなテラスがあり、このテラスのあたり、および底面近くに人頭大を越える礫が密にある。土層の堆積も南側から流れ込んでいることを示す。　（中森）

土坑15（図32）

Ｈ４グリッド、土坑21の東で溝12に上面を切られる。上場は長径1.5ｍ、短径0.85ｍほどの楕円形を呈すが、底面にかけ東側が袋状に広がる。西壁は傾斜しており、土坑11・12などと同様、西側に凸部をもつものであった可能性があろう。　（中森）

土坑16（図32、図版16－２）

Ｉ４グリッド、溝12南側に位置し、西半分以上は調査区外にある。長径は約3.0ｍ、深さ0.7ｍを測る。北壁はやや傾斜する。他と異なり、埋土は比較的並行に堆積する。　（中森）

土坑17（図32、図版15－３）

溝12北東隅の内側に位置する。東側は溝に切られ、長径は2.1ｍ、短径約1.5ｍを測る、ほぼ長方形を呈すもの。深さ0.4ｍ。埋土はほぼ単層であった。　（中森）

表16　図33土器・陶磁器観察表

遺物番号	挿図番号	地区 層位遺構	種別	器種	口径 (底)	器高	特徴	胎土 焼成	色調	備考
179	33	Ｇ５ 土坑11	陶器	擂鉢	＊26.6	△6.1	口縁部が上方に拡張され、端部は丸く収められる。備前産、乗岡中世５ａ期。	密 良	暗赤褐色	
180	33	Ｆ４ 土坑11	陶器	皿	＊10.2	△2.4	肥前系の丸皿。口縁端部内面はわずかに膨らむ。体部外面下半まで施釉。Ｉ期に相当。	密 良	釉：灰白色 胎土：淡褐色	
181	33	Ｉ４ 土坑16	土師	皿	＊10.5	△1.3	口縁部はかなり厚みをもつ手づくね成形のもの。端部内面はわずかに窪む。	密 良	淡黄色	
182	33	Ｆ５ 土坑10	青磁	碗	－	△2.8	外面に細長い蓮弁文が連続する。釉厚く、鎬は不明瞭。見込みに圏線が一条巡る。破面に漆付着。上田Ａ－Ｉ類。	密 良	釉：淡緑灰色 胎土：灰白色	
183	33	Ｆ５ 土坑10	陶器	甕	－	△6.2	「く」字状に屈曲する頸部部分。外面に濃緑色の釉がかかる。常滑産。	密 良	釉：濃緑色 胎土：灰白色	
184	33	Ｆ５ 土坑10	陶器	擂鉢	＊32.6	△3.95	口縁端部は上下とも尖り気味。擂り目は疎らである。備前産、乗岡中世４ｂ期。	緻密 良好	赤褐色	

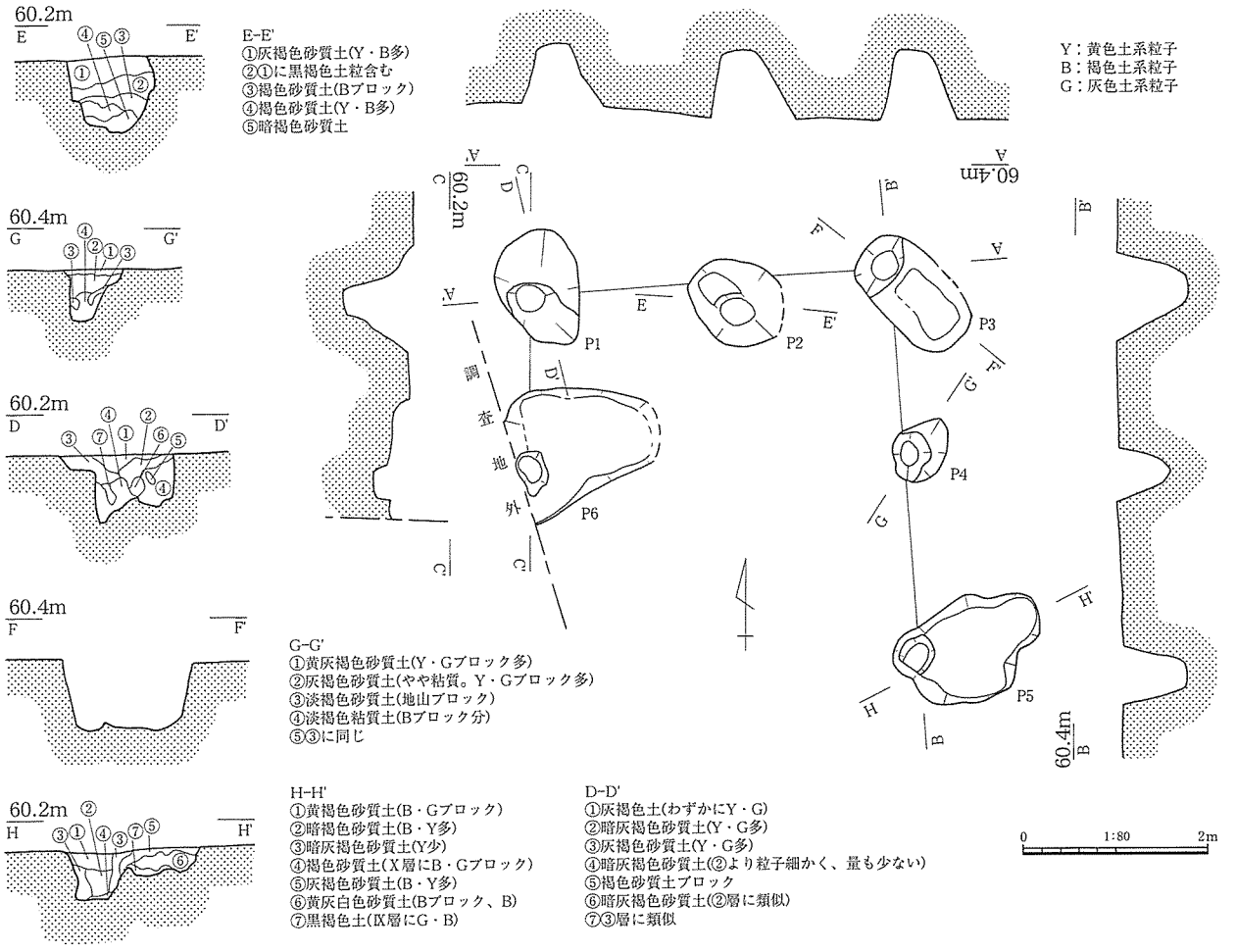


図34　掘立柱建物５および出土遺物

土坑18（図32、図版15－５）

土坑11の南で、溝12の下面から検出。長径1.8m、短径0.85mの隅丸長方形で、深さは0.3mほどを測る。埋土は単層。（中森）

土坑19（図32）

Ｈ５グリッド、調査区西壁近くに位置する。土坑20の北東隅を切る。長径0.9m、短径0.65mの楕円形を呈し、深さは0.2mと浅い。（中森）

土坑20（図32）

Ｈ５グリッド、西側は調査区外にあり、全形は不明である。検出した最大長は南北で2.6m、北側に小さなテラスをもつ。深さは0.5mほどである。（中森）

表17　図34土器・陶磁器観察表

遺物番号	挿図番号	地区 層位遺構	種別	器種	口径（底）	器高	特徴	胎土 焼成	色調	備考
185	34	掘立柱建物２	陶器	碗	＊15.4	△4.4	底部から緩やかに立ち上がり、体部は直線的になる。口縁部はやや肥厚し、外反する。肥前系、Ⅰ期。	密 良	釉：鈍い褐色 胎土：淡褐色	
186	34	Ｉ４ １ｅ層	陶器	碗	＊13.6	△4.4	体部が外傾する碗。体部下半に釉の溜りがみられる。肥前系、Ⅰ期。	緻密 良好	釉：灰褐色 胎土：淡褐色	
187	34	Ｇ４ 溝11	青磁	碗	＊11.8	△2.4	ほぼ直立する口縁をもつ。外面には線描きの蓮弁文。上田Ｂ－Ⅳ類。	緻密 良好	釉：緑灰色 胎土：淡灰色	
188	34	Ｇ４ １ｅ層	陶器	皿	＊12.4	△1.7	肥前系の丸皿。外面体部下半まで施釉。口縁端部はやや細身になる。Ⅰ期。	密 良	釉：淡緑褐色 胎土：淡褐色	
189	34	Ｇ５ １ｅ層	陶器	皿	＊13.2	△2.2	体部が外傾する丸皿。口縁端部はやや尖り気味に収める。外面は口縁部のみ施釉、肥前系、Ⅰ期。	密 良	釉：淡灰褐色 胎土：淡褐色	
190	34	Ｇ４ １ｅ層	陶器	皿	＊11.0	3.3	体部が丸みをもち、口縁は直立する丸皿。口縁端部内面はやや尖り気味。体部外面下半まで施釉。見込みに胎土目痕。高台低く、内面はケズリ残しにより三角錘状に突出する。肥前系、Ⅰ－１期。	密 良	釉：黒色 胎土：暗灰色	
191	34	Ｇ４ １ｅ層	陶器	皿	＊13.0	△1.8	肥前系の溝縁皿。釉は透明に近い。体部外面中位まで施釉。Ⅱ期。	密 良	釉：透明 胎土：淡褐色	
192	34	Ｇ５ １ｅ層	磁器	碗	＊12.9	△4.05	外面に梅。小野分類碗Ｅ群。	緻密 良好	施釉：白色	
193	34	Ｇ４ １ｅ層	青磁	碗	－	△2.5	外面線描きの蓮弁文。釉は貫入多い。上田Ｂ－Ⅳ類。	緻密 良好	釉：緑灰色 胎土：淡灰色	
194	34	Ｇ５ １ｅ層	土師	皿	＊10.0	△1.7	口縁が外反する手づくねのもの。口縁部内面は沈線状に窪む。外面は体部中位以下未調整。	密 良好	淡褐色	
195	34	Ｇ５ １ｅ層	陶器	皿	（＊6.0）	△1.2	高台は低く丸みをもつ。釉厚く貫入多い。瀬戸美濃産。	密 良好	釉：緑灰色 胎土：灰色	
196	34	Ｇ４	陶器	皿	（＊6.6）	△1.5	高台は低く丸みをもつ。釉厚く貫入多い。高台内面に砂目。瀬戸美濃産。	緻密 良好	釉：緑灰色 胎土：淡灰褐色	
197	34	Ｇ４ P89上層	陶器	碗	3.6	△1.9	高台は厚く、内面は窪む。端部に胎土目痕。全面に施釉される。朝鮮産。	緻密 良好	釉：灰褐色 胎土：淡褐色	
198	34	Ｇ４ １ｄ層	陶器	碗	＊11.8	5.9	丸みをもって底部から立ち上がり、直線的に外傾する口縁部をもつ。外面体部下半まで施釉。高台は低い。肥前系、Ⅰ－１期。	緻密 良好	釉：緑灰色 胎土：淡赤褐色	
199	34	Ｇ５ １ｄ層	磁器	皿	＊11.8	△2.2	肥前系の菊花皿。表面は小さな気泡があり、ザラザラ感がある。Ⅱ－１期。	緻密 良好	白色	
200	34	Ｇ４ １ｄ層	磁器	皿	＊10.85	△1.55	比較的外傾する口縁部をもつ。内面に圏線。肥前系、Ⅱ－１期。	緻密 良好	釉：灰色 胎土：灰色	
201	34	Ｇ４ １ｄ層	磁器	皿	＊16.25	△1.85	やや丸みをもって立ち上がるもの。口縁端部は細く、面取り。内面に圏線。肥前系、Ⅱ－１期。	緻密 良好	釉：灰色 胎土：灰色	
202	34	Ｈ４ １ｄ層	青磁	碗	＊14.75	△2.3	外面線描きの蓮弁文。釉は貫入多い。上田Ｂ－Ⅳ類。	緻密 良	釉：緑灰色 胎土：淡灰色	
203	34	Ｊ４ １ｄ層	土師	皿	＊13.6	3.2	直線的に外傾する口縁部をもつ。体部下はケズリ、底部は回転糸切り。	やや粗 良	淡褐色	
204	34	Ｇ４ １ｄ層	土師	灯明皿	＊8.6	△1.9	口縁が外反する手づくねのもの。口縁部は素口縁。外面は体部中位以下調整粗い。端部に煤付着。	密 良好	淡褐色	
205	34	Ｈ４ １ｄ層	陶器	皿	＊10.2	△2.3	体部が外傾する丸皿。口縁端部はやや尖り気味に収める。外面は口縁部のみ施釉、肥前系、Ⅰ期。	密 良	釉：淡緑灰色 胎土：淡灰色	
206	34	Ｉ４ １ｄ層	陶器	天目茶碗	＊11.1	△4.95	口縁部はわずかに屈曲する。釉は厚く、下部に溜り。褐色後黒褐色釉が２度掛けか。瀬戸美濃産？	緻密 良好	釉：黒褐色 胎土：淡灰褐色	
207	34	Ｈ４ １ｄ層	陶器	甕	（＊10.2）	△2.5	小型の壺ないし甕の底部。底部裏には十字の刻文がある。備前産か。	密 良好	釉：淡赤褐色 胎土：淡灰色	
208	34	Ｇ４ １ｄ層	陶器	擂鉢	（＊15.6）	△3.0	備前産擂鉢の底部。擂り目は７条＋α。	緻密 良好	外：灰褐色 内：鈍い褐色	

表18　図30・34・35鉄製品観察表

遺物番号	構成No	挿図番号	遺物名	地区	層位遺構	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量（g）	磁着度	メタル度	備考
84	㊼	30	鉄製品（鋳造品）鍋	F5	土坑８	8.6	5.6	1.05	106.0	2	錆化（△）	
85	㊿	30	鉄製品（鋳造品）	E5	溝10	1.85	2.15	1.0	3.8	2	錆化（△）	
86	㊽	34	鉄製品（鋳造品）鍋	H5	P146	5.65	3.4	1.95	36.8	2	錆化（△）	
87	㊾	34	鉄製品（鋳造品？）板状不明	H4	P100	4.1	2.3	1.8	16.4	2	錆化（△）	
88	㊸	34	鉄製品（鍛造品）錐？	I4	P387	2.4	6.45	3.5	12.6	1	錆化（△）	
89	㊹	34	鉄製品（鍛造品）釘？	H5	P139	1.4	3.6	0.85	4.8	1	錆化（△）	
90	㊺	34	鉄製品（鍛造品）紋金具	G4	1e層	1.85	4.25	1.1	9.9	2	錆化（△）	
91	㊻	35	鉄製品(飾り金具)(饅頭金具)	G4	溝12	5.05	5.3	2.0	30.6	1	錆化（△）	

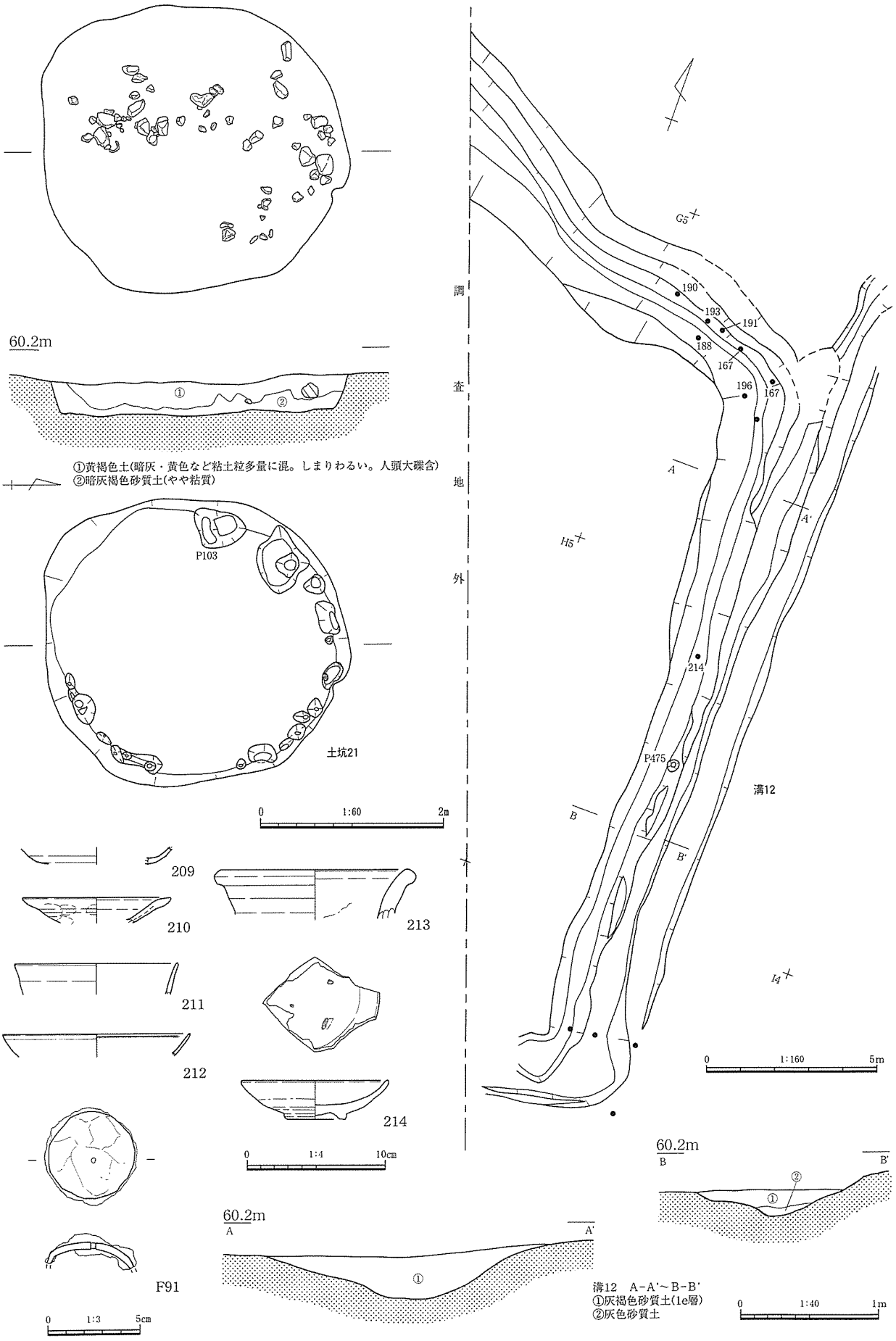


図35　溝12、土坑21および出土遺物

掘立柱建物４（図33、カラー図版２－２、図版14－１）

南北に軸をもつ１×２間のもの。南西隅の柱穴は調査地外にある。南北の柱間2.2m、東西は3.2mある。柱穴東列（Ｐ２～４）は、南北方向の長径1.25～1.4mを測る楕円形を呈す大型の掘り形をもち、ピット径は0.4mほどの円形である。深さは掘り形上面からで0.8mほどある。また掘り形東には径0.3m、深さ0.2mほどのピット（Ｐ８～10）が補助的にある。一方西列（Ｐ１・６）は東側のような大型の掘り形をもたない。ピットは径0.4～0.5m、深さ0.8mほどを測る。Ｐ６は上面が削平されているが、底面レベルはＰ１などとほぼ揃う。また南列にＰ５があるが、この掘立柱建物に伴うかは不明。（中森）

溝11、柵列１（図33）

溝12の西側に並行する直線的な溝。上面は近世後期以降に削平されているが、幅0.6m、深さ0.1mほどを測り、検出長は約6.0m。溝12より古く（図30Ａ－Ａ'）、大型土坑群（土坑10～16）と関連すると思われる。また、西側に柵列状に径0.2m、深さ0.2mほどのピットが連続する（柵列１）。検出状況から、これらは同時期のものと判断した。（中森）

掘立柱建物５（図34、カラー図版２－３、図版14－３、15－４）

Ｇ４グリッド南側で、土坑21に幾つかのピットは切られる。掘立柱建物４同様、１ｍを越える掘り形をもち、さらに径0.4～0.5mほどの掘り込みをもつ。上面からの深さは0.6～0.8mほどである。柱間は東西、南北とも2.0mほどを測る。南西は調査区外にあたり、また南列中央も土坑21に切られ不明ではあるが、おそらく２×２間のものであろう。（中森）

溝12（図35、カラー図版２－１、図版14－３）

西側は調査区外に続くが、南北に長い「コ」字状に検出した。南北で23mほどを測り、深さは0.4mである。東側が高く、長軸には溝状のテラスが並行する。溝内から16世紀末～17世紀初頭の遺物（210～214）が出土する。これに伴う遺構は土坑21以外には明らかにできなかったが、ほとんどないと思われる。また掘立柱建物や多くの土坑などが埋まった後につくられており、機能については不明である。（中森）

土坑21（図35、図版16－１・３）

Ｈ５杭周辺で、3.2～3.3mのほぼ円形を呈す大型のものである。深さは0.4mほどで、南西部を除き底面際には不定形なピットがある。埋土中位で堆積は分かれ、その上層からは拳～人頭大の礫が多く出土した。埋土中からは遺物がほとんどなく、図化できたものは209のみであった。（中森）

表19　図35土器・陶磁器観察表

遺物番号	挿図番号	地区層位遺構	種別	器種	口径（底）	器高	特徴	胎土焼成	色調	備考
209	35	Ｈ４土坑21	陶器	皿	－	△1.3	底部から丸みをもって立ちあがる体部をもつ。朝鮮産。	緻密良好	釉：灰褐色 胎土：淡褐色	
210	35	Ｇ４溝12	土師	皿	＊11.0	△1.9	口縁が外反する手づくねのもの。口縁部内面はわずかに沈線状に窪む。外面は体部中位指頭圧痕。	密良好	淡灰褐色	
211	35	Ｇ５溝12	磁器	碗	＊12.1	△2.3	口縁端部は丸みをもち、やや外反するもの。	緻密良	釉：白色	
212	35	Ｉ４溝12	磁器	皿	＊14.0	△1.7	外傾する口縁部。端部は尖り気味。内外面に圏線が巡る。景徳鎮窯系。	緻密良好	白色	
213	35	Ｇ４溝12	陶器	壺	＊14.1	△3.6	口縁端部は玉縁状を呈する。内面に緑灰色釉がかかる。常滑系。	緻密良好	暗赤褐色	
214	35	Ｈ４溝12	陶器	皿	＊10.8	2.8	丸皿。口縁端部は丸みをもつ。高台低く、高台内ケズリ残しにより中央部突出。体部外面中位まで施釉。見込みに胎土目痕。肥前系、Ｉ－１期。	緻密良好	釉：淡灰色 胎土：淡橙褐色	

遺構外出土の土器・陶磁器（図34・36、カラー図版３－３、図版17､18－１～３、19－４）

溝12を覆う⑥・⑦（１ｄ・ｅ）層からは17世紀前半を下限とし、比較的まとまった遺物が出土している（図34）。185～197は⑦層出土。肥前系陶器が多く、その中でもＩ期のものを主体とする。また国産では備前産のものが多く、瀬戸美濃産陶器がわずかにある。一方貿易陶磁器は中国、朝鮮産陶磁器がある。⑥層では肥前系陶磁器があり、Ⅱ期が主体となる。②～⑦層を通じ、貿易陶磁では青磁が主体を占め、とくにＢ類が圧倒的にある。また国産陶器では破片数は備前産のものが多く、ついで肥前系となる。量的には少ないが、遺構などと伴に当地域においては貴重な資料となろう。　（中森）

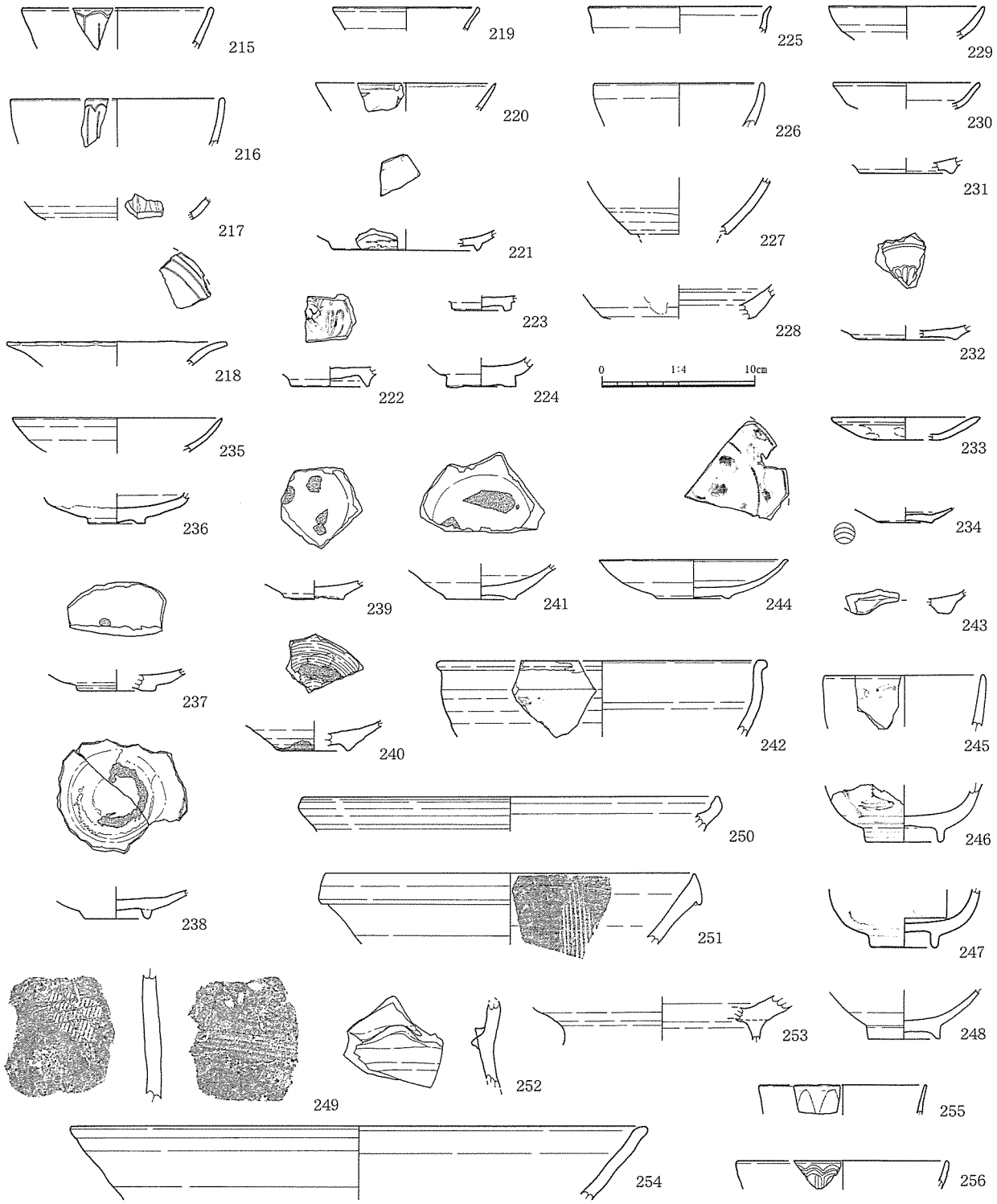


図36　Ｉ層ほか出土遺物

表20　図36土器・陶磁器観察表

遺物番号	挿図番号	地区層位遺構	種別	器種	口径(底)	器高	特徴	胎土焼成	色調	備考
215	36	Ｊ４ １ａ層	青磁	碗	＊12.6	△2.7	外面線描きの蓮弁文。口縁端部はやや折り曲げ気味に屈曲。上田Ｂ－Ⅳ類。	緻密 良	釉：暗青緑灰色 胎土：灰色	
216	36	Ｇ５ １ｂ層	青磁	碗	＊14.1	△3.1	外面線描きの蓮弁文。釉は貫入多い。上田Ｂ－Ⅳ類。	緻密 良好	釉：緑灰色 胎土：灰色	
217	36	Ｉ４ １ａ層	陶器	皿	－	△1.5	瀬戸美濃産の折縁ソギ皿。	緻密 良好	釉：浅黄色 胎土：淡灰白色	
218	36	Ｈ４ １ｄ層	青磁	稜花皿	＊14.4	△1.65	口縁内面に、口縁形状に沿って波状に刻線文。釉は内外貫入あり。	緻密 良好	釉：緑灰色 胎土：淡灰色	
219	36	Ｅ２ ２層	陶器	碗	＊ 9.8	△1.55	直線的に外傾する体部。口縁端部は肥厚しやや上向き。朝鮮産。	緻密 良好	釉：灰褐色 胎土：淡褐色	
220	36	Ｇ４ １ｂ層	青花	皿	＊12.1	△1.85	口縁部は緩やかに立ち上がり、端部は尖る。小野皿Ｅ群。	緻密 良好	白色	
221	36	Ｈ４ １ｂ層	青花	皿	(＊9.8)	△1.4	高台端部は尖り、畳付けは無釉。見込みに二重の圏線、および高台貼り付け部上にも圏線が巡る。小野皿Ｂ１群。	緻密 良好	白色	
222	36	１ａ層	青花	皿	(＊5.0)	△1.3	高台畳付けは面取りされ、逆台形状を呈す。高台内面無釉。見込みに文様。漳州窯系。	緻密 良好	釉：乳白色 胎土：淡灰褐色	
223	36	Ｇ４ １ｂ層	白磁	皿	(＊3.0)	△1.05	台形状を呈する高台をもつ。外面は無釉。釉は貫入多い。森田Ｄ群。	緻密 良好	釉：乳白色 胎土：灰白色	
224	36	Ｈ５ １ｃ層	陶器	天目茶碗	(4.4)	△2.1	高台は柱状で、畳付け部分がわずかに輪状に突出する。見込みには褐色と黒褐色の釉が厚く溜まる。外面は無釉。中国産。	緻密 良好	釉：黒褐・褐色 胎土：灰色	
225	36	Ｄ３ １ａ層	陶器	天目茶碗	＊12.0	△1.8	口縁端部が短く外反。釉は薄い。胎土やや須恵質。中国産か。	緻密 良好	釉：黒褐色 胎土：灰白色	
226	36	Ｆ５ Ｉ層	陶器	天目茶碗	＊11.1	△2.9	丸みをもつ体部から屈曲せず、直立的な口縁が続く。端部は丸く収める。釉はやや厚く、光沢をもつ。胎土やや須恵質で、225に似る。中国産？	緻密 良好	釉：黒褐色 胎土：灰白色	
227	36	Ｂ２ Ｉ層	陶器	天目茶碗	－	△3.7	外面は体部下半まで施釉。釉は褐色を呈す。胎土は軟質な感じ。瀬戸美濃産。	緻密 良好	釉：暗褐色 胎土：淡灰白色	
228	36	Ｉ層下	陶器	鉢	－	△2.3	外面体部下位まで施釉。釉が下垂する。露胎部は淡橙褐色。瀬戸美濃産。	緻密 良好	釉：浅黄色 胎土：淡灰白色	
229	36	Ｅ２ Ｉ層	陶器	皿	＊10.2	△2.1	瀬戸美濃産の丸皿。	緻密 良好	釉：浅黄色 胎土：淡灰白色	
230	36	１ａ層	陶器	皿	＊ 9.7	△1.75	瀬戸美濃産の皿。体部で屈曲気味になる。口縁部はやや外反。端部は丸く収める。	緻密 良	釉：浅黄色 胎土：淡灰白色	
231	36	Ｃ３ １ａ層	陶器	皿	(＊6.0)	△1.05	高台は低く丸みをもつ。釉厚く貫入多い。瀬戸美濃産。	密 良好	釉：緑灰色 胎土：灰色	
232	36	Ｈ４ Ｉ層	陶器	皿	(＊6.4)	△1.0	削り出しによる低い高台をもつ。高台内側無釉。見込みには圏線が巡り、菊花文が刻される。瀬戸美濃産。	緻密 良好	釉：緑灰色 胎土：淡灰色	
233	36	Ｄ４ Ⅱ層	土師	皿	＊10.0	△1.5	口縁部はかなり厚みをもつ手づくね成形のもの。端部内面は窪まず、端部は尖り気味になる。	緻密 良好	淡赤褐色	
234	36	Ｄ４ Ｉ層	土師	皿	(3.7)	△1.0	底部静止糸切り。薄手で、胎土は精良。見込みが灰色を呈し、墨あるいは煤が付着しているか。	密 良	淡褐色	
235	36	Ｃ２ Ｉ層	磁器	皿	＊14.0	△2.4	緩やかに湾曲し、口縁端部は尖る。内外無文。肥前系？	緻密 良好	釉：灰色 胎土：淡灰色	
236	36	Ｆ５ Ｉ層	陶器	皿	(3.8)	△2.0	低い方形の高台が付く。外面体部下位まで施釉。内面は淡紫色と淡黄緑色が合わさったもの。胎土は硬質。肥前系、Ｉ期。	緻密 良	胎土：灰色	
237	36	Ｇ４ １ｃ層	陶器	皿	(＊5.0)	△1.4	低く幅広い高台をもつ。畳付け釉剥ぎ。見込みに胎土目痕。肥前系、Ｉ－1期。	緻密 良好	釉：淡緑灰色 胎土：灰色	
238	36	Ｄ６	陶器	皿	(4.2)	△1.9	高台やや高いものが付く。高台周囲に砂多量に付着。高台内は無釉。見込み蛇ノ目釉剥ぎ。砂目が残る。絵唐津。Ⅱ期。	密 良好	釉：淡灰色 胎土：灰色	
239	36	Ｆ５	陶器	皿	(3.9)	△1.3	低い高台で、胎土目痕が付く。高台内には釉が固着。見込みにも胎土目痕。肥前系、Ｉ－１期。	緻密 良好	釉：緑灰色 胎土：灰褐色	
240	36	Ｅ６ Ｉ層	陶器	皿	(＊4.5)	△2.0	高台は断面三角形を呈すもの。砂が付着。外面体部下位無釉。見込みにはハケメ痕。砂付着する。肥前系、Ⅱ期。	緻密 良好	釉：緑褐色 胎土：灰色	
241	36	Ｆ３ Ｉ層	陶器	皿	(4.6)	△2.4	高台低い。体部外面下位まで施釉。内面は下位で段状に窪む。見込みに砂目痕。肥前系、Ⅱ期。	緻密 良好	釉：淡黄褐色 胎土：淡褐色	
242	36	Ｈ４ １ｂ層	陶器	碗	＊22.0	△5.0	体部で屈曲し直立する口縁をもつ。口縁端部は玉縁状を呈す。外面に文様（絵唐津）。肥前系Ⅱ期。	緻密 良好	釉：淡灰色 胎土：淡灰褐色	
243	36	Ｉ３ Ｉ層	陶器	火鉢	－	△1.65	逆台形状の高台。内面に淡褐色の釉がかかる。外面煤。肥前系？	密 良好	釉：淡褐色 胎土：淡褐色	
244	36	Ｂ２ Ｉ層	磁器	皿	＊12.4	2.6	緩やかに立ち上がり、口縁端部は短く外反。高台は低く砂付着。内面に草花文。肥前系、Ⅱ期。	密 良	灰白色	
245	36	Ｈ４ Ｉ層	陶器	碗	＊10.6	△3.4	陶体染付。外面に連弧状の文様。肥前系、Ⅴ期。	密 良好	釉：淡青灰色 胎土：灰色	
246	36	Ｈ４ １ａ層	陶器	碗	(4.8)	△3.8	陶体染付。外面に東屋山水文。肥前系、Ⅴ期。	密 良好	釉：淡青灰色 胎土：灰色	
247	36	Ｃ４ １ａ層	陶器	碗	(4.2)	△3.8	陶体染付。外面に弧状の文様。肥前系、Ⅴ期。	密 良	釉：淡緑灰色 胎土：灰色	
248	36	Ｄ３	陶器	碗	(4.8)	△3.2	京焼風。体部が外傾する広東碗状。肥前系、Ⅴ期。	密 良	釉：淡灰黄色 胎土：淡褐色	
249	36	Ｇ５ １ｃ層	陶器	甕	－	△8.2	外面に格子状のタタキ。常滑。	やや粗 良好	外：鈍い橙色 内：渇灰色	
250	36	Ｉ４ １ａ層	陶器	鉢	＊28.6	△2.25	頸部で屈曲し、口縁端部が上方に突出するもの。信楽？	緻密 良好	釉：暗赤褐色 胎土：灰色	
251	36	Ｈ４ １ａ層	陶器	擂鉢	＊24.6	△4.7	口縁端部は上端部は尖り気味。下端部は丸みをもつ。擂り目は疎らである。備前産、乗岡中世４ｂ期。	緻密 良好	赤褐色	
252	36	Ｈ４ １ｂ層	陶器	鉢？	－	△5.7	やや外反する体部をもつ。内面に受け部状の突出部が付く。花入？備前産。	緻密 良	赤褐色	
253	36	Ｊ４ １ａ層	陶器	鉢	－	△2.9	やや高い高台が付くもの。擂鉢か？	緻密 良好	褐色	
254	36	Ｃ２	陶器	鉢	＊38.0	△4.95	直線的に外傾。端部は丸く収める。	緻密 良好	褐色	
255	36	Ｅ４	磁器	碗	＊11.05	△1.95	外面には筆描きの連弁文。肥前系？	緻密 良好	灰色	
256	36	Ｃ３ １ａ層	磁器	碗	＊14.1	△1.95	外面に刻文による連弁文。波状部は二重になる。	緻密 良好	釉：緑灰色 胎土：灰白色	

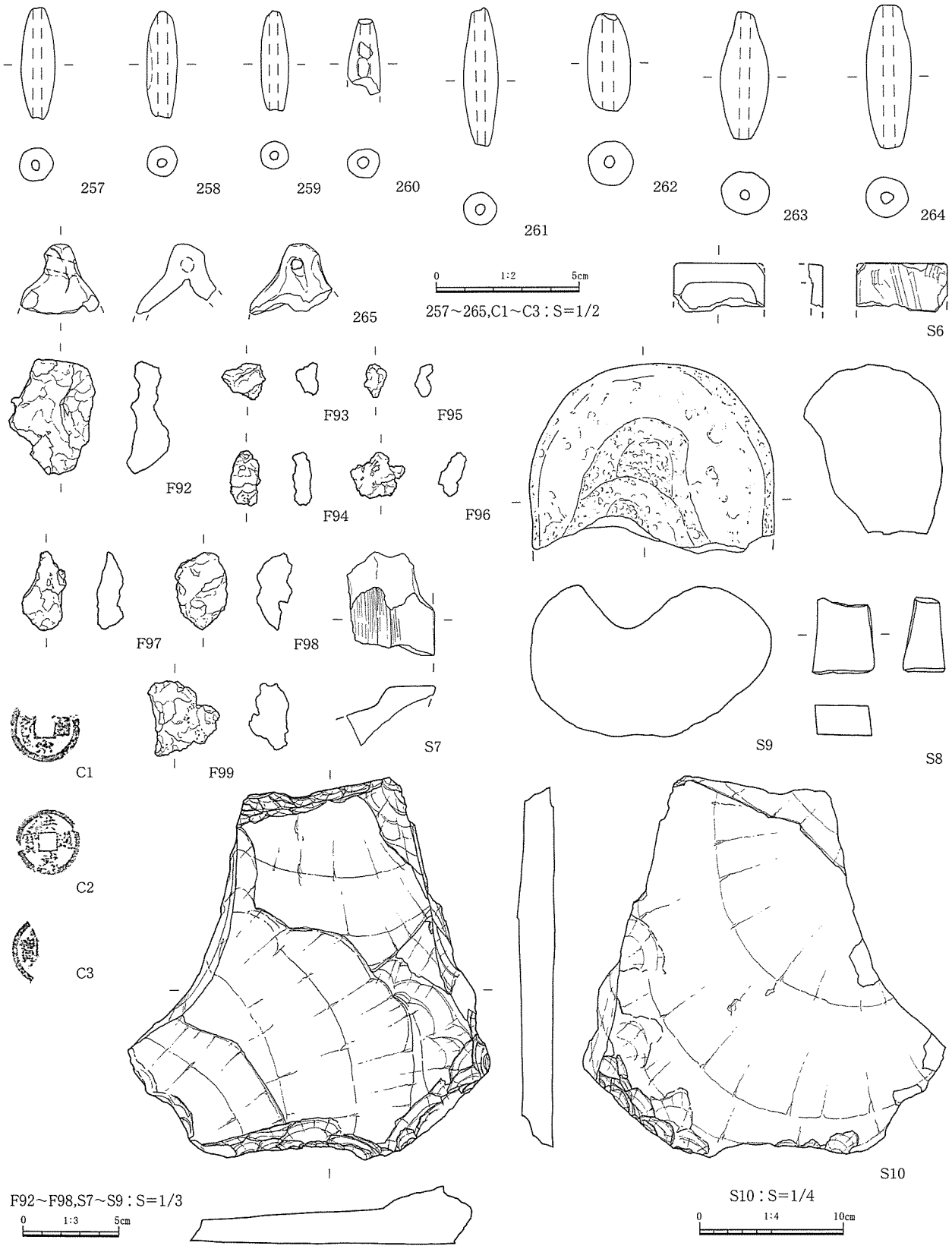


図37　遺構内外出土遺物

３）０区遺構外の石器（図37、図版18－５、19－２・３）

遺構外からは　石鏃２点（黒曜石）、スクレイパー１点（無斑晶安山岩）、楔形石器（両極打撃痕をもつ石器全般を含む）７点（無斑晶安山岩１、玉髄・瑪瑙６）、楔形石器削片１点（玉髄・瑪瑙）、打製石斧１点（安山岩）、加工痕ある剥片１点（黒曜石）、ブランク６点（玉髄・瑪瑙４、水晶２）、原石１点（黒曜石）、剥片53点（黒曜石38、無斑晶安山岩２、玉髄・瑪瑙13）、砕片６点（黒曜石）、砥石・砥石片５点（細粒花崗岩４、頁岩１）、硯片２点（頁岩１、泥岩１）、碁石６点（頁岩）、五輪塔水輪・宝篋印塔塔身各1点（粗粒安山岩）、不明石製品２点（安山岩１、蛇紋岩１）が出土している。玉髄・瑪瑙と水晶の石器は出土層位がⅣ層以上に限定されることから平安時代以降のものと考えられる。また、石鏃、スクレイパー、打製石斧、加工痕のある剥片、黒曜石剥片20点、同砕片４点、無斑晶安山岩剥片２点はⅨ層出土で縄文時代のものと考えられる。なお、ほかの黒曜石剥片類も本来Ⅸ層に包含されていたものが遊離した可能性が高い。（北）

表21　図37土製品観察表

遺物番号	挿図番号	地区層位遺構	種別	幅	器高	重さ	特徴	胎土焼成	色調	備考
257	37	D５ Ⅳ層	土師	1.2	4.0		体部中位がやや膨らむ細長いタイプ。外面に黒斑あり。	密 良好	鈍い赤褐色	
258	37	D５ Ⅰ層	土師	1.1	3.7		胴部は幅がほぼ一定する細長いタイプ。	密 良好	淡黄褐色	
259	37	D４ Ⅱ層	土師	1.0	4.6		体部中位がやや膨らむ細長いタイプ。	密 良好	鈍い赤褐色	
260	37	D２ Ⅰ層	土師	1.2	△2.6		体部中位がやや膨らむ細長いタイプ。下半部欠損。	緻密 良好	明赤褐色	
261	37	E２ Ⅰ層	土師	1.25	4.8		体部中位がやや膨らむ細長いタイプ。257などより長いもの。	密 良好	鈍い赤褐色	
262	37	表土	土師	1.55	3.4		全体的に丸みをもつもの。器壁なども厚い。	密 良好	明赤褐色	
263	37	C４ Ⅱ層	土師	1.7	4.5		体部は丸みをもち、端部は細くつままれる。	密 良好	鈍い赤褐色	
264	37	B１ Ⅰ層	土師	1.55	5.0		細長いが器壁の厚いもの。	密 良好	淡灰褐色	
265	37	B２ Ⅰ層	土師	△2.75	△2.5		土鈴の上部片。把手には斜め方向に穿孔。	やや粗 やや軟	淡褐色	

表22　図37鉄製品観察表

遺物番号	構成No	挿図番号	遺物名	地区	層位遺構	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	磁着度	メタル度	備考
92	⑨1	37	椀形鍛冶滓（含鉄、小）	Ⅰ４	１d層	4.55	6.05	1.25	58.0	3	錆化（△）	
93	⑨2	37	椀形鍛冶滓（極小）		Ⅰ層	2.35	1.95	1.2	5.6	1	なし	
94	⑨3	37	椀形鍛冶滓（極小）		Ⅰ層	1.65	2.9	1.05	5.9	2	なし	
95	⑨5	37	鍛冶滓		表土	1.2	1.75	0.95	1.9	1	なし	
96	⑨7	37	羽口溶解物	Ⅰ４	１a層	3.9	2.4	1.45	5.7	1	なし	
97	⑨1	37	椀形鍛冶滓（極小）	Ｈ４	Ⅰ層	2.2	4.1	1.4	14.4	1	なし	
98	⑨6	37	羽口（鍛冶）	Ｅ４	Ⅰ層	2.75	4.05	1.8	14.2	1	なし	
99	⑨8	37	羽口溶解物	Ｈ４	Ⅰ層	3.85	4.0	2.1	20.0	1	なし	

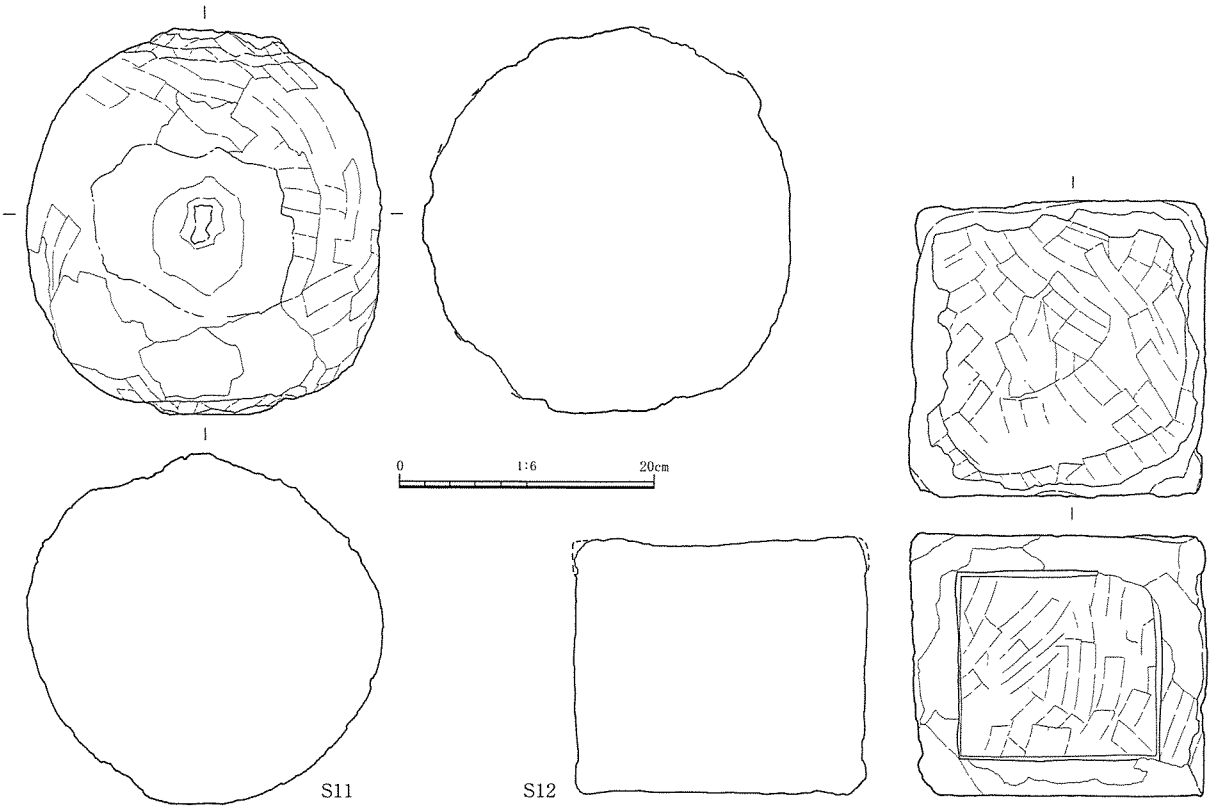


図38　遺構外出土遺物

表23　図37・38および図版18石器観察表

遺物番号	挿図番号	地区 層位・遺構	器　種	石　材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備　考
S６	37	E５ Ⅰ層～Ⅱ層	硯	泥岩	△2.6	4.8	△0.8	△13.0	
S７	37	E４ １ａ層	不明石製品	安山岩	△5.5	△4.7	△1.8	△48.4	
S８	37	E５ Ⅰ層	砥石	細粒花崗岩	4.0	3.3	2.2	40.0	ローリングによる損傷・風化が著しい
S９	37	土坑10	凹石	粗粒安山岩	△9.9	12.9	7.9	△955.0	
S10	37	土坑11	大型石鉞	安山岩	27.1	25.3	3.7	2380.0	側面敲打調整。磨耗・ポリッシュ・線条痕あり。大型石庖丁の可能性も
S11	38	表採	五輪塔水輪	安山岩	31.0	28.1	29.0	22600.0	全体的にノミ成形後、平滑に仕上げ。正面部のみ突状に張り出しており、この部分には陽刻されたもの（例えば地蔵など）がある可能性をもつ。上下にホゾ状に突部がある。
S12	38	Ⅰ４ １ｂ層	宝篋印塔 塔身	安山岩	23.6	23.8	20.6	19000.0	側面は４面とも輪郭が刻出される
S13	－	F３ Ⅸ層上面	加工痕のある剥片	黒曜石	2.4	1.2	0.6	1.2	図版18-5：写真のみ
S14	－	溝２	楔形石器	無斑晶安山岩	4.1	3.1	1.5	18.6	図版18-5：写真のみ
S15	－	Ⅰ層	砥石破片	頁岩	△6.3	6.1	1.8	△66.5	図版18-5：写真のみ
S16	－	G４ １ｂ層	砥石破片	細粒花崗岩	△3.8	4.8	3.6	△84.0	図版18-5：写真のみ
S17	－	Ⅰ層	砥石破片	細粒花崗岩	△7.0	△3.4	△3.3	△101.5	図版18-5：写真のみ
S18	－	H４ １ｂ層	砥石破片	細粒花崗岩	△5.3	△3.4	2.3	△54.5	図版18-5：写真のみ
S19	－	土坑10	磨り石	黒色片岩	△12.1	△6.2	3.6	288.0	図版18-5：写真のみ。棒状円礫
S20	－	F４ Ⅰ層	碁石	頁岩	2.3	2.2	0.8	5.5	図版18-5：写真のみ。扁平な玉石
S21	－	Ⅰ層	不明石製品	蛇紋岩	△3.3	0.4	0.5	△1.3	図版18-5：写真のみ。棒状。研磨で整形

表24　ピット一覧

No.	地区	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考
59	Ｊ４	55	42	12	⑦	
60	Ｉ４	65	43	16	⑦	
61	Ｉ４	95	82	76	⑦	
62	Ｉ４	52	50	57	⑦	
63	Ｉ４	53	30	29	⑤	
64	Ｉ４	63	55	6	⑤	
65	Ｈ４	69	60	67	③	掘立柱建物４Ｐ５
66	Ｈ４・５	46	33	21	①	
67	Ｇ４	75	60	57	③	掘立柱建物５Ｐ４
68	Ｇ５	54	－	73	③	掘立柱建物５Ｐ１
69	Ｇ５	71	50	73	③	
70	Ｇ５	65	59	67	③	
71	Ｇ５	32	30	41	③	
73	Ｇ４・５	87	82	41	③	土師器杯
74	Ｇ４	27	25	28	③	
75	Ｇ４	53	46	40	③	
76	Ｊ４	35	34	14	⑦	
77	Ｇ４	90	89	34	③	
78	Ｇ４	86	85	57	③	
79	Ｇ４	73	50	54	③	縄文深鉢
80	Ｆ５	61	57	60	⑥	溝10内側
81	Ｅ５	35	30	13	⑥	溝10内側
82	Ｅ５	73	67	49	⑥	溝10内側、土師器杯・鍋
83	Ｅ５	44	44	53	⑥	溝10内側
84	Ｅ５	29	27	10	⑥	溝10内側
85	Ｅ５・６	75	37	26	⑥	溝10内側、瓦質鉢
86	Ｈ５	53	43	28	③	
87	Ｅ５	40	40	36	⑥	溝10内側
88	Ｅ６	22	21	22	⑥	溝10内側
89	Ｇ４・５	100	81	28	③	碗（197）
90	Ｇ５	32	29	26	③	
91	Ｇ５	44	40	39	①	
92	Ｉ４	38	32	25	①	
93	Ｉ４	30	28	21	①	柵列１
94	Ｉ４	45	33	42	①	
95	Ｉ４	35	33	40	①	
96	Ｈ４	33	32	23	①	
97	Ｉ４	30	25	13	①	
98	Ｈ４	34	30	24	①	柵列１
99	Ｈ４	40	35	16	①	柵列１
100	Ｈ４	180	80	75	③	掘立柱建物４Ｐ４、Ｆ87
101	Ｈ４	134	80	79	③	掘立柱建物４Ｐ３
102	Ｈ４	125	89	54	③	掘立柱建物４Ｐ２
103	Ｇ・Ｈ５	50	－	24	③	土坑20内
104	Ｈ４	104	－	54	③	鉢（185）
105	Ｈ４	155	110	58	③	掘立柱建物５Ｐ５
106	Ｈ５	40	38	82	①	
107	Ｈ５	40	38	58		石
108	Ｈ５	53	53	68	③	
109	Ｇ５	100	－	61	①	
136	Ｅ・Ｆ５	58	37	23	⑥	溝10内側
137	Ｆ５	53	53	64	⑥	溝10内側、土師器杯
139	Ｈ５	65	60	25	③	Ｆ89
140	Ｈ４	90	84	57	②	
141	Ｉ４	95	70	54	②	
142	Ｈ４	60	39	18	①	柵列１
143	Ｈ４	60	44	60	①	石
144	Ｈ４・５	55	50	53		
145	Ｈ４	50	38	57		
146	Ｈ５	68	50	89	③	掘立柱建物４Ｐ１、Ｆ86
147	Ｇ４	50	42	57	③	
148	Ｈ４	55	45	50	③	掘立柱建物４Ｐ２、Ｐ102内

No.	地区	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考
153	Ｇ４	70	46	81	③	掘立柱建物５Ｐ３
154	Ｈ４	122	70	68	①	
155	Ｇ５	100	90	82	③	掘立柱建物５Ｐ２、縄文
156	Ｉ４	36	36	45	②	
158	Ｇ５	60	25	4	③	
159	Ｇ５	100	85	40	②	
160	Ｇ５	75	65	41	③	
161	Ｇ４	34	27	15	②	
162	Ｇ４	78	65	67	①	
163	Ｇ４・５	62	45	12	①	
164	Ｇ５	45	30	47	③	
165	Ｈ４	33	30	34	①	
166	Ｈ５	62	52	31	①	
167	Ｈ４	35	35	22	①	柵列１
168	Ｈ４	43	39	42	①	
169	Ｈ４	80	40	44	③	
170	Ｈ４	63	53	20	①	
171	Ｈ４	70	50	47	①	
172	Ｈ４	34	32	21	①	
173	Ｉ４	31	24	42	④	
174	Ｉ４	127	63	67	③	
176	Ｉ４	30	27	20	③	掘立柱建物４Ｐ11
177	Ｇ５	110	40	69	①	
178	Ｈ４	26	25	14	③	掘立柱建物４Ｐ９
179	Ｈ４	34	32	22	③	掘立柱建物４Ｐ８
180	Ｈ４	35	35	13	③	
181	Ｈ・Ｉ４	37	24	6	④	
187	Ｈ５	45	－	50		
188	Ｈ５	37	－	53	②	
189	Ｈ５	43	－	68	③	
190	Ｈ５	67	－	72		
191	Ｈ５	40	－	13	②	
192	Ｈ・Ｉ４	57	45	33		唐津皿
220	Ｈ４	50	－	26		
390	Ｉ４	35	35	41	⑤	
391	Ｉ４	43	38	39	⑤	
392	Ｉ４	65	43	35	⑤	
393	Ｉ４	50	45	31	⑤	
397	Ｉ４	62	49	79	⑤	
402	Ｉ４	84	46	28	⑤	石
403	Ｉ４	45	36	29	⑤	
404	Ｉ４	102	78	82	⑤	
405	Ｉ４	78	55	91	⑤	
419	Ｈ４	152	88	75	①	
420	Ｈ４	49	－	37	①	
421	Ｈ４	73	－	71	①	
422	Ｈ４	100	－	53	①	
423	Ｈ４	52	－	37	①	
424	Ｈ４・５	50	－	36	①	
425	Ｈ４・５	60	44	39	①	
426	Ｈ５	47	41	59		
451	Ｆ５	43	30	24	⑥	溝10内側
452	Ｉ４	85	55	49	③	
453	Ｉ４	110	60	92		
454	Ｉ４	70	50	84	③	
455	Ｉ４	80	57	23		
456	Ｉ４	57	50	70		
457	Ｉ４	100	30	28		
458	Ｉ４	42	－	17	⑤	
472	Ｈ５	50	30	22	③	掘立柱建物４Ｐ７
473	Ｈ４	30	30	20	③	掘立柱建物４Ｐ10
474	Ｇ５	50	32	23	③	掘立柱建物５Ｐ６
475	Ｈ４	38	35	20		
476	Ｈ５	60	－	50		
欠番	72、138、157、175、193～199					

①：黄灰色砂質土系、②：暗灰褐色砂質土系、③：灰褐色砂質土系（黄・灰色土粒多量に含む）、④：暗褐色砂質土系、⑤：灰色砂質土系、⑥：灰褐色砂質土系（黄・白色土粒多量に含む）、⑦：淡灰色砂質土系（鉄分含む、１ｅ層相当）

第５章　５区の調査

第１節　調査区内の堆積（図40・41）

調査区はほとんど平らといってよく、Ⅲ層上面で南北両端の比高差は0.5mほど、最終遺構面では約0.3mである。調査前の現況は田畑であり、南から北へ向け三段の段が形成されていた（図39）。そして北側の最下段は、表土直下に弥生時代遺物包含層であるⅤ・Ⅵ層が検出されたように、上層は削平されていた。

調査は表土剥ぎ前に東西方向のＴ１・２を設定し、堆積の確認作業を行なった。その後、重機による表土剥ぎをした。０区同様、トレンチを基に層位毎、平面的に掘り下げを行なった。本調査区の主要層位は以下のとおりである。なお、土層名横の（　）内は調査段階における層位名を示している。また遺構名の新旧対照を表25に掲げている。

Ⅰ層（０層）　：灰褐色砂質土。0.5～2.0cm程度の砂礫を多く含む。調査区北、Ｔ１より北側に厚く堆積。先述した耕作地最下段を覆い、地山まで掘り込む。遺物は近世後期が主体。

Ⅱ層（１層）　：暗灰褐色砂質土。0.5～2.0cm程度の砂礫を含む。調査区の全域に堆積。現代耕作面の基盤層。表土剥ぎ時に上層を削平しており正確な厚みは不明だが、調査区北側では下層を掘り込むようにして0.5m近い厚さをもつ。この下面で溝を検出した。溝内は近世後期、Ⅱ層中は中世後期が主体であるが、若干近世のものが含まれる。

Ⅲ層（２層）　：暗褐色砂質土。やや粘性がある。きめ細かい。調査区北側でⅠ・Ⅱ層に削平されるが、概ね全域に広がる。厚さは0.2～0.3mとほぼ均等。下面で平安時代前期の条里

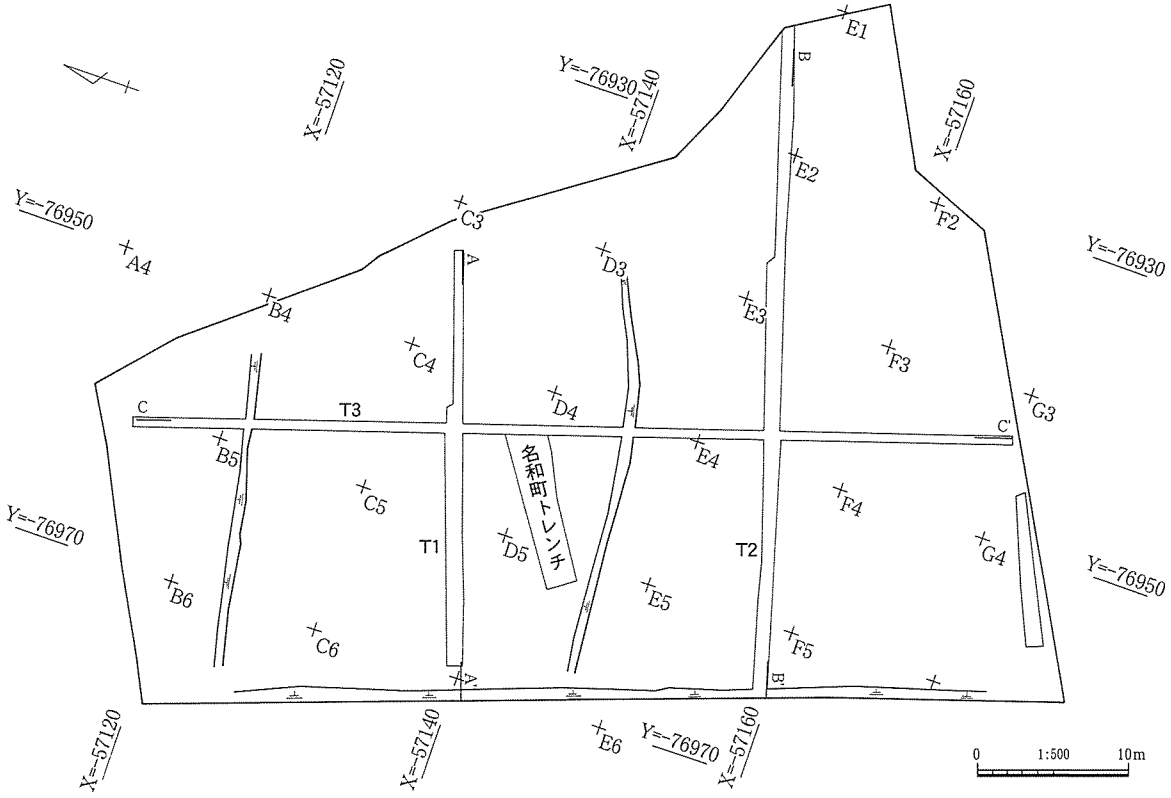


図39　５区調査前地形測量

表25　５区遺構名新旧対照

新遺構名	旧遺構名	新遺構名	旧遺構名	新遺構名	旧遺構名	新遺構名	旧遺構名
掘立柱建物６	SB９・SK33	土坑43	SK44	溝14	SD85	溝41	SD40
掘立柱建物７	SB８	土坑44	SK56	溝15	SD86	溝42	SD46
掘立柱建物８	SB７	土坑45	SK50	溝16	SD87	溝43	SD77
竪穴住居１	SI５	土坑46	SK70	溝17	SD88	溝44	SD76
竪穴住居２	SI９	土坑47	SK30	溝18	SD79	溝45	SD42
竪穴住居３	SI１	土坑48	SK31	溝19	SD82	溝46	SD55
土坑22	SI８	土坑49	SK32	溝20	SD74	溝47	SD41
土坑23	SI３	土坑50	SK73	溝21	SD75	溝48	—
土坑24	SI６	土坑51	SK53	溝22	SD81	溝49	SD66
土坑25	SI７	土坑52	SK55	溝23	SD80	溝50	SD39
土坑26	SK45	土坑53	SK63	溝24	SD78	溝51	SD44
土坑27	SK34	土坑54	SK40	溝25	SD31・54・65	溝52	SD43
土坑28	SK47	土坑55	SK36	溝26	SD32・48	溝53	SD59
土坑29	SK65	土坑56	SK39	溝27	SD33・56	溝54	SD60・66
土坑30	SK42	土坑57	SK38	溝28	SD35	溝55	SD63
土坑31	SK43	土坑58	SK67	溝29	SD64	溝56	—
土坑32	SK59	土坑59	SK66	溝30	SD36・45	溝57	SD24
土坑33	SK57	土坑60	SK41	溝31	SD37	溝58	SD30
土坑34	SK64	土坑61	SK71	溝32	SD38	溝59	SD23
土坑35	SK52	土坑62	SK51	溝33	SD67	溝60	SD28
土坑36	SK60	土坑63	SK35	溝34	SD83	溝61	SD26
土坑37	SK69	土坑64	SK58	溝35	SD68	溝62	SD27
土坑38	SK72	土坑65	SK68	溝36	SD34	溝63	SD21
土坑39	SK77	土坑66	SX１	溝37	SD47	溝64	SD29
土坑40	SK61	土坑67	SK74	溝38	SD36	溝65	SD25
土坑41	SK46	土坑68	SK76	溝39	SD73	溝66	SD22
土坑42	SK48	溝13	SD84	溝40	SD71		

制に関連すると思われる溝を検出した。

Ⅳ層（３ａ層）：黒色土。しまりわるく、砂礫は少ない。0.1～0.2mほどの薄い堆積で、調査区北側以外のほぼ全域にある。しかし遺構は、Ｄ２・３グリッド周辺でのみ確認できた。Ⅲ層下面と時期差はほとんどない。

Ⅴ層（３ｂ層）：黒灰色土。きめ細かく、砂礫少ない。調査区北側を除く全域に広がり、0.2～0.5mの堆積がある。この上下面で遺構は確認できなかったが、おそらく上面は古墳時代、下面が弥生時代後期（～中期後葉）の遺構面に相当すると考えられる。

Ⅵ層（３ｃ層）：黒色土。やや褐色みを帯びる。砂礫多い。Ⅴ層ほど広範、かつ堆積も厚くはない。Ⅴ・Ⅵ層の境界が必ずしも明確に線引きできているわけではないため、あるいは様相は異なるかもしれない。下面が弥生中期の遺構面であろうか。（中森）

第２節　縄文時代の調査

１）概要

本調査区では、明確に本期に比定し得る遺構は確認できなかった。それは地山面まで掘り下げて検出せざるを得ず、検出面や埋土からの弥生時代との区別が不可能であったためである。その中で縄文土器が出土した遺構は、土坑42・45・50の３基のみである。しかし土坑50は弥生時代中期中葉の溝13を切るため、それ以降である。一方、土坑42・45については本期である可能性も考えられる。（中森）

２）出土した遺物（図42、図版20－２）

前期と考えられるもの（266～277）の分布をみると、Ｂ・Ｃ－３～５グリッドにやや密度が高い。後期（278～284）はＢ３・４とＥ・Ｆ－３グリッドに分かれ、晩期（285～288）はＥ・Ｆグリッドとなる。粗製品（289～292）を含めると、後～晩期は調査区南側に偏る傾向がある。（中森）

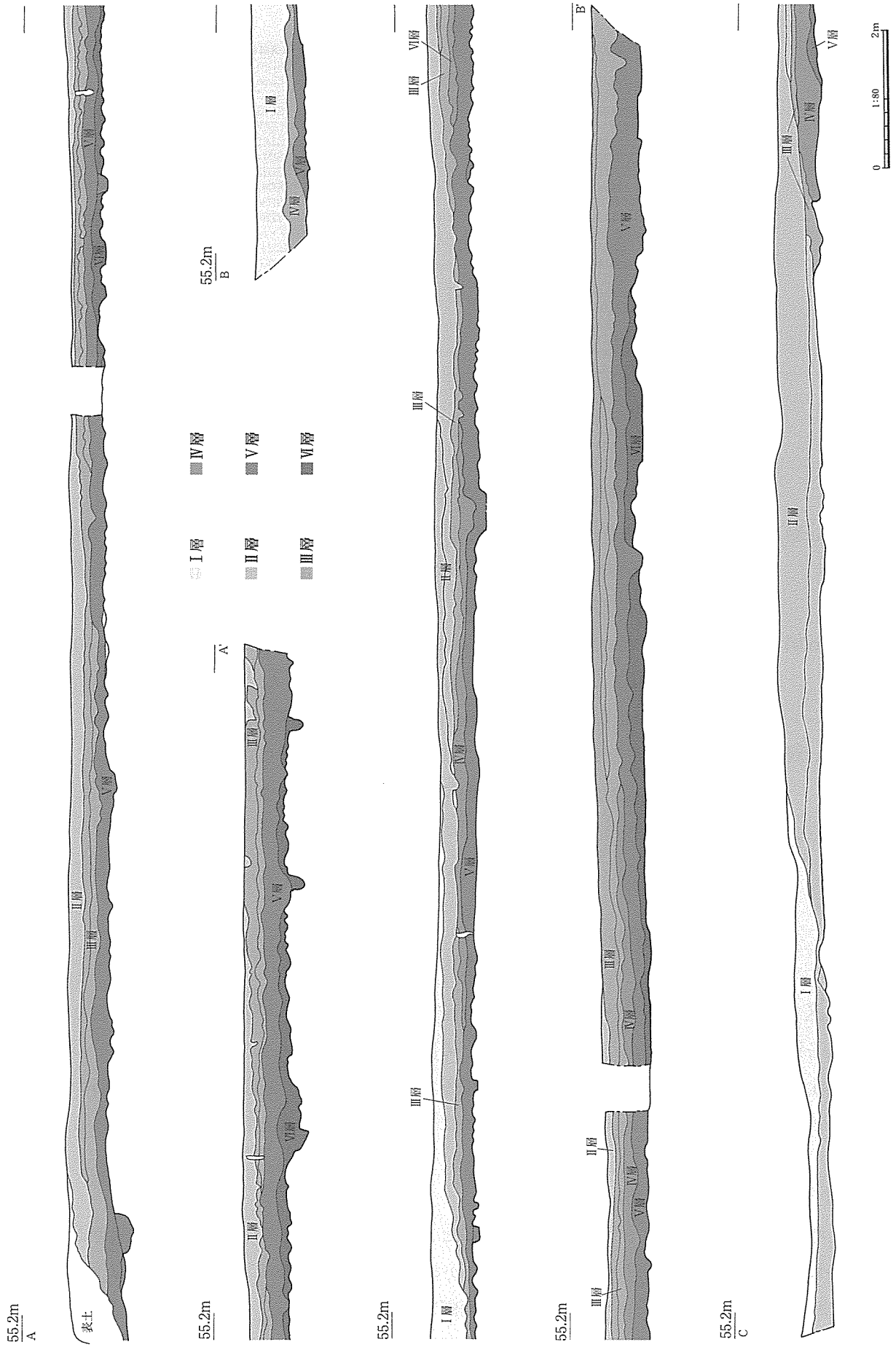

55.2m
A
表土
Ⅱ層
Ⅲ層
Ⅴ層
Ⅵ層
55.2m
A'
Ⅲ層
Ⅴ層
Ⅵ層
Ⅱ層
55.2m
B
Ⅰ層
Ⅴ層
Ⅳ層
Ⅳ層
Ⅴ層
Ⅵ層
Ⅰ層
Ⅱ層
Ⅲ層
55.2m
Ⅰ層
Ⅲ層
Ⅱ層
Ⅲ層
Ⅵ層
Ⅲ層
55.2m
B'
Ⅲ層
Ⅴ層
Ⅵ層
Ⅳ層
Ⅱ層
Ⅲ層
55.2m
C
Ⅴ層
Ⅳ層
Ⅲ層
Ⅱ層
Ⅰ層
0
1:80
2m

図40　５区土層断面（１）

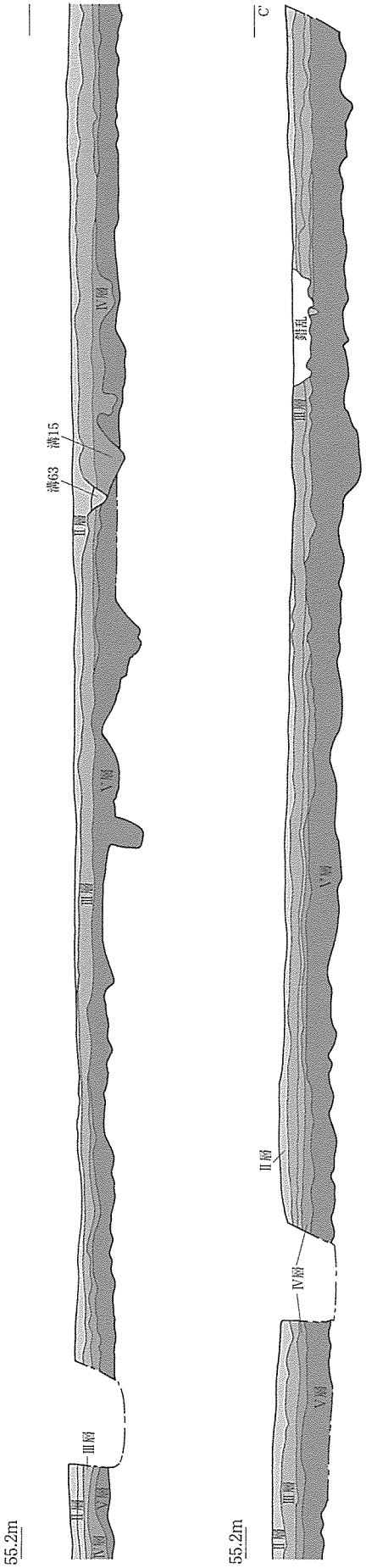


図41　５区土層断面（２）

第３節　弥生～古墳時代の調査

１）概要（図43）

平成13年度調査の３区において、第３遺構検出面で中期後葉の竪穴住居（ＳＩ１）、および掘立柱建物（ＳＢ１）がそれぞれ１棟検出されている。しかし調査地から北へ200ｍほどに位置する茶畑山道遺跡や、蛇ノ川を隔てた茶畑第１遺跡のように、建物などが密集するような状況ではない。また本調査区における、事前の名和町による試掘調査でも弥生時代のものはまとまって出土していなかったため、３区に近い状況を当初想定していた。

ところが調査が進展していくにつれ、弥生時代中期の遺構が密にあり、また茶畑山道、茶畑第１遺跡で検出されていない後期後葉の遺構までもがみつかった。作業量の増加が見込まれた段階で、作業員人数を一時的に増やし、弥生時代包含層の掘り下げにあたるなどの対応を行なった。本来ならばⅤ・Ⅵ層間で遺構検出に努めなければならないところではあるが、時間的な制約などにより厳密には行えず、最終面まで掘り下げて遺構を検出した。また埋土から判別しようと試みたが、同時期と思われる完形に近い遺物がまとまって出土した遺構群にも埋土差がみられた。そのため、遺物のないものについては、弥生時代の範疇には収まるが中期であるか、後期のものか判断つかなかったものが多い。

こうした中で時期のわかるものには中期が多く、本調査区の主体的な時期といえよう。中期後葉においては竪穴住居と掘立柱建物があり、３区の成果と合わせると茶畑山道遺跡と異なる集落構造となる。さらに後期においても住居跡が１棟ある。本区から1.2～1.3km南に位置する、茶畑第２、東高田遺跡でまとまってみつかっているが、調査地周辺では希薄であることは注目されよう。

なお、古墳時代後期初頭の溝が１条あった。　　（中森）

２）弥生時代中期の遺構と遺物

竪穴住居１（図44～46、カラー図版４、図版21、22、23－３・４）

調査区南、Ｆ３杭から１ｍ東に位置する。径4.5ｍ前後のほぼ円形を呈すものである。掘り方は浅く、検出したのは0.2ｍほどの深さであった。住居中央付近には床面から浮いて焼土がわずかに広がり、これは中央ピットへ向け落ち込むように堆積する（Ｂ－Ｂ'②層）。この周辺を中心に炭化材を検出し、住居

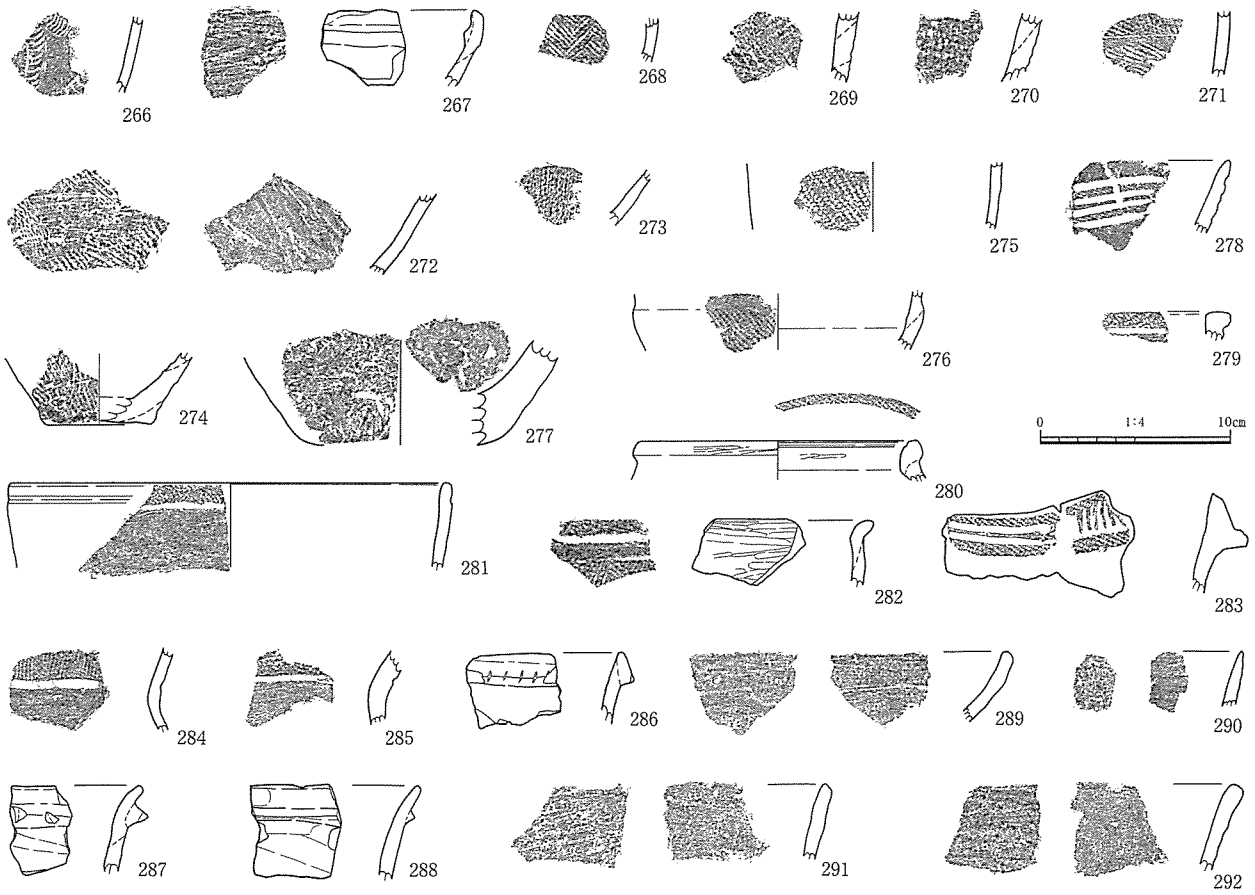


図42　遺構外出土遺物

表26　図43土器観察表

遺物番号	挿図番号	地区 層位遺構	種別	器種	口径(底)	器高	特徴	胎土 焼成	色調	備考
266	42	B 5 Ⅲ層	縄文	深鉢	－	△4.1	内外面ナデ後、外面にはC字状の爪形文が３方向に施される。北白川下層Ⅰ式。	やや粗 やや軟	淡黄褐色	
267	42	C 4 Ⅲ層	縄文	深鉢	－	△4.0	口縁部は内湾気味に立ち上がり、内面の口縁より下がった位置に一条の突帯が巡る。外面粗いナデ、内面は丁寧なナデ。口縁端部の処理は雑。	粗 やや軟	淡黄褐色	
268	42	C 3 Ⅴ層	縄文	深鉢	－	△2.4	外面は羽縄文。内面は丁寧なナデ。北白川下層式か。	やや粗 やや軟	淡黄褐色	
269	42	E 2 Ⅵ層	縄文	深鉢	－	△3.7	外面は羽縄文。内面は丁寧なナデ。器壁厚い。北白川下層式か。	やや粗 やや軟	黄褐色	
270	42	D 5 Ⅵ層	縄文	深鉢	－	△3.6	単位の大きい縄文。器壁厚い。	粗 やや軟	暗灰色	
271	42	B 3 Ⅳ層	縄文	深鉢	－	△3.3	縄文。内面は横方向にミガキ。内面黒斑。	粗 やや軟	外：淡褐色 内：黒灰色	
272	42	B 5 Ⅲ層	縄文	深鉢	－	△4.2	粗くケズリ後、縄文が疎らに施される。	粗 やや軟	褐色	同一固体
273	42	B 5 Ⅳ層	縄文	深鉢	－	△2.9	粗くケズリ後、縄文が疎らに施される。	粗 やや軟	褐色 内：下半黒斑	
274	42	C 5 溝14	縄文	深鉢	(＊5.6)	△3.8	粗くケズリ後、縦位に縄文が施される。底部はやや窪み底。	粗 やや軟	褐色	
275	42	D 3 土坑45	縄文	深鉢	－	△3.5	外面に縄文。内面ナデ。煤が若干付着する。	やや粗 やや軟	黒褐色	
276	42	G 4 Ⅲ層下層	縄文	鉢？	－	△3.0	胴部上位で屈曲するもの。外面胴部縄文、頸部はナデ。内面ナデ。	粗 やや軟	赤褐色	
277	42	E 1 Ⅵ層	縄文	深鉢	(＊8.2)	△5.5	器壁厚く丸底状を呈す。胎土に繊維含むか。内面丁寧にナデ、外面は粗く調整。	粗 やや軟	淡黄褐色	
278	42	E 3 Ⅲ層	縄文	深鉢	－	△2.7	直線的に外傾する口縁部。外面に４条の沈線が平行し、その間に縄文が残る。	やや粗 やや軟	淡灰褐色	
279	42	E 3 Ⅳ層	縄文	深鉢	－	△1.5	口縁部が肥厚するように一条の沈線が巡る。端部面取り、外面には縄文が施される。端部から内面丁寧なナデ。	粗 やや軟	暗褐色	
280	42	B 3 Ⅳ層	縄文	深鉢	＊14.6	△2.1	内湾気味の胴部から短く外反する口縁部。口縁端部に縄文が施され、その内面下側に一条の沈線が巡る。内外面ともミガキ。内面黒斑。	やや粗 やや軟	黒褐色	
281	42	B 3 Ⅳ層	縄文	深鉢	＊23.0	△4.5	若干湾曲気味に立ち上がる口縁部。下端はやや屈曲するものと思われる。外面上部に一条の沈線、その上に縄文。内外面横ナデ。	粗 やや軟	赤褐色	
282	42	B 4 Ⅱ～Ⅲ層	縄文	深鉢	－	△3.4	口縁端部が「く」字状に屈曲する。頸部は無文。その上下には縄文が施される。内外ミガキ。	やや粗 やや軟	暗褐色	
283	42	F 3 Ⅳ層	縄文	深鉢	－	△5.7	口縁部は肥厚し波状を呈す。縄文地に２条の沈線があり、拡張部にはその間に縦位の沈線が連続する。内面および口縁部下ナデ。	粗 やや軟	橙褐色	
284	42	C 3 トレンチ内	縄文	深鉢	－	△4.4	屈曲部分に沈線が巡り、上は縄文、下は横ミガキ。内面もミガキ。	やや粗 軟	外：褐色 内：暗褐色	
285	42	F 3 Ⅴ層	縄文	深鉢	－	△3.9	屈曲部分に沈線が巡り、上は縄文、下は横ミガキ。内面もミガキ。284よりも器壁厚い。	粗 やや軟	淡褐色	
286	42	E 2 Ⅵ層	縄文	深鉢	－	△3.8	口縁に接して突帯が付く。突帯断面は三角形で、細いキザミが連続する。内外面ナデ。	粗 やや軟	淡橙褐色	
287	42	F 2 Ⅲ層	縄文	深鉢	－	△4.7	口縁端部は外反し、そこから下がって高めの突帯が付く。断面上向きの三角形で、「D」字状キザミが連続する。	粗 やや軟	淡褐色	
288	42	C 6 Ⅳ層	縄文	深鉢	－	△5.0	口縁端部は外反し、そこから下がって低い突帯が付く。断面三角形で、無キザミ。口縁端部はやや面取り気味。	粗 やや軟	淡褐色	
289	42	F 2 Ⅵ層	縄文	鉢	－	△3.7	緩やかに湾曲するもの。内外面ナデ。	粗 やや軟	内：淡褐色	
290	42	C 1 土坑50	縄文	深鉢	－	△2.9	口縁端部が尖る粗製深鉢口縁。外面ケズリ、内面ナデ。	やや粗 やや軟	淡褐色	
291	42	D 2 Ⅵ層	縄文	深鉢	－	△4.0	口縁端部が丸みをもつ粗製深鉢口縁。内外面ケズリ。	粗 やや軟	淡褐色	
292	42	D 5 Ⅵ層	縄文	深鉢	－	△4.6	やや外反する口縁部。端部は肥厚気味で、面取り。内面丁寧な、外面は粗いナデ。	粗 やや軟	淡黄褐色	

壁面付近では南西部を除き希薄であった。これらのうちＷ２・４・５は柱材と考えられ、とくにＷ２はＰ３上層から立ったような状態で出土している。またＷ３は板材の可能性をもつ。

土器は295・297が住居内北東隅、296が南東隅の柱穴外側から出土している。いずれも同じタイプの甕であるが、体部下半を欠き、かつ半分ほどしかない（図版21－２）。また、中央ピットＰ１周辺に鉄製品は分布する。この分布傾向は壊れ散乱する磨製石斧Ｓ22もほぼ同じであり、何らかの関連性が窺えようか。また砥石Ｓ23は真二つに割れたものであるが、片方がＰ１内から出土した。表面には魚と思われる線刻があり、裏にも意匠不明のものがある。（中森）

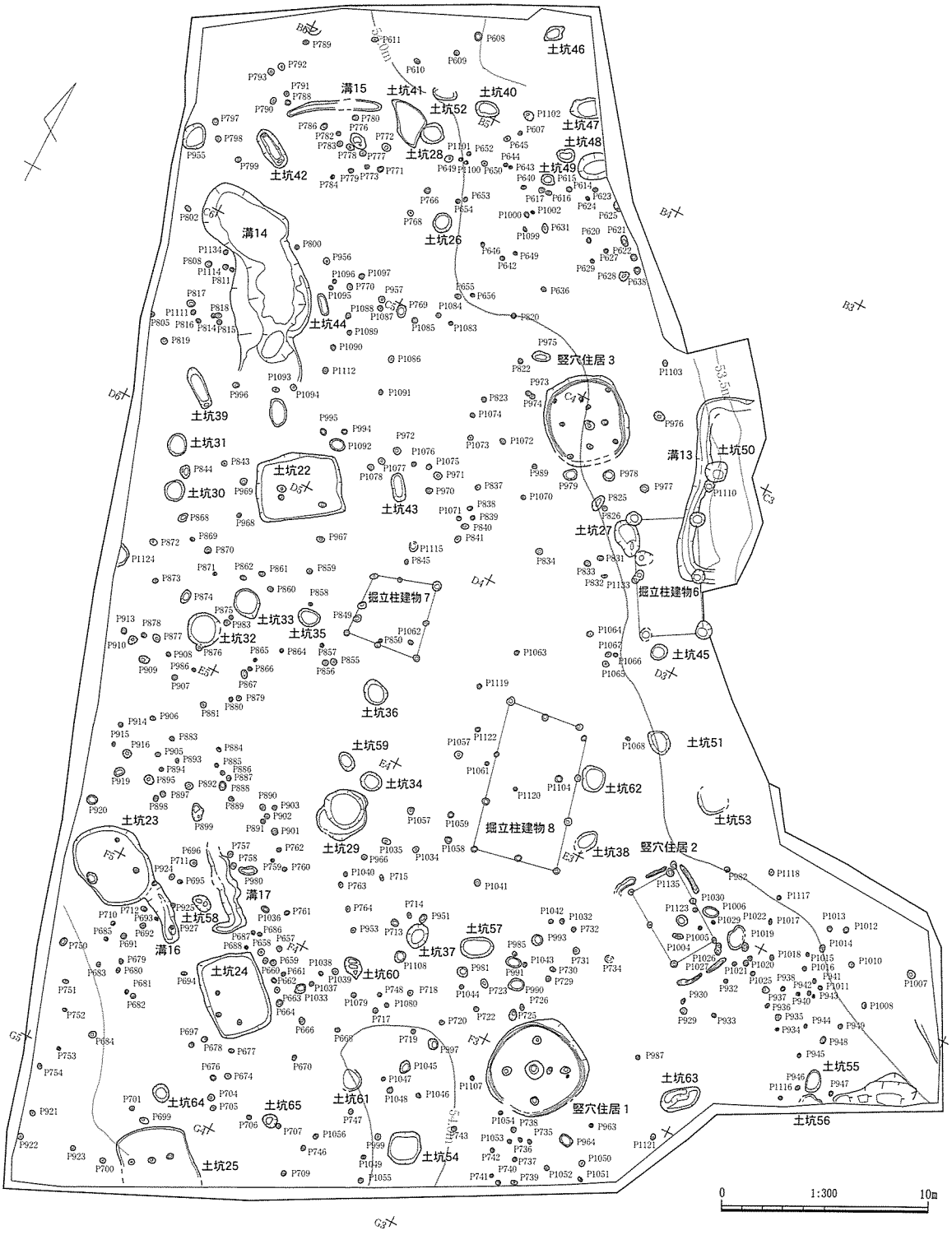
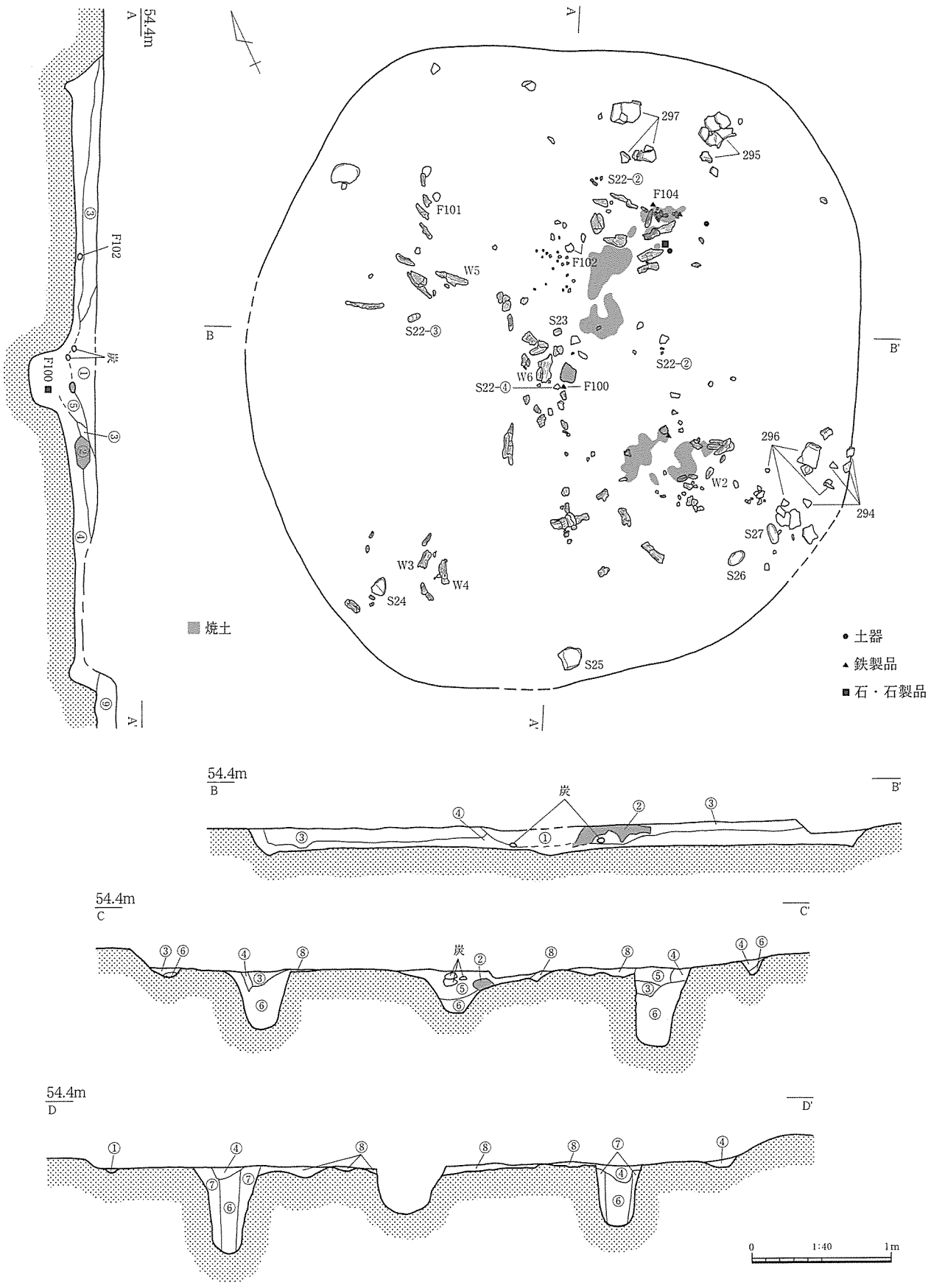


図43　弥生時代遺構分布



①黒色土(しまりわるい。キメ細かい。砂礫少ない)
②橙褐色土(硬化する部分あり。焼土)
③黒褐色土(砂礫多い。やや砂質)
④黒褐色土(やや粘質。しまりよい。砂礫多い)
⑤黒色土(やや砂質。キメ細かい)
⑥暗褐色砂質土(砂礫多い)
⑦黒褐色土(しまりわるい。砂礫多い)
⑧黄褐色砂質土(貼床)
⑨黒色土(Ⅴ層相当)

図44　竪穴住居１遺物出土状況

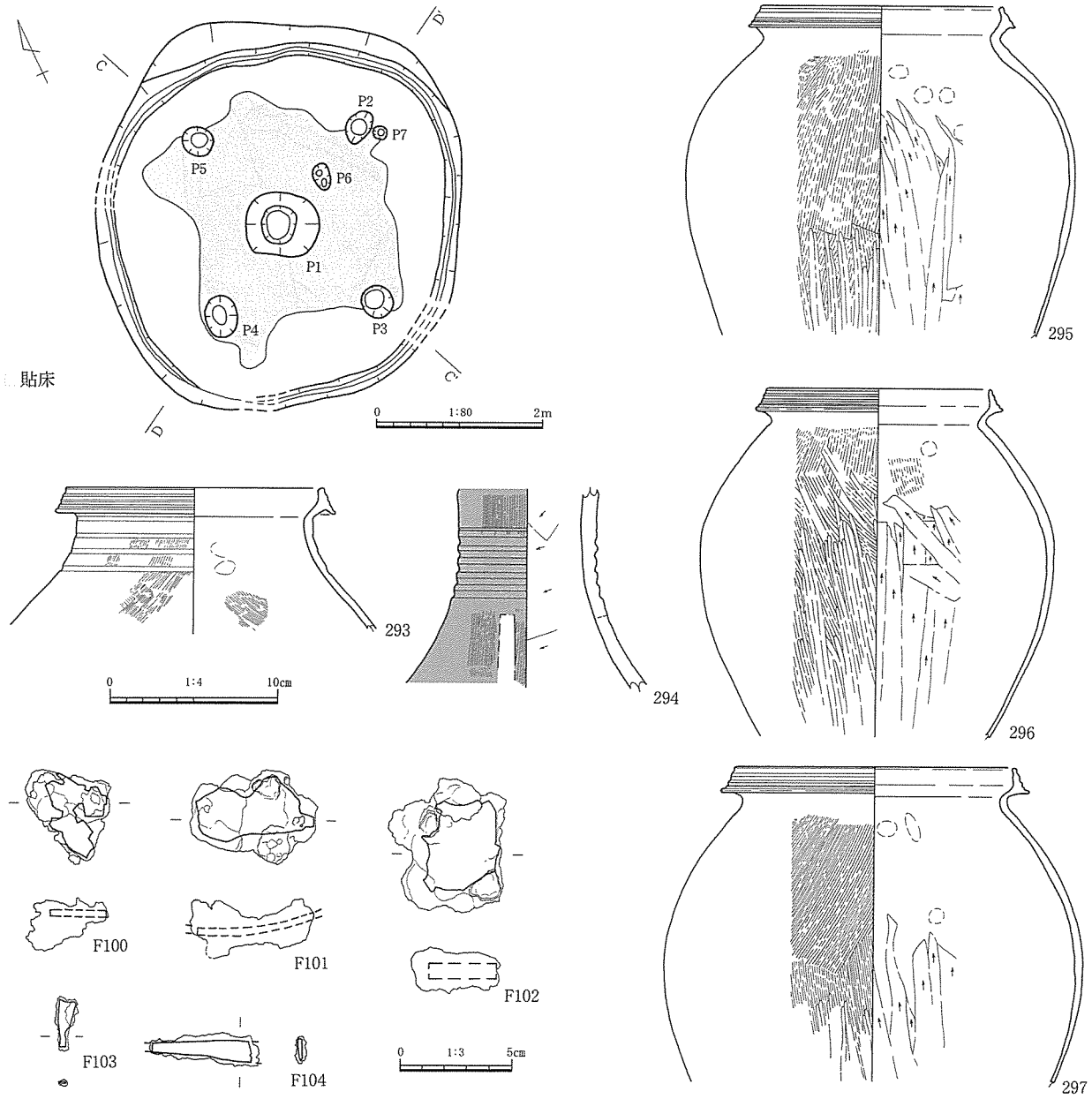


図45　竪穴住居１および出土遺物（１）

表27　竪穴住居１土器観察表

遺物番号	挿図番号	地区層位遺構	種別	器種	口径(底)	器高	特徴	胎土焼成	色調	備考
293	45	竪穴住居1	弥生	壺	＊15.5	△ 8.7	口縁部は上下に拡張され、４条の凹線が巡る。頸部にも４条の凹線。口縁内面ナデ。体部内外ハケ。辻Ⅳ－２期。	密良	内外：橙色	
294	45	竪穴住居1	弥生	高坏	－	△12.0	体部に６条の凹線。外面は縦ハケ、内面ケズリ。凹線下に長方形のスカシ。外面赤色塗彩。	密良好	外：赤色 内：鈍い黄橙色	
295	45	竪穴住居1	弥生	甕	＊14.5	△19.8	口縁は上部への拡張が顕著。３条の凹線。口縁から頸部ナデ、体部外面はハケ、中位以下はヘラミガキ。内面は頸部付近ユビオサエ。ケズリは上位まで上がっている。辻Ⅳ－２期。	密良好	鈍い黄橙色	胎土分析No.19
296	45	竪穴住居1	弥生	甕	＊13.5	△20.85	口縁は上部への拡張が顕著。４条の凹線。口縁から頸部ナデ、体部外面はハケ、およびヘラミガキ。内面は頸部付近ユビオサエとハケ。ケズリは中位まで上がっている。辻Ⅳ－２期。	密良好	鈍い黄橙色	胎土分析No.18
297	45	竪穴住居1	弥生	甕	＊16.9	△18.95	体部丸みをもつもの。口縁は上部への拡張が顕著。４条の凹線。口縁から頸部ナデ、体部外面はハケ、下位にヘラミガキ。内面は頸部付近ユビオサエ。ケズリは中位まで。辻Ⅳ－２期。	密良好	外：橙色 内：鈍い黄橙色	胎土分析No.17

竪穴住居２（図47・48、図版23－１・２・５・６）

北西を軸にする１×２間の柱が立ち、長軸柱間は約2.0m、短軸は2.45mほどを測る。ピットは0.25～0.35mの円形を呈し、Ｐ２を除き0.3～0.5mの深さがある。Ｐ２のみ0.1m強と浅い。一見掘立柱建物跡のようだが、柱穴を囲むように溝が巡り、かつ床面が広く硬化しているため、一連のものと判断した。住居名に「竪穴」と冠しているが、掘り込み面は不明なため平地式である可能性も考えられる。

住居中央やや北東よりには長径約0.55mの楕円形を呈すＰ１があり、この上面から西側に炭化材が

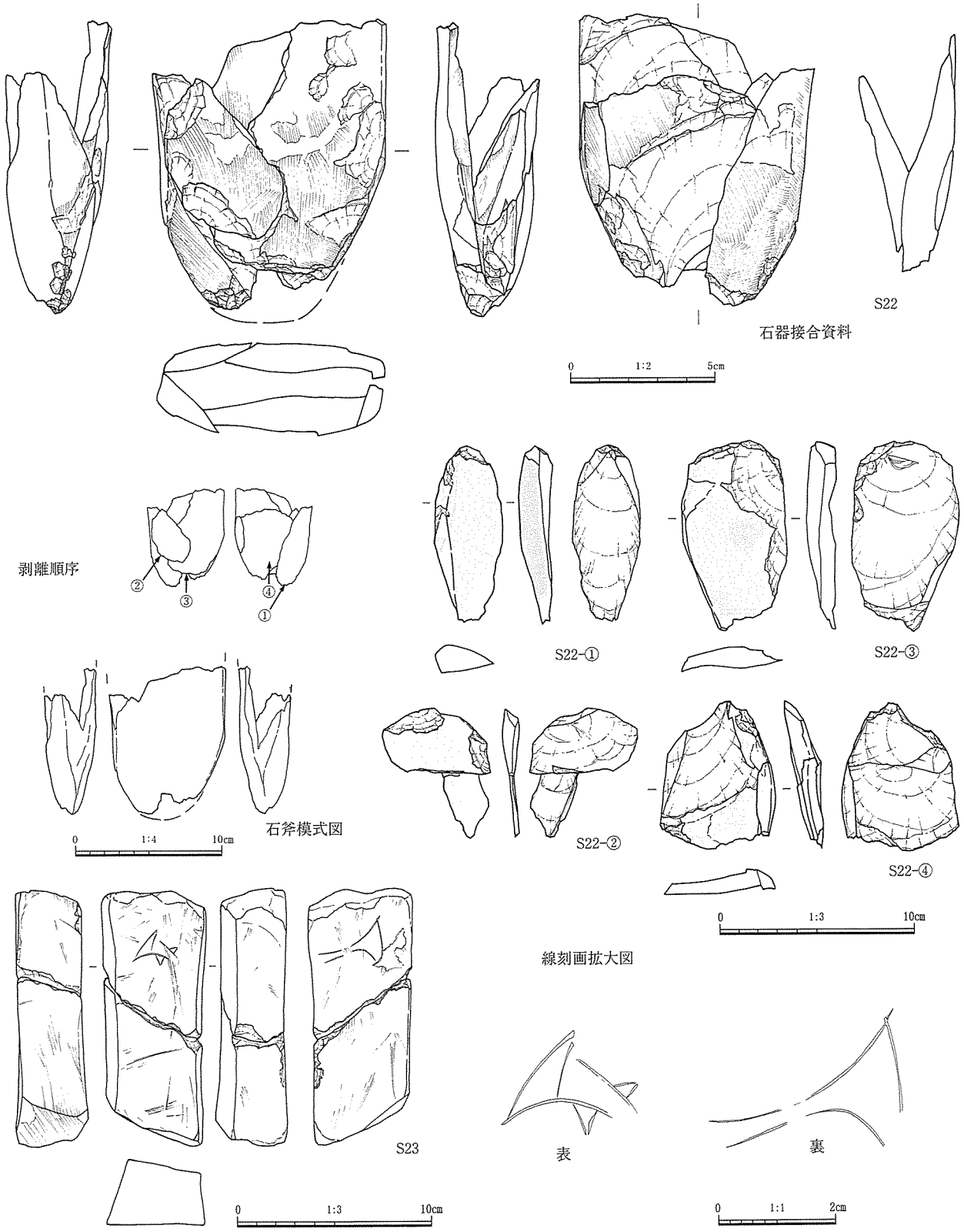


図46　竪穴住居１出土遺物（２）

表28　図46石器観察表

遺物番号	挿図番号	地区 層位・遺構	器　種	石　材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備　考
S22	46	竪穴住居１	剥片接合資料 磨製石斧刃部	黒色頁岩	9.2	8.2	3.3	228.3	磨製石斧の刃部を打剥して生じた剥片類の接合資料。緻密で硬質な頁岩利用。石斧の刃部再生を目的としたリダクション行為によるものか?①は刃部先からの器軸方向の打撃で剥離。②～④の打角は120°～150°と大きいので打撃は器軸交差方向。元の石斧は両刃。原礫面残(図空白部)。扁平で両側に面をもつ。研磨痕は細く鋭い条痕として明瞭に観察できる。①の頭部(斧刃部)には細かい剥離と敲打痕がみられることから、刃部が打剥を受ける前段階に敲き石に転用されていた可能性もある。
-①	46	竪穴住居１	剥片	黒色頁岩	9.2	3.5	1.7	60.0	
-②	46	竪穴住居１	剥片	黒色頁岩	6.8	5.5	0.9	17.8	
-③	46	竪穴住居１	加工痕ある剥片	黒色頁岩	9.7	5.4	1.1	75.0	
-④	46	竪穴住居１	剥片	黒色頁岩	7.7	5.9	1.3	75.5	
S23	46	竪穴住居１	砥石	細粒花崗岩	13.0	5.5	3.4	324.0	定形砥石。砥石目極細。表裏に細く鋭い刻線で描かれた絵画。ほぼ全面に平滑な研磨面。部分的に浅い擦痕と深く鋭い傷痕あり。線刻画は使用痕に切られ、部分的に消える。二つに割れた後にも使用。

表29　図45鉄製品観察表

報告書	構成No.	遺物	地　区	層位、遺構	計測値（cm）			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
100	②a	鉄製品	E２	竪穴住居１	3.85	4.2	2.4	18.4	－	銹化（△）	
101	③	鉄製品(鍛造品)刀子板状不明、袋状鉄斧	E２	竪穴住居１	5.5	4.25	2.65	47.4	2	銹化（△）	
102	④	鉄製品	E２	竪穴住居１	4.0	6.0	2.1	87.0	－	銹化（△）	
103	⑤	鉄製品（鍛造品）鏃	E２	竪穴住居１	1.05	2.4	0.35	0.9	2	銹化（△）	
104	⑥	鉄製品（鍛造品）刀子	E２	竪穴住居１	5.0	1.5	0.35	1.8	2	銹化（△）	

出土した。ピット上面には板材Ｗ７があり、その西の垂木材と考えられるＷ８ともども材質はヤマグワであった。また床面から、大型の砥石Ｓ28、甕（298、299）が出土した。砥石は部分的に溝状の窪みがあり、玉砥石であった可能性も考えられよう。（中森）

土坑22（図49・50、図版26・27・31－３・４）

Ｄ５杭周辺で検出した、長径4.0m、短径3.2mほどの長方形を呈する土坑である。深さは約0.2mで、一見すると小型の竪穴住居跡状であるが、床面には３基の浅いピットがあるのみで、これらに規則的な配列などは見出せない。また土坑周辺からもこれに伴いそうなピットはなく、上屋をもつかどうかは不明である。遺物は床面よりやや浮いた状態で南側に密集していた。甕は完形２個体を含み４個体（305～307）ある。一方壺は３ないし４個体（301～304）で、301は頸部から上、302は体部上半の個体である。甕307は底部に焼成後外面より穿孔しており、壺の状態と合わせ、意図的に打ち欠かれたものが廃棄されている可能性が考えられよう。なお、わずかながら炭化材が床面などから出土した。しかし、直ちに焼失家屋であるかどうかは、上屋の問題を含め不明である。（中森）

掘立柱建物６（図51、図版25－４）

Ｃ２・３グリッド、台地縁辺付近の平坦面に位置する。Ｐ２・３は溝13に一部を切られる。桁行２間、梁行１間で、桁行（長軸）約5.6m、梁行（短軸）約3.0mを測る。各柱穴は、径0.5～0.8m、深さ0.6m前後を測る。Ｐ５ではⅥ層類似の流入土下に柱痕と掘り方込め土を確認できた。柱穴中央のしまりの弱い黒色土（②層）を柱痕、その周囲の砂礫を多く含むしまりの強い暗褐色ないしは黒色土（③層～⑥層）を込め土と判断した。Ｐ５以外の柱穴内ではⅥ層と同質の流入土を１層のみ確認している。Ｐ２から土器細片がわずかに出土しているが、溝13との切り合いから中期中葉に比定できよう。（北）

土坑23（図51・52、図版25－３・５、31－１）

Ｆ５杭周辺に位置する。北側上部がトレンチで切られている。長径4.0m、短径3.4mのやや不整な隅丸方形を呈し、深さ0.2mを測る。床面でピット3基を検出したが、規則的位置にはない。遺物は甕（309、310）、礫（Ｓ31～34）が床面よりやや浮いて出土した。土坑22、24、25同様性格は不明。（木山）

土坑24（図51・52、図版25－１・５、31－１）

土坑23の東に位置する。長径4.0m、短径3.1mの隅丸長方形で、深さ0.2mを測る。床面からはピットを3基検出したが、規則的なものではない。一方土坑東側上場にはピットが密に並ぶ。ただし、これらが土坑に関連するかは不明であり、また一方向にしかない点で、上屋と関連づけることもできない。遺物は甕（313、314）が、床面よりやや浮いて出土している。（中森）

土坑25（図51・52、図版25－２・５、31－1）

Ｇ３・４グリッドにまたがり、土坑24の南に位置する。南東側はトレンチで切られる。短径が約3.0mであることから法量は土坑22～24とほぼ同様に、長径4.0mほどの隅丸長方形であったと考えられる。深さ0.1mを測る。ほぼ一直線上に並ぶピットが3基あり、ピット周辺の床面上で焼土層を検出した。炭化材はない。遺物は壺（311）、甕（312）が床面よりやや浮いた状態で出土している。（中森）

表30　図48石器観察表

遺物番号	挿図番号	地区 層位・遺構	器　種	石　材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備　考
S28	48	竪穴住居２	砥石	細粒花崗岩	28.8	10.1	8.1	2120.0	大型定形砥石。砥石目やや粗。中央部砥ぎ減り大。主として器体長軸方向に擦痕。部分的に溝状のくぼみを形成。小口面に深いくぼみ。

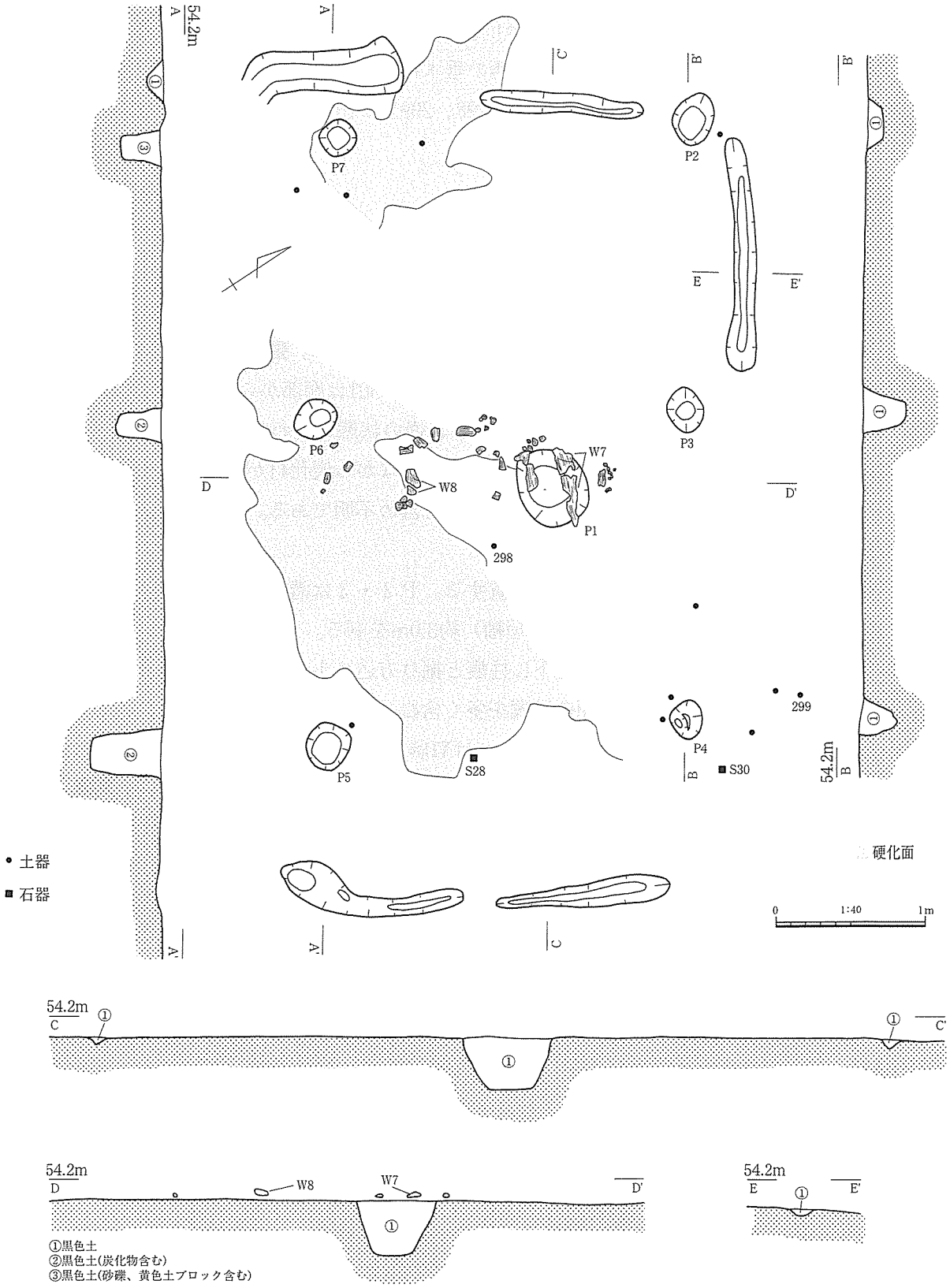


図47　竪穴住居２

土坑26（図52、図版29）

Ｂ４・５グリッドに位置する。長径1.0m、短径0.9mのほぼ円形を呈し、深さは0.4mを測る。土坑中央部埋土上層において、拳大の礫を検出した。さらにこの直下には頸部より上の壺（315）が口縁部を下に向けた状態で出土した。この面が①層と②層の境界にあたることから、土坑の下半分を埋め（①層）、口縁部を逆さにした壺を置き、さらに頸部に蓋をするように礫を置きながら②層で埋めているという手順が考えられよう。遺構形状など相違点も多いが、壺の頸部から上のみがある点は、先の土坑22例（301）と同じであり、こうした行為の関連性が窺える。（中森）

土坑27（図52）

台地縁辺部のＣ３グリッドに位置し、掘立柱建物６のＰ１をわずかに切る。上面が流失しているため近接したふたつの浅い落ち込みとして検出したが、本来は底面高の一定しない一つの土坑であろう。平面不整形で長軸2.9m、短軸1.8m、深さ0.2mを測る。底面から浮いた状態で土器片が出土している。

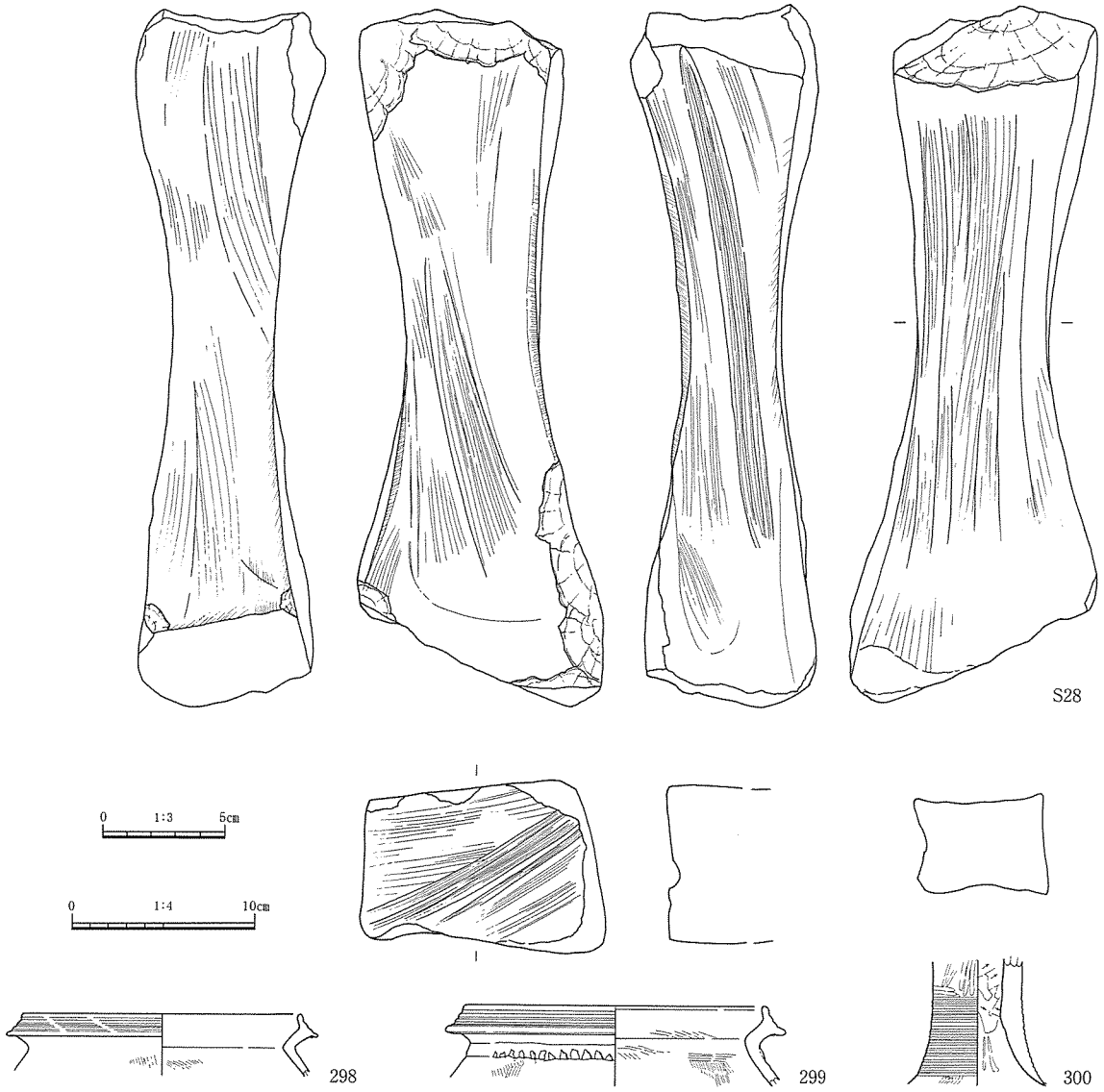


図48　竪穴住居２出土遺物

表31　竪穴住居２土器観察表

遺物番号	挿図番号	地区 層位遺構	種別	器種	口径（底）	器高	特徴	胎土 焼成	色調	備考
298	48	竪穴住居2	弥生	甕	＊15.3	△3.4	口縁部は上下に拡張され、４条の凹線が巡る。口縁ナデ。体部外面ハケ。辻Ⅳ－２期。	密 良	内外：黄橙色	
299	48	竪穴住居2	弥生	甕	＊16.5	△4.35	口縁部は上下に拡張され、４条の凹線が巡る。口縁ナデ。体部内外面ハケ。頸部に貼付突帯が巡る。辻Ⅳ－２期。	密 良	外：明褐色 内：鈍い黄橙色	
300	48	竪穴住居2	弥生	高坏	－	△6.95	体部に非常に細い沈線が巡る。沈線上位ミガキ。内面はケズリ。	密 良	内外：明黄褐色	

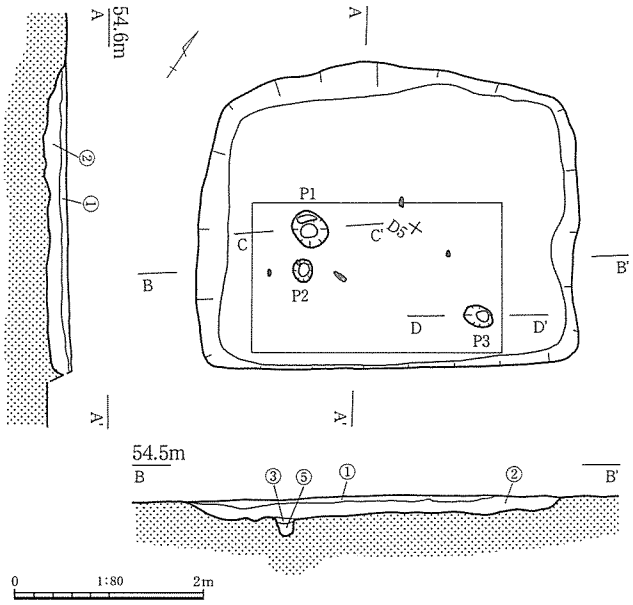
317は壷の口縁。318は甕の底部で焼成後穿孔がなされている。　（北）

土坑28（図52）

Ｂ５杭下に位置する。長径1.0mのほぼ円形を呈する。深さ0.2mを測るが、上面はＩ層に削平されるため、さらに深いものであったと思われる。埋土が土坑26②層に類似し、土坑形状、規模も類似するため、一連のものの可能性を考えた。遺物は出土していない。　（中森）

溝13（図52）

Ｂ・Ｃ３グリットにまたがり、台地東縁平坦面肩部から斜面にかけて位置する。掘立柱建物６のＰ２・Ｐ３の上面を切る。平面形コの字型で、南北長8.8m、東西長2.6m、幅0.6～0.8m、深さ0.4mを測る。溝の両端は東側斜面で途切れているが、流失したものと考えられ、本来はこれよりさらに延長していたとみられる。最終



①黒褐色土(やや粘質。砂礫多い)
②黒色土(やや粘質。砂礫多い)
③黒褐色土(砂礫多く含む)
④暗褐色土(やや砂質。砂礫多い)
⑤黒褐色土(ブロック状)

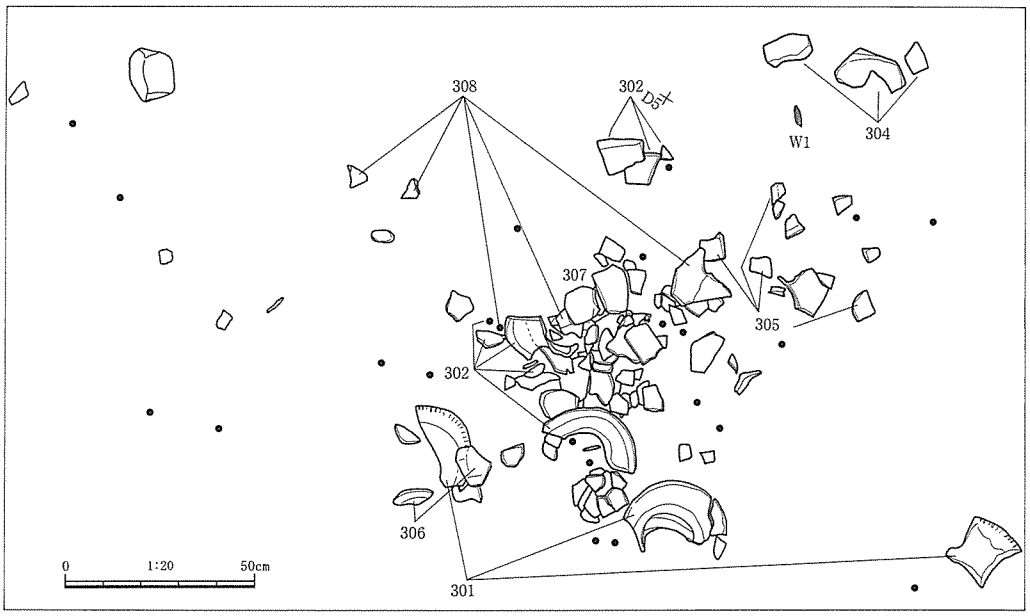


図49　土坑22

表32　土坑22土器観察表

遺物番号	挿図番号	地区層位遺構	種別	器種	口径(底)	器高	特徴	胎土焼成	色調	備考
301	50	土坑22	弥生	壺	26.0	△10.15	口縁が大きく開く。端面３条凹線後、キザミが連続。口縁上部には貼付突帯が付く。内外面ハケ。頸部に２条の突帯。	密良好	鈍い黄橙色	胎土分析No.4
302	50	土坑22	弥生	壺	26.6	20.3	口縁が大きく開く。口縁端面および口縁内面に格子目文。内面は文様下に刺突文が連続。内外面ハケ。頸部に２条の突帯。体部上位に刺突文。	密良好	鈍い黄橙色	胎土分析No.3
303	50	土坑22	弥生	壺	－	△ 7.5	壺の頸部。１条の貼付突帯巡る。突帯下にはキザミ時の爪状痕が残る。内外面ハケ。	密良	外：褐灰色	
304	50	土坑22	弥生	壺	(7.0)	△14.9	壺の底部。内面ハケ、外面はヘラミガキ。	密良好	鈍い黄橙色	
305	50	土坑22	弥生	壺	14.9	25.3	口縁端部は丸みをもち、端部は一部キザミ。口縁内外ナデ。外面体部上半ハケ、下半ヘラミガキ。内面上半ナデ、下半ヘラミガキ。外面煤付着。	密良好	鈍い黄橙色	胎土分析No.2
306	50	土坑22	弥生	壺	＊17.3	△10.65	口縁端部は面をもち、１条の凹線が巡る。体部外面ハケ、内面はナデ。下半部は一部ヘラミガキ。	密良	内外：浅黄橙色～淡赤橙色	
307	50	土坑22	弥生	壺	16.3	30.05	口縁端部は面をもち、１条の凹線が巡る。その上にキザミ。体部外面上半はハケ、下半ミガキ。中位に刺突が連続する。内面は上部ナデ、下半はケズリ。	密良	明赤褐色	胎土分析No.5
308	50	土坑22	弥生	壺	(5.6)	△19.6	甕の下半部。外面はヘラミガキ。内面も部分的にミガキ。	密良好	鈍い黄橙色	

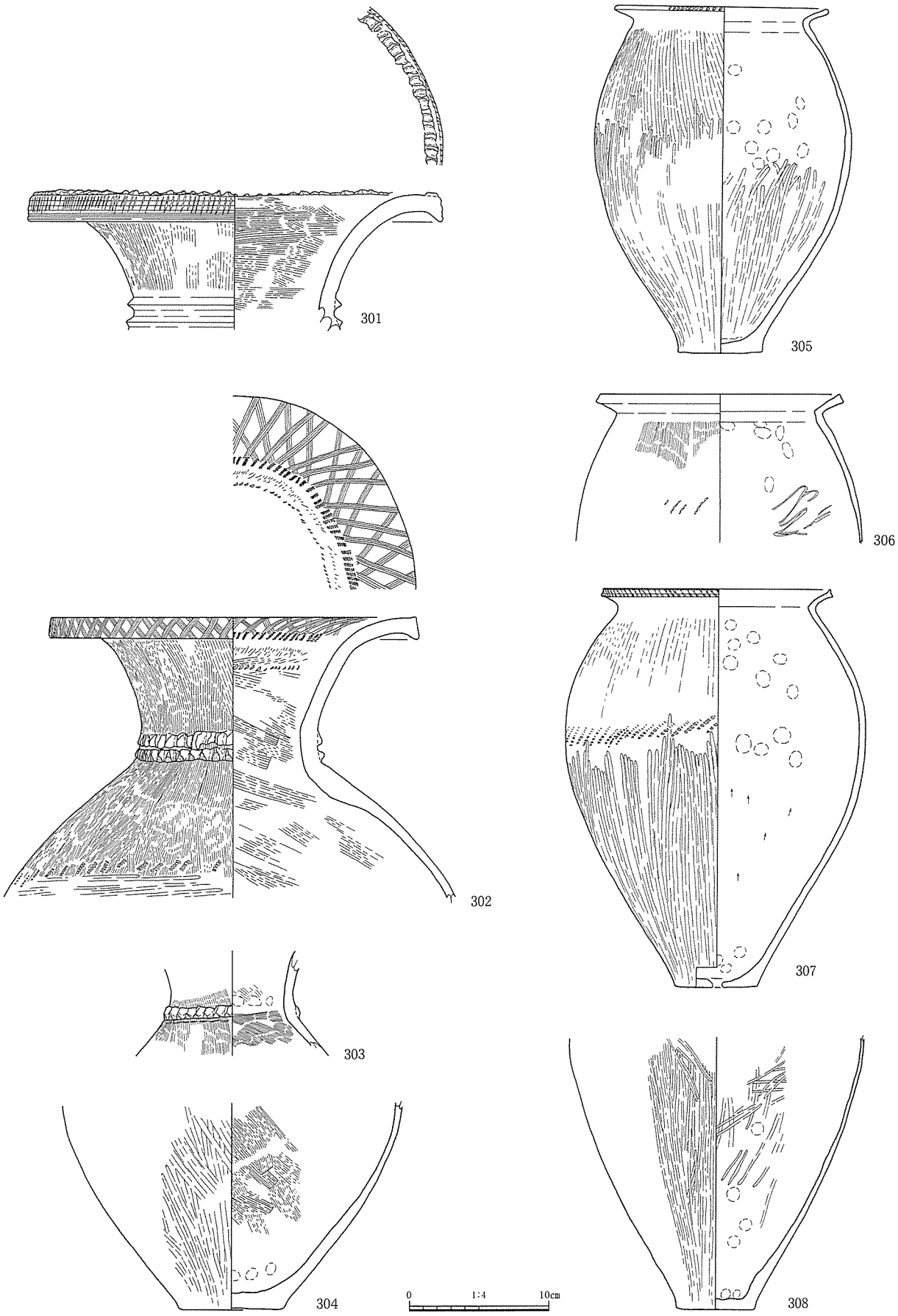


図50　土坑22出土遺物

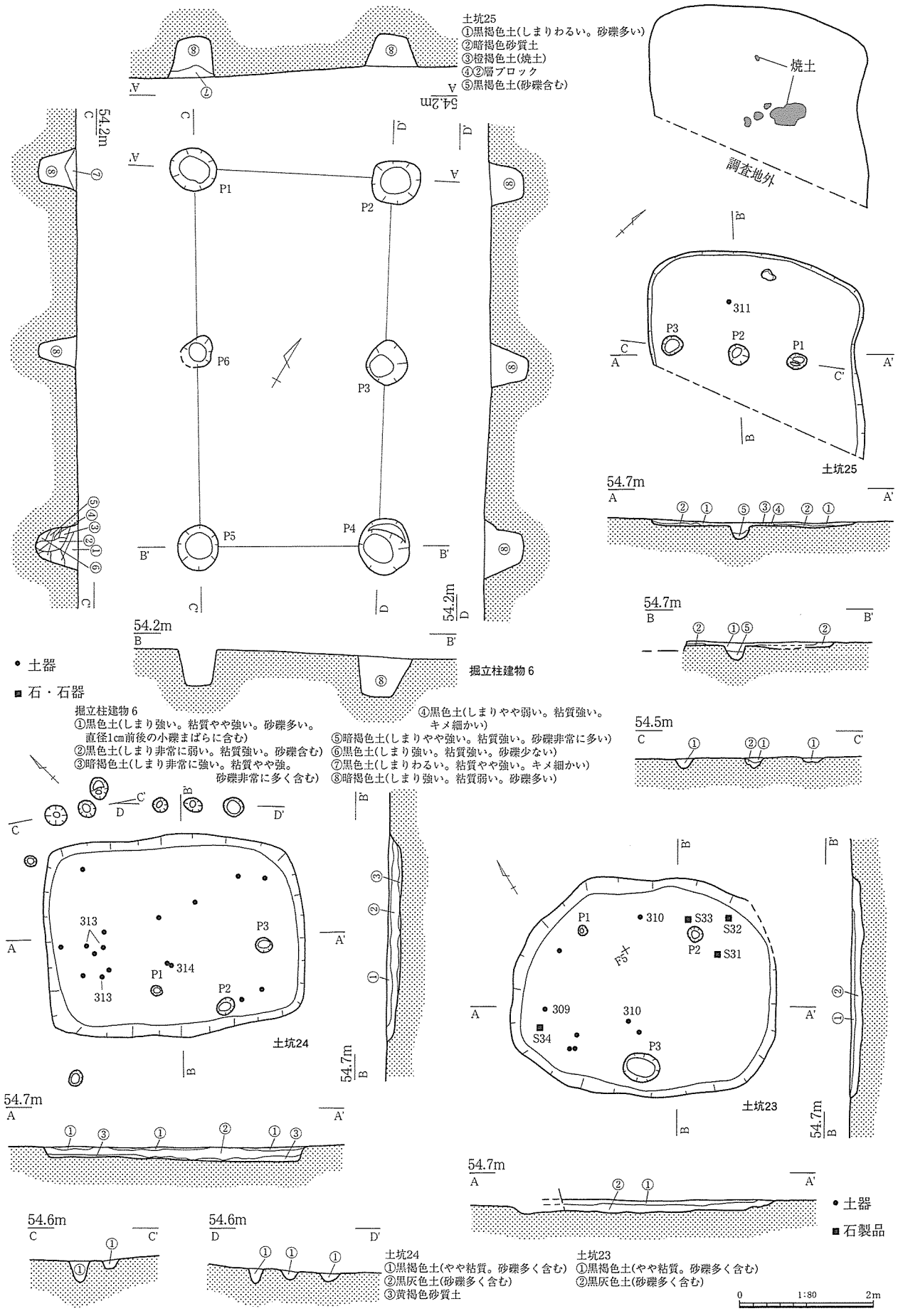


図51　掘立柱建物６、土坑23～25

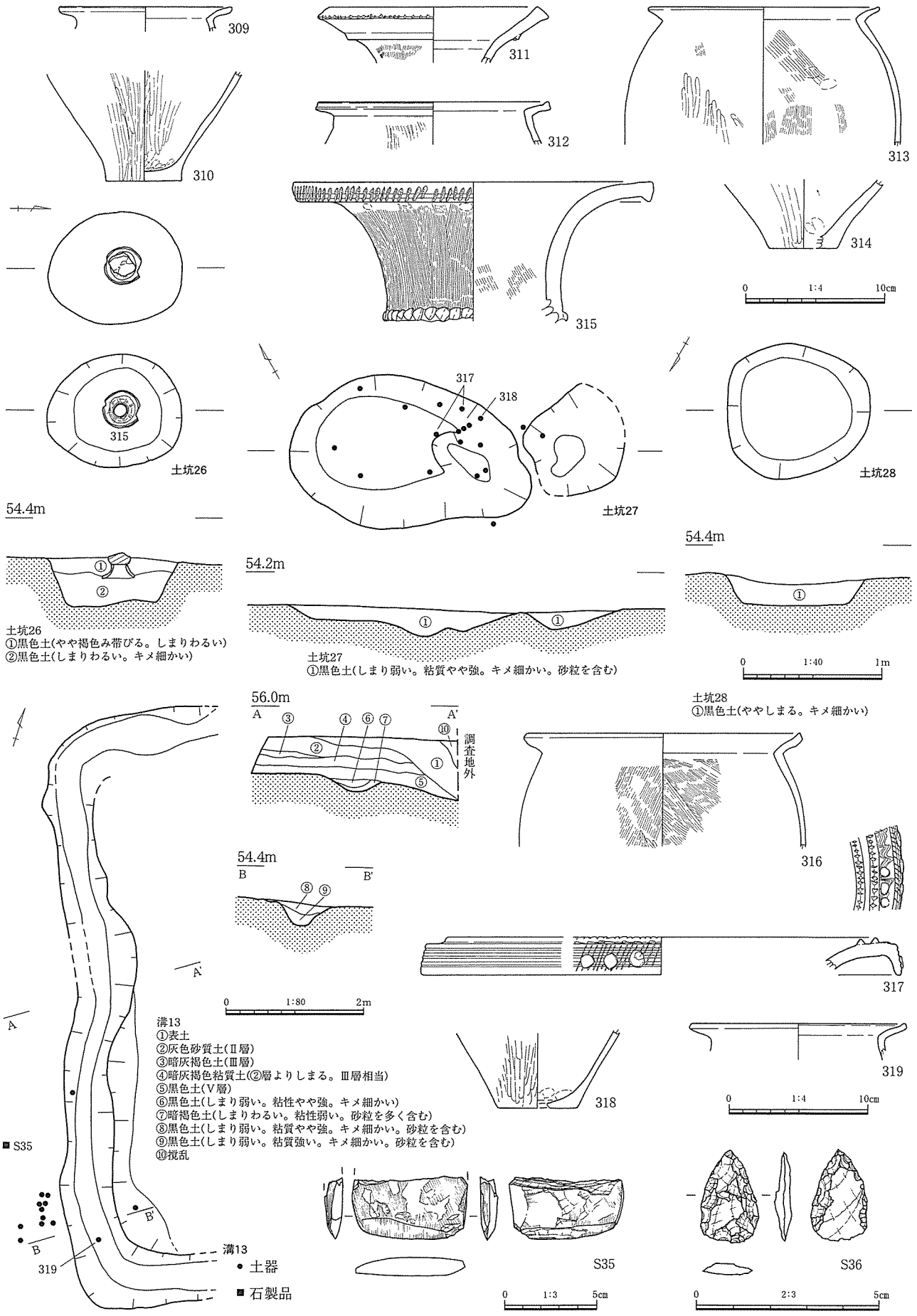


図52　土坑26～28、溝13および遺構内出土遺物

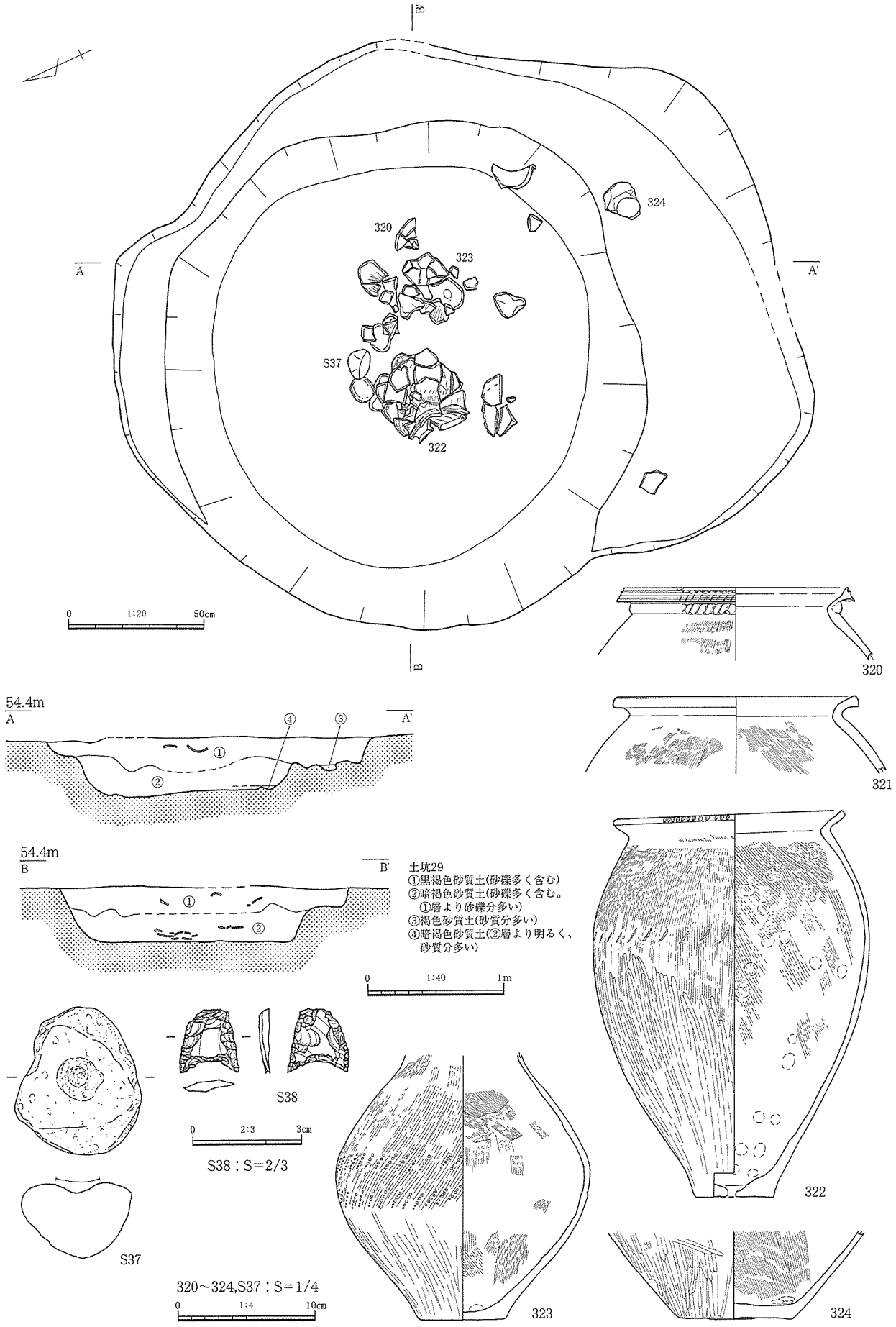


図53　土坑29および出土遺物

遺構面で検出。遺物は埋土上層から甕(319)が出土している。　(北)

土坑29（図53、図版28－１・２・５、31－１・３、37－１）

Ｅ４杭の南に位置する。長径2.5m、短径2.2mの不整円形をする掘り込みから一段テラス状に下がり、そこから径1.8mほどのほぼ円形に掘られる土坑である。上面からの深さは0.4mを測る。テラスは北側で広い平坦面をもち、東側から南へと巡る。その深さは約0.2mで、西側には回らない。埋土はこのテラス面で上層と下層に分かれる。上層には320のように中期末に比定される破片があったが、下層からは完形を含む甕(321、322)や壺(323)、凹石(Ｓ37)、石鏃(Ｓ38)が出土した。これらは土坑中央部にまとまって、ほぼ床面に接する。322は底部に焼成後外面より穿孔するもの。323は頸部から上が欠損する。底部穿孔の甕、体部のみの壺など土坑22に類似するセット関係といえようか。　(中森)

土坑30・31（図54、図版30－３～５、31－１）

Ｄ５グリッド北部、土坑22の３ｍほど西に、土坑２基は１ｍほど離れて南北に位置する。どちらも長径1.0m、短径0.9mのほぼ円形を呈し、深さ0.4mを測る。埋土も同一であったため、これらは同時期のものと判断した。土坑30の床面南側より壺（325、326）が出土している。　(木山)

土坑32・33（図54、図版27－３、30－１・２、31－１）

Ｄ５グリッド南東部、土坑22の南３～５ｍのところに土坑２基は１ｍほど離れ、南北方向に並ぶ。土坑32は径1.6mの円形で、深さは0.5mを測る。土坑33は上面径1.2mの円形を呈する。深さ約0.4m。壁が断面「く」字状に内側に入り、底面が拡がる所謂袋状を呈す。規模は土坑32に比べ一回り小さいが、形状、および埋土が同一であることからどちらも同時期のものと考えられる。貯蔵穴であろう。土坑33底面近くから甕（328）が出土している。　(中森)

表33　図52・53石器観察表

遺物番号	挿図番号	地区 層位・遺構	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
Ｓ35	52	土坑27	磨製石斧	緑色片岩	△3.5	6.3	1.1	△38.2	刃部に線条痕とポリッシュ。表側が強い。
Ｓ36	52	土坑27	石鏃	無斑晶安山岩	2.6	1.6	0.4	1.4	素材面残。裏に主剥離面
Ｓ37	53	土坑29	凹石	粗粒安山岩	11	9.4	6.3	550.0	
Ｓ38	53	土坑29	石鏃	黒曜石	△1.8	1.7	0.3	△0.8	素材面残。裏に主剥離面

表34　図52・53土器観察表

遺物番号	挿図番号	地区 層位遺構	種別	器種	口径(底)	器高	特徴	胎土 焼成	色調	備考
309	52	土坑23	弥生	甕	＊12.4	△ 1.85	口縁端部丸みをもつ。口縁部はやや屈曲気味。辻Ⅲ－１期。	密 良好	内外：黄褐色	
310	52	土坑23	弥生	甕	(＊5.7)	△ 8.2	内外面ヘラミガキ。	密 良好	外：鈍い黄橙色 内：黒褐色	
311	52	土坑25	弥生	壺	＊15.2	△ 4.15	直線的に外反する口縁部。口縁端部は肥厚し、面をもつ。端面下端に連続キザミ。口縁下に１条の突帯。内面ナデ、外面突帯下ハケ。	密	内外：褐灰色	
312	52	土坑25	弥生	甕	＊16.9	△ 3.2	口縁は逆「Ｌ」字状。口縁端部は面をもち１条の凹線。内面ナデ、外面はハケ。辻Ⅲ－２期。	密 良好	内外：鈍い黄橙色	
313	52	土坑24	弥生	甕	＊16.6	△10.3	口縁端部は内面からの強いナデにより、若干上方に向く。端部やや面取り。体部内面ハケ、外面は上位ハケ、中位以下ヘラミガキ。辻Ⅲ－２期。	密 良	内外：浅黄色	
314	52	土坑24	弥生	甕	(＊4.9)	△ 5.05	外面ヘラミガキ、内面ケズリ。	密 良好	外：褐灰色 内：黒褐色	
315	52	土坑26	弥生	壺	26.1	△10.35	大きく外に広がる口縁部。頸部から下は故意に割られたもの。口縁端部は１条の凹線後キザミ。頸部にキザミ目突帯。外面縦ハケ。内面はナデ、一部ハケ。	密 良好	鈍い黄橙色	胎土分析 No.8
316	52	土坑27	弥生	甕	＊20.0	△ 8.4	口縁は「く」字状に屈曲した後、上向きになる。端部面取り。体部内外ハケ。	密 良	内外：鈍黄橙色	
317	52	土坑27	弥生	壺	＊34.4	△ 2.85	口縁部が下垂するもの。端面に４条の凹線。端面および内面に貼付浮文。２条のキザミ目突帯、その外側に波状文がある。	密 良	外：明黄褐色 内：黄褐色	
318	52	土坑27	弥生	甕	(＊5.8)	△ 5.8	外面ヘラミガキ、内面ケズリ。	細砂 良好	外：鈍い褐色 内：鈍い黄色	
319	52	溝13	弥生	甕	＊15.5	△ 2.7	口縁端部は内面からの強いナデにより、若干上方に向く。端部やや丸みをもつ。辻Ⅲ－２期。	密 良	内外：橙色	
320	53	土坑29	弥生	甕	＊16.4	△ 5.3	口縁は上下に拡張され、端面に３条の凹線がある。その上にキザミ。頸部に貼付突帯。以下ハケ。内面はナデ。①層出土。辻Ⅳ－１期。	密 良	内外：橙色	
321	53	土坑29	弥生	甕	＊17.7	△ 5.7	全体的に厚みをもつ。頸部屈曲は明瞭な稜をもたない。口縁端部は上下にやや肥厚し、端部は丸みをもつ。体部内外ハケメ。辻Ⅲ－１期。	密 やや軟	淡黄橙色	
322	53	土坑29	弥生	甕	16.5	28.8	口縁端部はやや丸みをもち、端部は一部キザミ。口縁内外ナデ。外面体部上半ハケ、下半ヘラミガキ。内面上半ナデ、下半ヘラミガキ。底部穿孔。辻Ⅲ－１期。	密 良好	鈍い黄橙色	胎土分析 No.6
323	53	土坑29	弥生	壺	(5.9)	△19.55	頸部から上欠損。体部ほぼ中位に最大径。外面上半ハケ、下半ミガキ。内面はハケメ。	密 良	外：鈍い黄橙色 内：黒褐色	胎土分析 No.7
324	53	土坑29	弥生	壺	(8.5)	△ 6.5	外面ヘラミガキ、内面ハケ。	密 良	外：黄橙色 内：黒褐色	

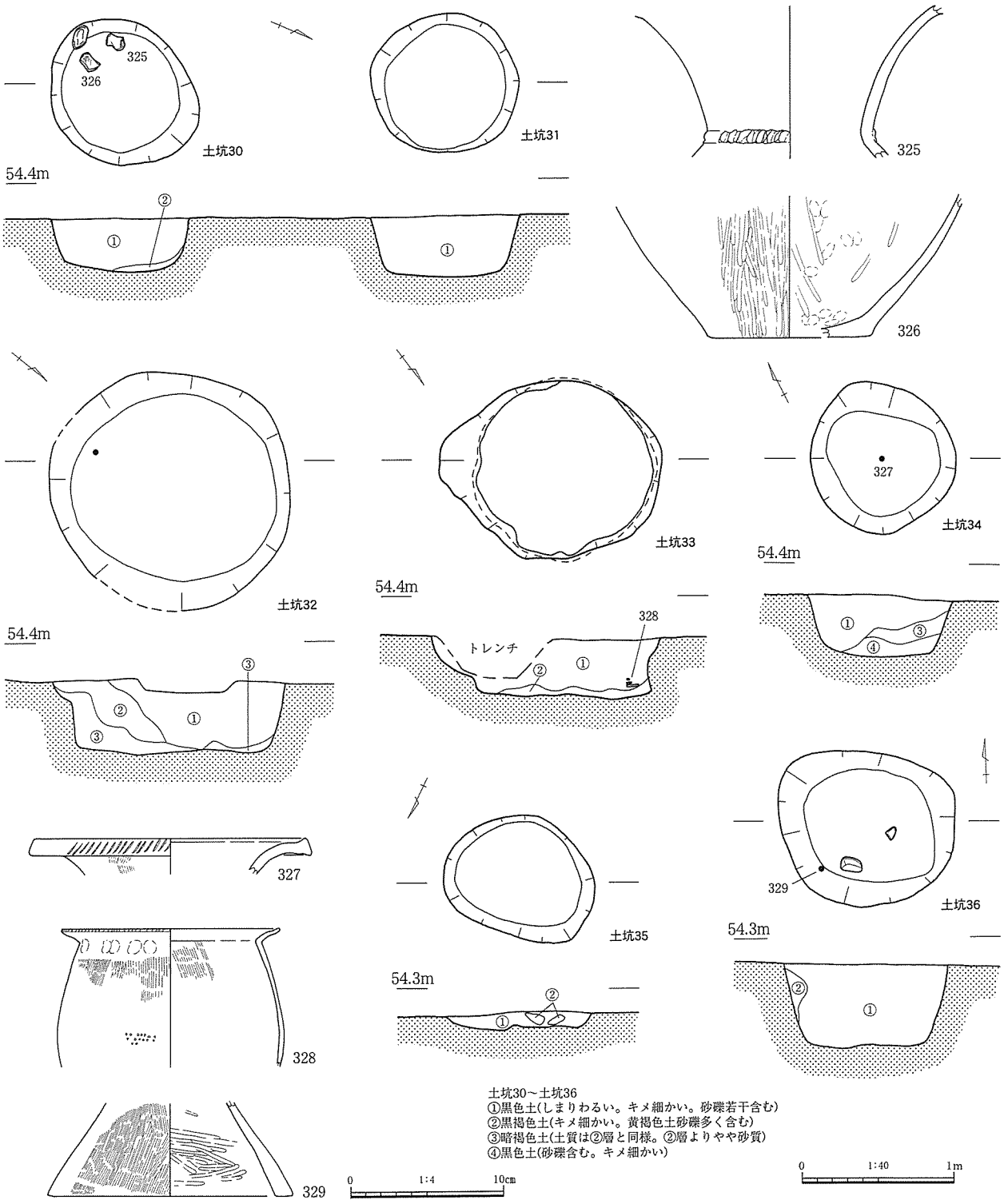


図54　土坑30～36および出土遺物

土坑34（図54、図版28－５・31－１）

表35　図54土器観察表

遺物番号	挿図番号	地区層位遺構	種別	器種	口径(底)	器高	特徴	胎土焼成	色調	備考
325	54	土坑30	弥生	壺	－	△10.0	大きく外反する口縁部。全体的に磨滅。頸部に貼付突帯。	やや粗やや軟	内外：灰褐色	
326	54	土坑30	弥生	壺	(＊11.0)	△ 9.4	外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ、およびユビオサエ。	密良	内外：明赤褐色	胎土分析No.1
327	54	土坑34	弥生	壺	＊18.0	△ 2.4	口縁が大きく開く。端部は上方にやや拡張。端面キザミが連続。外面ハケ。	密良	外：鈍い赤褐色 内：鈍い黄橙色	
328	54	土坑33	弥生	甕	＊14.6	△ 9.1	薄手で小型のもの。口縁部は途中で若干屈曲。端部面取りし、キザミが連続する。体部内外ハケ。全体的に磨滅する。辻Ⅲ－２期。	密良	内外：橙色	
329	54	土坑36	弥生	高坏	(＊16.4)	△ 6.2	「ハ」字状に開く脚部。外面細かいハケ、内面はケズリ後横ミガキ。土坑34上層出土品と同一個体。	密良	内外：鈍い赤褐色	

土坑29の北に位置する。径1.0mの円形を呈し、深さ0.4mを測る。埋土下層より壺（327）が出土している。埋土から土坑29とは時期差がある可能性が考えられる。（木山）

土坑35（図54）

土坑33と掘立柱建物７の間に位置する。長径1.0m、短径0.8mの楕円形を呈し、深さは0.2mほどと浅い。埋土が土坑33などと類似するため、位置関係などと合わせここに含めた。（中森）

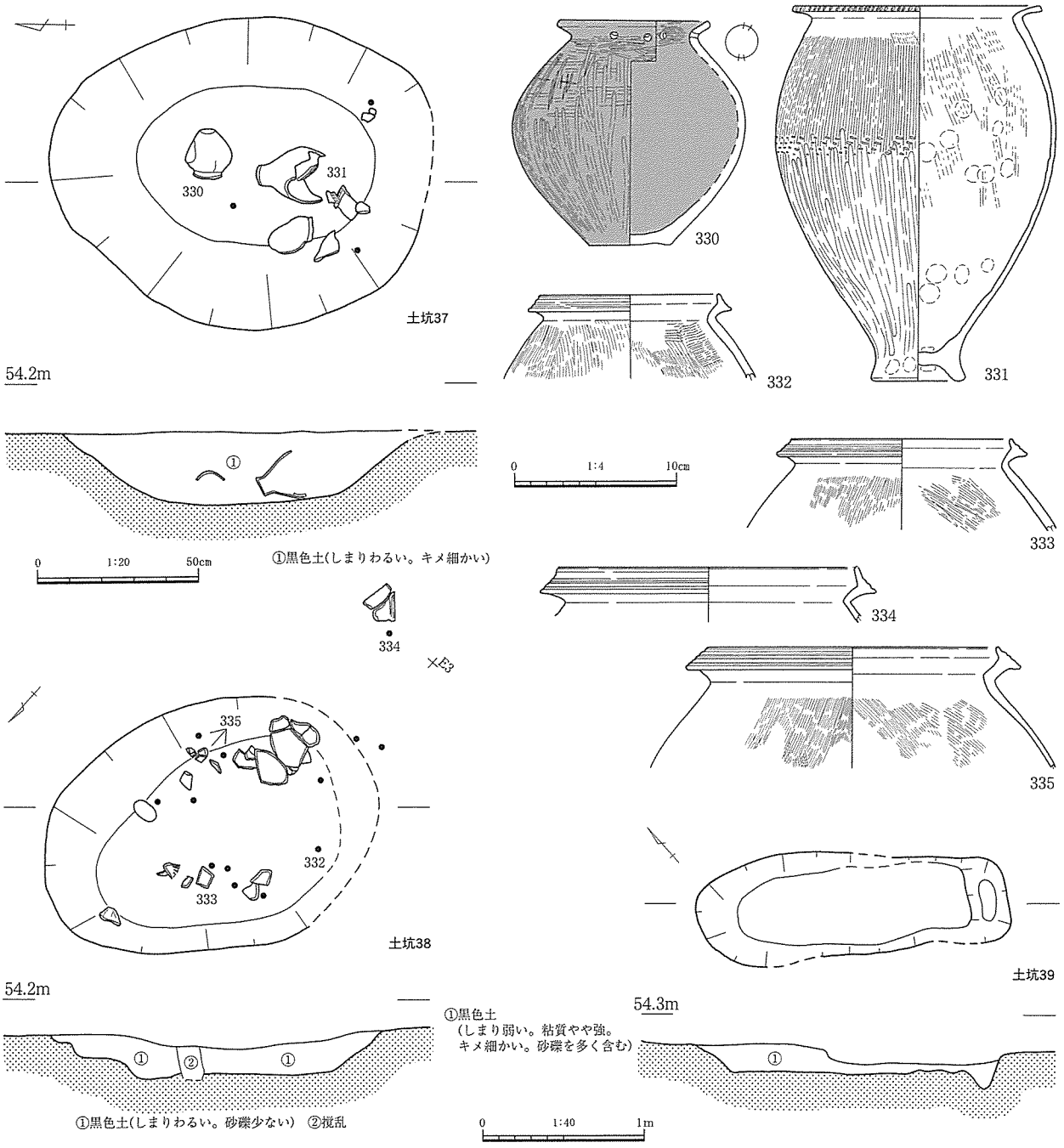


図55　土坑37～39および出土遺物

表36　図55土器観察表

遺物番号	挿図番号	地区層位遺構	種別	器種	口径(底)	器高	特徴	胎土焼成	色調	備考
330	55	土坑37	弥生	壺	9.15	14.1	口縁端部丸みをもつ。頸部に２単位の穿孔が１対。内外面丁寧なヘラミガキ。内外赤彩。辻Ⅲ－１期。	密良好	明赤褐色	
331	55	土坑37	弥生	甕	15.0	23.65	口縁端部やや丸みをもち、キザミが連続する。体部上半ハケ、下半はミガキ。内面上半ハケ、下半はナデ。低い高台が付く。辻Ⅲ－１期。	密良好	明赤褐色	胎土分析No.1
332	55	土坑38	弥生	甕	＊11.2	△ 5.25	口縁部は上下に拡張され、３条の凹線が巡る。口縁ナデ。体部内外面ハケ。辻Ⅳ－２期。	密良	内外：黄褐色	
333	55	土坑38	弥生	甕	＊13.75	△ 5.7	口縁部は上下に拡張され、３条の凹線が巡る。口縁ナデ。体部内外面ハケ。辻Ⅳ－２期。外面に煤若干付着。	やや粗良	内外：浅黄色	
334	55	土坑38	弥生	甕	＊18.65	△ 3.45	口縁部は上下に拡張され、３条の凹線が巡る。口縁ナデ。辻Ⅳ－２期。	密良	内外：明黄褐色	
335	55	土坑38	弥生	甕	＊18.3	△ 7.55	口縁部は上下に拡張され、３条の凹線が巡る。口縁ナデ。体部内外面ハケ。辻Ⅳ－２期。	密良	外：灰黄褐色 内：鈍い黄橙色	

土坑36（図54、図版28－５、31－１）

Ｄ４グリッド、掘立柱建物７の南側約1.6ｍに位置する。長径1.1ｍ、短径1.0ｍの楕円形を呈する。深さは約0.5ｍとしっかりした掘り込みである。埋土上層より高坏脚部（329）が出土しているが、土坑34と同一個体と思われ、これらの同時期性が窺える。（中森）

土坑37（図55、図版28－３・４）

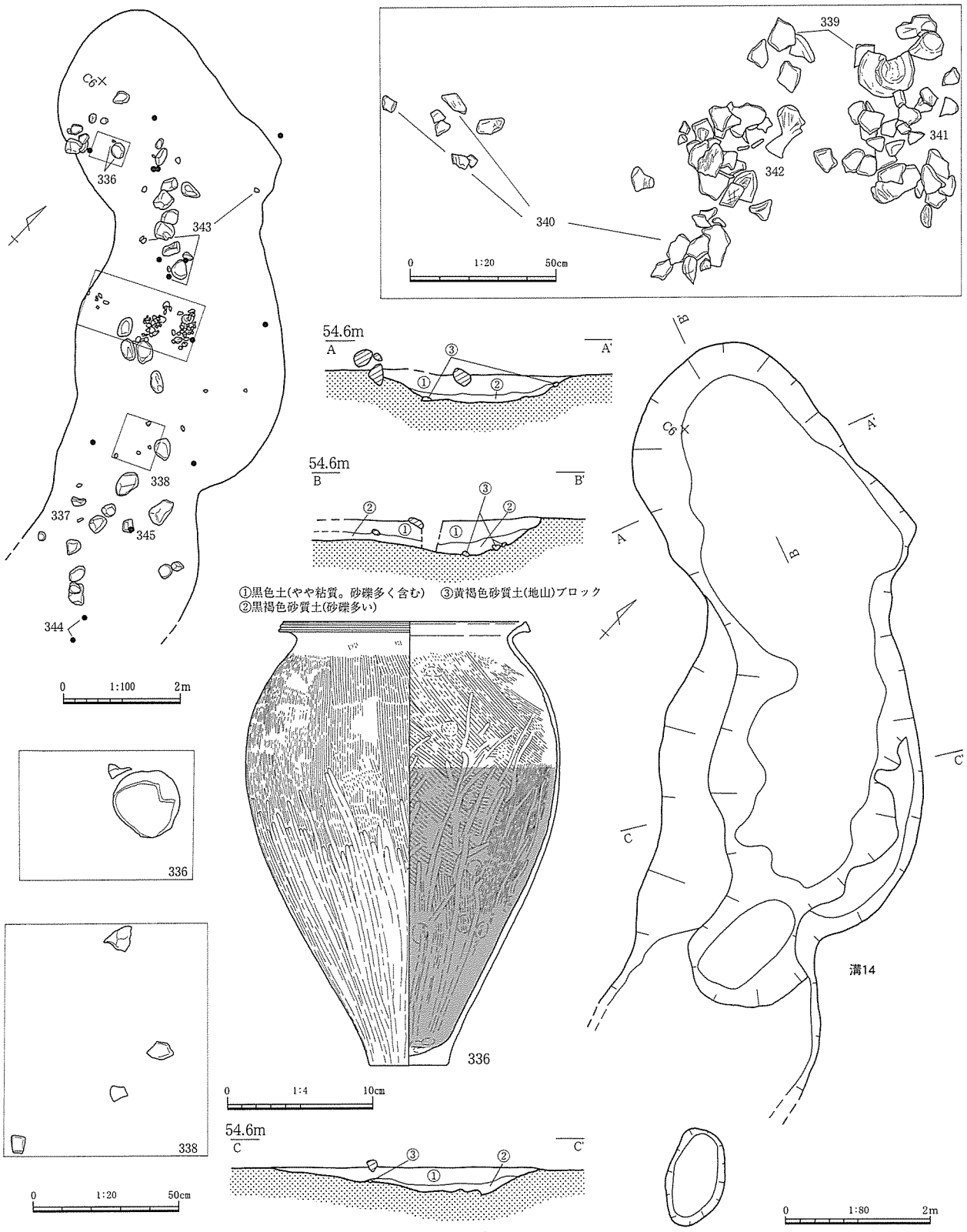


図56　溝14および出土遺物（１）

Ｅ３グリッドのほぼ中央に位置し、長径1.2m、短径1.0mの楕円形を呈する。深さは0.2mほどの浅い掘り込みである。底面北側から壺（330）が口縁をやや下に向けた状態で、またこの南に甕（331）が口縁を南へ向け倒れた状態で出土している。甕は土坑中央に直立していたものであろうか。（中森）

土坑38（図55、図版31－１）

Ｅ３杭に北接し、掘立柱建物８の南西隅に位置する。南側はトレンチで切られるが長径2.1mほどを測り、短径0.8mの楕円形を呈すと思われる。深さ約0.2mと浅い。北側に遺物はまとまり、甕(332、333、335)が遺構内、334はやや離れて出土している。掘立柱建物との関係はわからなかった。（中森）

土坑39（図55）

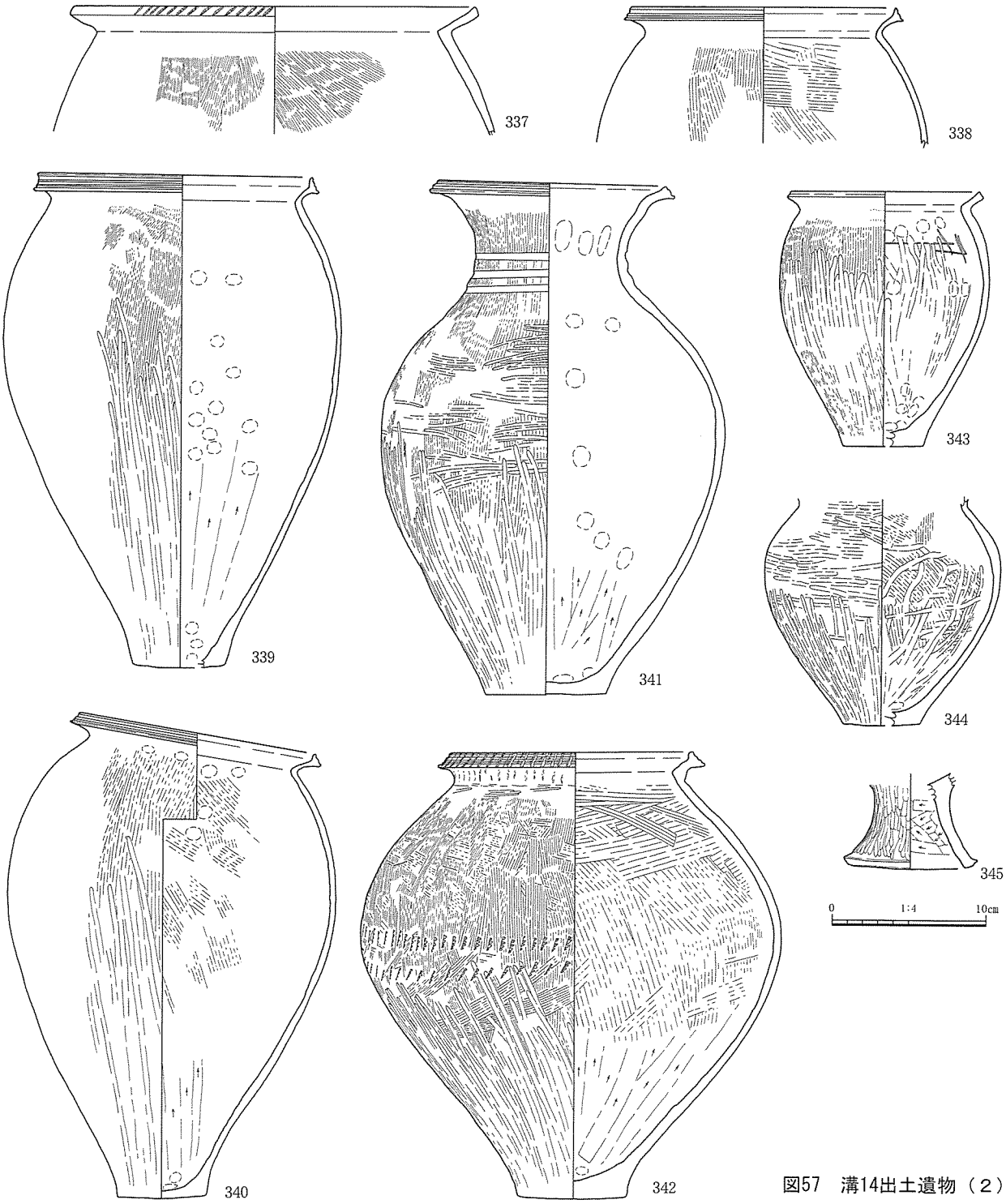


図57　溝14出土遺物（２）

Ｃ５グリット南部、溝14南西に位置する。長径1.9m、短径0.6mの隅丸長方形を呈し、深さ0.2mを測る。南東壁際に深さ0.1mの窪みがある。溝14と埋土が類似することから、同時期と判断した。（木山）

溝14（図56・57、図版32・33）

土坑22の北側から北西へ向け緩やかな弧状を描くもので、調査区境Ｃ６杭付近まで続く。長さは約12m、幅2.6～3.6m、深さは北側で0.4m、南で0.3mを測る。埋土上層では、人頭大礫が南北方向に多数列状に並んだ状況を検出した（図版32－１）。この礫群よりやや下がった①、②層の境界レベルで、溝のほぼ中央部から完形に復元できる土器（339～342）がまとまって出土した。またこの一群から離れ、単独に甕336は直立した状態で出土している（図版32－２）。（木山・中森）

遺構外出土土器（図58、図版31－２）

遺構外から出土する土器は中期のものが主体で、後期は非常に少ない。ここでは紙幅の都合から、遺構内資料を補うようなものに限り抽出して掲載した。本調査区の特徴としては全体的には壺が一定量あること、高坏が非常に少ないこと、甕では中期に特徴的な頸部貼付突帯をもつものが非常に少ないことなどが挙げられる。また、赤色塗彩されるものも350、359、および遺構内から若干あるが少ない。（中森）

表37　溝14土器観察表

遺物番号	挿図番号	地区層位遺構	種別	器種	口径（底）	器高	特徴	胎土焼成	色調	備考
336	56	溝14	弥生	甕	16.5	30.95	口縁部上下にやや拡張。端部２条の凹線。体部外面上半ハケ、下半ヘラミガキ。内面はハケ後ヘラミガキ。辻Ⅳ－１期。	密良好	鈍い黄橙色	胎土分析№10
337	57	溝14	弥生	甕	26.2	△ 8.35	口縁端部面取りされ、キザミが連続。端部は若干上に拡張か。体部内外ハケ。辻Ⅲ－２期。	密良好	外：鈍い褐色 内：浅黄色	
338	57	溝14	弥生	甕	＊17.4	△ 8.9	口縁部は上下に拡張され、２条の凹線が巡る。口縁ナデ。体部内外面ハケ。辻Ⅳ－１期。	密良好	明褐色	胎土分析№16
339	57	溝14	弥生	甕	17.9	32.4	口縁は上部への拡張が顕著。３条の凹線。口縁から頸部ナデ、体部外面上位はハケ、下位ヘラミガキ。内面上位ユビオサエとナデ。ケズリは中位より下。辻Ⅳ－１期。	密良	鈍い黄橙色	胎土分析№14
340	57	溝14	弥生	甕	＊15.6	△32.1	口縁部上下にやや拡張。端部２条の凹線。体部外面上半ハケ、下半ヘラミガキ。内面は上半ハケ、下位にケズリ。口縁部はいびつになる。辻Ⅳ－１期。	密良	鈍い黄橙色	胎土分析№15
341	57	溝14	弥生	壺	15.0	33.8	口縁上下に若干拡張し、２条の凹線が巡る。頸部に幅広の３条凹線。外面上半縦ハケ、中位横、下半は縦ミガキ。内面ナデ、下半にケズリ。辻Ⅳ－１期。	やや粗良	鈍い黄橙色	胎土分析№12
342	57	溝14	弥生	甕	15.9	29.4	口縁部は上下に拡張され、３条の凹線が巡る。端面キザミ。頸部に形骸化した貼付突帯。貼付時の工具痕が爪状に連続。体部上位内外面ハケ。下位は外面ヘラミガキ、内面ケズリ。辻Ⅳ－１期。	密良好	橙色	胎土分析№13
343	57	溝14	弥生	甕	＊12.3	△17.85	口縁端部面取りする小型のもの。体部外面上位ハケ、下位ミガキ。内面はミガキ。辻Ⅲ－２～Ⅳ－１期。	密良好	鈍い黄橙色	胎土分析№11
344	57	溝14	弥生	壺	（＊5.1）	△14.8	頸部から上欠損。体部上位に最大径。外面上半横、下半縦方向ミガキ。内面はハケメ、下位にはミガキ。	密良好	鈍い黄橙色	胎土分析№９
345	57	溝14	弥生	高坏	（7.45）	△ 6.15	脚端部はやや外に反る。端部面取りし、上位凹線状。外面ミガキ、内面ケズリ。	密良	内外：浅黄色	

表38　図58土器観察表

遺物番号	挿図番号	地区層位遺構	種別	器種	口径（底）	器高	特徴	胎土焼成	色調	備考
346	58	Ｆ２ Ⅵ層	弥生	壺	＊14.0	△ 8.0	口縁上下に拡張し４条の凹線、キザミ。頸部は「ハ」字状にすぼまり、下部に１条の凹線。外面ハケ、内面は指オサエ、およびハケ。	密良好	内外：鈍い黄橙色	
347	58	Ｆ２ Ⅲ層	弥生	壺	14.8	△ 7.45	頸部以下が欠損。口縁は上下に拡張され、７条の凹線が巡る。頸部に幅広の工具によるキザミ。外面ハケ後ナデ。内面ナデ。内外に炭化物付着。	密良好	鈍い黄橙色	
348	58	Ｃ５ Ⅵ層	弥生	甕	＊10.75	△ 8.6	頸部に穿孔をもつ小型のもの。口縁端部はやや上下に拡張され、２条の凹線。内外面とも丁寧にヘラミガキ。	密良	内外：灰黄色	
349	58	Ｆ４ Ⅴ層	弥生	壺	＊12.0	△ 6.15	あまり外反しない口縁部をもつ。口縁端部は拡張され、２条の凹線巡る。下端部にキザミが連続。頸部にキザミ目突帯。外面はハケ、内面ナデ。	密良	外：暗灰黄色 内：浅黄色	
350	58	Ｅ３ Ⅲ層	弥生	甕	＊12.3	△ 5.25	口縁部は上下に拡張され、３条の凹線が巡る。口縁ナデ。体部内外ハケ。外面赤彩。口縁下端部に煤。辻Ⅳ－２期。	密良好	外：赤色 内：鈍い黄橙色	
351	58	Ｃ５ P512	弥生	甕	＊15.5	△ 5.45	口縁部は若干上下に拡張され、２条の凹線が巡る。体部内外ハケ。外面煤。内面黒斑。辻Ⅳ－１期。	密良好	灰黄褐色	
352	58	Ｅ１ Ⅴ層	弥生	高坏	＊15.1	△ 3.75	口縁が直立するもの。端部に１条の凹線。口縁外面には４条の凹線。体部内外面ミガキ。口縁部に煤が付着。	密良	内外：浅黄橙色	
353	58	Ｃ５ Ⅴ層	弥生	高坏	（＊13.0）	△ 4.55	脚端部下半が外へ広がるもの。端部面取り。外面は縦・横位のミガキ、内面ナデ。外面に黒斑。	密良	内外：浅黄色	
354	58	Ｃ５ P512	弥生	高坏	－	△ 5.4	高坏の受部下半の破片か。内面はハケ。接合部が剥離しており、その部分もハケ。外面ヘラミガキ。外面赤彩。	密良好	外：赤色 内：浅黄橙色	
355	58	Ⅴ層	弥生	壺	＊24.4	△ 5.55	口縁が大きく開く。端面２条凹線後、キザミが連続。口縁上端部はやや拡張。内面に波状文が施される。外面ハケ。	密良	内外：鈍い黄橙色	
356	58	Ｅ５ Ⅴ層	弥生	壺	＊26.5	△ 5.05	口縁が大きく開く。端面４条凹線後、キザミが連続。口縁端部は上下に拡張。内面に波状文と格子目文が施される。	密良	内外：灰黄色	
357	58	Ｄ５ Ⅴ層	弥生	壺	＊25.0	△ 5.7	直線的に外傾する口縁部。端部は外側に大きく拡張。端面に貼付突帯と格子目文。端部外面にキザミが連続。外面には６条＋αの突帯。	密良	内外：浅黄色	
358	58	Ｅ３ Ⅴ層	弥生	甕	＊27.4	△11.55	口縁部器壁厚い。端部に１条の凹線後キザミ。頸部に貼付突帯。体部内外ハケ。外面煤付着。辻Ⅲ－２期。	密良好	鈍い黄橙色	
359	58	Ｄ２ Ⅵ層	弥生	甕	＊21.5	△ 4.35	上下に口縁拡張。下端部は欠損。内外ハケ。内外面赤彩。辻Ⅳ－２期。	密良	内外：鈍い赤色	
360	58	Ｂ６ Ⅱ層	弥生	分銅形土製品	△ 4.6	△ 2.0	分銅形土製品の下部破片と思われる。下端にキザミが連続する。	密良	表裏：鈍い黄橙色	

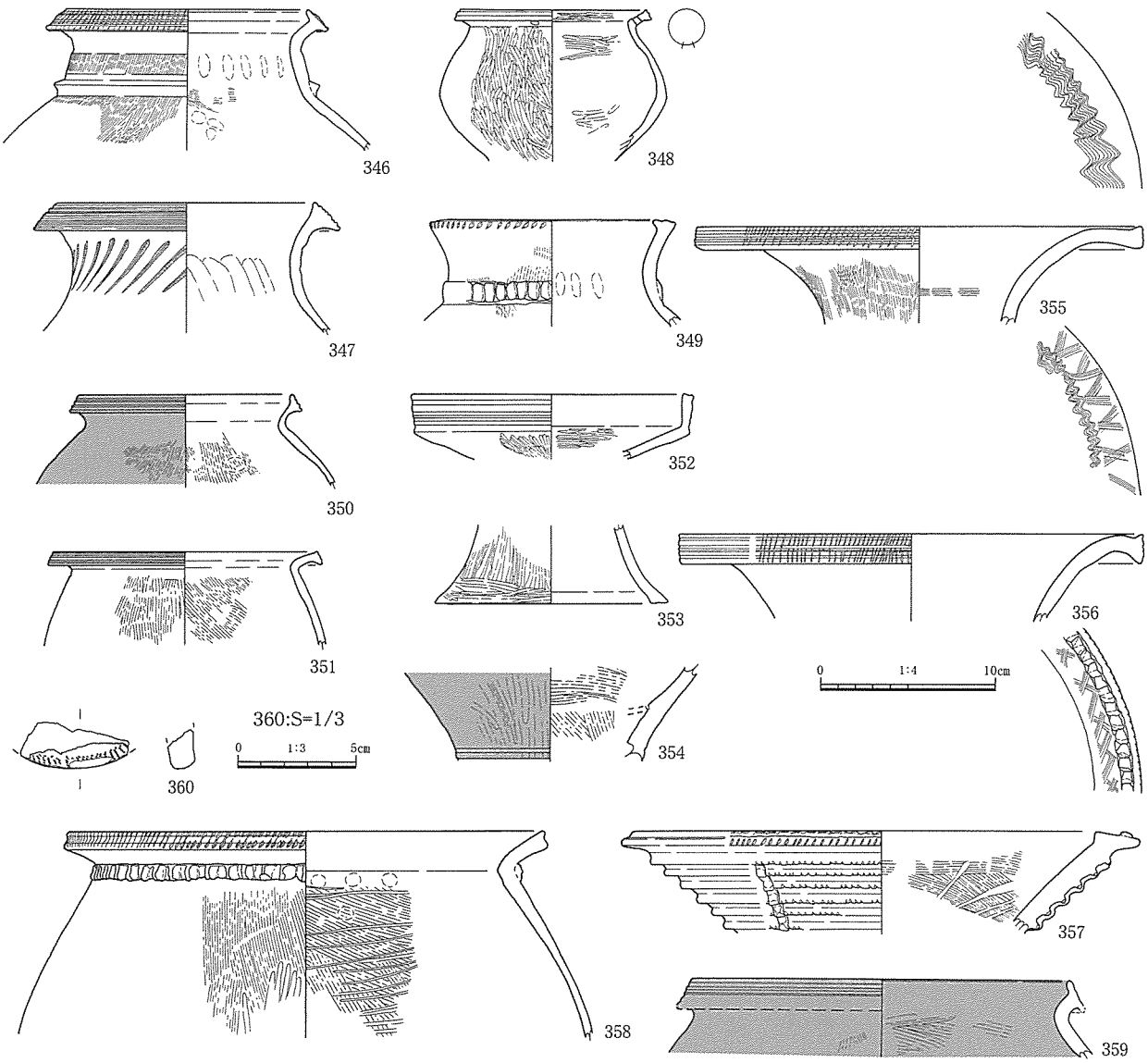


図58　遺構外出土遺物

３）弥生時代後期の遺構と遺物

竪穴住居３（図59・60、図版34・35）

Ｂ３・４からＣ３・４グリッドにかけて、台地縁辺付近の平坦面に位置する。平面形は隅丸方形で、長軸4.3m、短軸3.9m、深さ0.2mを測る。幅約0.1～0.2m、深さ約0.1mの周壁溝が壁面に沿ってめぐる。床面でピットを10基検出している。Ｐ10は中央ピットで、長軸0.5m、短軸0.4m、深さ0.2mを測る。Ｐ５・６・７・８が主柱穴と考えられ、径は0.2～0.3m、深さはいずれも約0.3mを測る。床の四隅で検出したＰ１・２・３・４は、径約0.2m、深さ約0.1mと規模が小さく、補助柱穴と考えられる。竪穴の軸に沿う補助柱穴の配置軸に対し主柱穴の配置軸が約45°振れる位置関係になる。遺構内からは土器、石器、鉄器、炭化物が出土した。361・362は甕の口縁部で床面から２～３cmほど浮いて、363は壷の口頸部で床面直上から、364は甕でほぼ完形のままつぶれた状態で床面直上からそれぞれ出土した。これらはいずれもＶ－３期に相当するだろう。石器はS43が床面直上で、その他のものは床面から５cm前後浮いた状態でそれぞれ出土した。図示したもの以外に敲き石1点、礫器１点、大型の礫が１点、無斑晶安山岩の剥片が１点見つかっている。F105は鉈？、F106は板状鉄斧または鎌で、それぞれ床面から２～３cmほど浮いて出土している。

炭化物は、砕片が埋土中から多く検出されたが、炭化材として認識できた塊状の炭化物は少なく平

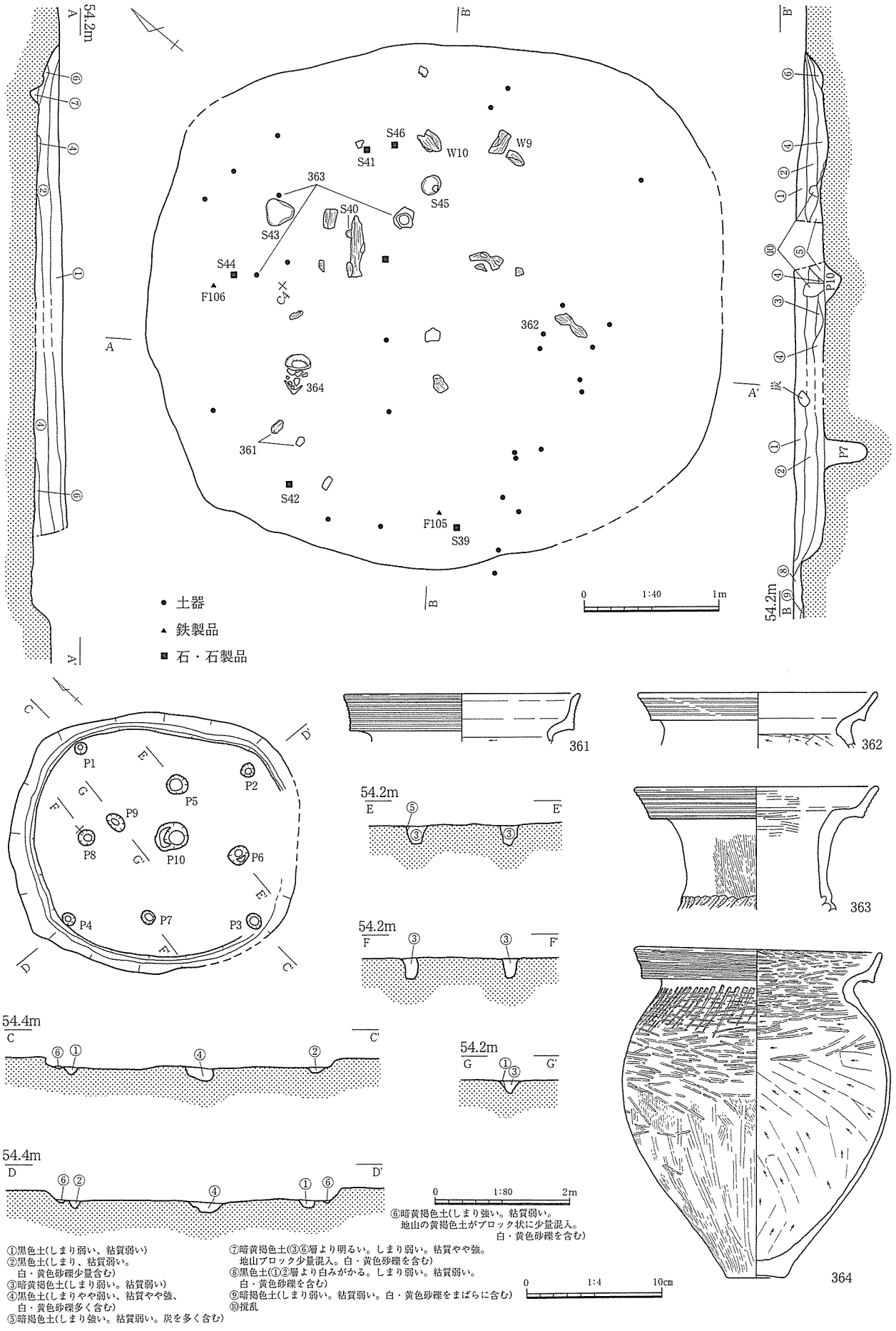


図59　竪穴住居３および出土遺物（１）

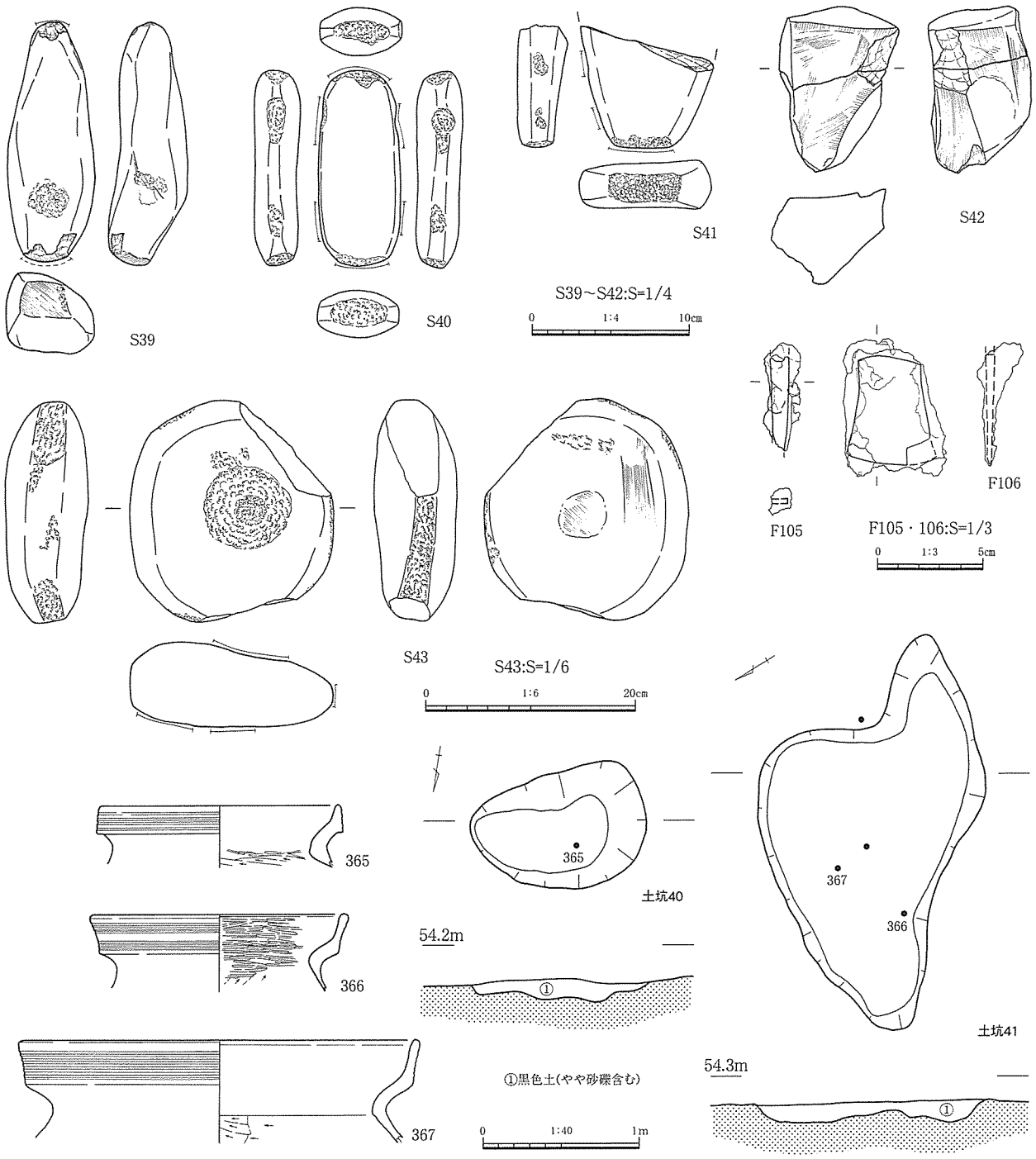


図60　土坑40・41および出土遺物、竪穴住居３出土遺物（２）

表39　図59・60・62土器観察表

遺物番号	挿図番号	地区層位遺構	種別	器種	口径(底)	器高	特徴	胎土焼成	色調	備考
361	59	竪穴住居3	弥生	甕	＊17.4	△3.65	複合口縁の外面に９条の凹線。内面頸部下までケズリ。Ⅴ－３期。外面煤付着。	やや粗良	橙色	
362	59	竪穴住居3	弥生	甕	＊17.4	△ 4.1	外傾する複合口縁の外面に５条の凹線。内面頸部下までケズリ。Ⅴ－３期。外面煤付着。	密良	内外：浅黄色	
363	59	竪穴住居3	弥生	壺	＊18.0	△ 9.2	外傾する複合口縁の外面に７条の凹線。口縁内面ミガキ。頸部外面ハケ。頸部下にキザミ。Ⅴ－３期。外面煤付着。	密良好	鈍い黄橙色	
364	59	竪穴住居3	弥生	甕	15.8	25.0	複合口縁の外面に２単位の櫛状工具により凹線。内面口縁部ミガキ、頸部下までケズリ。外面は頸部に幅広の板状工具により刺突。体部ミガキ。Ⅴ－３期。外面煤付着。	密良好	鈍い黄橙色	胎土分析№20
365	60	土坑40	弥生	甕	＊15.2	△ 4.0	複合口縁の上下拡張は大きくない。外面に４条の凹線。内面頸部下ケズリ後部分的にミガキ。Ⅴ－１期。	密良好	内外：鈍い黄橙色	
366	60	土坑41	弥生	甕	＊16.0	△ 4.95	複合口縁の外面に凹線。口縁中央は窪み、凹線は部分的。内面口縁ミガキ、頸部下までケズリ。Ⅴ－３期。外面煤付着。	密良好	内外：灰黄褐色	
367	60	土坑41	弥生	甕	＊25.3	△ 6.0	複合口縁の外面に６条の凹線。口縁下端は丸みをもつ。内面頸部下までケズリ。全体的にやや磨滅。Ⅴ－Ⅲ３期。	やや粗やや軟	外：鈍い黄色 内：鈍い橙色	
368	62	土坑42	縄文	深鉢	－	△ 5.0	口縁端部がやや内湾し、端部から下がって突帯が付く。突帯上は扁平な「Ｄ」字状キザミ。口縁端部にもキザミ。突帯下に煤付着。	やや粗やや軟	暗褐色	

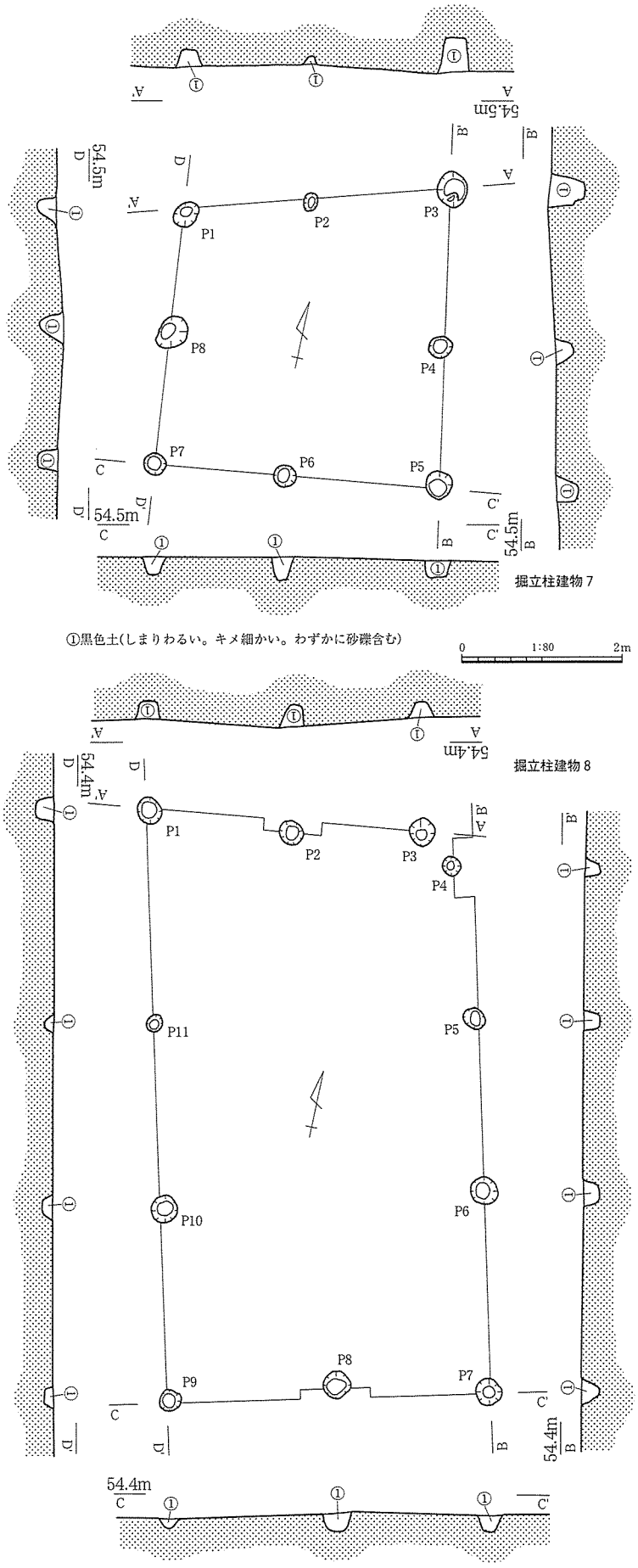


図61　掘立柱建物７・８

面分布も散漫である。垂直分布はいずれも床面から３～５cm浮いたレベルでそろっている。量が少ないこともあって、これらの炭化材から住居の上屋を推測できるような状況ではない。いずれの材も遺存状態が悪く明確に形状を把握できないが、W10は板材の可能性が高く、そのほかは大半が柱材と思われる。樹種同定を行ったＷ９・10はともにクリと判定されている。　（北）

土坑40（図60、図版35－２）

Ｂ５杭北西付近に位置する。長径1.1ｍ、短径0.8ｍの楕円形を呈する。深さ0.1ｍを測る。遺物は甕（365）がやや浮いた状態で出土している。埋土はＶ層相当と考えられる。　（木山）

土坑41（図60、図版35－２）

Ｂ５グリッド北東部に位置する。長径2.5ｍ、短径1.4ｍの不定形を呈する。深さ0.2ｍを測る。遺物は甕(366・367)が浮いた状態で出土している。　（木山）

４）時期不明の遺構

掘立柱建物７（図61、図版27－３）

Ｄ４グリッドに位置する２×２間のもの。ピットは径が0.2～0.4ｍほどの円あるいは楕円形を呈し、深さは0.2～0.4ｍであった。東列のみピット間が約0.9ｍ、その他３列は0.8ｍほどを測る。いずれも埋土は黒色土である。検出面から弥生時代のものであるが、時期を特定するに至っていない。周辺に中期中葉の土坑群が密にあり、また掘立柱建物８と同じ方向性をもつことから相互の関連性は窺われよう。　（中森）

掘立柱建物８（図61、図版24－１）

Ｄ３・Ｅ３グリッドに位置し、南北方向を主軸とする２×３間のものである。東

表40　図60鉄製品観察表

報告書	構成No.	遺物	地　区	層位、遺構	計測値（cm）			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
105	⑤	鉄製品(鍛造品)鉈？	Ｃ４	竪穴住居３	1.8	5.1	1.3	10.2	2	銹化(△)	
106	⑤ａ	鉄製品(鍛造品)刀子板状不明、袋状鉄斧	Ｂ４	竪穴住居３	4.95	6.5	2.2	44.8	3	銹化(△)	

表41　図60石器観察表

遺物番号	挿図番号	地区 層位・遺構	器　種	石　材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備　考
Ｓ39	60	竪穴住居３	磨り石・敲き石	安山岩	15.4	5.7	4.1	525.0	腹部・上端部に敲打痕。下端面に磨り面と敲打痕
Ｓ40	60	竪穴住居３	敲き石	安山岩	12.5	5.3	3.1	354.0	
Ｓ41	60	竪穴住居３	敲き石	安山岩	△7.8	8.6	3.2	△280.0	
Ｓ42	60	竪穴住居３	砥石	細粒花崗岩	10.7	7.6	6.2	575.0	不定形砥石。砥石目細
Ｓ43	60	竪穴住居３	台石	安山岩	21.4	20.0	8.0	△4700.0	表面・側面に敲打痕。裏面に平滑な磨り面、研磨による線条痕と凹み、敲打痕

西間は3.4～4.0m、南北間は6.5～7.4mを測る。ピットは径が0.2～0.4mほどの円形を呈し、深さは0.1～0.3mであった。西列のものは東列に比べ浅い。いずれも埋土は黒色土系である。Ｐ２はＰ１－３、Ｐ８はＰ７－９のラインからやや内側に位置する。（木山）

土坑42（図62、図版36－３・４）

溝14の北側に位置する。長径2.0m、短径1.0mの隅丸長方形を呈し、深さ0.3mほどを測る。長軸両端には深さ約0.1mの小口状窪みがある。埋土は他の遺構と異なり暗褐色砂質土であり、下層から縄文時代晩期の深鉢368が出土した。形状から土坑墓の可能性が考えられるが、埋土や集落構造的に弥生時代中期以降のものとは考えにくい。あるいは出土遺物から縄文晩期のものとできようか。（中森）

土坑43～65（図62・63）

土坑43～土坑65は、いずれも埋土が黒色土系であり、明確な時期は不明である。紙幅の関係から個々について詳述せず、検出された形状より、Ａ：隅丸長方形・隅丸方形、Ｂ：円形、Ｃ：楕円形、Ｄ：不定形に分類し説明する。

Ａ類：隅丸長方形は土坑43・44、隅丸方形は土坑54である。**土坑43**はＣ４グリッド南部に位置する。長径1.3m、短径0.6m、深さ0.2mを測る。礫（Ｓ62）が立った状態で検出している。**土坑44**はＣ５グリッド北東部、溝14の東に位置する。長径1.0m、短径0.4m、深さ0.1mを測る小型のもの。土坑43・44ともに長軸が北西－南東方向を向いている。**土坑54**はＦ３グリッド東部に位置し、径1.5m、深さ0.1mを測る。人頭大礫を上面で検出している。

Ｂ類：土坑45・51・53・61が該当し、土坑62は不整円形である。**土坑51**はＤ２グリッド西部に位置し、長径1.1m、短径0.9m、深さ0.1mを測る。**土坑45**はＣ３グリッド北東部に位置し、南東上部が溝21に切られる。深さ0.3mを測る。**土坑61**はＦ３グリッドに位置し、トレンチにより西側が切られる。深さ0.2mを測る。それぞれ径0.7m、1.0m、1.0mの円形を呈すと思われる。**土坑62**はＤ３グリッド東部に位置し、直径1.2m、短径1.1m、深さ0.1mを測る。

Ｃ類：土坑47・48・50・52・55・57～59・63～65である。**土坑50**はＣ３グリッド北東部に位置する。長径1.2m、短径1.0m、深さ0.6mを測る。溝13埋土を切っていることから、弥生時代中期中葉以降であろう。**土坑55**はＥ１グリッド、土坑56の北に位置する。長径1.1m、短径0.7m、深さ0.1mを測る。**土坑57**はＥ３グリッド東部に位置する。長径1.5m、短径1.0m、深さ0.2mを測る。埋土が互層状になっている。**土坑58**はＦ４グリッド北部に位置する。長径0.9m、短径0.7m、深さ0.5mを測る。さらに底面から深さ0.2mほどの楕円形ピットが一段掘り込まれる。**土坑59**はＥ４グリッド北部に位置する。長径1.0m、短径0.8m、深さ0.15mを測る。東側が浅く掘られたテラス状になり、そこから西側が深い。**土坑63**はＥ１・２グリッドにまたがり、直径1.9m、短径1.1m、深さ0.2mを測る。**土坑64**はＦ４グリッ

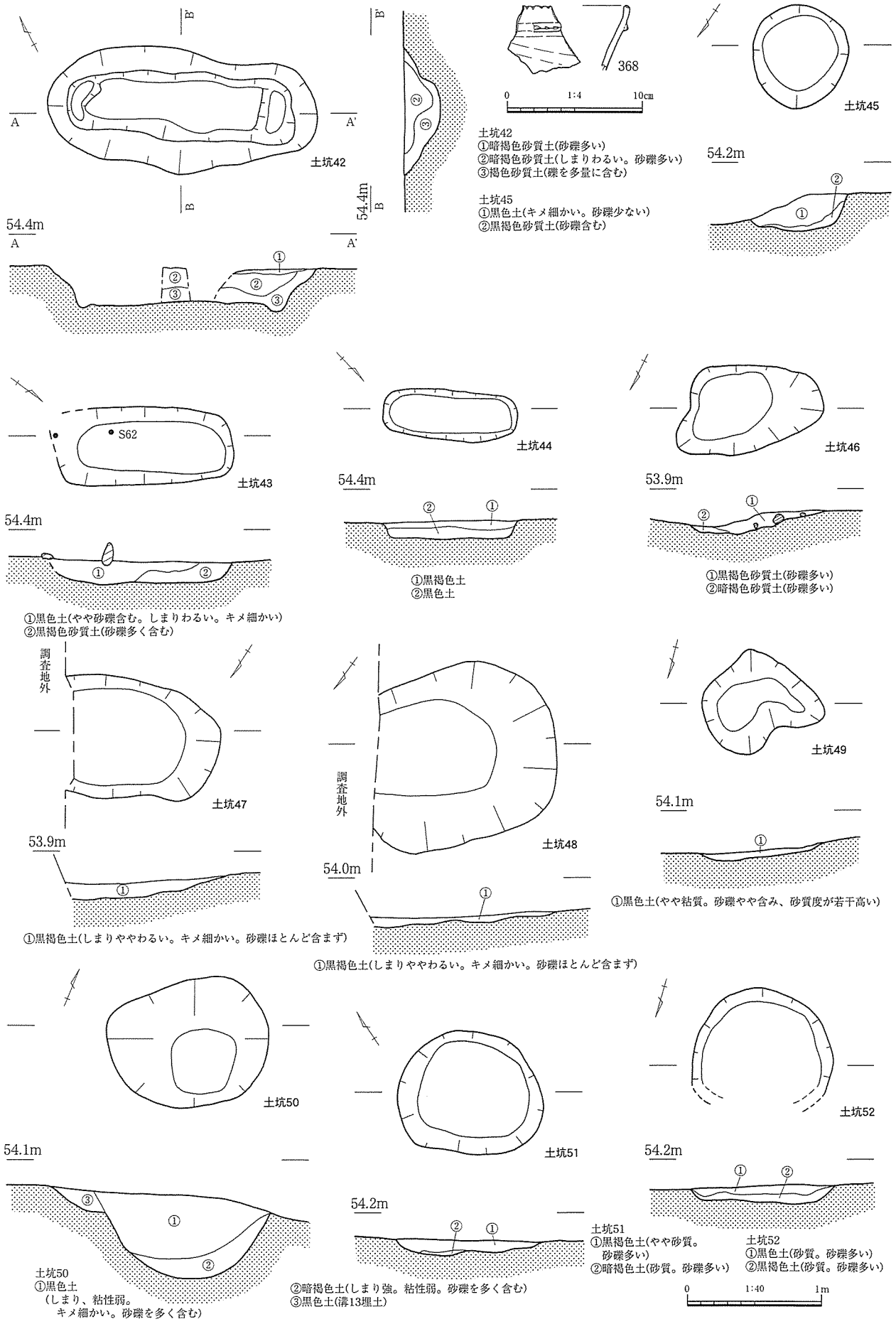

土坑42
土坑42
①暗褐色砂質土(砂礫多い)
②暗褐色砂質土(しまりわるい。砂礫多い)
③褐色砂質土(礫を多量に含む)
368
0　1:4　10cm
土坑45
土坑45
①黒色土(キメ細かい。砂礫少ない)
②黒褐色砂質土(砂礫含む)
54.4m
54.2m
S62
土坑43
土坑44
土坑46
54.4m
54.4m
53.9m
①黒色土(やや砂礫含む。しまりわるい。キメ細かい)
②黒褐色砂質土(砂礫多く含む)
①黒褐色土
②黒色土
①黒褐色砂質土(砂礫多い)
②暗褐色砂質土(砂礫多い)
調査地外
土坑47
土坑48
土坑49
53.9m
54.0m
54.1m
①黒褐色土(しまりややわるい。キメ細かい。砂礫ほとんど含まず)
①黒褐色土(しまりややわるい。キメ細かい。砂礫ほとんど含まず)
①黒色土(やや粘質。砂礫やや含み、砂質度が若干高い)
土坑50
土坑51
土坑52
54.1m
54.2m
54.2m
土坑50
①黒色土
(しまり、粘性弱。
キメ細かい。砂礫を多く含む)
②暗褐色土(しまり強。粘性弱。砂礫を多く含む)
③黒色土(溝13埋土)
土坑51
①黒褐色土(やや砂質。
砂礫多い)
②暗褐色土(砂質。砂礫多い)
土坑52
①黒色土(砂質。砂礫多い)
②黒褐色土(砂質。砂礫多い)
0　1:40　1m

図62　時期不明土坑（１）

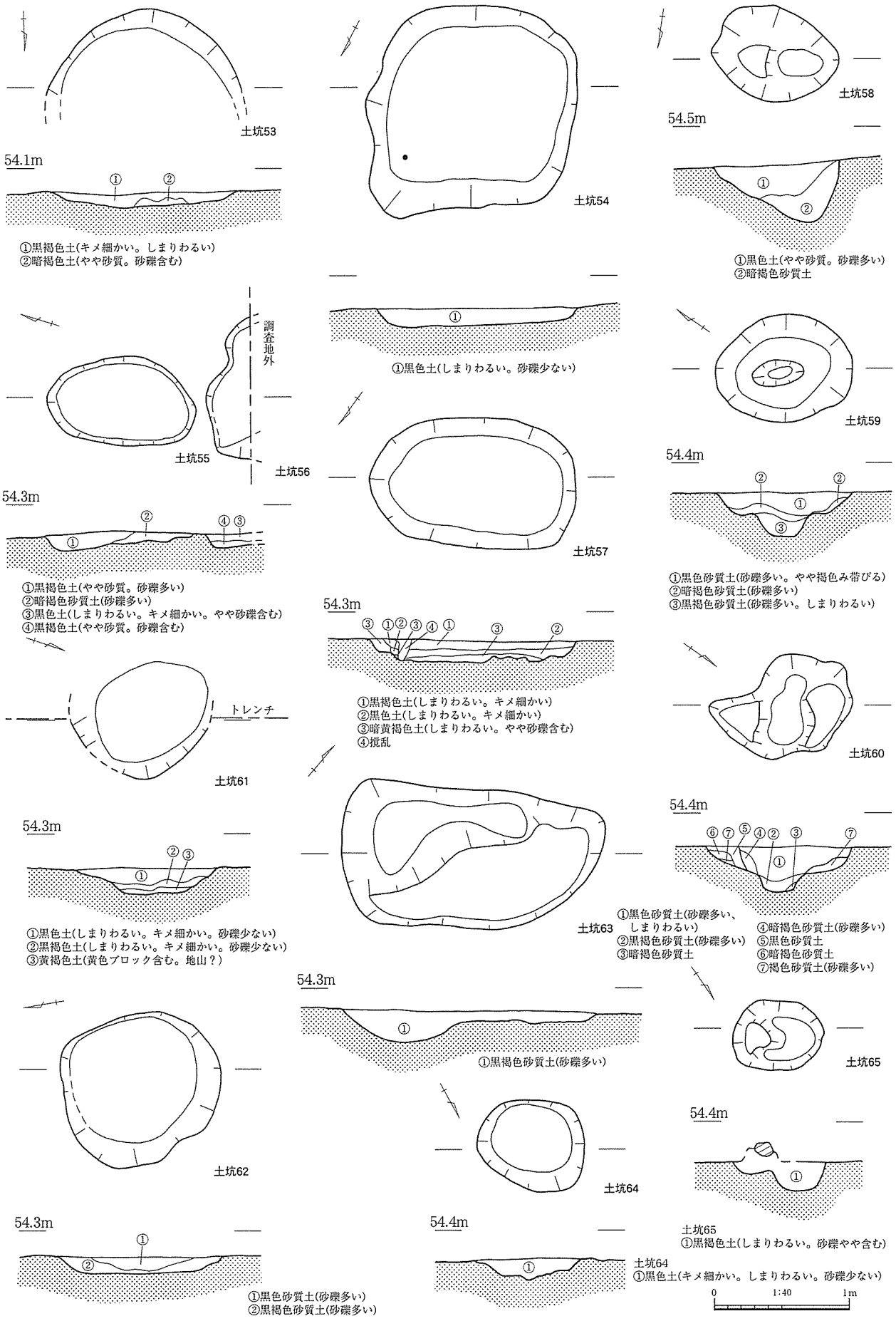

土坑53
54.1m
①黒褐色土(キメ細かい。しまりわるい)
②暗褐色土(やや砂質。砂礫含む)
土坑54
①黒色土(しまりわるい。砂礫少ない)
土坑58
54.5m
①黒色土(やや砂質。砂礫多い)
②暗褐色砂質土
調査地外
土坑55
土坑56
54.3m
①黒褐色土(やや砂質。砂礫多い)
②暗褐色砂質土(砂礫多い)
③黒色土(しまりわるい。キメ細かい。やや砂礫含む)
④黒褐色土(やや砂質。砂礫含む)
土坑57
土坑59
54.4m
①黒色砂質土(砂礫多い。やや褐色み帯びる)
②暗褐色砂質土(砂礫多い)
③黒褐色砂質土(砂礫多い。しまりわるい)
54.3m
①黒褐色土(しまりわるい。キメ細かい)
②黒色土(しまりわるい。キメ細かい)
③暗黄褐色土(しまりわるい。やや砂礫含む)
④撹乱
トレンチ
土坑61
土坑60
54.3m
①黒色土(しまりわるい。キメ細かい。砂礫少ない)
②黒褐色土(しまりわるい。キメ細かい。砂礫少ない)
③黄褐色土(黄色ブロック含む。地山？)
土坑63
54.4m
①黒色砂質土(砂礫多い、しまりわるい)
②黒褐色砂質土(砂礫多い)
③暗褐色砂質土
④暗褐色砂質土(砂礫多い)
⑤黒色砂質土
⑥暗褐色砂質土
⑦褐色砂質土(砂礫多い)
54.3m
①黒褐色砂質土(砂礫多い)
土坑65
土坑62
土坑64
54.4m
土坑65
①黒褐色土(しまりわるい。砂礫やや含む)
54.3m
①黒色砂質土(砂礫多い)
②黒褐色砂質土(砂礫多い)
54.4m
土坑64
①黒色土(キメ細かい。しまりわるい。砂礫少ない)
0
1:40
1m

図63　時期不明土坑（２）

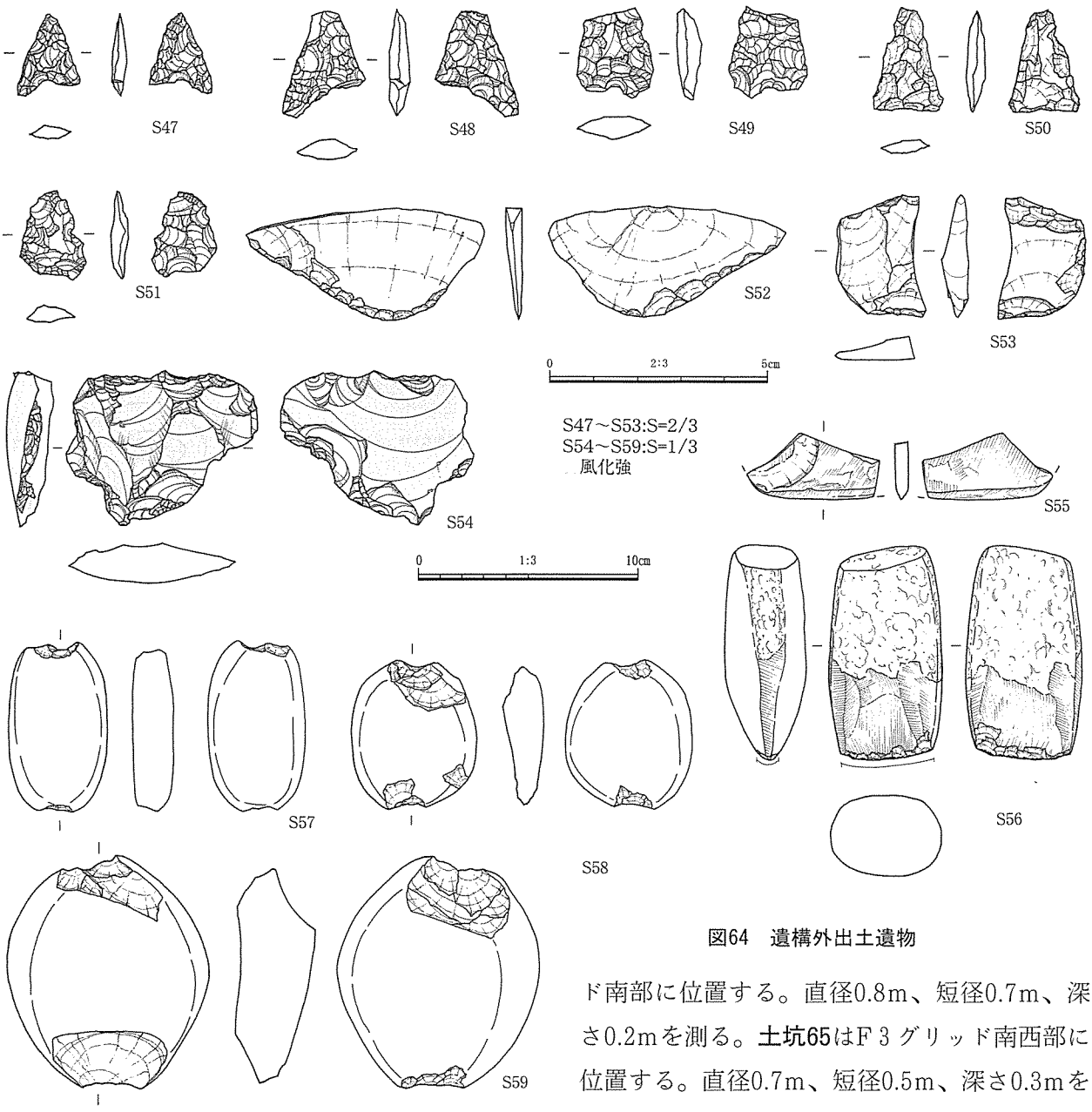


図64　遺構外出土遺物

ド南部に位置する。直径0.8m、短径0.7m、深さ0.2mを測る。**土坑65**はＦ３グリッド南西部に位置する。直径0.7m、短径0.5m、深さ0.3mを測る。上面より拳大の礫を検出した。北西部はさらに0.2mほど掘り込まれる。**土坑47・48**はいずれもＡ４グリッド南部に位置し、東側は調査区境へ続き、深さは土坑47が0.2m、土坑48が0.1mを測る。土坑47・48ともに砂礫をほとんど含まない点が類似している。**土坑52**はＡ５グリッド南側、**土坑53**はＤ２グリッドに位置する。ともに北側は削平され、深さ0.1mを測る。土坑47・48・53は、いずれも楕円形を呈すと思われる。

Ｄ類：不定形は土坑46・49・56・60である。**土坑46**はＡ４グリッド西部に位置し、北側は削平される。長径1.0m、短径0.7m、深さ0.2mを測る。**土坑49**は、土坑47・48の西側に隣接するが、埋土は土坑47・48とは異なり砂礫をやや含む。**土坑60**はE・F3グリッドにまたがる。長径0.8m、短径0.7m、深さ0.35mの土坑が切り、切られるものは長径1.0m、深さ0.2mである。**土坑56**は土坑55の南で検出、南側が調査区境へ続き、形状は不明。深さ0.1mを測る。埋土は土坑55とは異なる。　（木山）

５）遺構外出土の石器

５区の遺構外からは全部で54点の石器が見つかっている。内訳は、石鏃４点（黒曜石３・無斑晶安山岩１）、スクレイパー１点（無斑晶安山岩）、楔形石器（両極打撃痕をもつ石器全般を含む）９点（黒曜石４・無斑晶安山岩１・玉髄３・瑪瑙１）、楔形石器削片２点（黒曜石１・無斑晶安山岩１）、原形１点（黒曜石）、磨製石庖丁１点（細粒花崗岩）、磨製石器破片１点（黒色頁岩）、磨製石斧転用敲き石１点（閃緑岩）、石錘３点（安山岩）、敲き石１点（安山岩）、砥石片７点（細粒花崗岩４・頁岩３）、加工痕のある剥片２点（黒曜石１・無斑晶安山岩１）、使用痕のある剥片１点（黒曜石）、剥片18点（黒曜石13・無斑晶安山岩２・玉髄２・水晶１）、砕片２点（黒曜石）である。ほとんどが本来帰属していた遺構や包含層から遊離しており、出土層位から個々の時期を判定することは困難である。大半は縄文から弥生にかけてのものと見られるが、砥石はそれ以降の時期のものがかなり含まれているだろう。また、玉髄・瑪瑙製石器は出土層位がⅢ層以上に限定されることから平安時代以降のものと考えられる。（北）

表42　図64石器観察表

遺物番号	挿図番号	地区 層位・遺構	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
S47	64	F５ Ⅲ層下層	石鏃	黒曜石	1.9	△1.5	0.4	△0.7	古欠
S48	64	E４・Ⅱ層	石鏃	黒曜石	△2.4	△1.9	0.5	△1.7	素材面残。古欠およびガジリ欠損
S49	64	D２・Ⅲ層	石鏃	黒曜石	△2.0	△1.8	0.5	△2.1	表側表面摩滅。古欠
S50	64	B４ Ⅱ層下層	石鏃	無斑晶安山岩	2.3	1.6	0.5	1.3	素材面残
S51	64	溝26	石鏃未製品	黒曜石	2.0	1.5	0.4	1.0	表に素材背面残
S52	64	C３・Ⅲ層	スクレイパー	無斑晶安山岩	2.5	5.5	0.4	4.7	
S53	64	E４ Ⅲ層下層	楔形石器	無斑晶安山岩	2.8	2.1	0.7	3.6	上下縁に潰れ
S54	64	溝39	スクレイパー	黒曜石	7.0	8.8	1.9	114.0	二重パティナ。調整剥離面の風化が新しい。刃部に微細剥離痕
S55	64	C３・Ⅲ層	石庖丁	細粒花崗岩	△3.1	△6.0	0.6	△15.8	古欠
S56	64	E２・Ⅳ層	磨製石斧 転用敲き石	閃緑岩	9.7	5.3	3.7	328.0	磨製両刃石斧を敲き石に転用
S57	64	E３ Ⅳ層	石錘	安山岩	7.8	4.5	1.9	104.0	
S58	64	C５ Ⅳ層	石錘	安山岩	6.8	6.3	1.8	91.0	
S59	64	D５ Ⅳ層	石錘	安山岩	10.7	9.3	3.4	402.0	
S24	－	竪穴住居１	台石破片？	安山岩	△12.2	△11.8	8.0	△1233.0	図版22-4：写真のみ掲載。残存率数分の一程度
S25	－	竪穴住居１	台石破片？	安山岩	△15.4	△16.2	8.8	△3325.0	図版22-4：写真のみ掲載。表裏に平坦な面をもつ。残存率数分の一程度
S26	－	竪穴住居１	礫	安山岩	12.3	7.5	4.7	605.0	図版22-4：写真のみ掲載。円礫
S27	－	竪穴住居１	礫	安山岩	14.2	7.4	6.7	1010.0	図版22-4：写真のみ掲載。棒状円礫
S29	－	竪穴住居２	礫	安山岩	20.0	16.5	6.3	3030.0	図版23-5：写真のみ掲載。円礫
S30	－	竪穴住居２	礫	安山岩	8.0	6.1	2.4	180.0	図版23-5：写真のみ掲載。円礫
S31	－	土坑23	礫	安山岩	7.2	6.3	2.3	148.0	図版25-3：写真のみ掲載。円礫
S32	－	土坑23	礫	安山岩	10.5	6.1	3.8	308.0	図版25-3：写真のみ掲載。円礫
S33	－	土坑23	礫	安山岩	10.7	9.9	4.0	595.0	図版25-3：写真のみ掲載。円礫
S34	－	土坑23	礫	安山岩	△11.8	17.9	6.2	△1530.0	図版25-3：写真のみ掲載。円礫。半分ほど古欠
S44	－	竪穴住居３	敲き石	安山岩	10.8	4.6	1.9	148.0	図版35-1：写真のみ掲載。扁平な円礫利用。長軸両端にわずかに敲打痕
S45	－	竪穴住居３	礫	安山岩	16.6	13.3	5.6	1700.0	図版35-1：写真のみ掲載。円礫
S46	－	竪穴住居３	礫器	安山岩	12.0	13.6	3.9	715.0	図版35-1：写真のみ掲載。一縁辺にチョッピングトゥール状の刃部を作出
S60	－	C６ Ⅳ層	磨製石器破片	黒色頁岩	△6.0	△4.1	△2.1	△47.6	図版37-2：写真のみ掲載。磨製石斧片か？
S61	－	D５ Ⅳ層	敲き石	安山岩	15.0	6.5	5.3	755.0	図版37-2：写真のみ掲載。棒状。両端に敲打痕
S62	－	土坑43	礫	粗粒安山岩	18.2	8.6	7.3	1358.0	図版37-2：写真のみ掲載。円柱形

表43　ピット一覧（１）

No.	地区	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考	No.	地区	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考
605	Ｄ４	45	39	45	Ⅴ	掘立柱建物７Ｐ３	688	Ｆ４	18	15	11	Ⅴ	
607	Ａ４	25	21	15	Ⅵ		691	Ｆ４	27	24	24	Ⅴ	深い
608	Ａ５	40	30	9	Ⅵ		692	Ｆ４	26	23	40	Ⅴ	深い
609	Ａ５	25	20	14	Ⅵ		693	Ｆ４	16	13	9	Ⅴ	
610	Ａ５	24	11	3	Ⅵ		694	Ｆ４	24	20	15	Ⅵ	
611	Ａ５	26	17	12	Ⅵ		695	Ｅ４	18	16	23	Ⅴ	
614	Ｂ４	19	17	16	Ⅴ	褐色土ブロック混	696	Ｅ４	31	27	37	Ⅴ	深い
615	Ｂ４	62	56	14	Ⅴ	大型	697	Ｆ４	26	20	11	Ⅵ	
616	Ｂ４	27	21	13	Ⅴ		699	Ｇ４	45	31	17	Ⅴ	
617	Ｂ４	27	25	24	Ⅴ		700	Ｇ４	22	22	24	Ⅴ	深い
620	Ｂ４	19	18	13	Ⅴ	褐色土混	701	Ｇ４	28	20	30	Ⅴ	深い
621	Ｂ４	54	29	17	Ⅵ		704	Ｆ４	35	29	31	Ⅴ	深い
622	Ｂ４	35	35	38	Ⅵ	深	705	Ｆ４	27	24	41	Ⅴ	深い
623	Ｂ４	20	17	11	Ⅵ	Ｐ624と類似	706	Ｆ３	22	19	18	Ⅴ	やや砂礫含む
624	Ｂ４	23	17	8	Ⅵ	Ｐ623と類似	707	Ｆ３	29	28	21	Ⅴ	
625	Ｂ４	48	－	23	Ⅵ		709	Ｇ３	20	20	24	Ⅴ	
627	Ｂ４	21	20	13	Ⅵ		710	Ｆ４	21	20	14	Ⅴ	やや褐色み
628	Ｂ４	56	37	22	Ⅴ	弥生甕	711	Ｅ４	32	22	49	Ⅴ	深い
629	Ｂ４	17	17	16	Ⅴ	褐色土混	712	Ｆ４	27	22	35	Ⅴ	深い
631	Ｂ４	40	22	14	Ⅵ		713	Ｅ３	37	28	4	Ⅴ	砂礫多く含む
636	Ｂ４	19	18	16	Ⅴ		714	Ｅ３	21	19	28	Ⅴ	砂礫含む、P713に同じ
638	Ｂ４	33	30	15	Ⅴ								
640	Ｂ４	20	15	11	Ⅴ		715	Ｅ３	24	15	19	Ⅴ	
642	Ｂ４	18	16	12	Ⅵ		717	Ｆ３	22	18	8	Ⅴ	
643	Ｂ４	17	14	16	Ⅵ		718	Ｅ３	22	16	27	Ⅴ	弥生中期高杯、深い
644	Ｂ４	17	16	19	Ⅵ								
645	Ｂ４	30	25	33	Ⅵ	深、褐色土帯びる、Ｐ645～650類似	719	Ｆ３	20	17	9	Ⅴ	
							720	Ｆ３	19	14	19	Ⅴ	深い
646	Ｂ４	20	18	23	Ⅵ	褐色土混、Ｐ645～650類似	722	Ｅ３	21	16	12	Ⅵ	黒色土、やや砂礫
							723	Ｅ３	39	26	11	Ⅴ	やや褐色、砂礫含む
649	Ｂ５	38	32	28	Ⅴ	２段、Ｐ645～650類似	724	Ｅ３	15	12	18	Ⅴ	
650	Ｂ４	24	22	28	Ⅴ	方形、Ｐ645～650類似	725	Ｅ２	55	32	20	Ⅵ	２段
							726	Ｅ２	24	22	15	Ⅴ	
652	Ｂ５	20	19	13	Ⅵ		729	Ｅ２	29	23	19	Ⅴ	やや砂混じる
653	Ｂ４	22	19	16	Ⅴ	褐色土混	730	Ｅ２	24	16	16	Ⅴ	
654	Ｂ４	21	18	18	Ⅴ		731	Ｅ２	30	27	11	Ⅴ	
655	Ｂ４	23	16	54	Ⅵ	黒色土砂礫、小円礫、深	732	Ｅ２	24	22	18	Ⅴ	
							734	Ｅ２	29	－	8	Ⅴ	やや褐色み帯びる
656	Ｂ４	17	16	9	Ⅴ		735	Ｆ２	21	13	23	Ⅴ	
657	Ｆ４	28	26	10	Ⅴ		736	Ｆ２	25	14	15	Ⅴ	
658	Ｆ４	33	32	37	Ⅴ		737	Ｆ２	23	21	20	Ⅴ	
659	Ｆ４	31	25	25	Ⅴ		738	Ｆ２	28	26	28	Ⅴ	
660	Ｆ４	28	24	26	Ⅴ		739	Ｆ２	33	25	31	Ⅴ	
661	Ｆ４	22	21	19	Ⅴ		740	Ｆ２	30	27	37	Ⅴ	黄褐色土ブロック混
662	Ｆ４	22	21	22	Ⅴ		741	Ｆ２	13	13	13	Ⅴ	
663	Ｆ４	28	22	18	Ⅴ		742	Ｆ２	22	20	27	Ⅴ	砂礫少量、深い
664	Ｆ３	30	26	13			743	Ｆ２	22	21	12	Ⅴ	
666	Ｆ３	27	25	21	Ⅴ	深	746	Ｆ３	20	16	15	Ⅴ	
668	Ｆ３	22	18	10	Ⅴ		747	Ｆ３	20	18	18	Ⅴ	
670	Ｆ３	22	20	24	Ⅴ		748	Ｆ３	15	14	15	Ⅴ	Ｐ1079と並ぶ
674	Ｆ４	27	24	36	Ⅴ	深い細い、根?	750	Ｆ５	39	27	24	Ⅴ	砂礫少
676	Ｆ４	29	22	43	Ⅴ	砂礫上層に含む、深い細い、根?	751	Ｆ４	23	17	16	Ⅴ	砂礫少
							752	Ｆ４	15	12	19	Ⅴ	
677	Ｆ４	23	21	25	Ⅴ	深い	753	Ｆ４	17	17	28	Ⅴ	
678	Ｆ４	30	25	33	Ⅵ	黄色土ブロック含む、深い	754	Ｇ４	25	25	17	Ⅴ	砂礫少
							757	Ｅ４	31	27	23	Ⅴ	
679	Ｆ４	24	24	13	Ⅴ	砂礫含む	758	Ｅ４	34	30	23	Ⅴ	
680	Ｆ４	27	19	13	Ⅴ		759	Ｅ４	18	18	14	Ⅴ	砂礫少し含む
681	Ｆ４	20	17	16	Ⅴ		760	Ｅ４	14	13	19	Ⅴ	
682	Ｆ４	27	24	15	Ⅵ		761	Ｅ４	23	18	23	Ⅴ	
683	Ｆ４	21	16	10	Ⅵ		762	Ｅ４	19	18	13	Ⅵ	
684	Ｆ４	34	31	10	Ⅵ		763	Ｅ３	24	19	17	Ⅵ	
685	Ｆ４	20	18	20	Ⅴ		764	Ｅ３	24	23	17	Ⅵ	
686	Ｆ４	18	15	8	Ⅴ		766	Ｂ５	28	28	23	Ⅴ	
687	Ｆ４	21	17	13	Ⅴ	黄色土ブロック混	768	Ｂ５	25	24	18	Ⅴ	

表44　ピット一覧（２）

No.	地区	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考	No.	地区	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考
769	C 4	55	43	16	V		861	D 4・5	24	21	30	V	やや褐色
770	C 5	29	25	17	V		862	D 5	21	19	18	V	
771	B 5	30	29	29	V	深い	864	D 4	21	18	13	V	
772	B 5	40	39	48	V	深い	865	D 4	20	16	17	V	
773	B 5	22	18	37		深い	866	D 4	20	16	11	V	
776	B 5	89	56	46	V		867	D 4	40	24	6	V	舟形
777	B 5	29	27	37	V	深い	868	D 5	45	34	13	V	P844に類似
778	B 5	39	29	38	V	深い	869	D 5	14	14	6	V	
779	B 5	22	19	25	V		870	D 5	27	26	11	V	
780	B 5	26	21	24	V		871	D 5	23	21	22	V	
782	B 5	20	19	21	V		872	D 5	32	22	19	V	
783	B 5	28	27	32	V		873	D 5	21	19	8	V	
784	B 5	14	12	13	V		874	D 5	61	46	23	V	大きい
786	B 5	35	29	11	V		875	D 5	17	14	5	V	
788	B 5	28	20	9	VI		876	D 5	30	26	36	V	
789	B 5	26	17	10	VI		877	D 5	42	26	29	V	
790	B 5・6	30	24	14	VI		878	D 5	27	21	20	V	
791	B 5	21	20	49	V		879	E 4	17	17	19	V	
792	B 6	35	27	10	VI		880	E 4	22	17	16	V	
793	B 6	27	20	14	VI		881	E 4	25	21	28	V	
797	B 6	31	27	11	V		883	E 5	20	18	20	VI	P884～887類似した小Pｉｔ
798	B 6	29	22	10	V								
799	B 6	23	20	30	V	深い	884	E 4	18	12	10	V	P884～887類似した小Pｉｔ
800	B 5	16	16	20	V								
802	C 6	27	26	10	V		885	E 4	18	17	9	V	P884～887類似した小Pｉｔ
805	C 6	25	—	8	V								
808	C 5	26	25	16	V		886	E 4	20	17	9	V	P884～887類似した小Pｉｔ
811	C 5	15	13	10	V								
814	C 5	21	21	24	V		887	E 4	19	18	10	V	P884～887類似した小Pｉｔ
815	C 5	20	19	19	V								
816	C 5	24	23	9	VI		888	E 4	45	34	9	V	
817	C 5	36	32	20	V		889	E 4	25	18	22	V	
818	C 5	28	25	23	V		890	E 4	27	25	22	V	
819	C 5	25	21	15	VI		891	E 4	20	20	14	V	
820	B 4	26	26	21	V		892	E 4	42	34	27	V	
822	B 4	25	24	13	V		893	E 4	24	19	18	V	
823	C 4	22	22	19	V		894	E 5	17	15	15	V	
825	C 3	70	46	17	V		895	E 5	47	44	15	V	
826	C 3	24	23	27	V		897	E 4	27	25	10	V	
831	C 3	26	24	21	V	土器片	898	E 5	24	19	10	V	
832	C 3	23	19	25	V		899	E 4	84	50	22		
833	C 3	24	20	24	V		901	E 4	29	25	13	V	
834	C 3	28	28	15	V		902	E 4	22	20	14	V	
837	C 4	23	21	17	V		903	E 4	23	19	11	V	
838	C 4	23	21	28	V	深い	905	E 5	21	18	18	V	
839	C 4	24	23	30	V	深い	906	E 5	24	22	28	V	
840	C 4	35	24	29	V		907	E 5	25	25	7	V	
841	C 4	32	26	24	V	深い	908	E 5	20	19	16	V	
843	D 5	24	21	25	V		909	E 5	35	23	26	VI	
844	D 5	62	46	18	V	SK42と43の間	910	E 5	44	35	28	VI	
845	D 4	23	15	18	V		913	E 5	33	25	26	VI	
846	D 4	21	16	11	V	掘立柱建物７Ｐ２	914	E 5	20	18	9	V	弥生甕
847	D 4	35	32	27	V	掘立柱建物７Ｐ５	915	E 5	24	22	20	V	
848	D 4	41	33	30	V	掘立柱建物７Ｐ８	916	E 5	40	36	35	V	
849	D 4	35	30	21	V		919	E 5	56	45	10	V	
850	D 4	18	17	14	V		920	E 5	46	42	5	V	
851	D 4	27	26	30	V	掘立柱建物７Ｐ６	921	G 4	28	25	25	V	
852	D 4	28	27	22	V	掘立柱建物７Ｐ７	922	G 4	23	20	36	V	
855	D 4	31	29	11	V		923	G 4	22	20	25	V	
856	D 4	22	22	24	V		924	F 4	20	17	22	V	
857	D 4	15	14	8	V		925	F 4	20	16	16	V	
858	D 4	16	13	8	V		927	F 4	23	21	14	V	
859	D 4	20	19	22	V		929	E 2	32	26	11	VI	
860	D 4	21	21	7	V		930	E 2	22	15	15	VI	

表45　ピット一覧（３）

No.	地区	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考
931	E 2	34	31	47	V	竪穴住居２Ｐ５。炭化物含む。焼土面に関連。深い。
932	E 2	23	19	19	V	
933	E 2	18	16	17	V	
934	E 1	19	16	14	V	
935	E 1	28	27	19	V	
936	E 1	21	16	13	V	
937	E 1	34	30	33	V	深い
938	E 1	20	18	12	V	
940	E 1	17	17	14	V	
941	E 1	28	20	16	V	
942	E 1	21	19	13	V	
943	E 1	20	19	14	V	
944	E 1	20	18	23	V	深い
945	E 1	17	16	12	V	
946	E 1	23	18	10	V	
947	E 1	23	17	12	V	
948	E 1	35	25	14	V	
949	E 1	26	15	12	V	
951	E 3	38	28	10		
953	E 3	24	19	15	V	
955	B 6	123	109	18	V	
956	B 5	31	27	34		
957	C 5	35	32	16	V	
963	F 2	20	19	8	VI	
964	F 2	68	51	11	V	
966	E 3	29	15	14	VI	
967	D 4	31	25	16	VI	
968	D 5	22	18	18	V	
969	D 5	32	29	17	V	
970	C 4	21	20	10	V	
971	C 4	36	34	25	V	人頭礫
972	C 4	36	32	20	V	
973	C 4	24	24	14	V	
974	C 4	23	22	19	V	
975	B 4	86	42	23	V	
976	B 3	52	42	22	V	
977	C 3	41	33	10	V	
978	C 3	53	47	13	V	
979	C 3	62	50	8	VI	
980	E 4	83	43	16	V	
981	E 3	47	40	8	V	
982	D 2	29	20	18	V	
985	E 3	19	18	8	V	
986	E 5	35	32	33		
987	E 2	21	20	13		
989	C 4	21	18	16	V	
990	E 2・3	75	63	8	VI	
991	E 3	74	46	12	VI	縄文粗製深鉢
993	E 2・3	50	45	5	VI	
994	C 4	28	23	12	V	
995	C 5	29	22	32	V	
996	C 5	25	23	10	V	
997	F 3	48	42	11	V	
999	F 3	25	21	18	V	
1000	B 4	27	19	20	V	
1002	B 4	18	15	22	V	
1003	E 2	29	25	32	V	炭含む、竪穴住居２Ｐ６
1004	E 2	50	20	10	V	完掘済み
1005	E 2	19	13	14	V	
1006	D 2	80	46	9	VI	
1007	D 1	45	30	8	VI	
1008	D・E 1	30	22	27	V	
1010	D 1	30	25	23	V	
1011	E 1	22	20	11	V	
1012	D 1	30	28	14	V	
1013	D 1	31	27	17	VI	
1014	D 1	40	25	20	V	
1015	D 1	19	19	21	V	
1016	D 1	21	20	17	V	
1017	D 2	22	17	11	V	
1018	D・E 1	25	22	23	VI	
1019	E 2	41	32	30	VI	
1020	E 2	30	20	14	VI	
1021	E 2	22	19	21	V	
1022	D・E 2	114	81	8	VI	石
1025	E 1	20	17	15	V	
1026	E 2	33	28	12	VI	
1027	E 2	28	23	22	V	
1028	E 2	26	22	27	V	竪穴住居２Ｐ４
1029	D 2	18	15	21	V	深い
1030	D 2	19	18	18	V	
1031	E 2	25	22	28	V	黄色土ブロック混、竪穴住居２Ｐ７
1032	E 2	23	22	18	V	
1033	F 3	47	40	11	V	
1034	E 3	29	27	27	V	
1035	E 3	43	24	18	V	
1036	E 4	38	24	9	V	
1037	F 3	21	15	19	V	
1038	F 3	20	15	15	V	
1039	F 3	29	25	7	V	
1040	E 3	22	19	15	V	
1041	E 3	26	25	28	VI	
1042	E 2	20	19	17	V	
1043	E 2	24	22	10	V	
1044	E 3	17	14	14	V	
1045	F 3	58	48	11	V	
1046	F 3	22	20	2	V	
1047	F 3	17	14	20	V	
1048	F 3	27	25	21	V	
1049	F 3	20	17	19	V	
1050	F 2	25	24	21	V	
1051	F 2	23	14	12	V	
1052	F 2	25	20	11	V	
1053	F 2	19	19	11	V	
1054	F 2	18	18	15	V	
1055	F 3	20	19	9	V	
1056	F 3	23	20	25	V	
1057	E 3	33	31	16	V	
1058	E 3	30	28	15	V	
1059	E 3	18	17	13	V	
1060	D 3	36	32	10	V	
1061	D 3	20	19	23	V	
1062	D 4	26	22	21	V	
1063	D 3	19	19	19	V	
1064	D 3	16	14	28	V	深い
1065	D 3	17	16	24	V	
1066	D 3	21	19	21	V	
1067	D 3	28	27	21	V	
1068	D 3	16	13	8	V	
1069	D 2	30	26	29	V	竪穴住居２Ｐ３
1070	C 4	21	18	19	V	
1071	C 4	23	21	16	V	
1072	C 4	22	20	9	VI	
1073	C 4	24	23	13	V	
1074	C 4	20	18	17	V	
1075	C 4	26	22	14	V	

表46　ピット一覧（４）

No.	地区	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考	No.	地区	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考
1076	C 4	20	20	11	V		1106	C 3	77	64	54		掘立柱建物６Ｐ２、弥生甕
1077	C 4	31	28	29	V								
1078	C 4	31	23	16	V		1107	F 2	18	16	23	V	
1079	F 3	14	13	12	V	P668と並ぶ	1108	E 3	53	44	8	VI	
1080	F 3	21	16	11	V		1109	C 3	68	61	61	V	掘立柱建物６Ｐ３
1081	D 2	89	28	25	VI	弥生甕片、中期壺口縁	1110	C 3	53	49	34	V	
1083	B 4	20	18	10	V		1111	C 5	25	24	10	VI	
1084	B 4	20	19	20	V		1112	C 5	23	21	33	V	
1085	C 4	32	25	15	V		1113	D 4	32	26	19		完掘済、掘立柱建物７Ｐ４
1086	C 4	28	26	18	V								
1087	C 5	26	22	12	V		1114	C 5	26	21	15	VI	
1088	C 5	28	28	23	V		1115	D 4	40	－	23	VI	縄文粗製深鉢
1089	C 5	22	21	27	V		1116	E 1	22	21	29	V	
1090	C 5	28	26	36	V		1117	D 2	23	18	19	V	
1091	C 4	21	19	19	V		1118	D 2	26	23	14	VI	
1092	C 4	70	56	9	V	焼土混、ブロック	1119	D 3	23	19	18	VI	
1093	C 5	24	23	16	V		1120	D 3	17	17	25	VI	
1094	C 5	25	22	12	V		1121	F 2	28	21	14	V	
1095	C 5	21	16	8	V		1122	D 3	18	18	15	V	
1096	C 5	19	16	7	V		1123	E 2	55	45	26		竪穴住居２Ｐ１
1097	B 5	22	18	14	V		1124	D 5	105	－	34	V	
1099	B 4	22	16	27	V		1125	C 2	80	80	66		掘立柱建物６Ｐ４
1100	B 5	17	14	21	V		1126	C 3	60	58	55		掘立柱建物６Ｐ５
1101	B 5	16	14	7	V		1127	D 4	34	26	22		完掘済、掘立柱建物７Ｐ１
1102	A 4	50	38	36	VI								
1103	B 3	23	20	18	V		1133	C 3	30	－	27		
1104	D 3	32	30	22	V		1134	C 5	27	24	18		
1105	C 3	68	64	59		掘立柱建物６Ｐ１	1135	D 2	37	35	8		
欠番	606、612、613、618、619、626、630、632～635、637、639、641、647、648、651、665、667、669、671～673、675、689、690、698、702、703、708、716、721、727、728、733、744、745、749、755、756、765、767、774、775、781、785、787、794～796、801、803、804、806、807、809、810、812、813、821、824、827、828、829、830、835、836、842、853、854、863、882、896、900、904、911、912、917、918、926、928、939、950、952、954、958、959、960、961、962、965、983、984、988、992、998、1001、1009、1023、1024、1082、1098												
No.	地区	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	埋土	備考	No.	地区	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	埋土	備考
溝15	B 5	4.5	0.4	0.1	V		溝17	E 4～F 4	5.0	0.9	0.2	V	
溝16	F 4	3.0	0.8	0.2	V								
（　）は推測値													

６）古墳時代の遺構と遺物

溝18（図65、図版37－３・４・39－４）

溝18はＤ４グリットからＥ２グリットにかけて、南東方向にほぼ直線状に延びる。幅0.8～1.0m、深さ0.2～0.4m、検出した長さは約36mを測り、南東側は調査区外へ続いている。掘り込み面はＶ層下面と考えられ、地山まで掘り込む。遺物は埋土中に古墳時代後期の甕（372）、高坏受部（374・375）が出土したほか、検出面周辺などから同時期の土器があり、平安時代のものを含まない。そのため古墳時代後期のものと判断した。遺物の集中もこの溝周辺に限られ、調査区においてこの時期のものはない。また溝の方向は後述する平安時代の条里溝とは異なる。この溝以外に遺構がないため性格について明確にし得ないが、埋土に水流の痕跡がなく、直線的な在り方は区画などを意識した人為的なものであろう。　（中森・木山）

第４節　平安時代の調査

１）概要

第４章第４節でも述べたが、平成13年度調査（１～３区）では条里に関連すると考えられる等間隔の溝が４条検出されている。本調査区においても、それと同様のものが検出される可能性が考えられた。この時期の遺構面は２面（Ⅲ・Ⅳ層下面）あった。そのうちⅣ層は、比較的調査区全域に分布するが、下面において遺構はＤ２・３グリッド周辺でしか確認できなかった。溝を５条と集石土坑１基だけであり、溝の在り方には規則性を見いだすことはできなかった。また１～３区に連続する溝もない。

一方Ⅲ層上面において、後述するようにまとまって溝を確認した。その規則性から条里制に関連し、さらに１～３区で検出された溝と連続するものと考えられる。またＤ４・５グリッドにはピットが集中していたが、これについても規則的な配列はなく、建物を復元するには至らなかった。ただ、この地域にとっては輸入品である緑・灰釉陶器がまとまって出土したことは、近くにそれを受容する施設の存在が想像できよう。（中森）

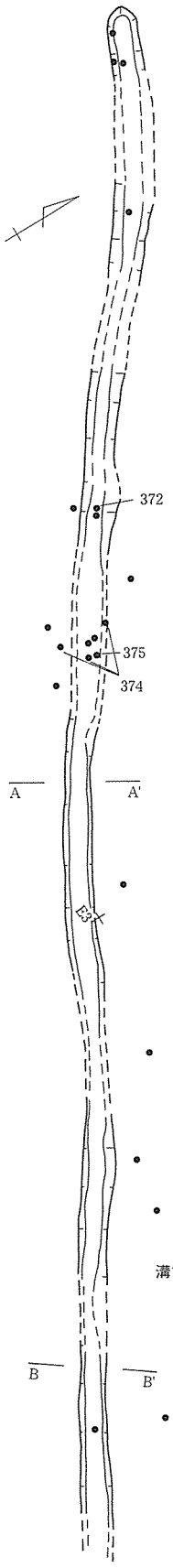
２）Ⅳ層下面の遺構と遺物

土坑66（図66、図版39－２・３）

Ｄ３グリッド南西部に位置する。直径1.2m、短径1.0mの楕円形を呈す。北西側はテラス状の平坦部をもつ。遺構の中央部には、比較的平坦で人頭大の礫がまとまって出土したが、他に遺物はなかった。深さは0.2mほどを測るが、礫の状況から本来の掘り込み面はⅣ層上面であった可能性も考えられる。しかし上面では検出できなかったため、この面のものとして扱った。（中森）

溝19～23（図66、図版39－１・４）

Ｄ２・３グリッドを中心に溝を５条検出した。このうち溝21はC・Ｄ３グリッドに位置する北東方向の直線的なもので、東は調査区外へ続く。西はＴ３に切られ、その西からはわずかに検出したにすぎない。検出長は約16.2m、幅1.0～1.5m、深



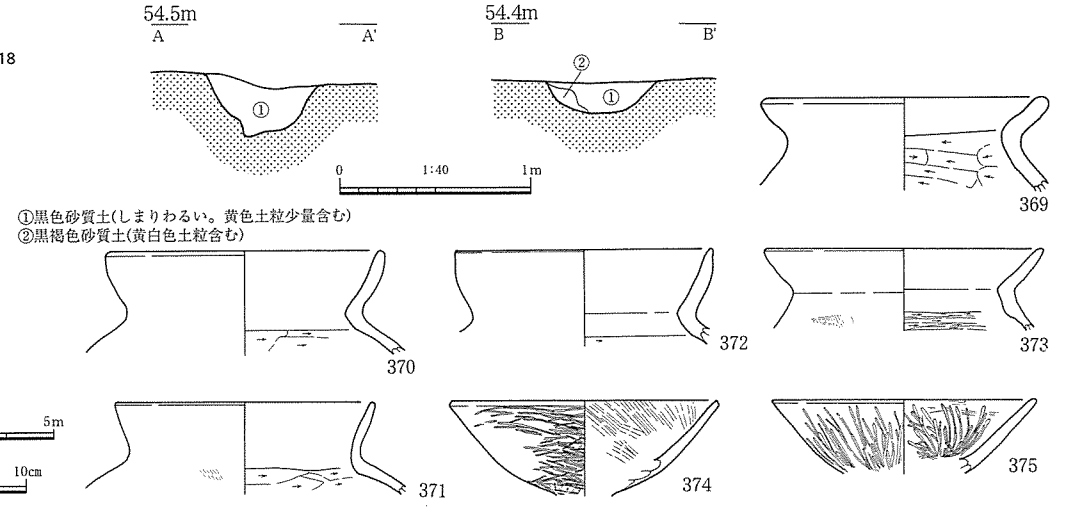


図65　溝15および出土遺物

さ0.4mを測る。この西端近く南側に逆「L」字状を呈す溝20がある。溝23は古墳時代の溝18を切り、緩やかな弧状を描く。北側で東西方向の溝19を切っている。また溝23から1.8m東、調査区際に溝22がある。（中森・木山）

遺構外出土土器（図68・70、カラー図版５－１、図版40－３、41－６、42）

遺物量は少ないが、Ⅳ層からも平安時代の土器が出土した。遺構が検出されたＤ２・３グリッド周辺は少なく、調査区南西のＦ３・４にやや多い傾向がある。須恵器を主体とし、緑・灰釉陶器もわずかにみられる。土師器が少ないこと以外Ⅲ層との違いはなく、大きな時期差はないと考えられる。また、鉄関連遺物がごくわずか（Ｆ115・116・128）にみられた。（中森）

３）Ⅲ層下面の遺構と遺物（図66・67、カラー図版５－１、図版38・41・42）

Ⅲ層下面では大小33条の溝（溝24～56）を検出した。幅は0.6m前後のものが主流で、ほとんど0.1mほどと非常に浅いものである。南北より若干西へ向く軸に、並行あるいは直交するものが多い。その中で調査区西壁際の溝25は約50mにわたって検出した直線的な溝で、深さも0.2m弱と他のものと異なる。また南側（Ｆ５グリッド内）では底面に小ピットが連続し、砂礫が含まれることから水の作用を受けた痕跡と考えられる。同様の痕跡は溝25北に直交する溝50にもみられ、この２条が他の溝と様相を異にする。

そこでこの溝を基準に各溝との関係についてみたものが、図66左下の模式図である。溝の深さが浅いため、すべてを検出したものは少ない。そのためかなり推定を加えているが、南北方向のものをみると、溝25からほぼ5.4m前後の間隔で溝27・28・30～33の６条がある。溝28と30の間は倍の10.8mほどの間隔があるが、この間にも本来溝があったか、あるいはあえてつくられなかった可能性が考えられる。一方、東西方向は溝50から南へ同じ間隔で溝53、さらに１条飛んで51ないしは48がある。この溝51・48が同一であるかは確認できず、ここでは別番号を付している。また溝41はほぼ現地形変換線に沿っており、境界を示すものであろう。溝42もこれに類するか。そしてこれに並行して溝32・44、直交して溝49、56がある。溝42－44間が約5.5m、溝49と56の間も15.8mほどあり、ほぼ規格とおりといえよう。

以上のように、これらの溝には一定の規格が存在したといえ、古代の条里制の痕跡と考えられる。すなわち溝25・50を軸とした区画がなされ、東側は台地縁辺部にあり、その地形に沿って、規格がし直されていることがわかる。（中森）

遺構外出土土器（図69、カラー図版５－１、図版42）

393～413は遺構面直上出土の土器である。393は京都産緑釉陶器で、３個体がＤ５グリッドを中心とするピット群周辺から出土した。同一のものであるが接合しない。また土師器甕が、調査区中央付近（Ｄグリッド）にまとまっている。

表47　図65土器観察表

遺物番号	挿図番号	地区 層位遺構	種別	器種	口径（底）	器高	特徴	胎土 焼成	色調	備考
369	65	Ｅ３ Ⅳ層	土師	甕	＊15.0	△5.0	「く」字状に屈曲し、若干内湾する口縁部。端部丸く収める。器壁厚い。口縁ナデ、内面頸部下ケズリ。	砂粒 良好	内外：浅黄橙色	
370	65	Ｅ５ Ⅳ層	土師	甕	＊14.4	△5.5	「く」字状に屈曲し、若干内湾する口縁部。端部丸く収める。口縁ナデ、内面頸部下ケズリ。	密 良	外：明黄褐色 内：鈍い黄色	
371	65	Ｃ５ Ⅳ層	土師	甕	＊13.6	△4.9	「く」字状に屈曲し、若干外反する口縁部。端部丸く収める。口縁ナデ、内面頸部下ケズリ。外面ハケ。	密 良	内外：鈍い黄色	
372	65	Ｄ３ 溝18	土師	甕	＊13.6	△5.1	「く」字状に屈曲し、若干内湾する口縁部。端部はやや尖る。口縁ナデ、内面頸部下ケズリ。	密 良	内外：鈍い黄橙色	
373	65	Ｅ４ Ⅲ層	土師	甕	＊14.7	△4.4	「く」字状に屈曲し、外反する口縁部。端部丸く収める。口縁ナデ、内面頸部下ケズリ。外面ハケ。	密 良	内外：淡黄色	
374	65	Ｄ３ 溝18	土師	高坏	＊14.25	△5.1	体部丸みをもち口縁は若干外反。口縁端部は面取り。体部外面ミガキ、内面ハケメ。	密 良	外：鈍い黄橙色 内：鈍い橙色	
375	65	Ｄ３ 溝18	土師	高坏	＊14.1	△3.95	体部丸みをもち口縁は若干外反。口縁端部は丸く収める。体部外面ミガキ。内面はハケ後ミガキ。	密 良	内外：灰黄色	

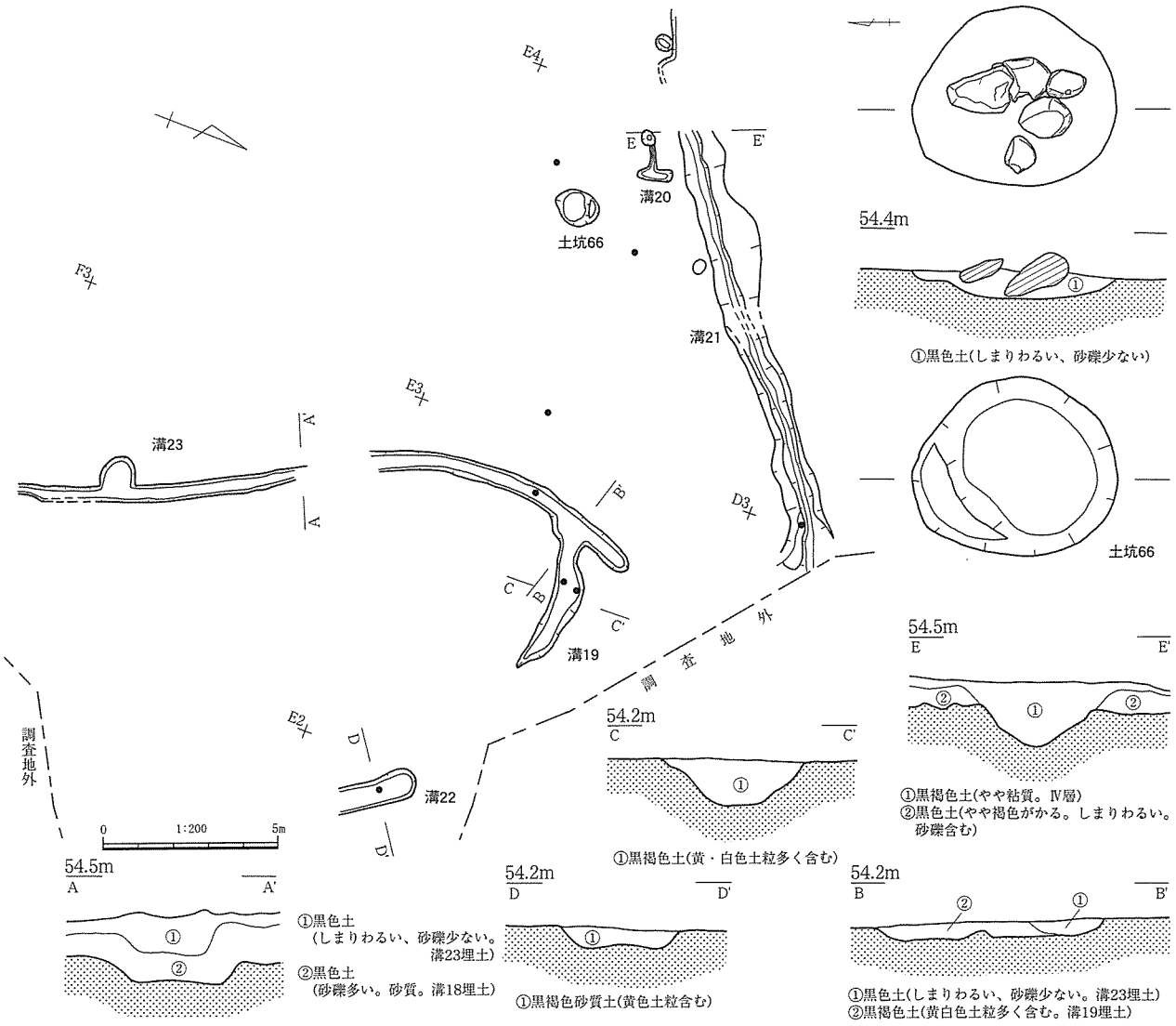
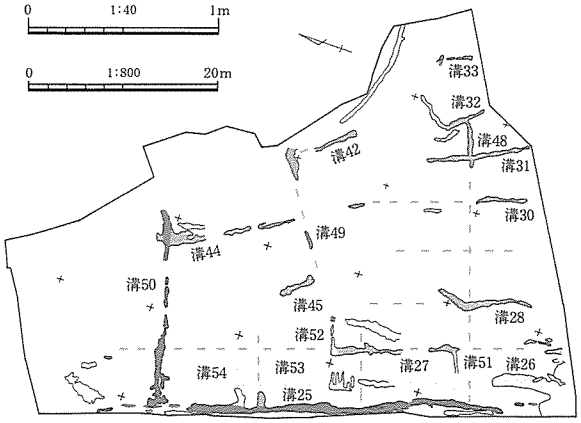


図66　土坑66、溝19～23



Ⅲ層下面遺構模式図

414～444はⅢ層出土である。灰釉陶器があるが分布にとくに偏りはみられない。土師器がやや多く、中には刻文をもつものがある。鉄関連遺物では鉄製品が大半を占め、わずかに鍛冶滓、羽口が1点ずつあったのみである。

全体的には灰釉陶器の割合が高く、黒色土器は非常に少ない。Ⅲ・杯類は土師器、須恵器がほぼ同量といえよう。また、１～３区にみられた刻文土器もあり、土師器高台付杯に多い傾向がある。また共通するモチーフもみられる。これらの遺物から、９世紀末～10世紀前半代のものと考えられよう。

（中森）

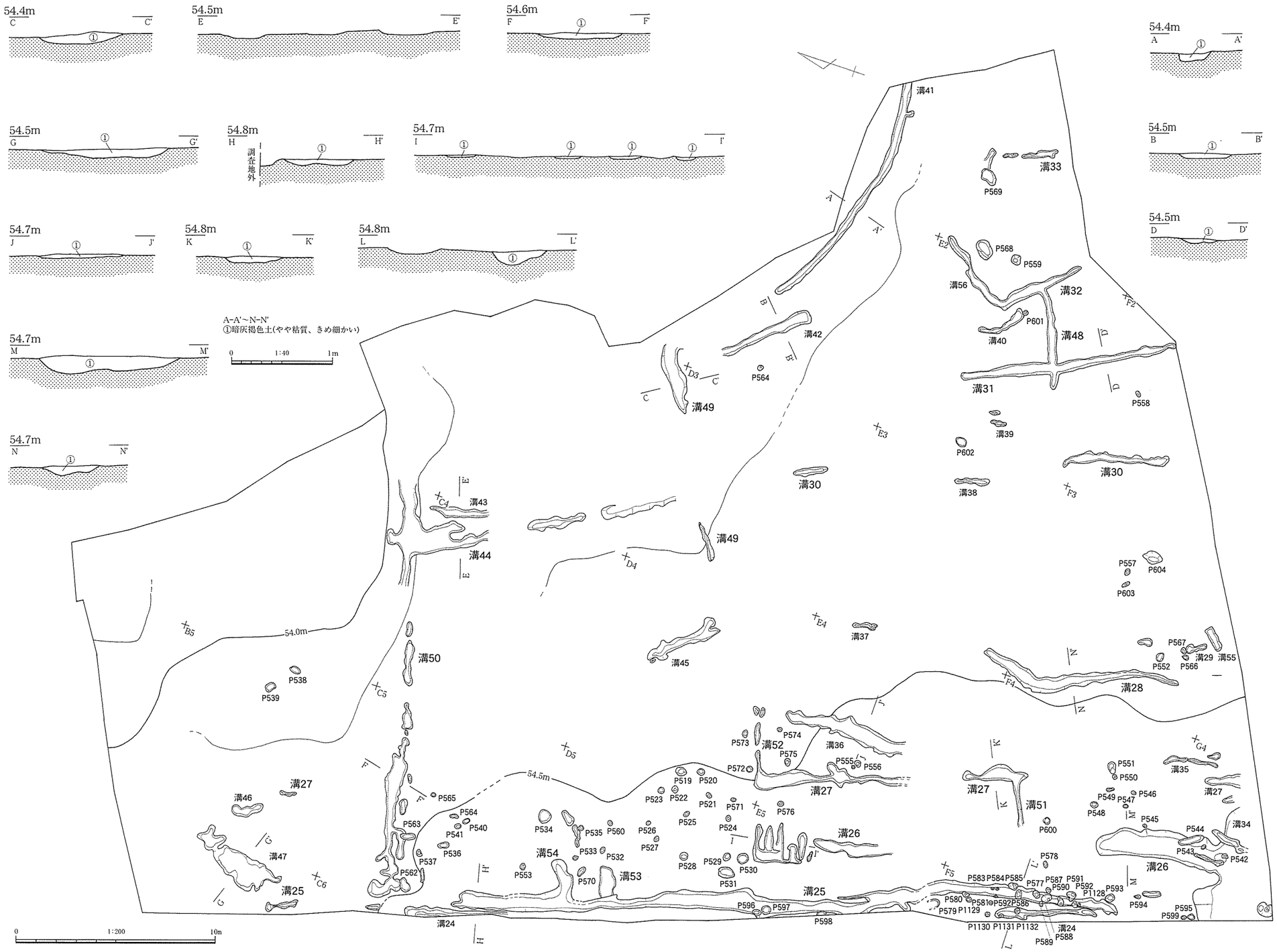


図67　Ⅲ層上面遺構群全体

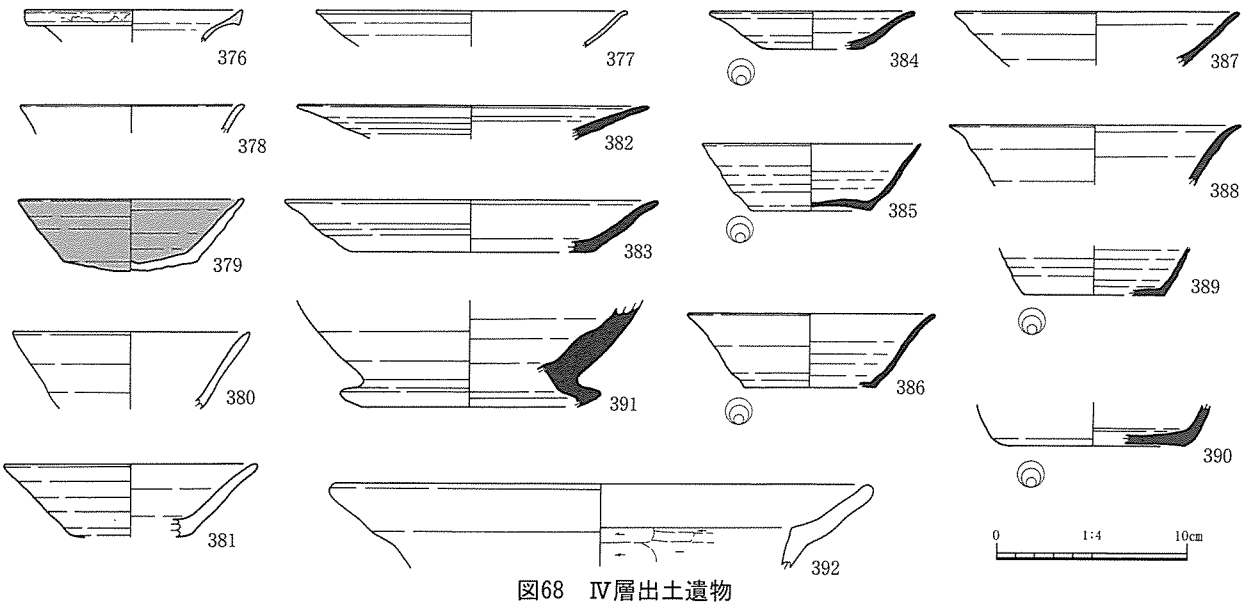


図68　Ⅳ層出土遺物

表48　Ⅳ層出土土器・陶器観察表

遺物番号	挿図番号	地区 層位遺構	種別	器種	口径（底）	器高	特徴	胎土 焼成	色調	備考
376	68	D２ Ⅳ層	灰釉陶器	壺	＊11.6	△1.7	大きく外反する口縁をもち、端部は肥厚し上下に拡張。口縁外面は釉が剥離してきている。外面は一部釉が青みがかり光沢をもつ。黒笹90号窯式。	緻密 良	釉：淡黄白色 胎土：灰白色	
377	68	E４ Ⅳ層	灰釉陶器	皿	＊12.3	△2.0	口縁端部が外反し、丸く収める。表面は小さな気泡多く、ザラザラする。２次焼成か。黒笹90号窯式。	緻密 良好	釉：淡緑灰色 胎土：淡灰色	
378	68	Ⅳ層	緑釉陶器	碗	＊12.0	△1.55	口縁端部がわずかに外反する。胎土は軟質で、釉は剥離する。京都産。	緻密 良好	釉：淡緑黄色 胎土：淡灰褐色	
379	68	F３ Ⅳ層	土師	杯	＊14.0	△3.8	口縁は直線的に外傾する。底部はヘラ切り後ナデ。底部外面を除き赤彩。	密 良好	淡橙褐色	胎土分析 No.23
380	68	E２ Ⅳ層	土師	杯	＊12.6	△4.1	口縁は直線的に外傾し、端部は尖り気味に収める。全体的にやや磨滅。	密 良好	淡橙褐色	
381	68	B５ Ⅳ層	土師	杯	＊13.4	3.9	口縁は若干外反する。端部は丸く収める。やや器壁厚め。全体に磨滅。	密 良好	淡橙褐色	胎土分析 No.27
382	68	Ⅳ層	須恵	皿	＊18.6	△1.8	大きく直線的に外反するもの。端部はやや尖り気味。硬質で青灰色を呈す。	密 良好	淡青灰色	
383	68	E４ Ⅳ層	須恵	皿	＊19.8	2.8	直線的に開く体部から、さらに口縁は外反する。淡灰白色で軟質。	緻密 やや軟	淡灰白色	
384	68	D５ Ⅳ層	須恵	皿	＊10.6	2.1	口縁が外反し、端部は丸く収める。淡灰色でやや硬質。	緻密 良好	淡灰色	
385	68	D４ Ⅳ層	須恵	杯	11.7	3.6	直線的に外傾するもので、器壁薄い。底部は窪み底になる。底部回転糸切り。淡灰色でやや硬質。	密 良好	淡灰色	
386	68	E２ Ⅳ層	須恵	杯	＊12.4	△3.5	直線的に開く体部から、さらに口縁が外反する。器壁薄い。底部回転糸切り。淡灰白色でやや硬質。	密 良好	淡灰白色	胎土分析 No.33
387	68	F３ Ⅳ層	須恵	杯	＊15.0	△2.9	体部は若干内湾し、口縁外反。口縁部には自然釉がかかる。淡灰色で硬質。	緻密 良好	淡灰色	
388	68	F３ Ⅳ層	須恵	杯	＊15.6	△3.2	口縁はかなり外反する。器壁薄い。灰色で硬質。	緻密 良好	灰色	
389	68	F３ Ⅳ層	須恵	杯	(＊7.6)	△2.6	直線的に外傾する体部。底部回転糸切り。淡灰色で硬質。	緻密 良好	淡灰色	
390	68	F４ Ⅳ層	須恵	杯	(＊9.6)	△2.2	底部からの体上がりが丸みをもつもの。底部回転糸切り。灰色で硬質。	緻密 良好	灰色	
391	68	F４ Ⅳ層	須恵	壺	－	△5.65	高台は低く、外側に拡張される。体部器壁厚いが、底部は薄くなるものと考えられる。	緻密 良好	灰色	
392	68	C３ Ⅳ層	土師	甕	＊28.4	△4.4	口縁が長いもの。端部は丸く収める。口縁ナデ、体部内面ケズリ。	やや粗 良好	淡黄褐色	

第５節　中世後期～近世の調査

１）概要

本調査区ではⅡ層下面において、中世後期～近世の遺構を検出した。中世後期から近世初頭と考えられる２基の土坑がある。周辺より五輪塔部材が出土しており、また遺構も墓と考えられる状況を示している。Ⅰ・Ⅱ層内から貿易陶磁器が多く、かつ国産陶器も一定量含まれ出土することは０区の遺構群と併せて注目されよう。また東西、および南北方向の溝を10条検出した。溝60・63は現代耕作地の段とほぼ一致しており、現代まで踏襲されている点は興味深い。（中森）

２）検出した遺構と遺物

土坑67・68（図72、図版43－１・２・５）

南北に２基並ぶように位置する。南側の土坑67は長径1.3m、短径1.0mの隅丸長方形を呈し、深さ0.2mを測る。埋土上面北側中央部で、径15cmほどの扁平な円礫が出土した。その北にある土坑68は

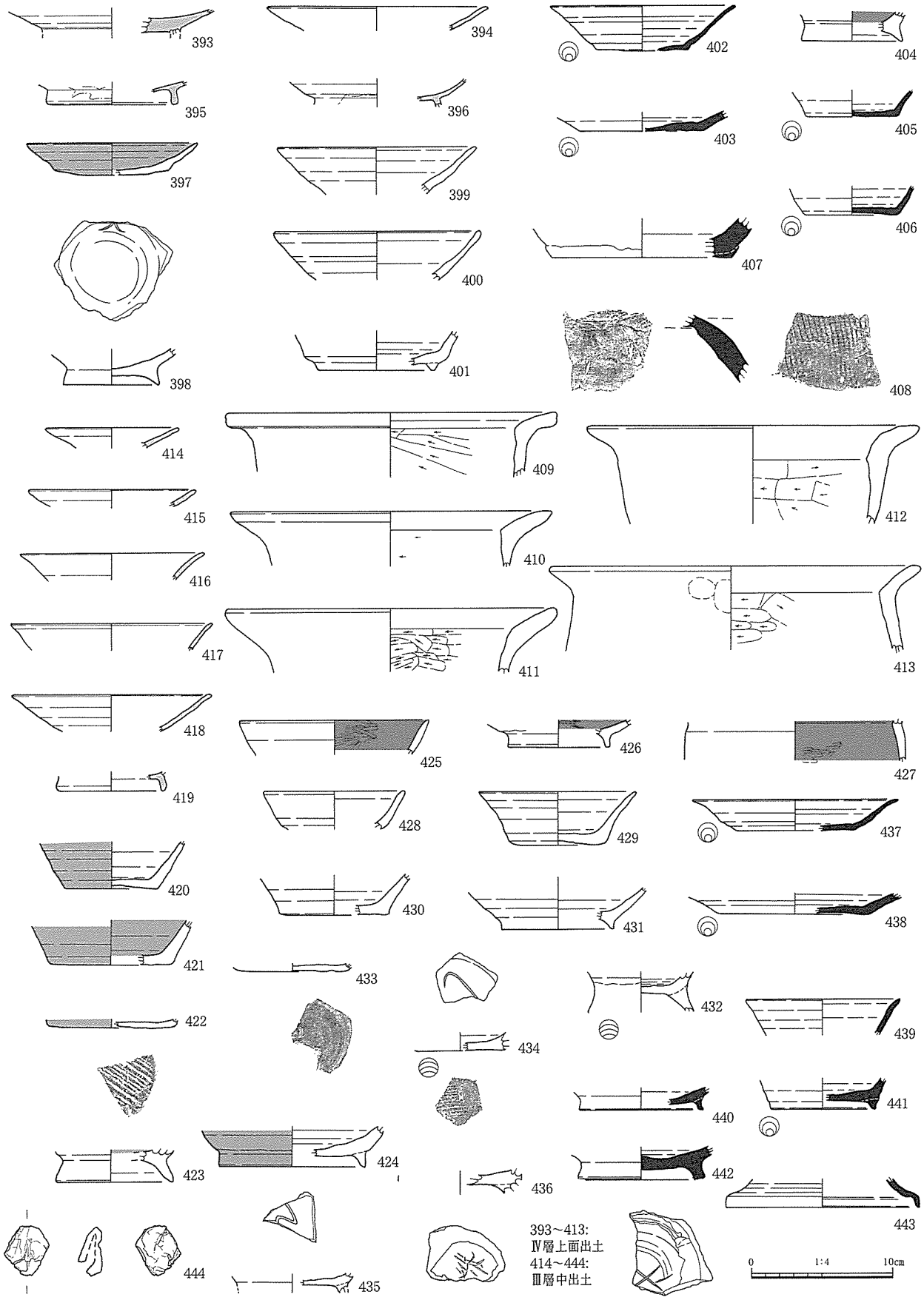


図69　Ⅲ層出土遺物

表49　Ⅲ層出土土器・陶器観察表

遺物番号	挿図番号	地区 層位遺構	種別	器種	口径（底）	器高	特徴	胎土 焼成	色調	備考
393	69	D５ Ⅳ層上面	緑釉陶器	皿	－	△1.7	接合しない３個体がある。体部は直線的に外反。胎土は軟質。高台内側は無釉。京都産。	緻密 良好	釉：緑黄色 胎土：淡灰褐色	

遺物番号	挿図番号	地区 層位遺構	種別	器種	口径（底）	器高	特徴	胎土 焼成	色調	備考
393	69	D５ Ⅳ層上面	緑釉陶器	皿	－	△1.7	接合しない３個体がある。体部は直線的に外反。胎土は軟質。高台内側は無釉。京都産。	緻密 良好	釉：緑黄色 胎土：淡灰褐色	
394	69	E４ Ⅲ層下層	灰釉陶器	皿	＊15.6	△1.8	口縁端部が外反し、丸く収める。表面は小さな気泡多く、ザラザラする。２次焼成か。黒笹90号窯式。	緻密 良好	釉：淡灰色 胎土：淡灰色	
395	69	F５ Ⅲ層下層	灰釉陶器	皿	(＊8.8)	△1.7	比較的高い高台。端部は丸みをもつ。高台やや湾曲。体部外面から畳付けまで施釉、高台内側は無釉。黒笹90号窯式。	緻密 良好	釉：淡緑灰色 胎土：淡灰色	
396	69	C３ Ⅲ層下層	灰釉陶器	椀	－	△2.0	体部丸みをもつもの。高台部下半欠損。	緻密 良好	内外：灰白色、オリーブ灰色	
397	69	C４ Ⅲ層下層	土師	皿	＊12.4	△2.3	口縁は直線的に外傾する。体部下位、ナデにより段状に窪む。底部はヘラ切り後ナデ。底部外面を除き赤彩。	密 良好	淡橙褐色	胎土分析 No.28
398	69	D２ Ⅳ層上面	土師	杯	(7.0)	△2.6	高台は低く「ハ」字状に開く。端部は尖る。底部内面に線刻。「大」か。	密 良好	淡褐色	
399	69	F４ 溝27	土師	杯	＊14.2	△3.4	口縁が外反し、端部は丸く収める。体部中位でわずかに屈曲。	緻密 良好	淡灰色	
400	69	E２ Ⅳ層上面	土師	杯	＊14.8	△3.6	体部わずかに内湾する。口縁端部は内側に肥厚し、丸い。	緻密 良好	橙色	胎土分析 No.26
401	69	E１ Ⅲ層下層	土師	高台	＊2.8	△8.4	低い断面三角形を呈した高台が付く。底部からの立ち上がりは屈曲。	密 良好	淡褐色	
402	69	E２ Ⅲ層下層	須恵	杯	＊13.4	△3.25	直線的に開く体部から、さらに口縁が外反する。器壁薄い。底部回転糸切り。淡灰白色でやや硬質。	密 良好	淡灰色	胎土分析 No.31
403	69	溝28	須恵	皿	(＊9.0)	△1.4	直線的に外傾する体部。底部回転糸切り。灰色で硬質。	緻密 良好	灰色	
404	69	E４ Ⅲ層下層	土師	杯	(＊7.2)	△2.1	「ハ」字状に開く高台。低く、断面は三角形状を呈す。内面黒色。やや磨滅。	密 良好	外：明褐色 内：黒褐色	
405	69	F４ Ⅳ層上面	須恵	杯	(＊6.6)	△2.0	底部から外反していく体部。底部回転糸切り。淡灰白色で軟質。	緻密 やや軟	淡灰白色	胎土分析 No.29
406	69	E４ Ⅲ層下層	須恵	杯	(＊6.6)	△2.1	底部からやや丸みをもって立ち上がる体部。底部回転糸切り。淡灰色で硬質。	緻密 良好	淡灰色	胎土分析 No.30
407	69	D４ Ⅳ層上面	須恵	壺？	(＊12.8)	△2.85	体部下、接合痕が段状に突出。器壁厚い。底部ケズリ後ナデ。	緻密 良好	灰色	
408	69	C３ Ⅳ層上面	須恵	甕？	－	△4.75	体部上位で、頸部に屈曲する部分。外面平行タタキ、内面ナデ。	緻密 良好	灰色	
409	69	D５ Ⅳ層上面	土師	甕	＊23.6	△4.75	逆「L」字状に屈曲する口縁部。口縁端部はやや丸みをもつ。体部内面はケズリ。外面黒斑。	粗 良好	外：褐灰色 内：鈍い黄橙色	
410	69	D４ Ⅳ層上面	土師	甕	＊23.0	△4.0	「く」字状に短く屈曲するもの。口縁端部は尖り気味。体部内面ケズリ。	粗 良好	鈍い灰褐色	
411	69	D２ Ⅳ層上面	土師	甕	＊18.8	△4.6	体部から比較的緩やかに外反する口縁部。体部内面ケズリで、稜は明瞭。口縁は長く、端部は丸く収める。外面黒斑。	粗 良好	鈍い灰褐色	
412	69	E５ Ⅳ層上面	土師	甕	＊24.0	△7.1	外傾する体部から開き気味の口縁が続く。口縁端部は尖り気味。頸部は器壁厚い。口縁端部外面に煤付着。	粗 良好	鈍い灰褐色	
413	69	D３ Ⅳ層上面	土師	甕	＊20.8	△4.8	頸部に向かって内傾する体部で、口縁は直線的に外反。口縁端部はやや丸みをもつ。頸部外面に指頭圧痕。	粗 良好	鈍い橙褐色	
414	69	C６ Ⅲ層	緑釉陶器	皿	＊9.2	△1.5	直線的に外傾する小型の皿。口縁端部は丸く収める。胎土は須恵質。京都産。	緻密 良好	釉：淡緑黄色 胎土：灰色	
415	69	E４ Ⅲ層	灰釉陶器	皿	＊11.6	△1.25	口縁端部がわずかに外反し、丸く収める。黒笹90号窯式。	緻密 良好	釉：淡灰色 胎土：淡灰色	
416	69	E５ Ⅲ層	灰釉陶器	皿	＊13.0	△2.0	口縁外反し、端部は丸く収める。釉が部分的に小さく溜まる。黒笹90号窯式。	緻密 良好	釉：淡緑灰色 胎土：淡灰色	
417	69	C３ Ⅲ層	灰釉陶器	皿	＊14.4	△1.95	口縁端部が外反し、やや尖り気味。釉が部分的に小さく溜まる。黒笹90号窯式。	緻密 良好	釉：淡緑灰色 胎土：淡灰色	
418	69	F３ Ⅲ層	灰釉陶器	皿	＊14.0	△2.7	口縁端部が外反し、やや尖り気味。釉は均質に塗られる。黒笹90号窯式。	緻密 良好	釉：淡緑灰色 胎土：淡灰色	
419	69	D３ Ⅲ層	灰釉陶器	椀	(＊7.6)	△1.4	比較的高い高台。端部は丸みをもつ。高台やや湾曲。体部外面から畳付けまで施釉、高台内側は無釉。黒笹90号窯式。	緻密 良好	釉：淡緑灰色 胎土：淡灰色	
420	69	C５ Ⅲ層	土師	杯	(＊6.8)	△3.4	底部から直線的に外傾する。底部ヘラ切り後ナデ。体部外面に赤彩。	密 良好	淡褐色	胎土分析 No.24
421	69	D４ Ⅲ層	土師	杯	(＊8.8)	△3.25	底部から直線的に外傾する。底部ヘラ切り後ナデ。内外面に赤彩。	密 良好	淡褐色	
422	69	C４ Ⅲ層	土師	杯	(＊8.8)	△0.7	底部は静止糸切り痕が、擂り目のように深く溝状に付く。	密 良好	浅黄色	
423	69	E３ Ⅲ層	土師	杯	(＊8.8)	△2.25	「ハ」字状に開く高い高台。端部は尖り気味。内面は赤彩。	密 良好	浅黄色	
424	69	E３ Ⅲ層	土師	杯	(＊10.6)	△3.0	「ハ」字状に開く低い高台。端部は尖る。底部から緩やかに立ち上がる体部。器壁は厚い。内外面赤彩。高台内側は塗彩されず。	密 良好	浅黄橙色	
425	69	D４ Ⅲ層	土師	杯	＊13.6	△2.5	内黒の杯。内面は丁寧にミガキ。口縁部は直線的に開き、端部尖る。口縁外面上部まで黒色化。	密 良好	外：淡橙褐色 内：黒色	
426	69	E３ Ⅲ層	土師	杯	(＊7.4)	△2.05	内黒の高台付き杯。内面ミガキ。高台はわずかに「ハ」字状。端部は丸い。	密 良好	外：鈍い橙褐色 内：黒色	
427	69	E２ Ⅲ層	土師	鍋	－	△2.85	ほぼ直立的な体部。内面はミガキ、外面粗くナデ。	密 良好	外：鈍い黄橙色 内：黒色	
428	69	F４ Ⅲ層	土師	杯	＊10.2	△2.8	口縁部がわずかに外反。端部やや丸みをもつ。体部下位でやや屈曲し底部へ続く。	密 良好	淡褐色	
429	69	C４ Ⅲ層	土師	杯	＊11.2	3.8	体部から口縁にかけ、外側に湾曲するもの。口縁端部は尖り気味。底部器壁厚い。底部ヘラ切り後ナデ。	密 良好	外：鈍い黄橙色 内：鈍い黄橙色、褐灰色	胎土分析 No.25
430	69	E６ Ⅲ層	土師	杯	(＊8.0)	△2.6	底部から体部への屈曲部は鋭い稜になる。底部ヘラ切り後丁寧なナデ。	密 良好	浅黄橙色	
431	69	E３ Ⅲ層	土師	杯	(＊9.6)	△2.9	低い台形状の高台が付く。高台付け根から体部は外傾。外面煤付着。	密 良好	橙褐色	
432	69	E３ Ⅲ層	土師	杯	－	△3.0	「ハ」字状に開く高い高台をもつ。端部欠損。底部静止糸切り。内外面に煤付着。	密 良好	橙褐色	
433	69	C４ Ⅲ層	土師	杯	(＊8.2)	△0.65	底部ヘラ切り後ナデ。押圧により窪む。	密 良好	浅黄橙色	
434	69	D３ Ⅲ層	土師	杯	－	△1.3	内面に弧状の刻線。底部静止糸切り。	密 良好	淡褐色	
435	69	D５ Ⅲ層	土師	杯	－	△1.25	内面に波状の刻線文。高台中位から欠損。おそらく断面三角の低いものであろう。	密 良好	外：褐灰色 内：鈍い黄褐色	
436	69	B６ Ⅱ層	土師	杯	－	△1.75	高台付きの杯。高台内面に爪・ヘラ状工具による刻文状のものがある。全体的にやや磨滅。	密 良好	淡褐色	
437	69	D１ Ⅲ層	須恵	皿	＊20.2	△2.3	直線的に開く体部から、さらに口縁が外反する。器壁薄い。底部回転糸切り。淡灰色でやや硬質。	緻密 良好	淡灰色	
438	69	G４ Ⅲ層	須恵	皿	(＊13.6)	△1.5	直線的に開く体部。器壁厚い。底部回転糸切り。淡灰色で硬質。	緻密 良好	灰色	胎土分析 No.32
439	69	F４ Ⅲ層	須恵	杯	＊11.0	△2.6	外反する口縁部をもち、端部は尖り気味。内面に煤が付着する。硬質。	密 良	暗灰褐色	
440	69	F３ Ⅲ層	須恵	杯	(＊9.0)	△1.65	短く「ハ」字状に開く高台。端部は面取り。底部外面ナデ。灰色で硬質。	緻密 良好	灰色	
441	69	F４ Ⅲ層	須恵	杯	(＊7.4)	△2.25	低く端部丸みをもつ高台。高台脇から体部は立ち上がる。淡灰色でやや軟質。	緻密 良好	淡灰色	
442	69	D４ Ⅲ層	須恵	壺？	－	△2.4	短く「ハ」字状に開く高台。端部は回線状に窪む。底部外面「×」状の刻文。灰色で硬質。	緻密 良好	灰色	
443	69	C６ Ⅲ層	須恵	高杯	(＊14.0)	△2.05	「へ」字状に折れる高杯の脚部。端部は尖り気味。灰色で硬質。	緻密 良好	灰色	
444	69	C４ Ⅲ層下層	土師	被熱 粘土塊	3.25	3.6	折り曲げて丸まったような形態。中空状になる。	密 良好	淡褐色	

長径1.1m、短径1.0mほどで同じく隅丸長方形を呈し、深さ0.2mを測る。遺構内には人頭大以上の礫があり、西側南北両隅から釘（Ｆ132・133）が出土した。この上層から空風輪Ｓ63、および周囲から地輪Ｓ62が出土したことと合わせ、これらは墓である可能性が高い。（中森）

溝63（図72、図版44－２）

緩やかな弧状を描きながら西から東へ伸びる。長さは約24m、幅0.6m前後で、東端は斜面へ向け大きく開く。深さ約0.5m。肥前系陶磁器(445～449)、鉄製品(Ｆ135～137)が出土した。（木山・中森）

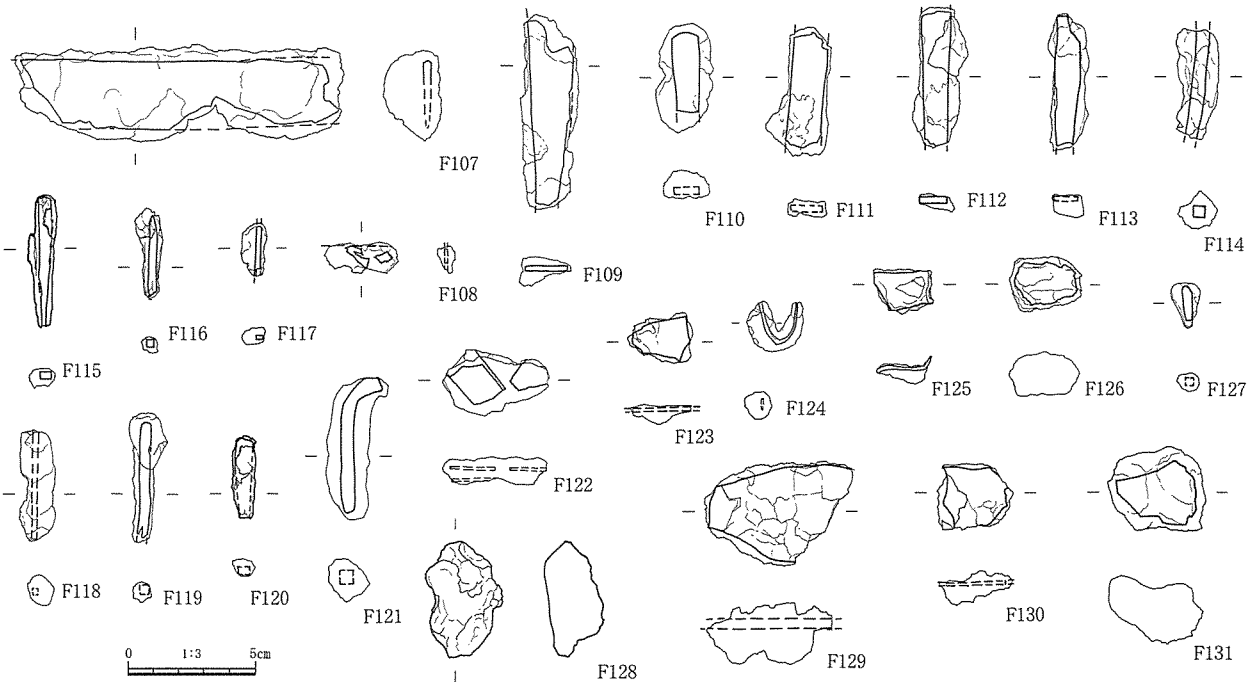


図70　Ⅲ・Ⅳ層出土遺物

表50　Ⅲ・Ⅳ層出土鉄製品観察表

報告書	構成No.	遺物名	地区	層位、遺構	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	磁着度	メタル度	備考
107	⑥	鉄製品(鍛造品)刀	B5	Ⅳ層上面	13.1	3.85	2.3	126.0	3	銹化(△)	
108	⑦	鉄製品(鍛造品)刀子？	F3	Ⅲ層	2.95	1.25	0.7	2.6	2	銹化(△)	
109	⑧	鉄製品(鍛造品)鎹？	C3	Ⅳ層上面	2.35	7.65	1.2	26.2	4	銹化(△)	
110	⑨	鉄製品(鍛造品)鎹？	C3	Ⅲ層	2.3	4.35	1.1	15.8	3	銹化(△)	
111	⑩	鉄製品(鍛造品)鎹？	D2	Ⅲ層	5.1	2.5	0.7	16.6	3	銹化(△)	
112	⑪	鉄製品(鍛造品)鎹？		トレンチ3	5.5	2.15	0.75	13.0	3	銹化(△)	
113	⑫	鉄製品(鍛造品)鎹	D3	Ⅳ層上面	1.6	5.4	0.9	19.2	5	L(●)	
114	⑬	鉄製品(鍛造品)釘	D3	Ⅲ層下層	1.7	4.35	1.7	14.6	2	銹化(△)	
115	⑭	鉄製品(鍛造品)釘	G4	Ⅳ層上層	1.2	5.25	0.75	6.5	3	銹化(△)	
116	⑮	鉄製品(鍛造品)釘	D2	Ⅳ層上層	1.1	3.6	0.65	4.2	2	銹化(△)	
117	⑯	鉄製品(鍛造品)釘	E4	Ⅲ層下層	1.0	2.15	0.7	2.0	1	銹化(△)	
118	⑰	鉄製品(鍛造品)釘状不明	D4	Ⅲ層	1.45	4.4	1.2	7.5	2	銹化(△)	
119	⑱	鉄製品(鍛造品)棒状不明		トレンチ2東	1.55	5.1	0.8	5.3	2	銹化(△)	
120	⑲	鉄製品(鍛造品)棒状不明	D4	Ⅲ層	0.9	3.25	0.7	4.8	2	銹化(△)	
121	⑳	鉄製品(鍛造品)棒状不明	E2	Ⅲ層	2.5	5.1	1.7	23.4	2	銹化(△)	
122	㉑	鉄製品(鍛造品)薄板状	C5	Ⅲ層	4.2	2.6	1.1	8.5	2	銹化(△)	
123	㉒	鉄製品(鍛造品)板状　鏃?	B4	Ⅲ層	2.6	2.05	0.85	3.8	2	銹化(△)	
124	㉓	鉄製品(鍛造品)鈎状不明		トレンチ3-Ⅲ層	2.3	2.05	1.1	3.0	2	銹化(△)	
125	㉔	鉄製品(鍛造品)紋金具?	C3	Ⅲ層	2.4	1.75	1.1	4.3	2	銹化(△)	
126	㉕	鉄製品(鍛造品?)不明品	E2	Ⅳ層上面	2.85	2.25	1.75	13.1	1	銹化(△)	
127	㉖	鉄製品(不明品)	C6	Ⅲ層	1.2	1.8	0.75	1.4	1	銹化(△)	
128	㉚	椀形鍛冶滓(小含鉄)	B3	Ⅳ層下層	3.1	4.6	2.4	38.2	2	銹化(△)	
129	㉗	鉄製品(鋳造品)	E2	Ⅲ層	4.65	5.9	2.4	2.0	2	銹化(△)	
130	㉘	鉄製品(鉄製品)	D3	Ⅳ層上面	3.05	2.65	1.35	9.3	2	銹化(△)	
131	㉙	鉄製品(鋳造品?)板状	C３	Ⅲ層	3.9	2.35	2.7	29.8	2	銹化(△)	
132	㉝	釘	C3	土坑68埋土中	2.5	3.05	0.8	5.8	-	銹化(△)	
133	㉝a	釘	C3	土坑68埋土中	0.9	2.9	0.4	1.7	-	銹化(△)	
134	㉛	鉄製品(鍛造品)鋤または鍬	C5	溝60	8.05	7.45	4.25	182.0	2	銹化(△)	
135	㉜	鉄製品(鍛造品)	D3	溝63	3.4	1.3	0.7	3.1	2	銹化(△)	
136	㉟	鍛冶滓	D4	溝63	2.35	2.8	0.85	6.2	1	銹化(△)	
137	㉞	羽口(鍛冶)	D4	溝63	4.15	4.75	1.8	23.6	1	なし	

表51　ピット一覧

No.	地区	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考	No.	地区	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考
519	D 4	55	43	22	Ⅲ	弥生甕、土師杯赤彩	565	C 5	23	21	4	Ⅱ	
520	D 4	37	33	22	Ⅲ	土師？	566	F 3	30	27	5	Ⅲ	
521	D 5	30	23	17	Ⅲ		567	F 3	35	26	5	Ⅲ	
522	D 5	33	25	11	Ⅲ		568	E 1・2	104	63	27	Ⅲ	
523	D 5	32	30	14	Ⅲ	土師杯	569	E 1	92	50	16	Ⅲ	土師
524	D 5	28	26	8	Ⅲ		570	D 5	54	24	7	Ⅲ	弥生甕
525	D 5	33	25	15	Ⅲ		571	D 5	24	22	5	Ⅲ	
526	D 5	22	17	11	Ⅲ		572	D 4	30	27	7	Ⅲ	
527	D 5	30	23	17	Ⅲ	弥生？	573	D 4	30	27		Ⅲ	
528	D 5	39	35	9	Ⅲ	弥生？	574	E 4	25	21	4	Ⅲ	
529	D 5	35	34	12	Ⅲ		575	E 4	35	26	6	Ⅲ	
530	E 5	60	49	13	Ⅲ	土師甕	576	E 4	30	26	5	Ⅲ	
531	D・E 5	82	57	18	Ⅲ	弥生・土師	577	F 4・5	40	33	10	Ⅲ	
532	D 5	36	21	2	Ⅲ	弥生？	578	F 4	32	19	12	Ⅲ	
533	D 5	25	24	5	Ⅲ		579	F 5	47	－	12	Ⅲ	
534	C・D 5	70	65	6	Ⅲ	弥生、突帯文	580	F 5	60	25	9	Ⅲ	
535	D 5	31	21	3	Ⅲ		581	F 5	18	16	16	Ⅲ	
536	C 5	52	28	3	Ⅲ		582	F 5	18	17	21	Ⅲ	
537	C 5	31	22	6	Ⅲ		583	F 5	18	16	7	Ⅲ	
538	B 5	52	33	6	Ⅲ		584	F 5	16	16	5	Ⅲ	
539	B 5	50	37	4	Ⅲ		585	F 4・5	48	40	16	Ⅲ	
540	C 5	35	25	4	Ⅲ		586	F 4・5	47	32	12	Ⅲ	
541	C 5	31	25	7	Ⅲ	縄文	587	F 4	29	24	6	Ⅲ	
542	G 4	28	20	8	Ⅲ		588	F 4・5	47	32	19	Ⅲ	
543	G 4	26	19	5	Ⅲ		589	F 5	23	17	8	Ⅲ	
544	G 4	125	33	5	Ⅲ		590	F 4・5	47	28	31	Ⅲ	
545	F 4	24	20	4	Ⅲ		591	F 4	48	45	14	Ⅲ	
546	F 4	23	17	5	Ⅲ		592	F 4	32	22	12	Ⅲ	
547	F 4	27	20	7	Ⅲ		593	F 4	44	41	13	Ⅲ	
548	F 4	36	32	4	Ⅲ		594	F 4	33	20	5	Ⅲ	
549	F 4	38	15	7	Ⅲ		595	G 4	35	27	10	Ⅲ	
550	F 4	26	24	8	Ⅲ		596	E 5	40	31	15	Ⅲ	
551	F 4	59	39	13	Ⅲ		597	E 5	43	42	12	Ⅲ	
552	F 3	40	40	8	Ⅲ	弥生	598	E 5	48	－	10	Ⅲ	
553	C・D 5	36	24	11	Ⅲ		599	G 4	28	22	5	Ⅲ	
554						欠番	600	F 4	36	31	5	Ⅲ	
555	E 4	20	19	8	Ⅲ		601	E 2	27	21	10	Ⅲ	
556	E 5	32	30	18	Ⅲ	弥生・土師	602	E 2	55	40	4	Ⅲ	石
557	F 3	36	29	9	Ⅲ		603	F 3	40	21	62	Ⅲ	
558	F 2	29	22	11	Ⅲ		604	F 3	100	58	27	Ⅲ	
559	E 1・2	52	51	12	Ⅲ		1128	F 4	18	16	13	Ⅲ	
560	D 5	27	27	9	Ⅲ		1129	F 5	28	24	25	Ⅲ	
561						欠番	1130	F 5	26	22	15	Ⅲ	
562	C 5	82	48	8	Ⅲ	弥生・土師	1131	F 5	24	21	16	Ⅲ	
563	C 5	69	30	7	Ⅲ		1132	F 5	30	18	18	Ⅲ	
564	C 5	40	23	6	Ⅲ								

No.	地区	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	埋土	備考	No.	地区	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	埋土	備考
溝24	C 6～F 5	(36)	0.2～0.7	0.08	Ⅲ		溝41	D 1～D 2	13	0.5	0.12	Ⅲ	
溝25	C 5～F 4	(50)	1.2	0.16	Ⅲ		溝42	D 2	4.7	0.6	0.08	Ⅲ	
溝26	E 5～G 4	(20)	0.5～1.5	0.20	Ⅲ		溝43	B 4～C 4	3	0.5	0.06	Ⅲ	
溝27	B 5～G 4	(47.5)	0.5～0.8	0.08	Ⅲ		溝44	B 4～D 3	13	0.5	0.08	Ⅲ	
溝28	E 3～F 4	10	0.5～0.8	0.12	Ⅲ		溝45	D 4	3.8	0.5～0.9	0.05	Ⅲ	
溝29	F 3	1	0.3～0.5	0.06	Ⅲ		溝46	B 5	1.5	0.5	0.06	Ⅲ	
溝30	D 3～F 2	18.5	0.4～0.5	0.06	Ⅲ		溝47	B 5～B 6	4	0.4～1.0	0.12	Ⅲ	
溝31	E 2～F 2	10.7	0.3～0.7	0.08	Ⅲ		溝48	E 2	5	0.3～0.5	0.04	Ⅲ	
溝32	E 1～E 2	4.5	0.2～0.6	0.03	Ⅲ		溝49	C 2～D 3	(10.8)	0.3～1.0	0.16	Ⅲ	
溝33	E 1	(2.5)	0.2～0.4	0.05	Ⅲ		溝50	B 4～C 5	(20)	0.5～1.0	0.10	Ⅲ	
溝34	G 4	2	0.3	0.16	Ⅲ		溝51	F 4	2	0.3～0.4	0.02	Ⅲ	
溝35	F 4～G 4	2.5	0.2～0.3	0.03	Ⅲ		溝52	D 4～E 5	(7.7)	0.3	0.04	Ⅲ	
溝36	E 4	5.7	0.5～1.0	0.08	Ⅲ		溝53	D 5	1.5	0.7～0.9	0.04	Ⅲ	
溝37	E 3	1.2	0.2	0.04	Ⅲ		溝54	D 5	4	0.7	0.07	Ⅲ	
溝38	E 3	1.7	0.3	0.02	Ⅲ		溝55	F 3	1.3	0.5	0.06	Ⅲ	
溝39	E 2	0.8	0.3	0.03	Ⅲ		溝56	E 2	5	0.3～0.5	0.04	Ⅲ	
溝40	E 2	2.5	0.2～0.5	0.03	Ⅲ								

表52　ピット一覧

No.	地区	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考	No.	地区	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	埋土	備考
500	B 4	36	32	18	Ⅱ		510	B 4	54	44	23	Ⅱ	
501	B 4	50	32	14	Ⅱ		511	B 4	55	40	87	Ⅱ	
502	B 4	85	50	20	Ⅱ		512	C 5	59	46	23	Ⅱ	平安須恵杯、弥生
503	B 4	32	25	11	Ⅱ		513	C 5	36	32	14	Ⅱ	弥生
504	B 4	39	35	13	Ⅱ	縄文？	514	B 4	29	20	33	Ⅱ	
505	B 4	30	26	6	Ⅱ		515	B 4	50	31	23	Ⅱ	
506	B 4	75	35	19	Ⅱ		516	B 4	115	84	42	Ⅱ	土師？
507	B 4	53	33	15	Ⅱ		517	B 4	59	47	37	Ⅱ	
508	B 4	53	42	16	Ⅱ	在地陶器	518	B 4	23	19	17	Ⅱ	
509	B 4	45	28	11	Ⅱ								

No.	地区	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	埋土	備考	No.	地区	長径 (m)	短径 (m)	深さ (m)	埋土	備考
溝57	A 4～A 5	7.5	1.1	0.04	Ⅱ		溝62	D 4～D 5	4.5	0.5～0.8	0.09	Ⅱ	
溝58	A 5～B 6	7	0.5～0.7	0.08	Ⅱ		溝63	C 2～D 5	(26.7)	0.5～2.0	1.00	Ⅱ	
溝59	A 4～B 5	10.5	0.5～0.8	0.07	Ⅱ		溝64	B 5	2.6	0.5～0.7	0.08	Ⅱ	
溝60	B 3～C 5	(19.6)	0.5～1.0	0.20	Ⅱ		溝65	D 4～F 3	24.5	0.6～1.0	0.08	Ⅱ	
溝61	D 4	5	0.5	0.05	Ⅱ		溝66	D 2～D 3	4	0.5	0.10	Ⅱ	

遺構外出土遺物（図73・74）

遺物量はⅠ層よりもⅡ層が圧倒に多い。同層からはまた中世後期の貿易陶磁器がまとまって出土する。ただ青花が主体的でＣ・Ｅ群や漳州窯系が目立つこと、白磁はＥ群主体、また国産陶器の在り方や土師器皿が手づくねで占められる点など０区Ⅱ層よりは新しく、近世遺構群に近いものといえよう。また土師器火鉢が多いのは特徴的である。鉄関連遺物のうち椀形鍛冶滓は、その形状から概ね平安時代に比定されよう。Ｆ141は青銅製蓋の擬宝珠。経筒の蓋か？　（中森）

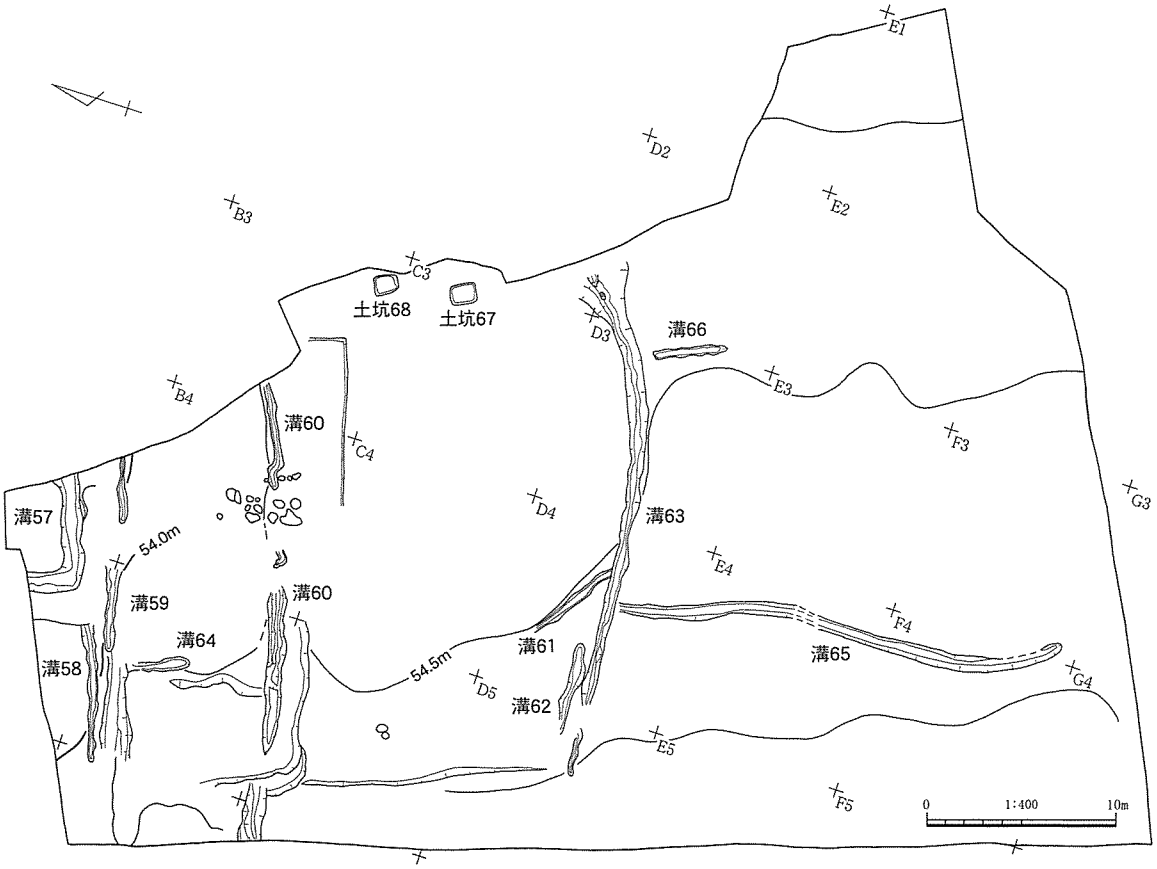


図71　中世後期～近世遺構分布

表53　図73土器・陶磁器観察表

遺物番号	挿図番号	地区 層位遺構	種別	器種	口径（底）	器高	特徴	胎土 焼成	色調	備考
445	72	Ｄ２ 溝63	陶器	擂鉢	＊34.0	△ 2.5	口縁部が肥厚し、外反するもの。在地産？	緻密 良好	暗褐色	
446	72	Ｄ４ 溝63	陶器	碗	(4.2)	△ 4.8	低く幅広の高台をもつ。体部下位には指オサエにより、部分的にかなり窪む。その上で屈曲し、明瞭な稜がはいる。高台内まで施釉。内側および畳付けに砂。肥前系、Ⅱ期。	密 良好	釉：淡緑灰色 胎土：灰色	
447	72	Ｄ３ 溝63	陶器	碗	(4.0)	△ 3.6	高台やや高く、直立的。釉は細かい貫入多い。肥前系、Ⅳ期。	やや粗 良好	釉：黄褐色 胎土：淡黄褐色	
448	72	Ｄ２ 溝63	磁器	小杯	＊6.5	3.05	やや外開きな口縁で、端部は尖り気味。外面に文様。肥前系、Ⅲ期。	密 良好	白色（やや青みがかかる）	
449	72	Ｄ２ 溝63	陶器	碗	(＊4.2)	△ 3.0	陶体染付。外面に薄く暗緑灰色の文様。全面施釉で、畳付けは釉剥ぎか。肥前系、Ⅴ期。	やや粗 良好	釉：緑灰色 胎土：灰色	
450	73	Ａ４ Ⅰ層	青磁	碗	＊14.2	△ 4.1	口縁外面に雷文帯が巡る。口縁端部釉が厚くかかりやや肥厚。上田Ｃ類。	密 良好	釉：淡緑灰色 胎土：灰色	
451	73	Ｄ４ Ⅱ層	青磁	碗	＊13.5	△ 2.1	口縁外面に雷文帯が巡る。雷文の形がやや崩れる。上田Ｃ類。	密 良好	釉：淡緑灰色 胎土：灰色	
452	73	Ｅ３ Ⅱ層	青磁	小碗	＊ 9.6	△ 2.65	口縁外面に雷文帯が巡る。雷文の形がやや崩れる。上田Ｃ類。	緻密 良好	釉：淡緑灰色 胎土：灰色	
453	73	Ｆ５ Ⅱ層	青磁	碗	＊11.8	△ 2.8	外面に線描きの蓮弁文。上田Ｂ－Ⅲ類。	密 良好	釉：濃緑色 胎土：暗灰色	
454	73	Ｅ３ Ⅱ層下層	青磁	碗	(＊4.8)	△ 2.4	高台畳付けまで施釉。内面は無釉で、淡赤褐色を呈す。外面には鎬蓮弁か。見込みに蓮弁文があると思われる。上田Ａ類。	密 良好	釉：淡緑色 胎土：灰色	
455	73	Ｂ５ Ⅱ層	青磁	碗	(＊4.6)	△ 2.7	高台外面まで施釉。畳付けから内面無釉。見込みに沈線文。胎土やや軟質。	緻密 良好	釉：緑灰色 胎土：淡灰褐色	
456	73	Ｄ３ Ⅱ層	青磁	碗	＊15.0	△ 4.0	無文で口縁端反りの碗。口縁端部は欠損する。	密 良	釉：淡緑灰色 胎土：灰色	
457	73	Ｆ４ Ⅱ層	白磁	皿	＊13.6	3.1	断面に漆付着。畳付けに砂付着。森田Ｅ１群。	密 良好	釉：乳白色 胎土：淡灰白色	
458	73	Ｅ３ Ⅱ層	白磁	皿	＊12.0	△ 2.3	口縁端部やや丸みをもつ。森田Ｅ１群。	密 良好	釉：灰白色 胎土：淡灰色	
459	73	Ｃ３ Ⅱ層下層	白磁	皿	(＊5.7)	△ 1.65	見込み、および高台畳付けに砂。森田Ｅ１群。	密 良好	釉：乳白色	

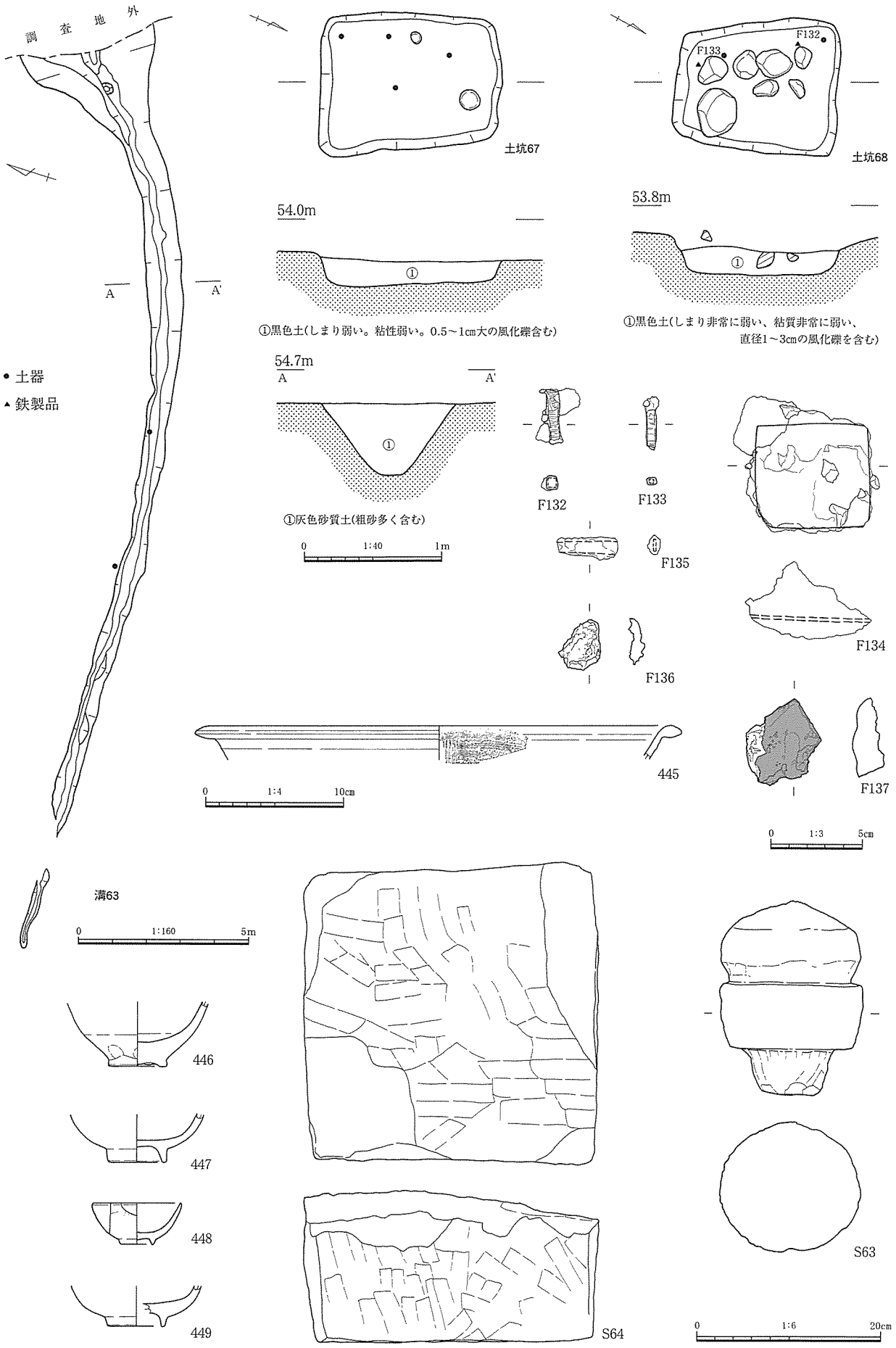


図72　土坑67・68、溝63および出土遺物

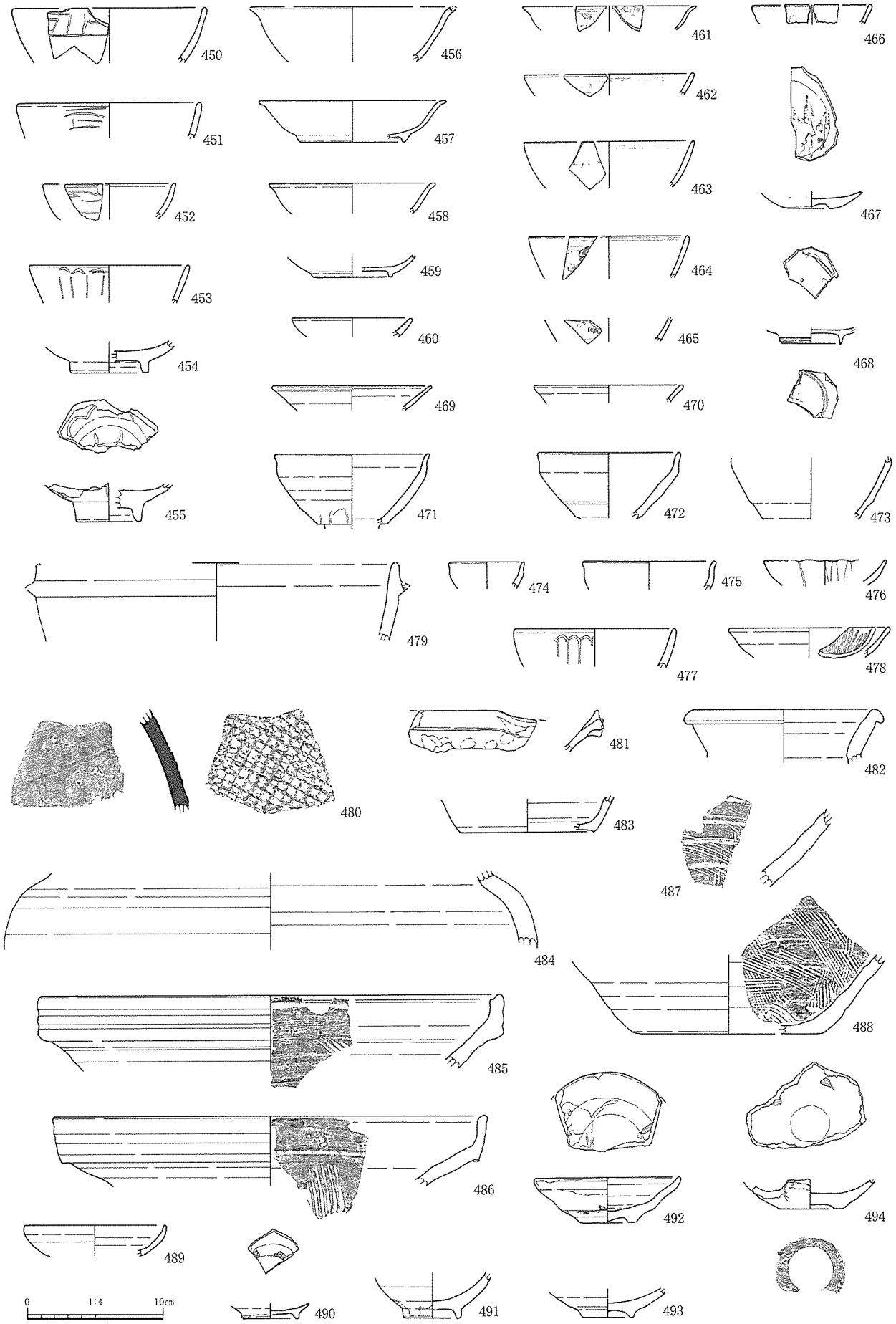


図73　遺構外出土遺物（１）

遺物番号	挿図番号	地区層位遺構	種別	器種	口径（底）	器高	特徴	胎土焼成	色調	備考
460	73	D４ Ⅱ層	白磁	皿	＊8.7	△ 1.4	口縁端部はやや尖り気味。釉はやや黄みを帯びる。森田Ｄ群。	やや粗 やや軟	胎土：白色 釉：乳白色 胎土：淡灰白色、若干褐色み	
461	73	A５ Ⅰ層	青花	皿	＊13.0	△ 1.8	外面に草花文。口縁内面に四文襷文。小野Ｂ１群。	密 良	内外：灰白色	
462	73	D４ Ⅱ層	青花	皿	＊12.6	△ 1.6	口縁は外傾。釉はやや黄みを帯びる。胎土陶質。漳州窯系。	やや粗 良	釉：乳白色 胎土：灰白色	
463	73	E３ Ⅱ層	青花	碗	＊12.6	△3.45	口縁端部は丸みをもつ。釉はやや黄みを帯びる。胎土陶質。漳州窯系。	やや粗 良	釉：乳白色 胎土：灰白色	
464	73	F３ Ⅱ層	青花	碗	＊11.8	△ 3.1	外面に唐草文。口縁内外面に二重の圏線。小野Ｃ群。	緻密 良好	内外(施釉)： 白色に青色で染付を施す素地：白色	
465	73	B５ Ⅱ層	青花	碗	－	△ 2.05	外面に唐草文。外面に二重の圏線。小野Ｃ群。	緻密 良好	内外：白色に青色で染付を施す 素地：白色	
466	73	D４ Ⅱ層	青花	碗	＊ 8.8	△ 1.4	小型の碗。釉はやや黄みを帯びる。胎土陶質。漳州窯系。	やや粗 良	釉：乳白色 胎土：淡褐色	
467	73	E２ Ⅱ層	青花	皿	3.0	△ 1.3	底部碁笥底。畳付け露胎。見込みに文様。	密 良	内外：灰白色	
468	73	C４ Ⅱ層	青花	碗	(＊4.4)	△ 1.2	やや高めの高台。端部は尖り露胎。見込みに文様。高台内面に字款。小野Ｂ群。	緻密 良好	施釉部：白色 露胎部：白色 素地：白色	
469	73	E４ Ⅱ層	陶器	碗	＊11.8	△ 1.85	直線的に外傾する。朝鮮産。	緻密 良好	釉：暗灰色 胎土：灰色	
470	73	C３ Ⅱ層	陶器	碗	＊10.9	△ 1.35	直線的に外傾。口縁端部はやや丸みをもつ。釉薄く、部分的に剥離する。朝鮮産。	緻密 良好	釉：暗灰色 胎土：灰色	
471	73	C４・５、D５ Ⅱ層	陶器	天目 茶碗	＊11.4	△ 5.2	口縁端部は短く外反し、丸く収める。黒色後褐色釉の二度かけ。体部下位に厚く釉が下垂。露胎部分は暗赤褐色。中国産。	密 良好	釉：黒褐色 胎土：淡灰褐色 （後天項）	
472	73	Ⅱ層	陶器	天目 茶碗	＊10.4	△ 4.9	口縁は短く屈曲し、端部は直立気味。体部外面下位まで施釉。境界に細い沈線が巡る。471に比べ胎土はやや軟質。中国産。	やや粗 良好	褐色、部分的に下地の黒褐色（二度がけ） 胎土：灰白色	
473	73	Ⅱ層	陶器	天目 茶碗	－	△ 4.6	体部下位釉厚く下垂。露体部は赤褐色を呈す。瀬戸美濃産。	やや粗 良好	黒褐色(やや赤みを帯びる) 胎土：淡灰色	
474	73	A５ Ⅰ層	陶器	天目 茶碗	＊ 5.5	△ 2.0	小型の碗。口縁端部は茶褐色、頸部以下は黒褐～黒色。瀬戸美濃産。	やや粗 良好	黒褐色 胎土：灰色	
475	73	E３ Ⅱ層	陶器	天目 茶碗	＊ 9.6	△ 2.1	口縁端部は褐色、頸部以下は黒褐～黒色。瀬戸美濃産。	やや粗 やや軟	胎土：灰色	
476	73	B４ Ⅱ層	陶器	皿	＊ 9.0	△ 1.9	瀬戸美濃産の皿。口縁端部は細かくキザミが連続。内面には蓮弁状に沈線がある。	密 良好	釉：淡緑灰色 胎土：灰白色	
477	73	D２ Ⅱ層	陶器	碗	＊11.8	△ 2.9	外面に線描きの蓮弁文。上部の山形は先端が尖る。瀬戸美濃産。大窯１期。	やや粗 良好	釉：淡緑灰色 胎土：灰白色	
478	73	D３ Ⅱ層	陶器	皿	＊12.0	△ 2.25	口縁部はわずかに外反する。内面に細く縦位の沈線が連続。瀬戸美濃産。	緻密 良好	釉：淡緑灰色 胎土：灰色	
479	73	Ⅱ層	瓦質	羽釜	＊26.7	△ 5.8	口縁ほぼ直立。口縁端部から下がって突帯が巡る。端部欠損。内外面ナデ。	密 やや軟	内外：灰色 断面：灰白色	
480	73	D５ Ⅲ層上面	須恵	甕	－	△ 7.5	勝間田・亀山系の甕。外面に大きめの格子目叩き。内面ナデ。	密 良好	内外：灰色	
481	73	B４ Ⅱ層	瓦質	擂鉢 or こね鉢	－	△3.05	鉢の受け口部。口縁下は指頭圧痕が顕著。内面ナデ。	密 やや軟	外：暗灰色 内：浅黄橙色	
482	73	D３ 撹乱	陶器	壺	＊13.4	△4.05	口縁端部玉縁状に肥厚。口縁は短く外頓する。備前産、乗岡中世２ｂ期。	緻密 良好	外：黄色 内：鈍い黄色	
483	73	Ⅱ層	陶器	甕？	(＊10.0)	△2.55	薄手で硬質なもの。内外面灰赤色を呈し、０区207に類似。備前産。	緻密 良好	灰赤色	
484	73	F３ Ⅲ層上面	陶器	甕	－	△5.65	大型の甕の肩部。備前産。	緻密	外：黒褐色 内：にぶい赤褐色	
485	73	C５ Ⅱ層	陶器	擂鉢	＊34.3	△5.5	口縁が上方に拡張され、下端部は丸みをもつ。外面に凹線が巡る。口縁端部にも一条の凹線。擂り目は斜方向にはいる。備前産、乗岡近世１ｂ期。	緻密 良好	外：明赤褐色 （口縁）灰赤色 内：鈍い赤褐色	
486	73	C５ Ⅲ層上面	陶器	擂鉢	＊32.2	△5.2	口縁は上方に拡張され直立気味。器壁薄い。口縁上端部丸く収め、下端は下垂し尖り気味。備前産、乗岡中世６ａ期。	密 良好	外：灰褐色 内：にぶい赤褐色	
487	73	Ⅱ層	陶器	擂鉢	－	△5.7	体部内面には縦および斜方向の擂り目。備前産、乗岡近世１期。	緻密 良好	内外：にぶい赤褐色 胎土：灰褐色	
488	73	F４ Ⅱ層	陶器	擂鉢	(＊13.8)	△5.9	体部内面には縦および斜方向の擂り目。備前産、乗岡近世１期。	やや粗 良好	内外：暗褐色 胎土：淡黄灰色	
489	73	Ⅱ層	陶器	皿	＊10.4	△2.3	瀬戸美濃産の皿。口縁は直立的になる。見込みに胎土目痕？	やや粗 やや軟	釉：緑灰色 胎土：灰色	
490	73	E２ Ⅱ層	陶器	皿	(＊4.0)	△1.2	見込みに砂目痕。釉は灰色系で、低い高台をもつ。肥前系？	緻密 良	釉：灰褐色 土：褐色 胎土：灰褐色	
491	73	E１ Ⅱ層	陶器	碗	(＊4.0)	△3.4	体部下位まで施釉し、一部高台まで下垂。高台はやや高く、底部外側中央は凸状に尖る。肥前系、Ⅱ期。	やや粗 やや軟	釉：緑褐色 胎土：淡赤褐色	
492	73	Ⅱ層	陶器	皿	＊10.65	3.4	体部下位で若干屈曲し、口縁端部もわずかに上向きになる。高台は低く逆台形を呈す。見込みに胎土目痕。肥前系、Ⅰ期。	密 良好	釉：灰褐色 胎土：褐色 胎土：淡赤褐色	
493	73	D４ Ⅱ層	陶器	皿	(3.6)	△2.2	外面露胎。高台は低く、底部外側中央は凸状に尖る。見込みに砂。肥前系、Ⅱ期。	やや粗 良好	釉：濃緑褐色 胎土：赤褐色	
494	73	E２	陶器	皿	(4.9)	△2.2	低く幅広い高台をもち、回転糸切りされるもの。底部から緩やかに立ち上がる。見込みに胎土目痕。肥前系、Ⅰ期。	密 良好	釉：灰褐色 胎土：褐色 胎土：淡赤褐色	
495	74	E１ Ⅱ層下層	陶器	甕	－	△5.6	体部外面に凹線、内面には同心円タタキがみられる。肥前系。16世紀末～17世紀初頭。	緻密 良	釉：濃緑褐色 胎土：灰白色	
496	74	E２ Ⅱ層下層	陶器	甕	－	△7.25	甕の下半部。内面には同心円タタキがみられる。肥前系。16世紀末～17世紀初頭。495と同一個体。	緻密 良	釉：濃緑褐色 胎土：灰白色	
497	74	B４ Ⅱ層	陶器	擂鉢	＊25.45	△3.85	口縁は短く上方へ拡張される。下端部がわずかに垂下。胎土やや軟質。	緻密 良	釉：淡赤褐色 胎土：浅黄橙色	
498	74	D３ Ⅱ層	磁器	碗	＊10.9	7.75	底部からほぼ直立するもの。高台畳付け無釉。肥前系、Ⅲ期。	緻密 良好	淡灰白色	
499	74	B４ Ⅱ層	磁器	碗？	－	△4.8	胎土やや軟質。外面に文様。漳州窯系？	密 良	淡灰白色	
500	74	F２ Ⅱ層	土師	皿	8.0	△1.4	直線的に外傾する手づくねのもの。口縁端部は尖り気味である。外面は比熱により器壁部分的にはじける。口縁端部に煤付着。灯明皿。	やや粗 やや軟	淡黄灰色 胎土：灰褐色	
501	74	G４ Ⅱ層	土師	皿	＊9.8	△1.9	直線的に外傾する手づくねのもの。口縁端部は内側はわずかに沈線状に窪む。体部内面はナデられ、底部から口縁へ向けてナデあげられる。	やや粗 やや軟	橙褐色	
502	74	F２ Ⅱ層	土師	皿	＊10.3	△2.05	手づくねのもの。口縁端部はわずかに外反。	密 やや軟	浅黄橙色	
503	74	D３ Ⅱ層	土師	皿	＊10.6	△2.1	直線的に外傾する手づくねのもの。口縁部内側はわずかに沈線状に窪み、端部は上方を向く。	やや粗 やや軟	淡褐色	
504	74	D３ Ⅱ層	土師	皿	＊10.8	△2.0	直線的に外傾する手づくねのもの。口縁部内側はわずかに沈線状に窪み、端部は上方を向く。期表面は丁寧にナデられ、滑らか。	密 良	暗灰褐色	
505	74	E４ Ⅱ層	土師	皿	＊11.7	△2.1	直線的に外傾する手づくねのもの。口縁部内側はわずかに沈線状に窪み、端部は上方を向く。	密 良好	灰白色～ 浅黄橙色	
506	74	E３ Ⅱ層	土師	火鉢	－	△2.6	外面に花文が連続。	やや粗 良	浅黄橙色	
507	74	D３ Ⅱ層	土師	火鉢	＊13.4	△2.4	口縁端部がわずかに外反する。外面に花文。	密 良	浅黄橙色	
508	74	E２ Ⅱ層	土師	火鉢	＊15.4	△2.85	口縁が低いもの。外面に円形、および方形のスタンプ文。	密 やや軟	浅黄橙色	
509	74	Ⅱ層	土師	火鉢	－	△2.5	平面「Ｌ」字状の火鉢脚部。方形火鉢の角につくものである。	密 やや軟	浅黄橙色	
510	74	Ⅱ層	土師	火鉢	－	△3.8	口縁端部がわずかに外反する。外面に花文。	やや粗 良	橙色	
511	74	D５ Ⅱ層	土師	不明 土製品	7.05	7.9	不明板状のもの。やや「く」字状に屈曲する。表面にハケメが密にあり、指オサエも顕著。厚みをもち、焼成も良好である。	やや粗 良	にぶい橙色	

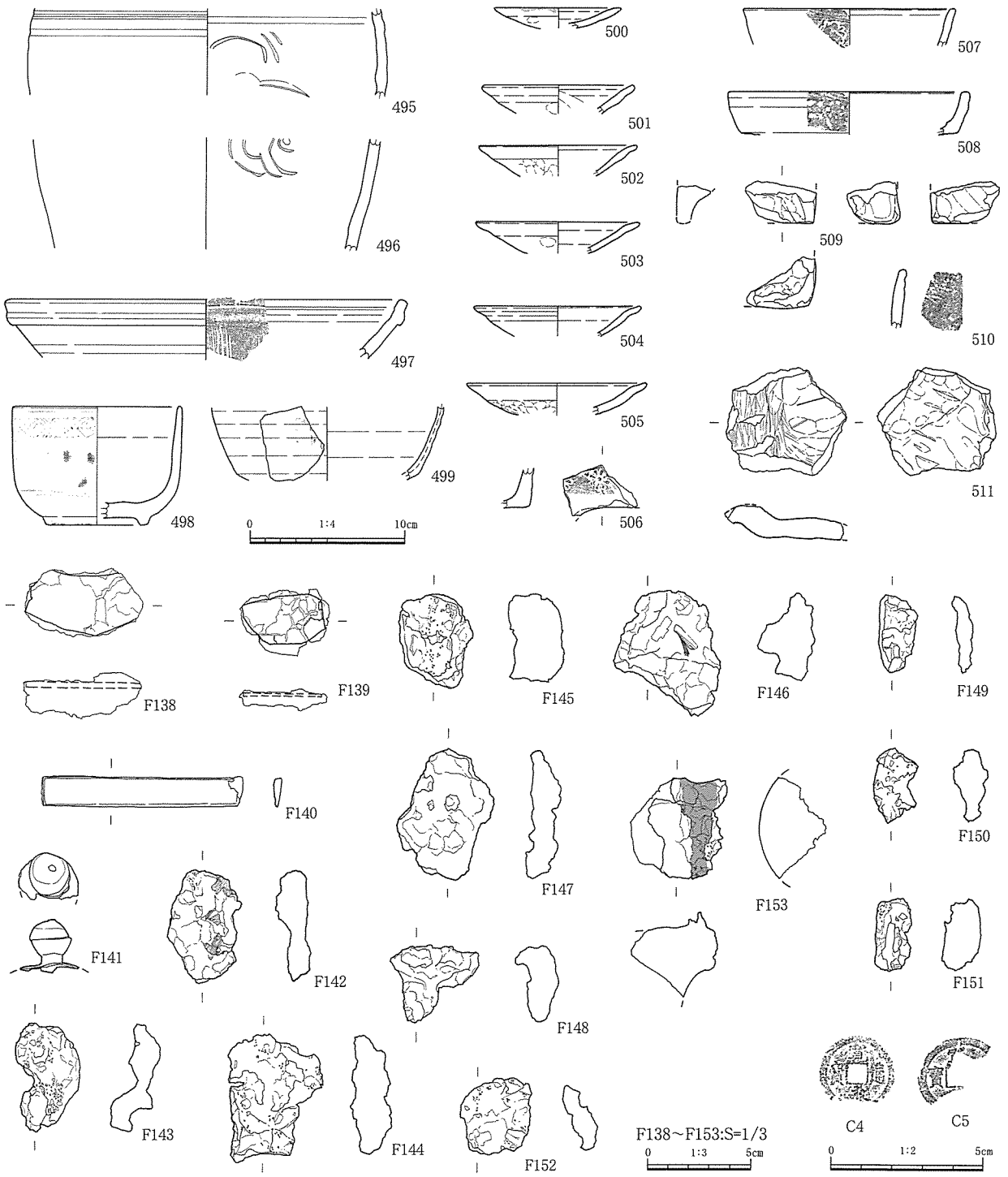


図74　遺構外出土遺物（２）

表54　図74鉄製品観察表

報告書	構成No.	遺物名	地区	層位、遺構	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	磁着度	メタル度	備考
138	㊱	鉄製品(鋳造品)	F4	Ⅱ層	5.8	3.35	2.25	35.0	2	銹化(△)	
139	㊲	鉄製品(鋳造品)板状	E4	Ⅱ層下層	4.4	3.25	1.1	15.2	2	銹化(△)	
140	㊳	鉄芯銅張り製品(丙)銅製品		Ⅱ層	9.95	1.5	0.45	16.6	2	特L(☆)	
141	㊴	青銅製品　擬宝珠付台付椀	B2	Ⅱ層下層	2.95	2.3	2.6	18.1	1	H(○)	
142	㊸	椀形鍛冶滓(小)	B5	Ⅰ層	3.7	5.55	1.75	26.6	2	なし	
143	㊻	椀形鍛冶滓　含鉄小		Ⅱ層	3.25	5.3	2.4	21.2	1	銹化(△)	
144	㊹	椀形鍛冶滓(小)		排土中	4.7	6.3	2.0	58.0	2	なし	
145	㊵	椀形鍛冶滓(中)	D4	Ⅱ層	3.7	4.65	2.8	49.2	1	なし	
146	㊶	椀形鍛冶滓(中)		表土	5.3	6.1	2.8	74.5	1	なし	
147	㊷	椀形鍛冶滓(小)	C3	Ⅱ層	4.8	6.4	1.75	60.0	1	なし	
148	㊺	椀形鍛冶滓(小)	F3	Ⅱ層	4.3	3.85	2.1	25.2	1	なし	
149	㊽	椀形鍛冶滓(極小)	B4	Ⅱ層	1.9	3.8	1.0	11.2	1	なし	
150	㊾	椀形鍛冶滓(小)	B4	Ⅱ層	2.25	1.75	11.64	11.6	1	なし	
151	㊿	鍛冶滓(羽口下滓)		Ⅱ層	1.8	3.6	2.0	13.0	1	なし	
152	㊼	椀形鍛冶滓(極小)		Ⅱ層	3.55	4.75	1.75	29.4	1	なし	
153	51	羽口(鍛冶)		Ⅱ層	4.25	4.95	3.3	6.0	1	なし	